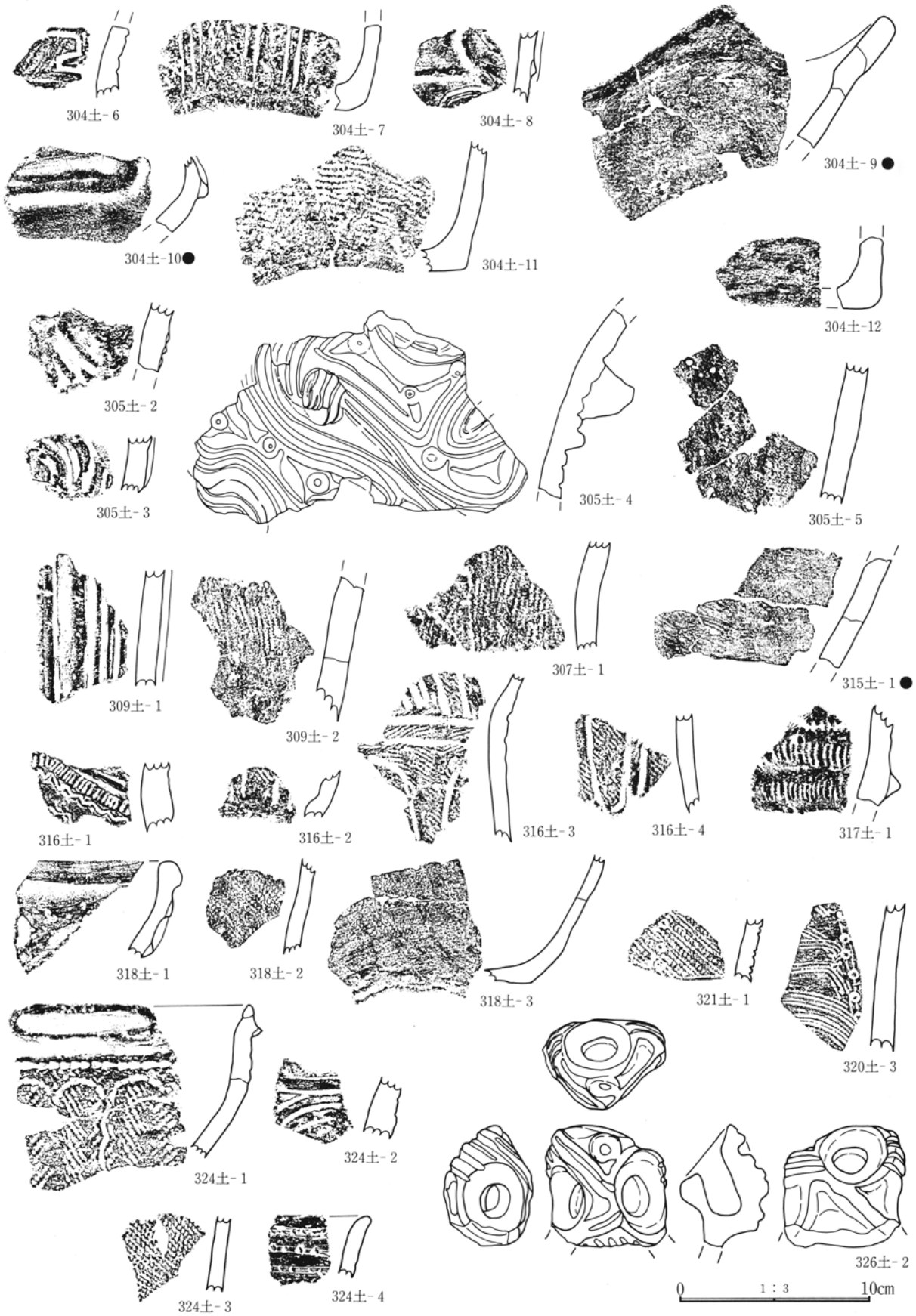
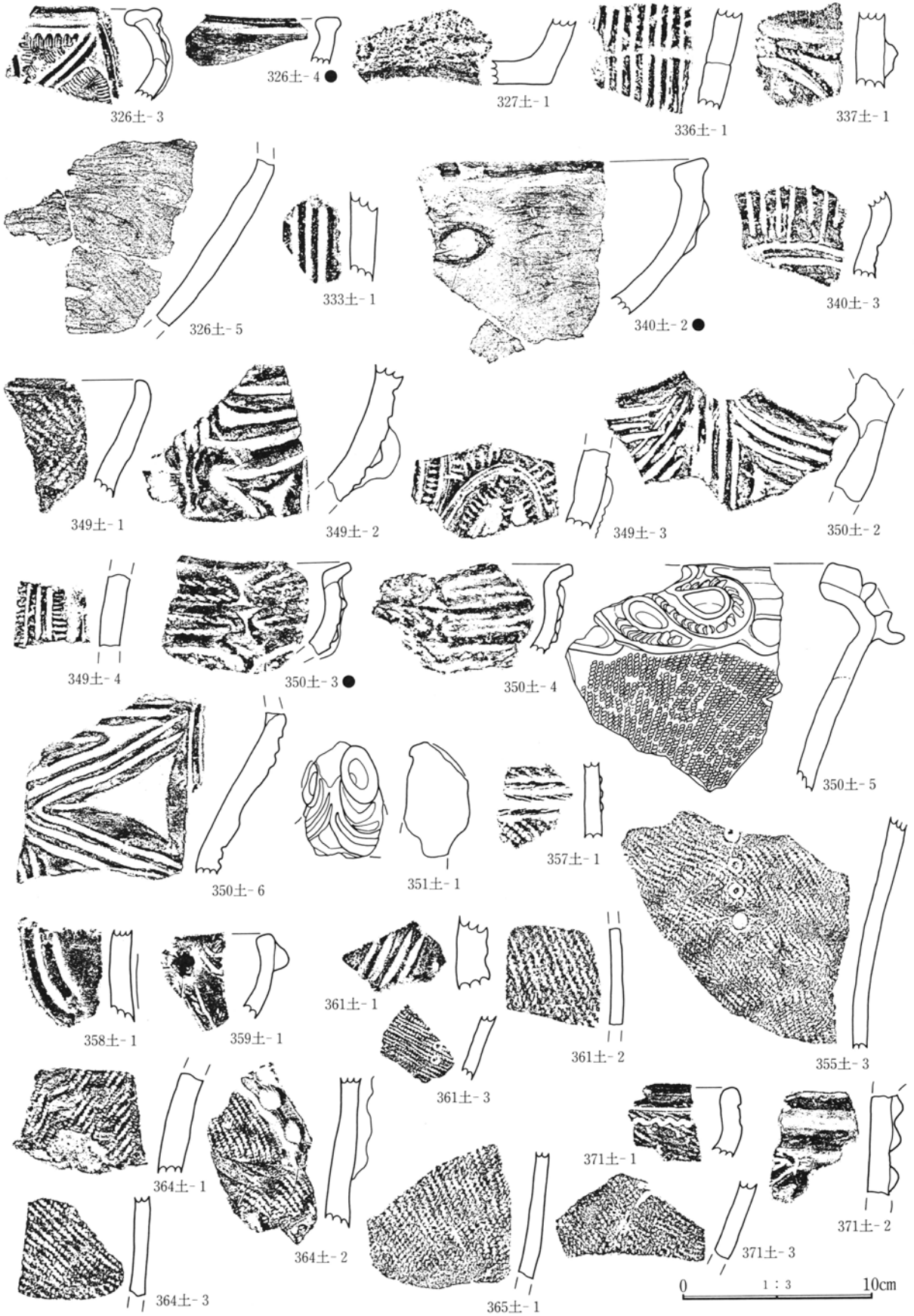


1. 縄文時代



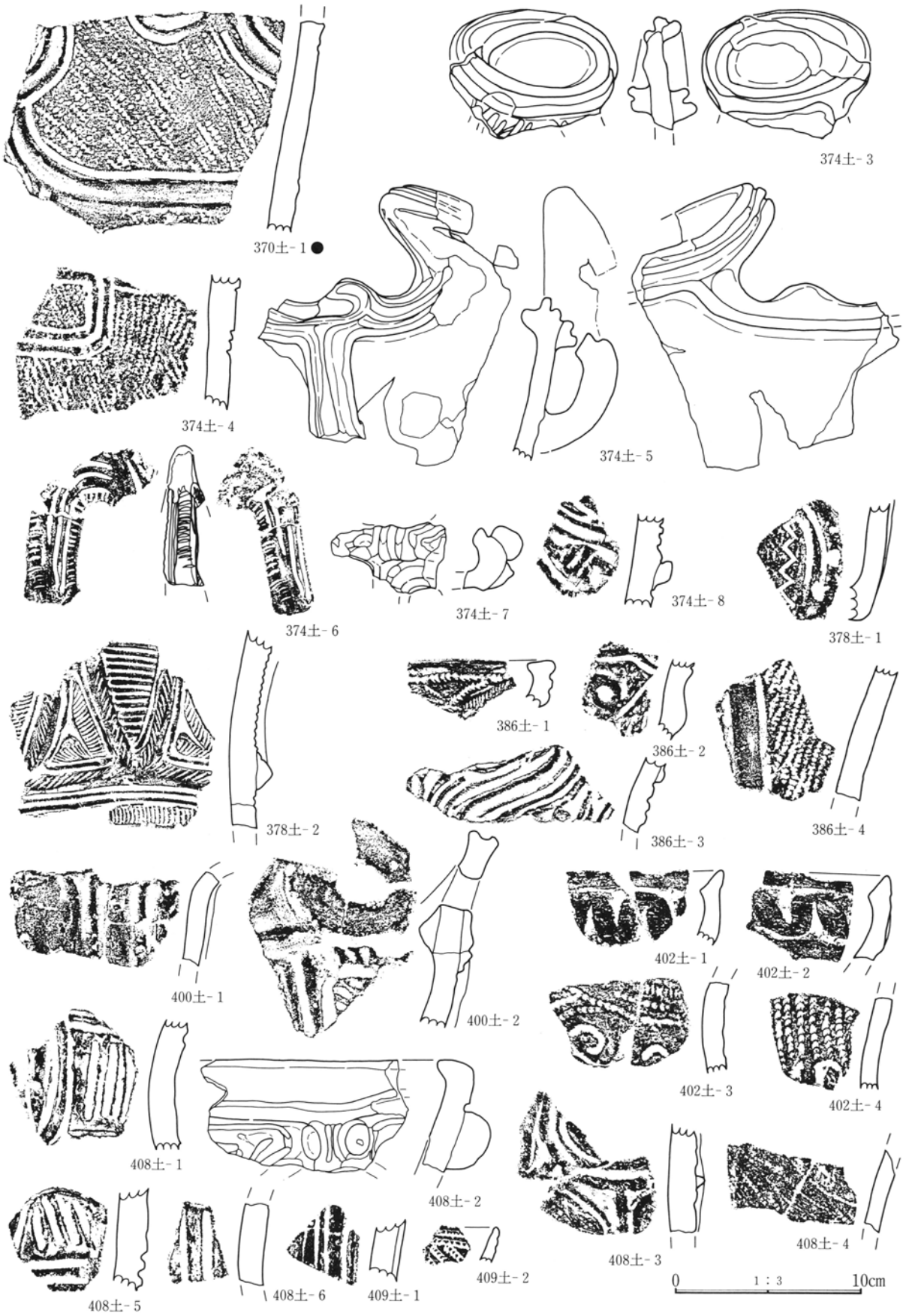
第134図 304・305・307・309・315~318・320・321・324・326号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物



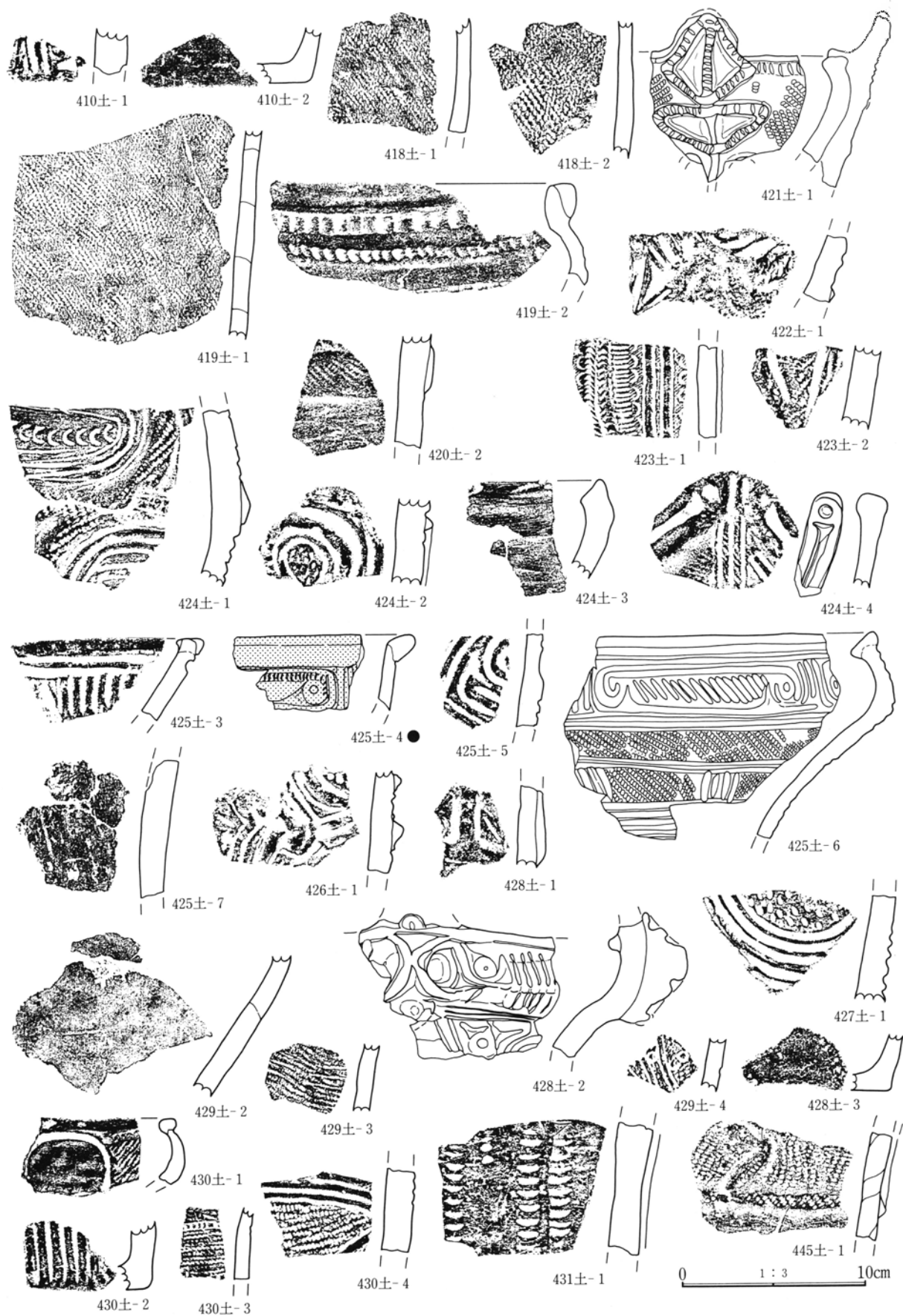
第135図 326・327・333・336・337・340・349・350・351・355・357~359・361・364・365・371号土坑出土土器

1. 繩文時代



第136图 370・374・378・386・400・402・408・409号土坑出土土器

II 検出された遺構と遺物

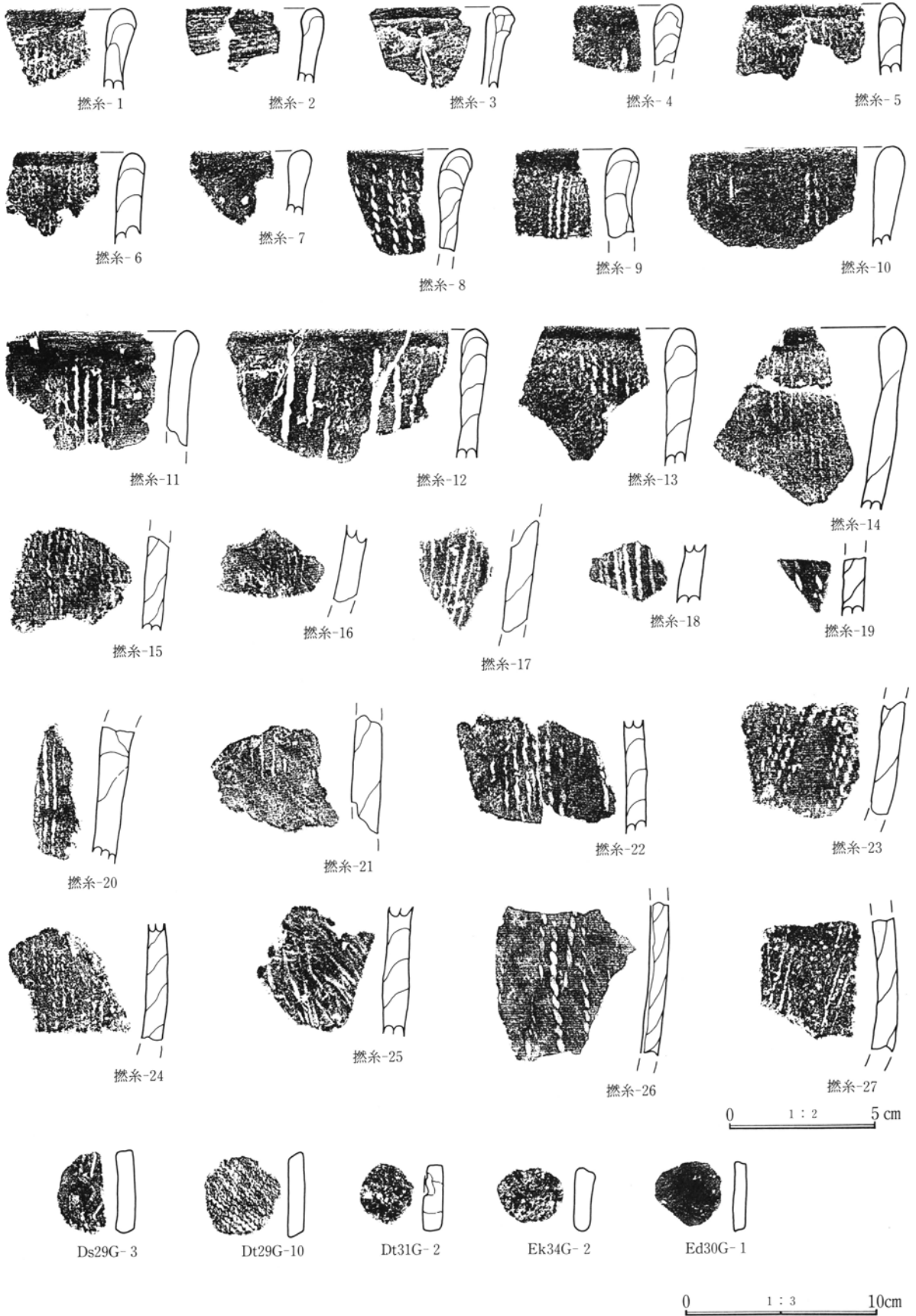


第137図 410・418~431・445号土坑出土土器



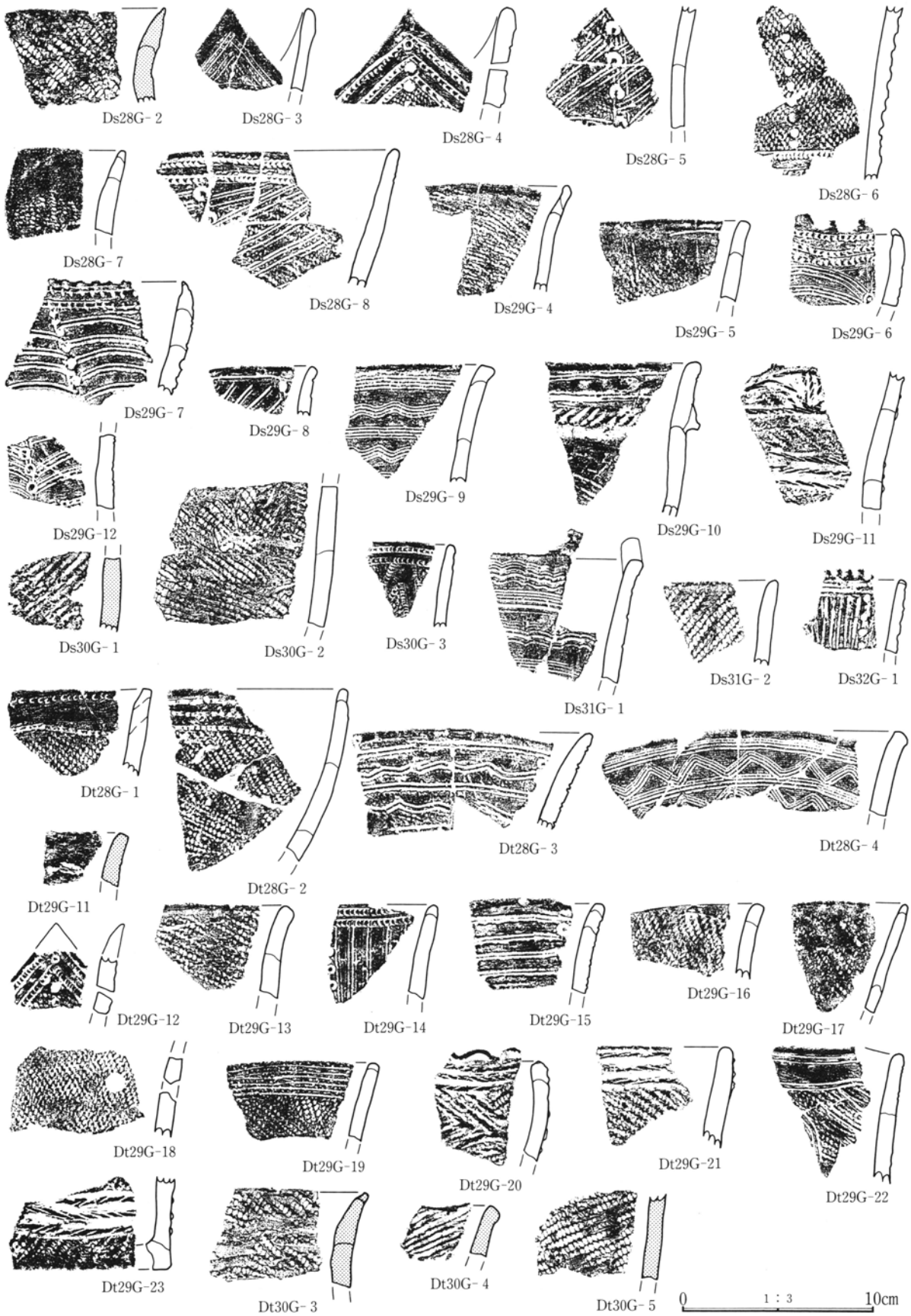
第138図 ピット出土土器

II 検出された遺構と遺物



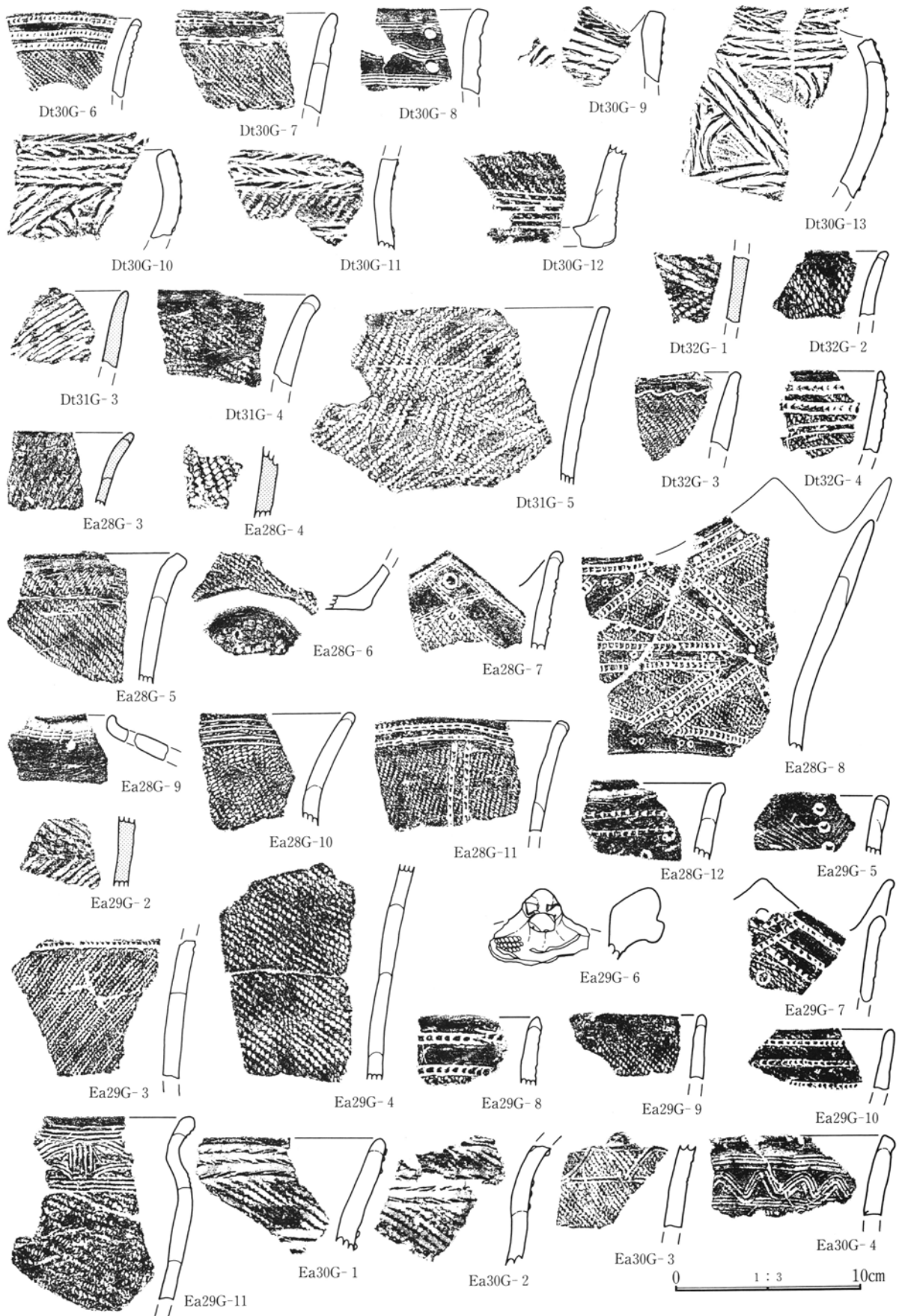
第139図 燃糸文土器・土製円板

1. 縄文時代



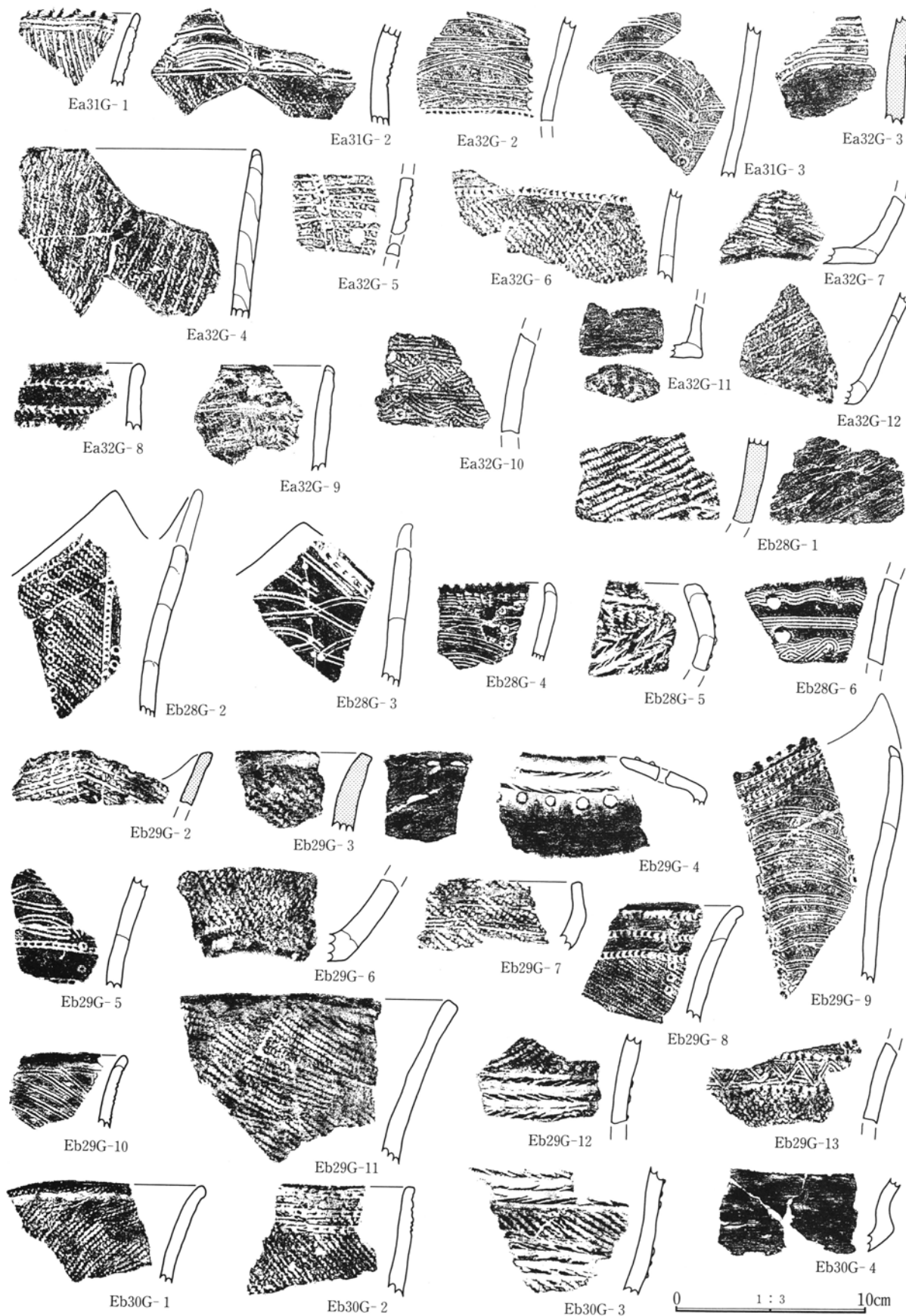
第140図 縄文前期グリッド出土土器(1)

II 検出された遺構と遺物



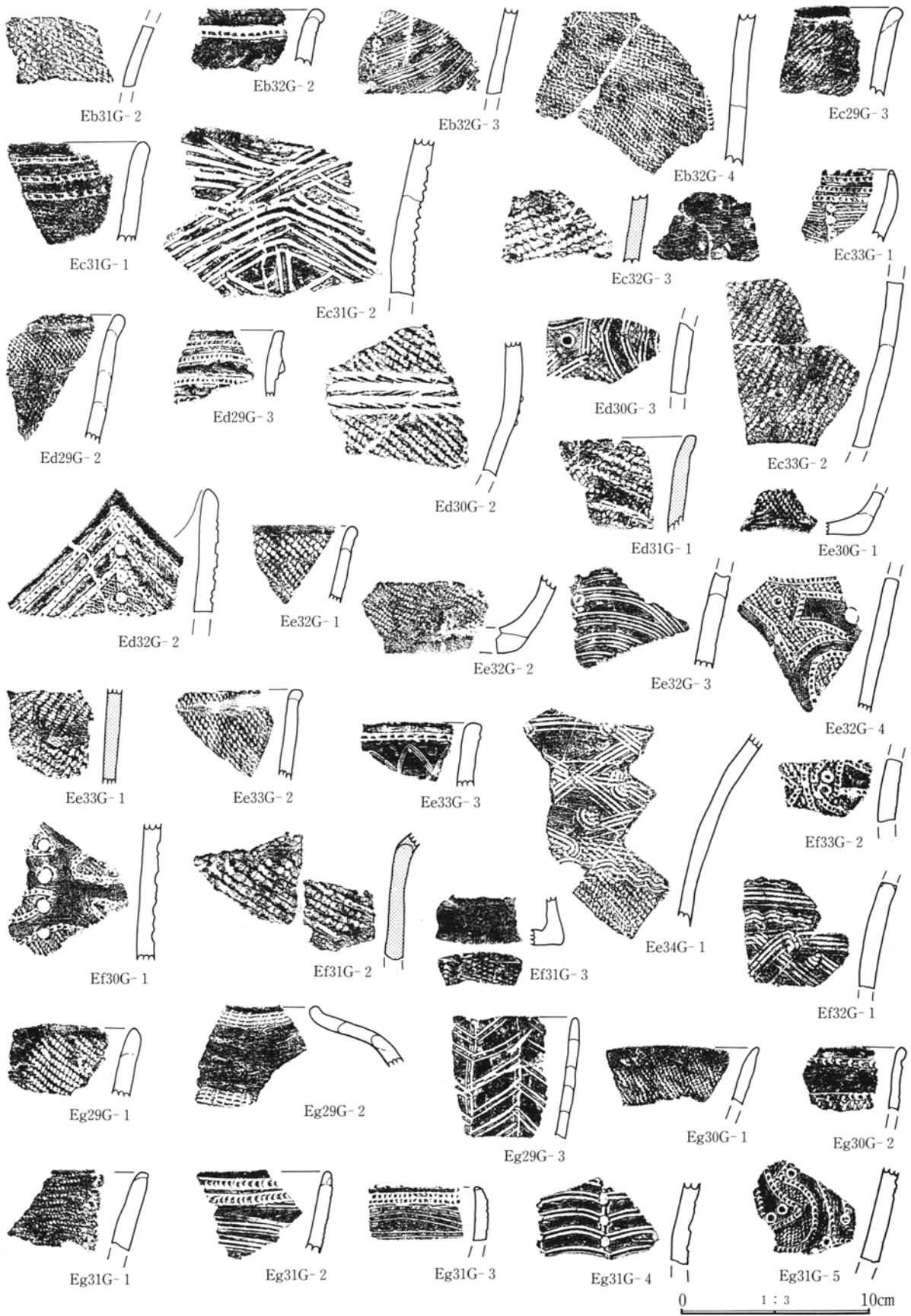
第141図 縄文前期グリッド出土土器(2)

1. 縄文時代



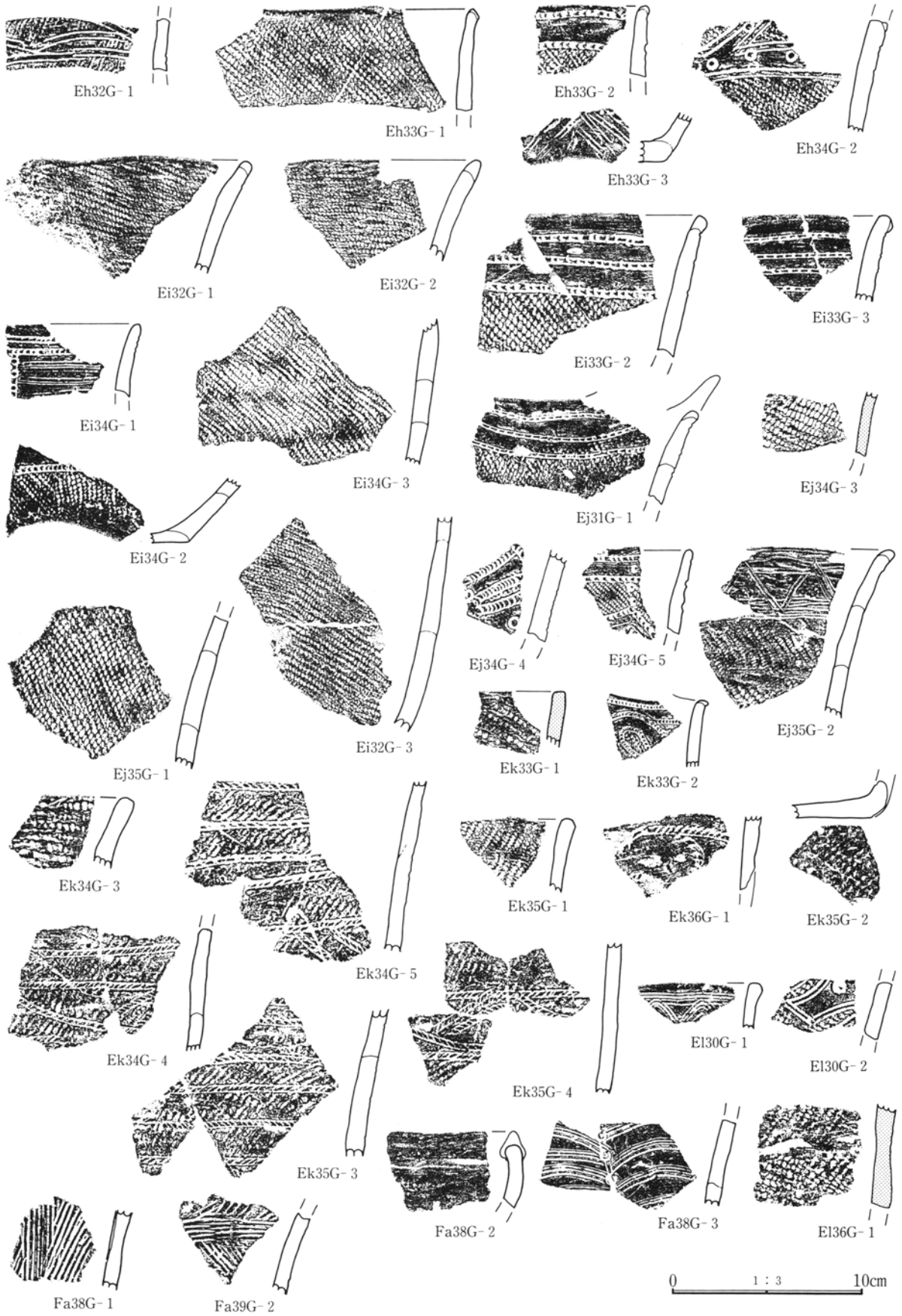
第142図 縄文前期グリッド出土土器(3)

II 検出された遺構と遺物



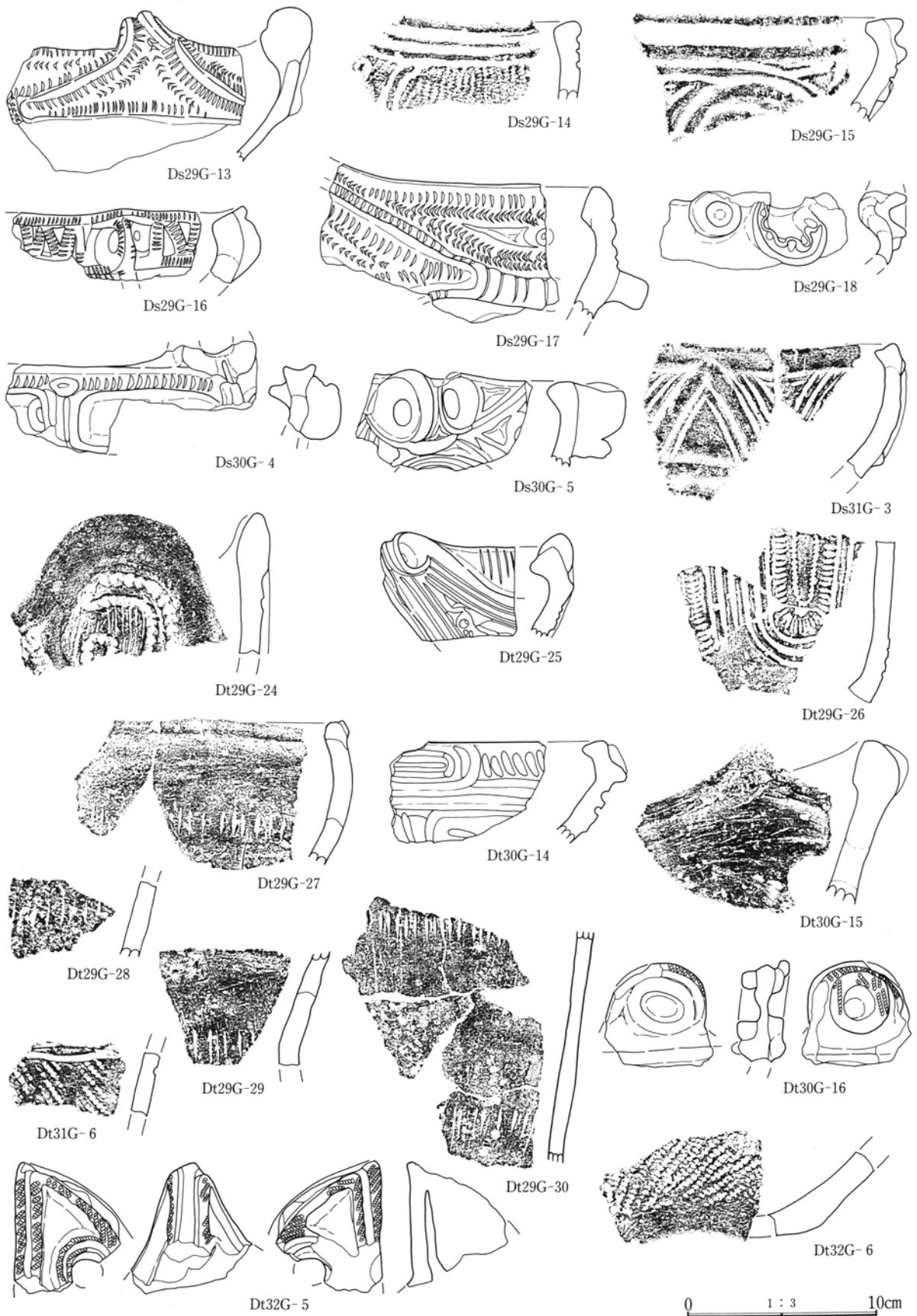
第143図 縄文前期グリッド出土土器(4)

1. 縄文時代



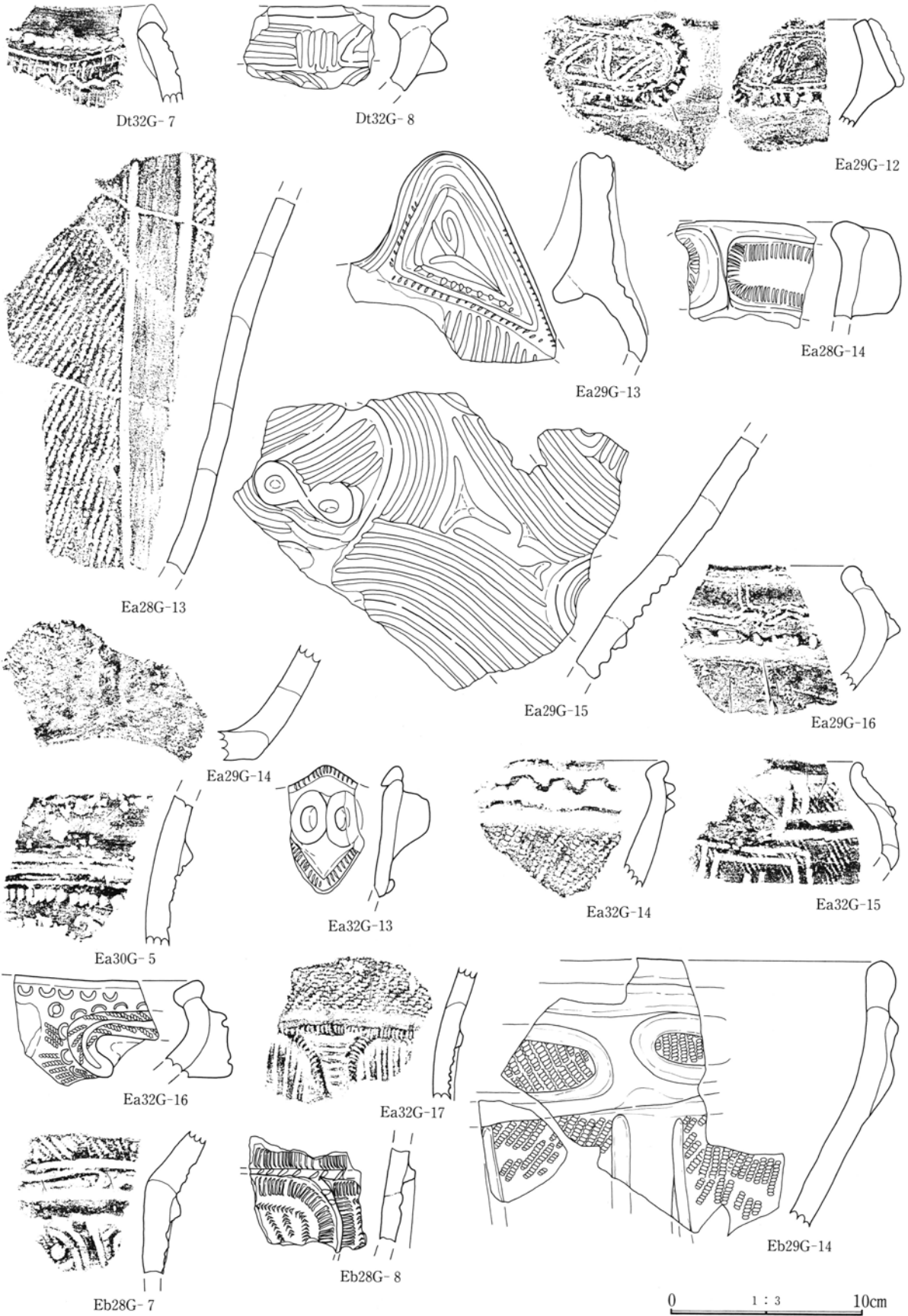
第144図 縄文前期グリッド出土土器(5)

II 検出された遺構と遺物



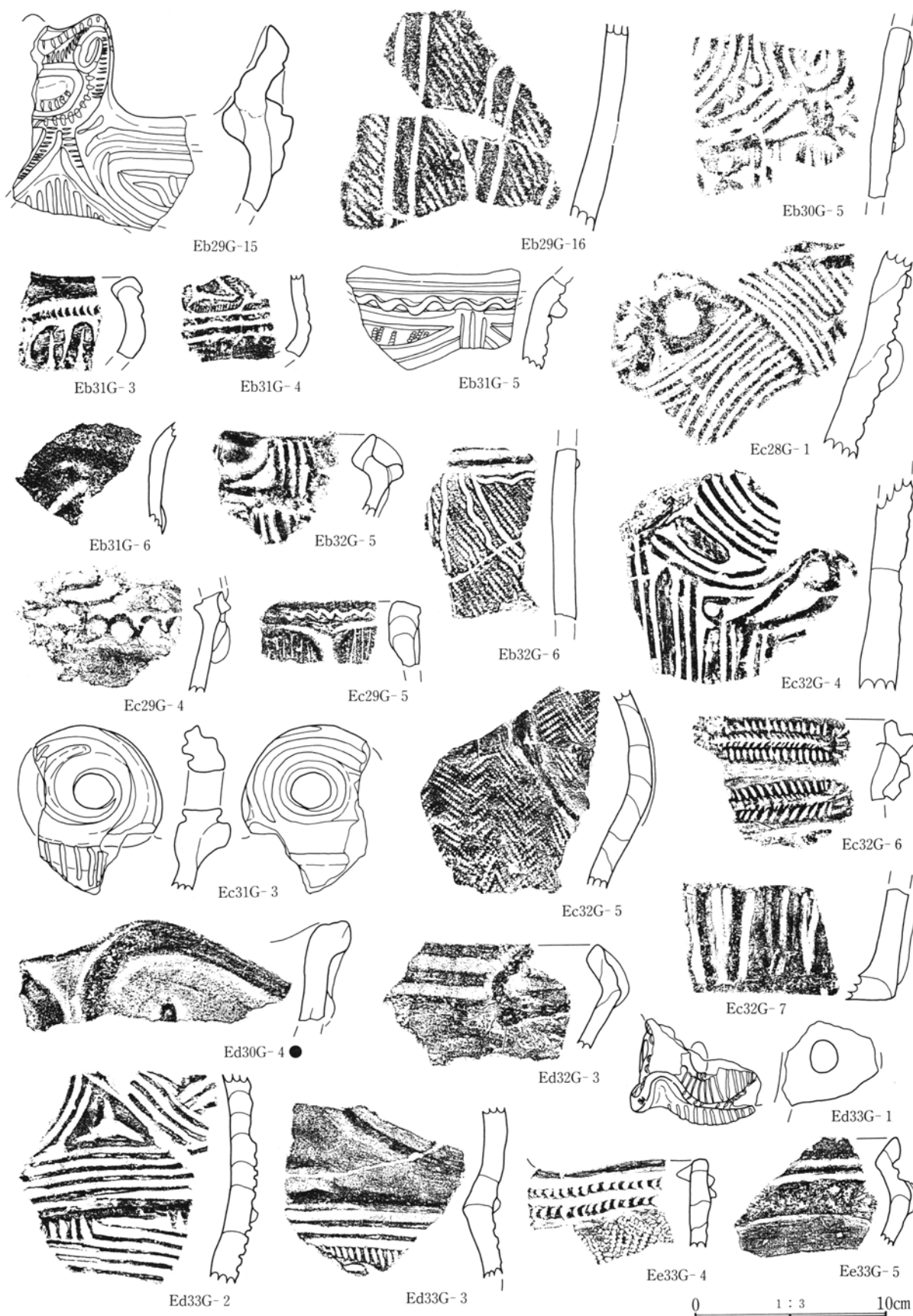
第145図 縄文中期グリッド出土土器(1)

1. 縄文時代



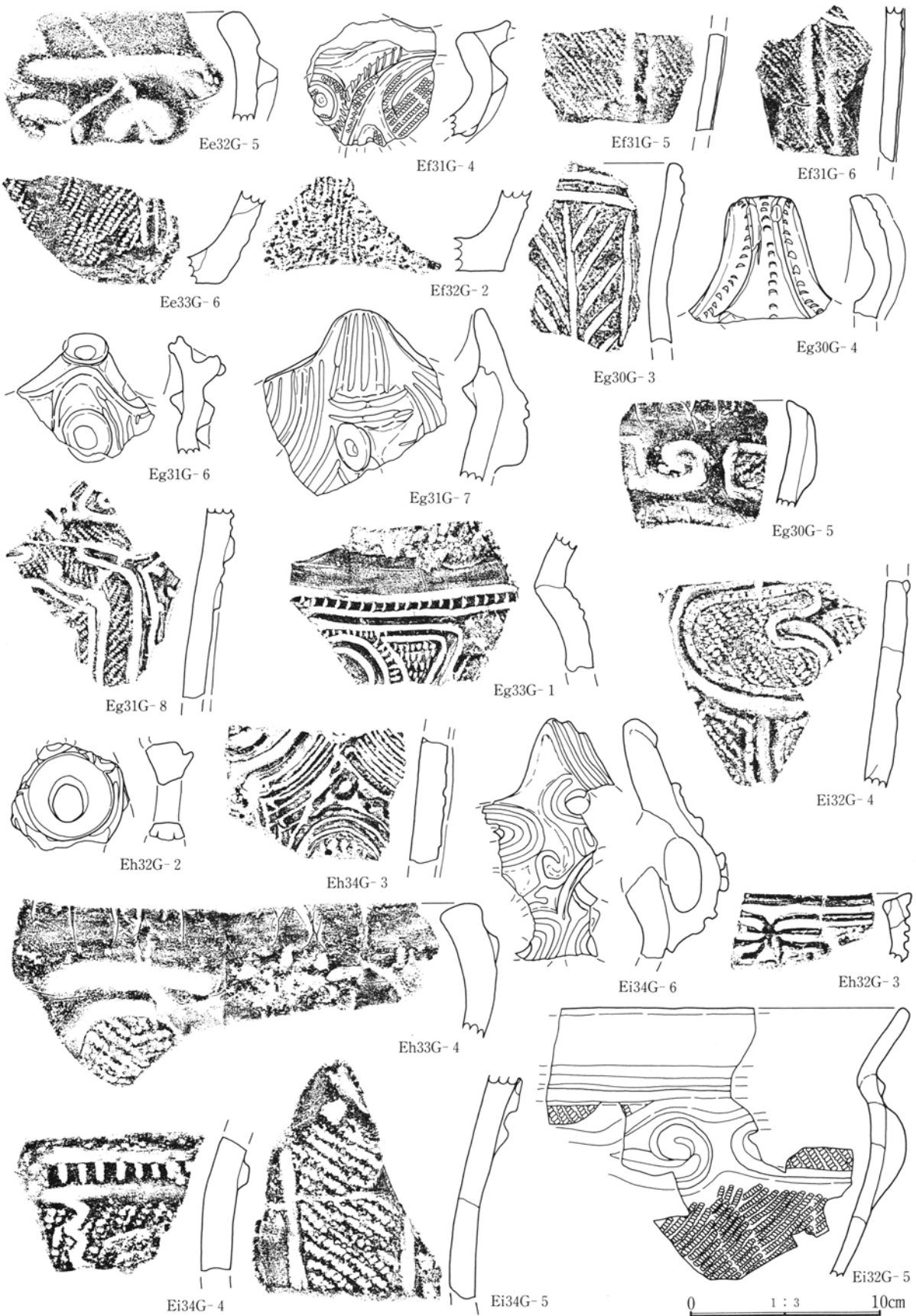
第146図 縄文中期グリッド出土土器(2)

II 検出された遺構と遺物



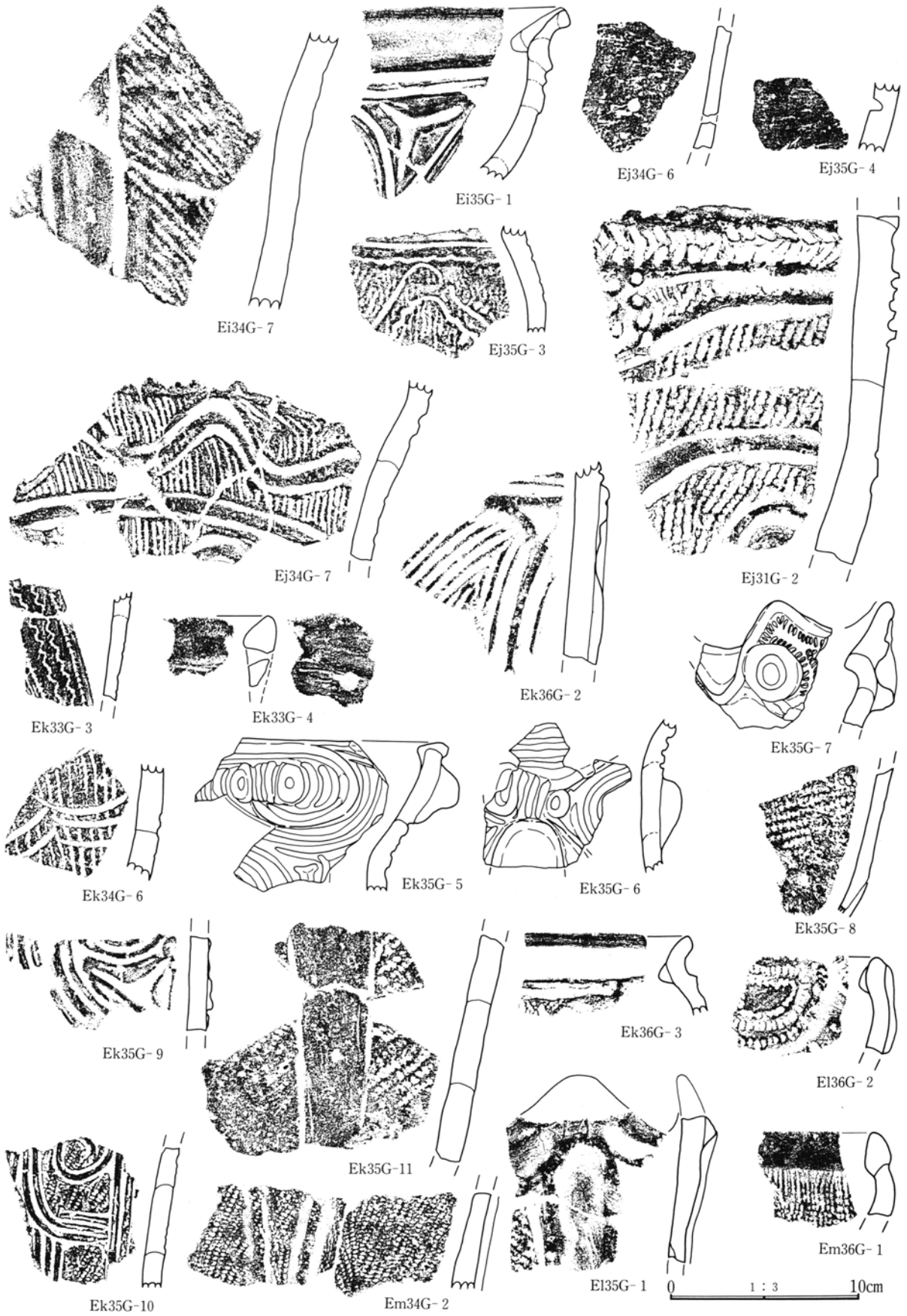
第147図 縄文中期グリッド出土土器(3)

1. 縄文時代



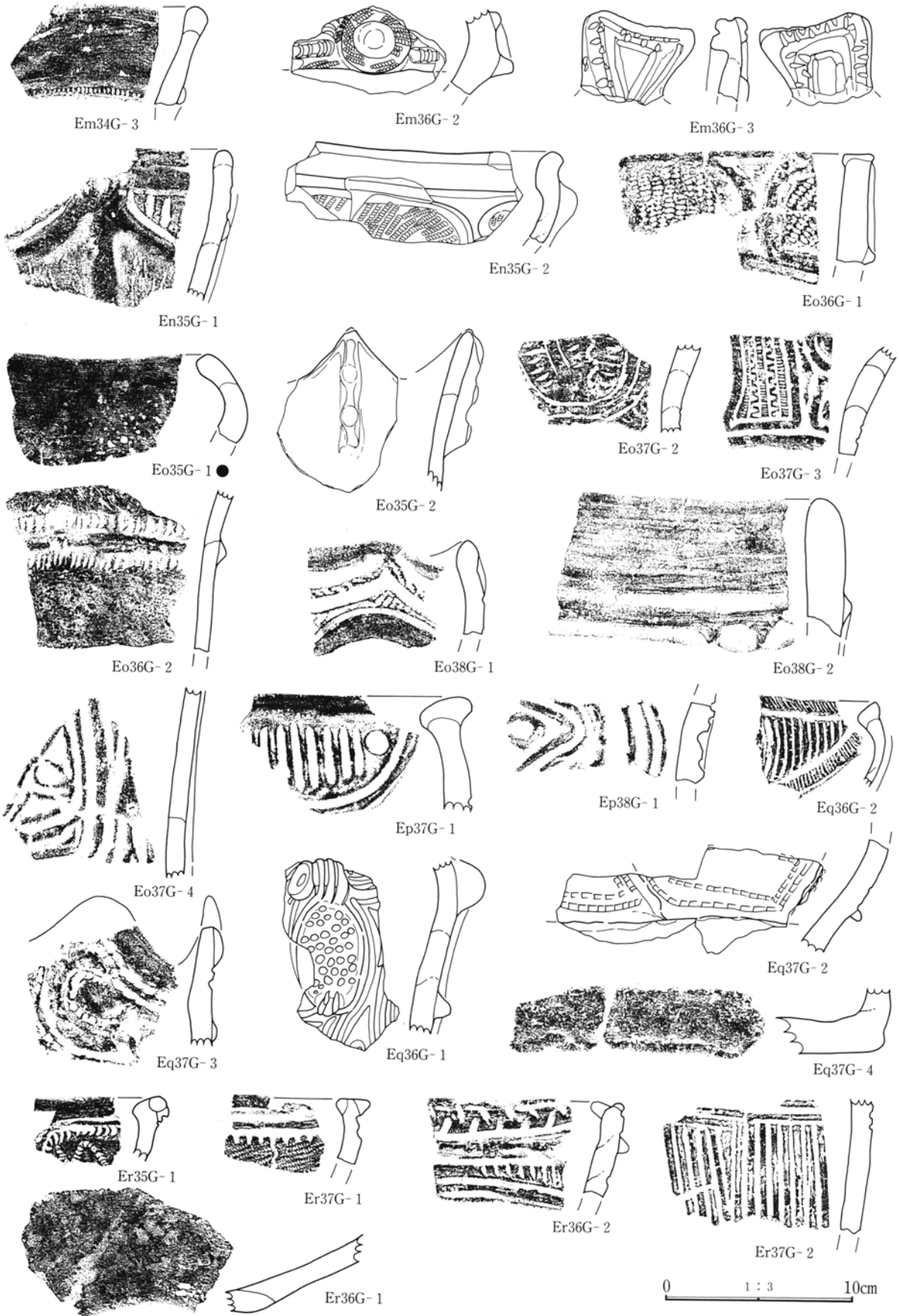
第148図 縄文中期グリッド出土土器(4)

II 検出された遺構と遺物



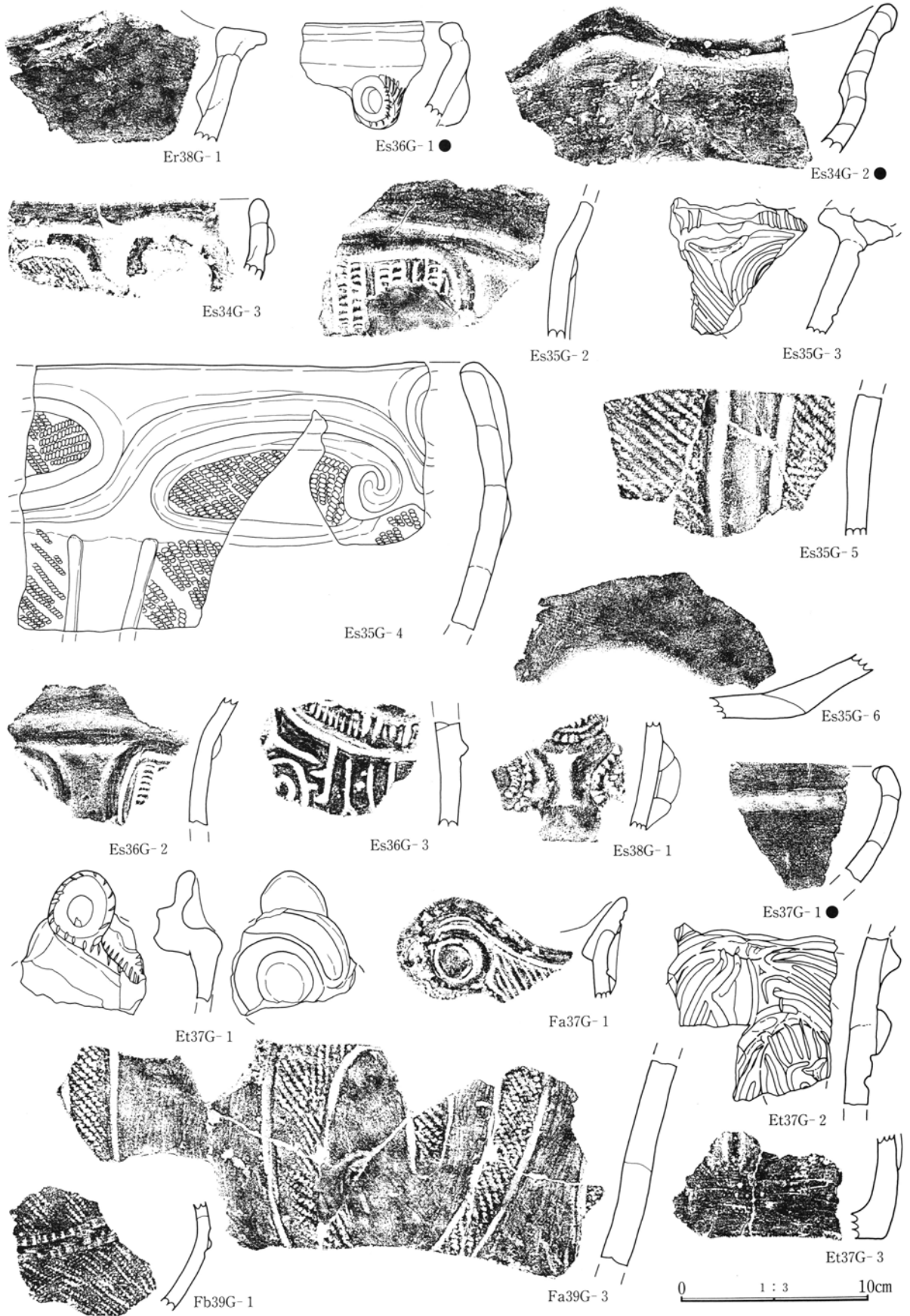
第149図 縄文中期グリッド出土土器(5)

1. 縄文時代



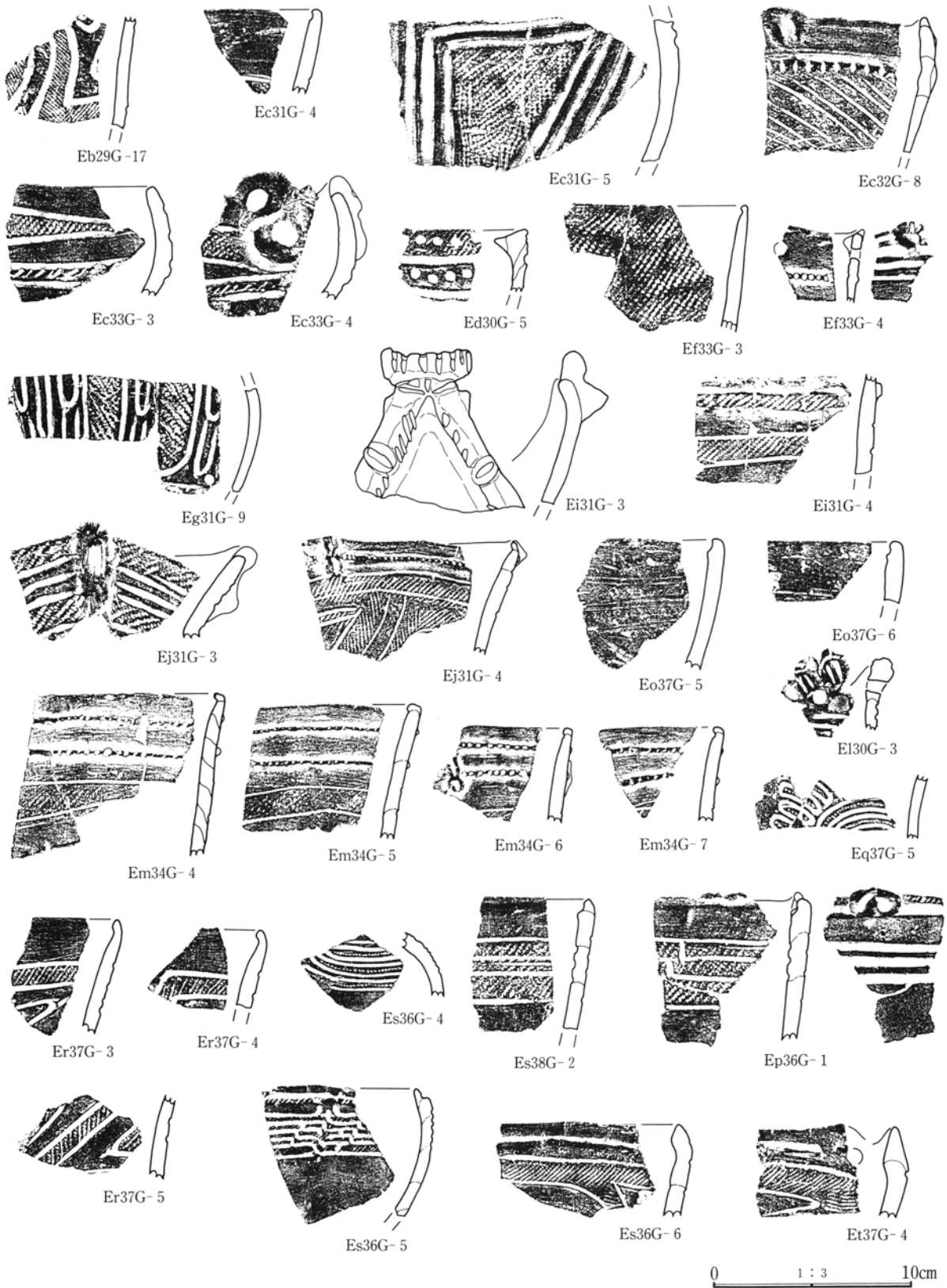
第150図 縄文中期グリッド出土土器(6)

II 検出された遺構と遺物



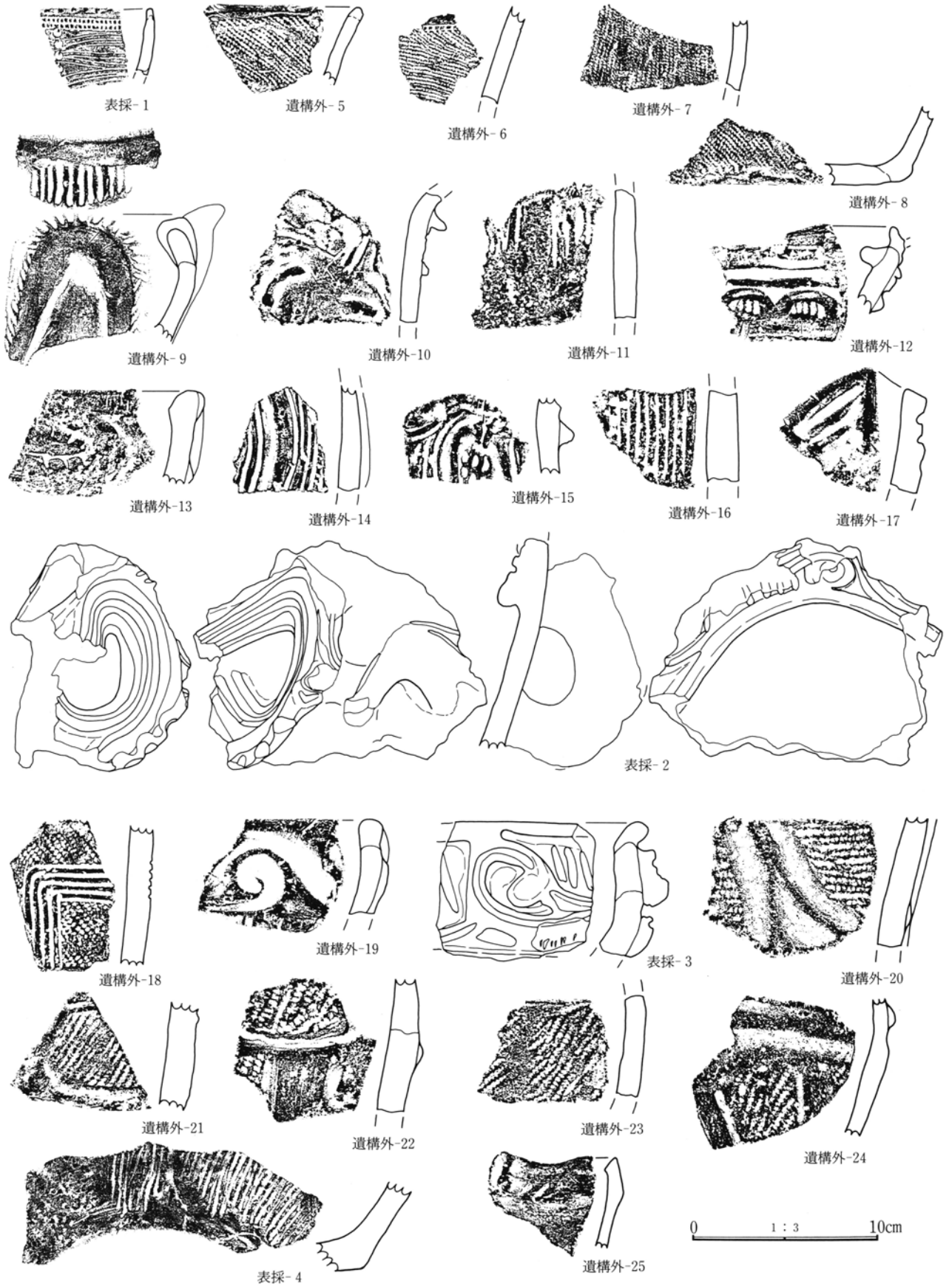
第151図 縄文中期グリッド出土土器(7)

1. 縄文時代



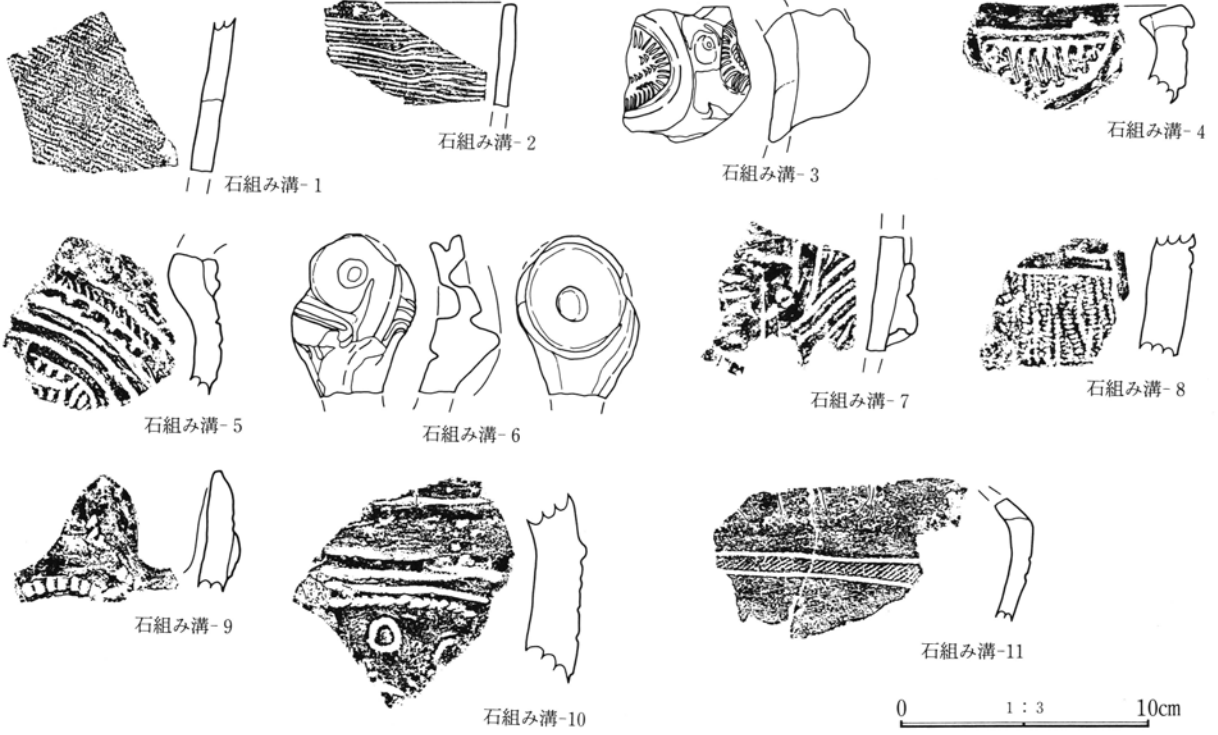
第152図 縄文後期・晩期グリッド出土土器

II 検出された遺構と遺物



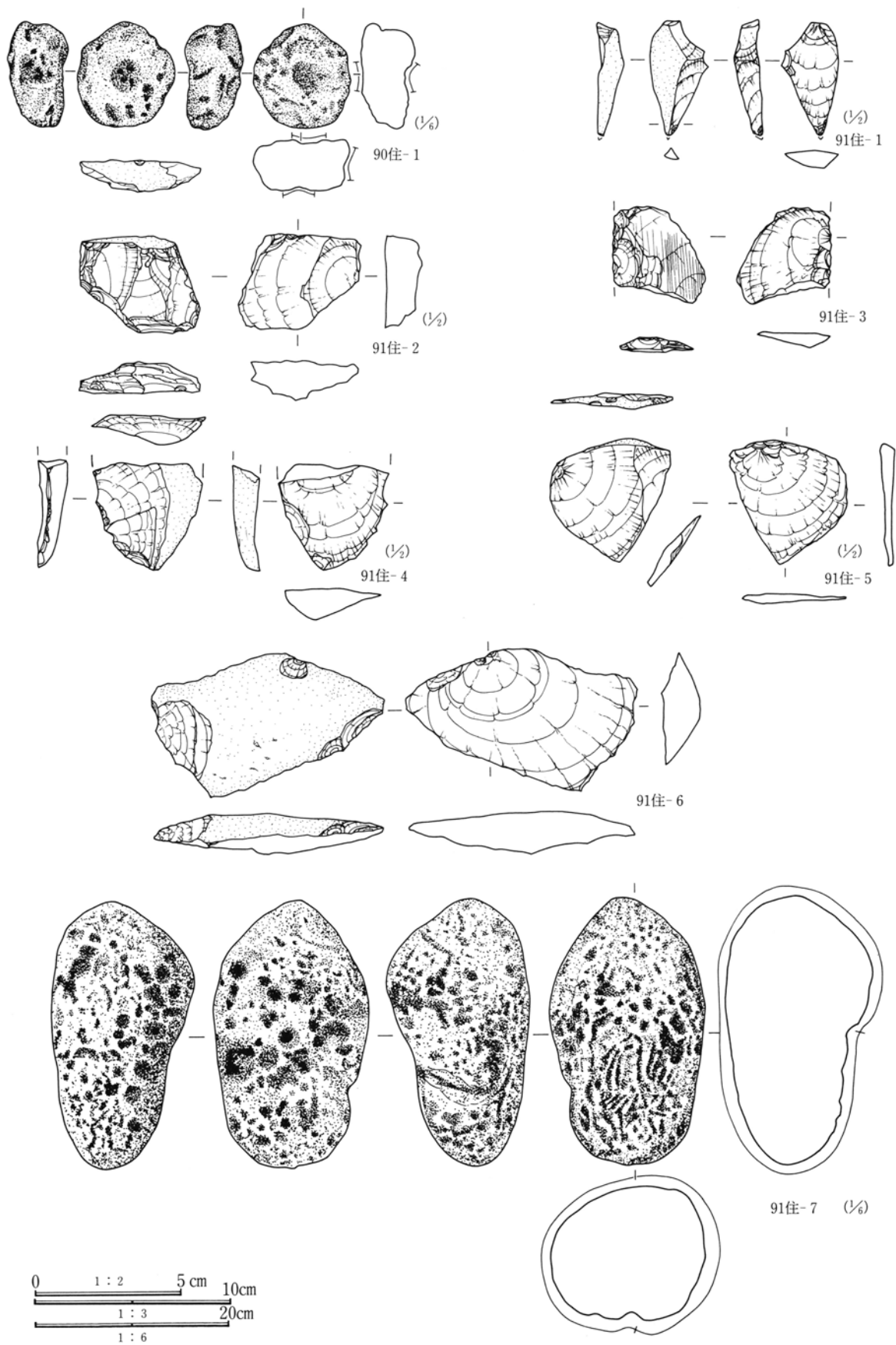
第153図 遺構外出土土器(1)

1. 縄文時代



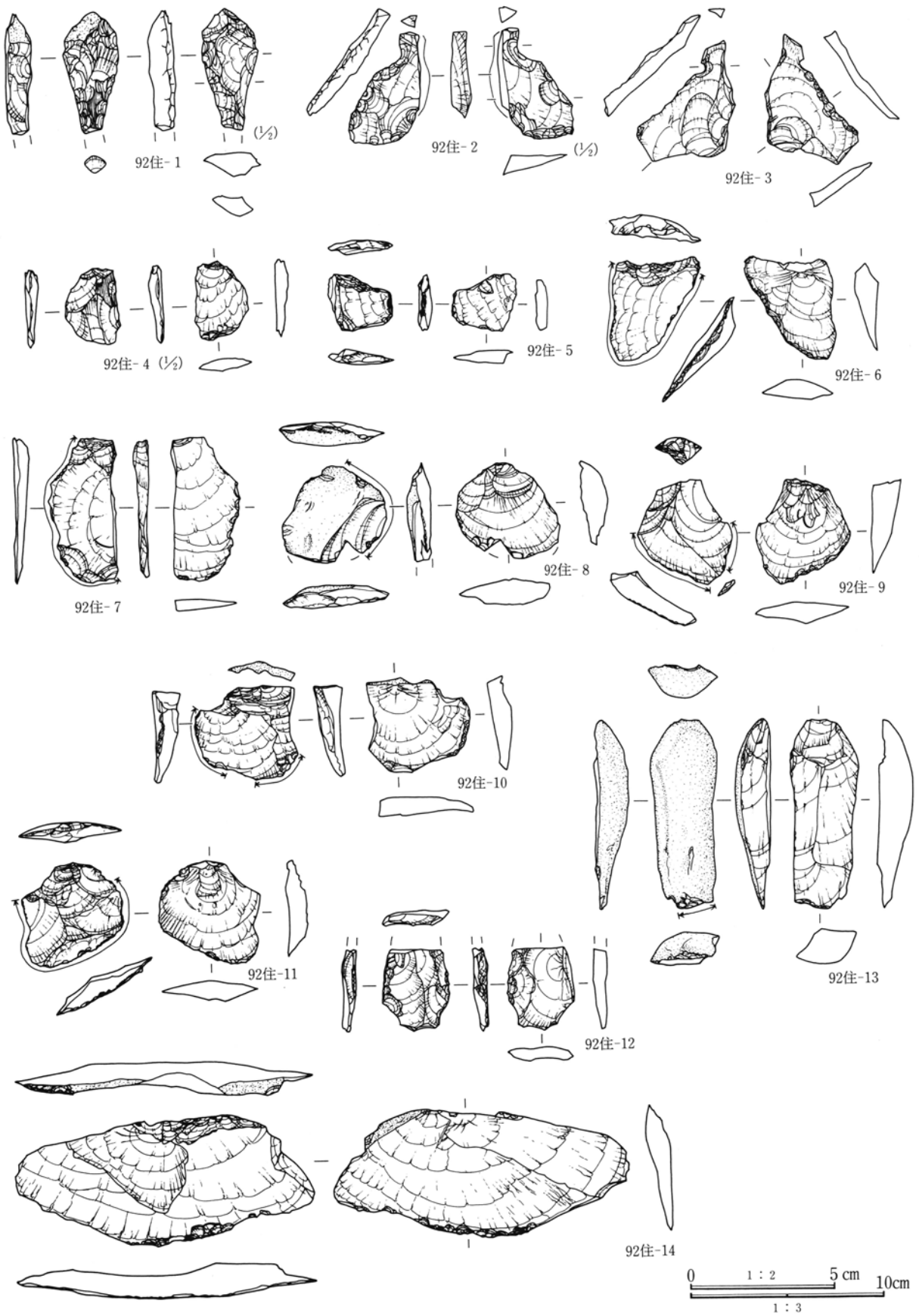
第154図 遺構外出土土器(2)

II 検出された遺構と遺物



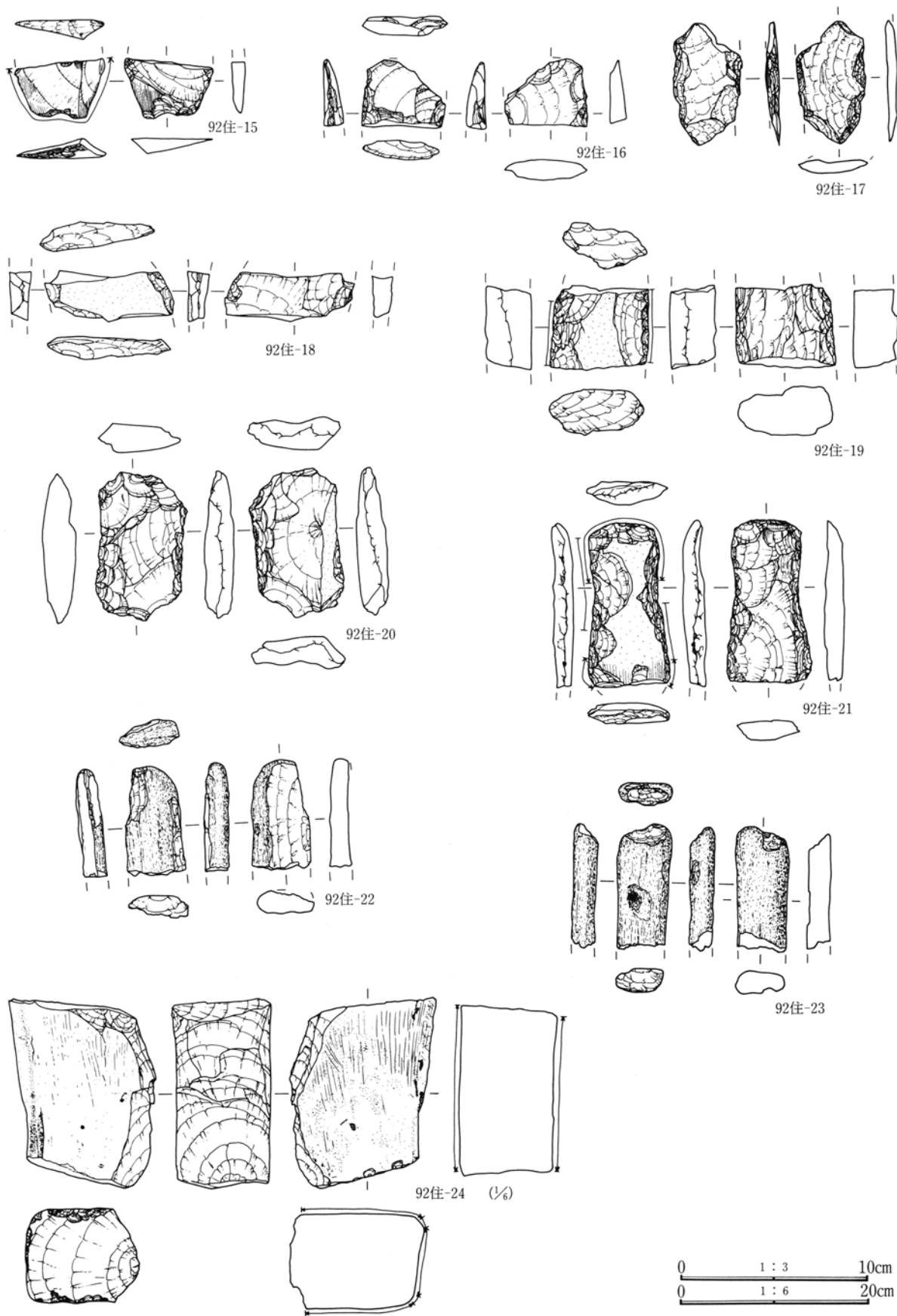
第155図 90・91号住居跡出土石器

1. 縄文時代

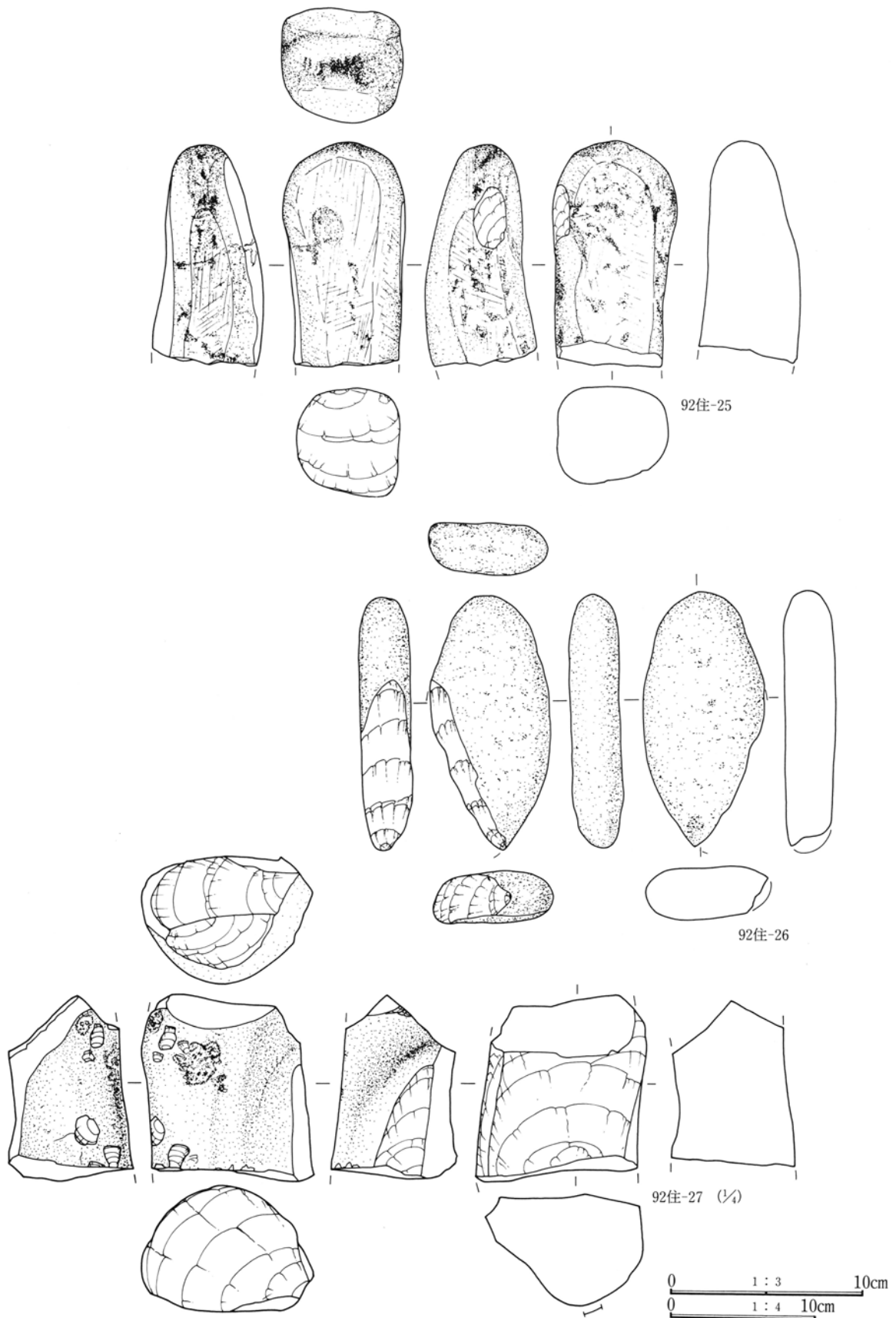


第156図 92号住居跡出土石器(1)

II 検出された遺構と遺物

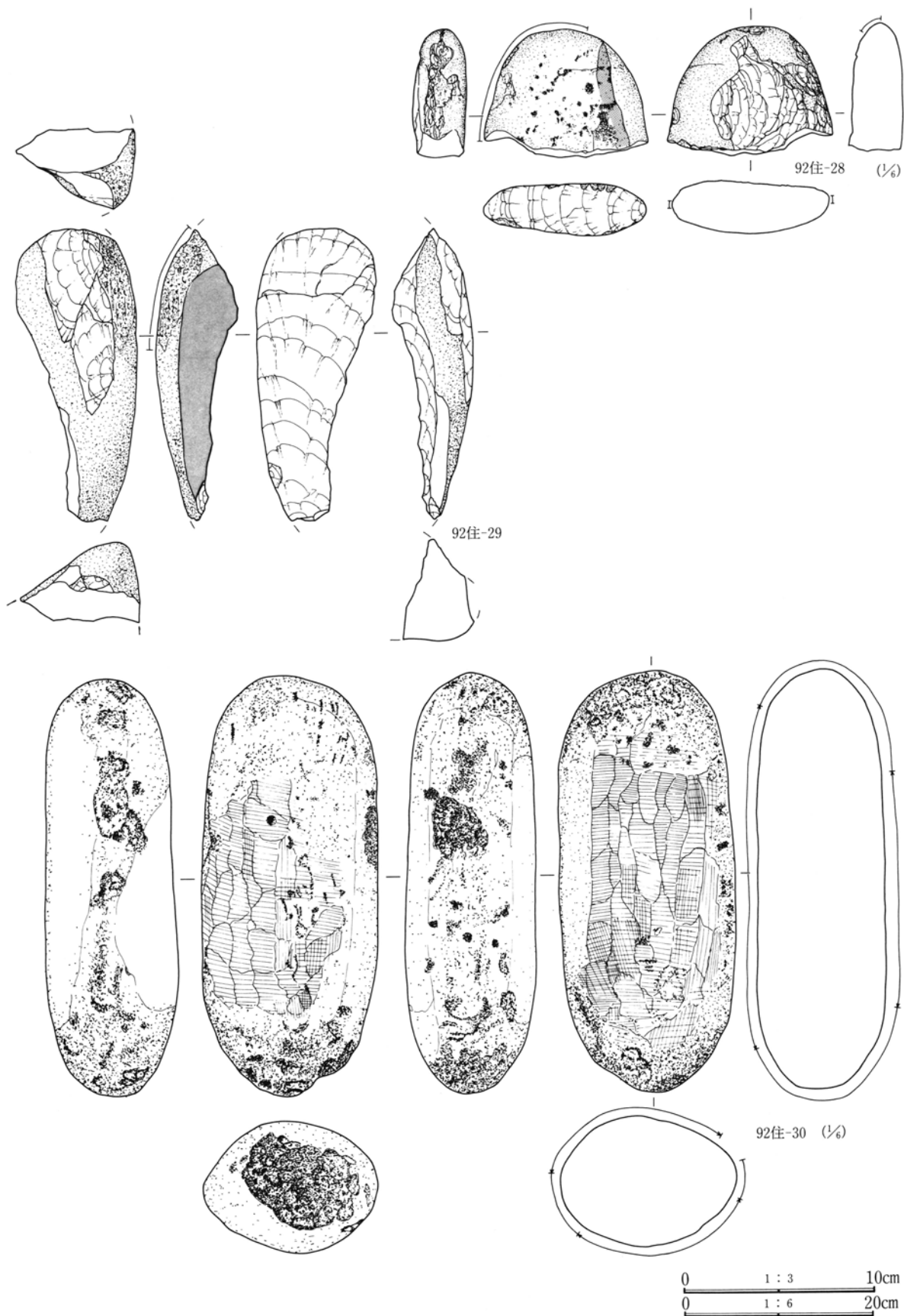


第157図 92号住居跡出土石器(2)

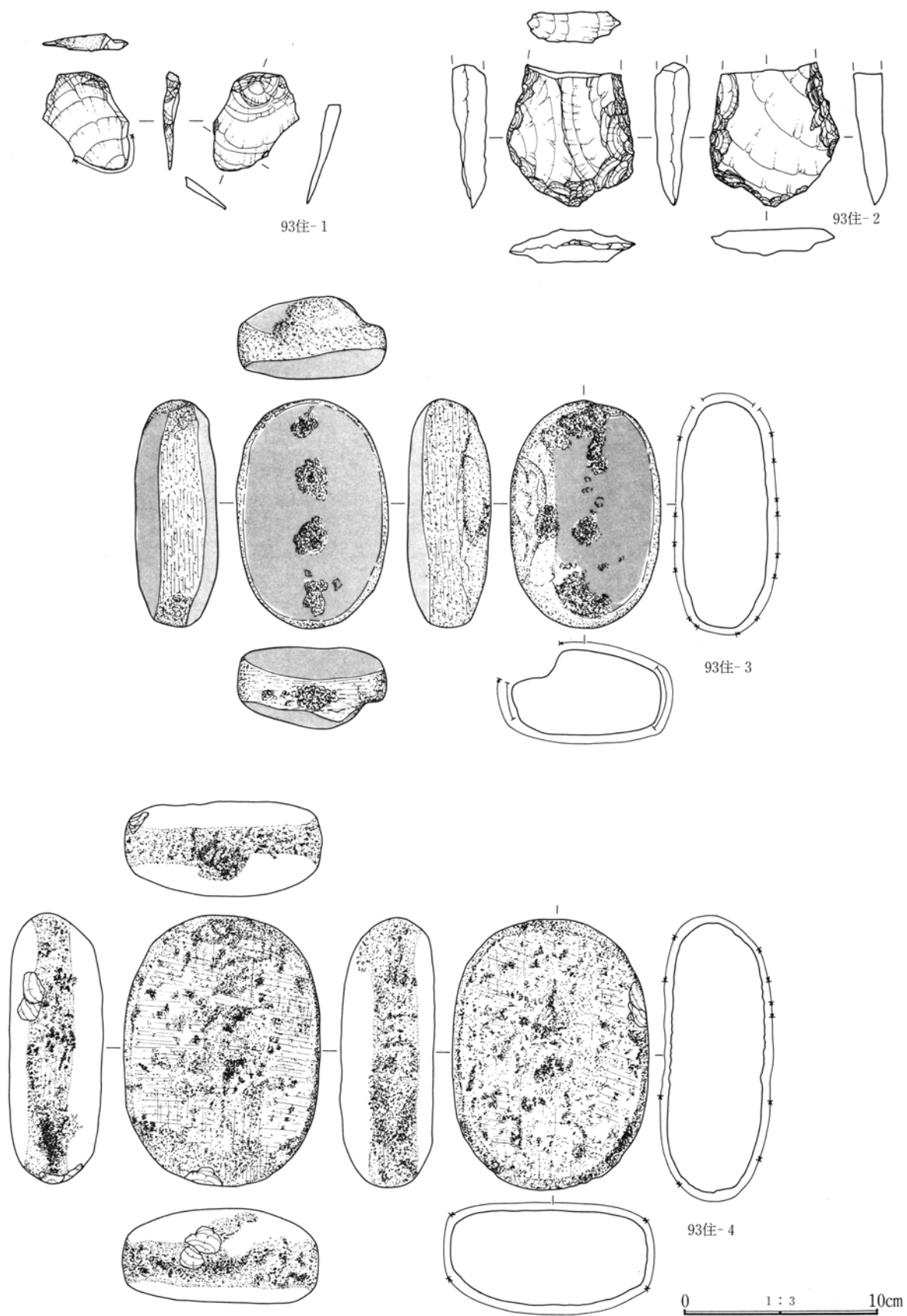


第158図 92号住居跡出土石器(3)

II 検出された遺構と遺物

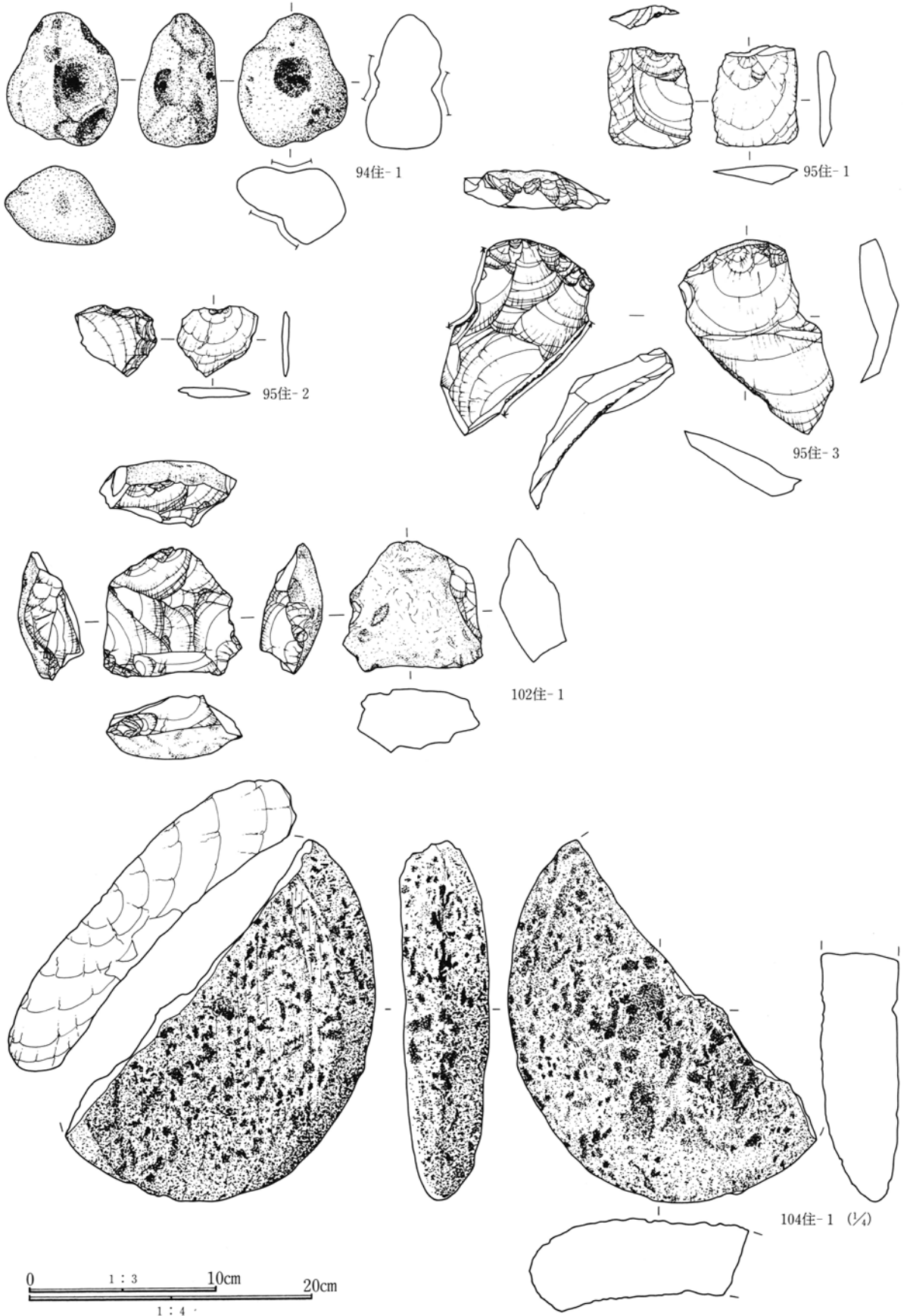


第159図 92号住居跡出土石器(4)

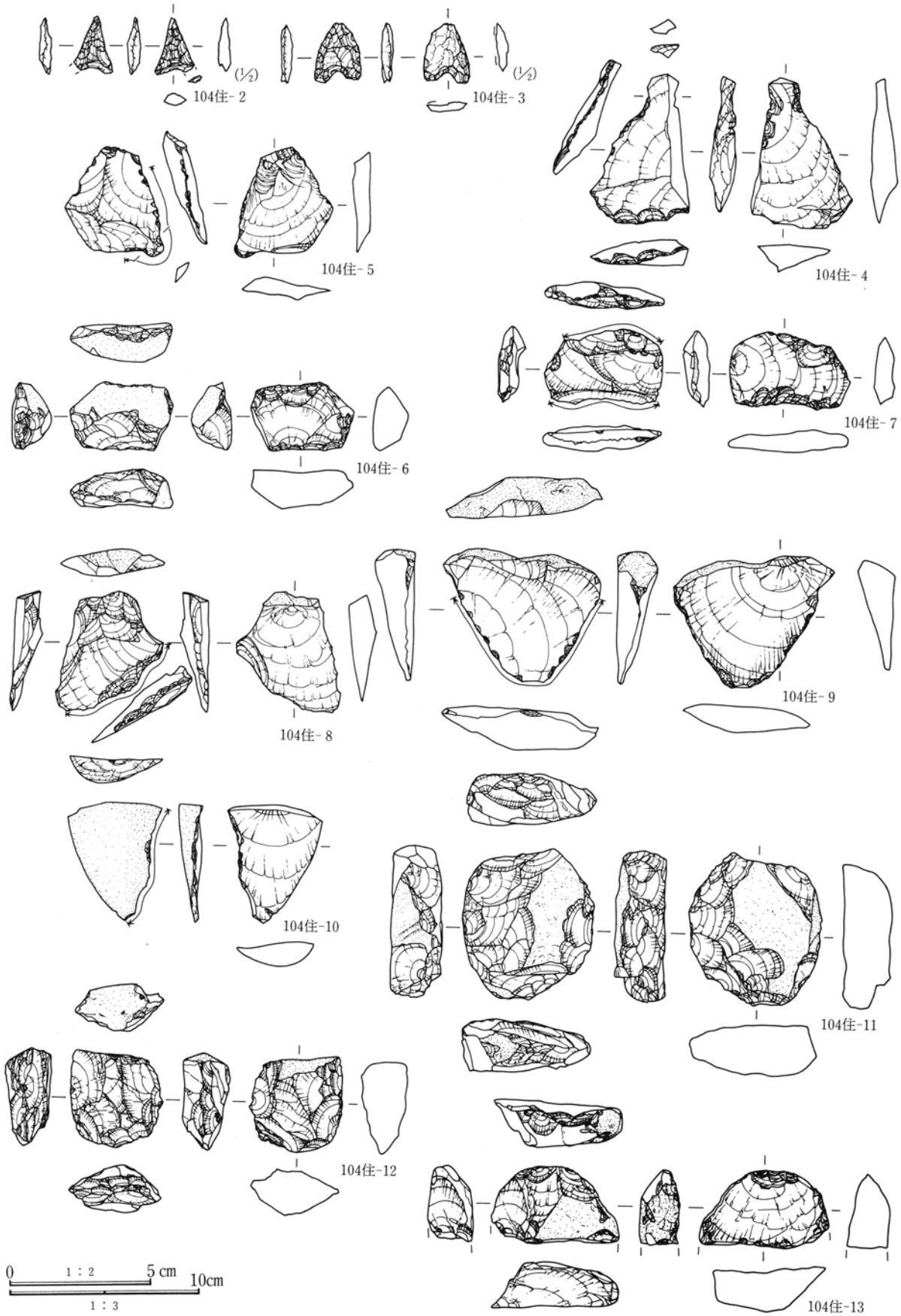


第160図 93号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

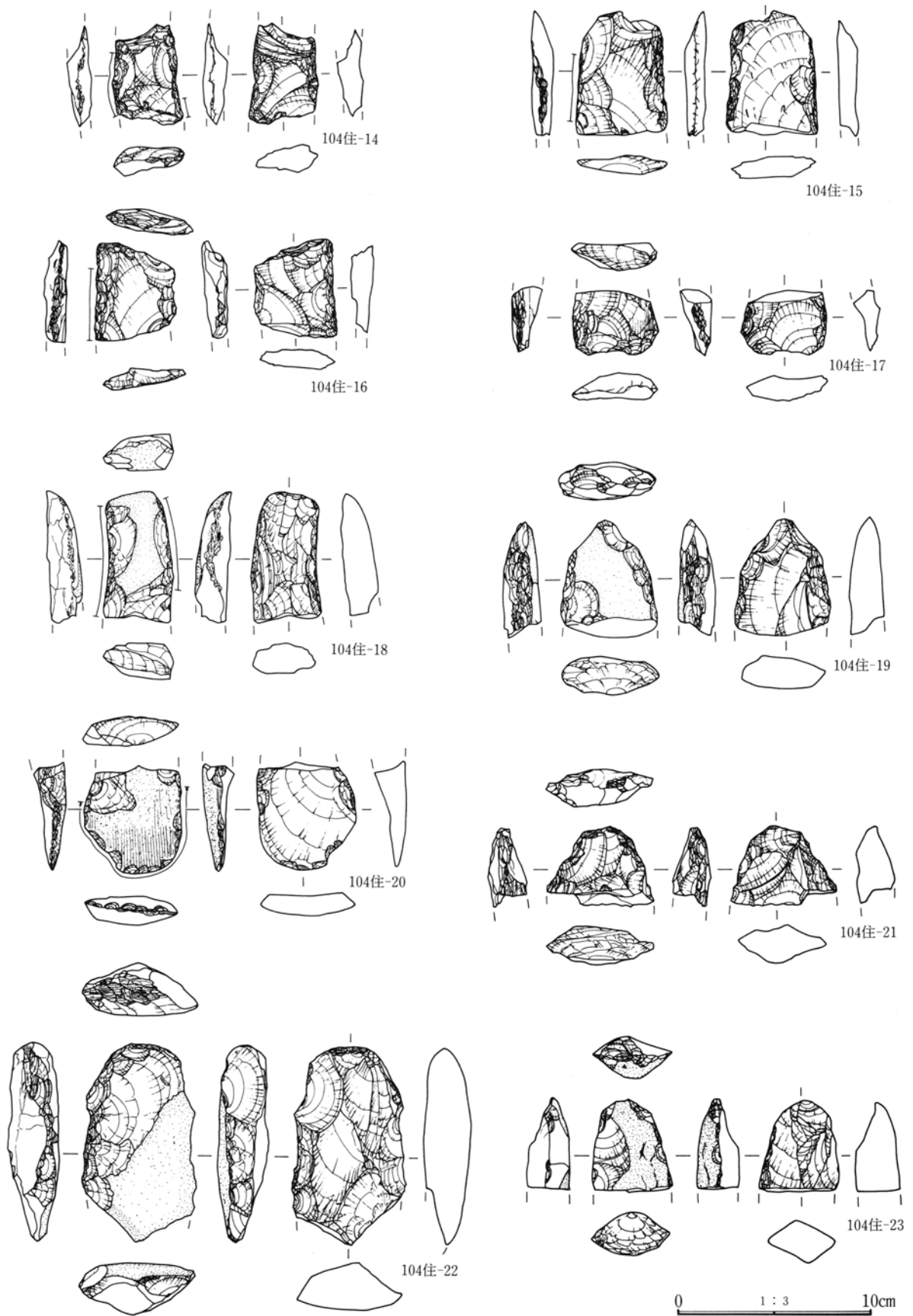


第161図 94・95・102・104号住居跡出土石器



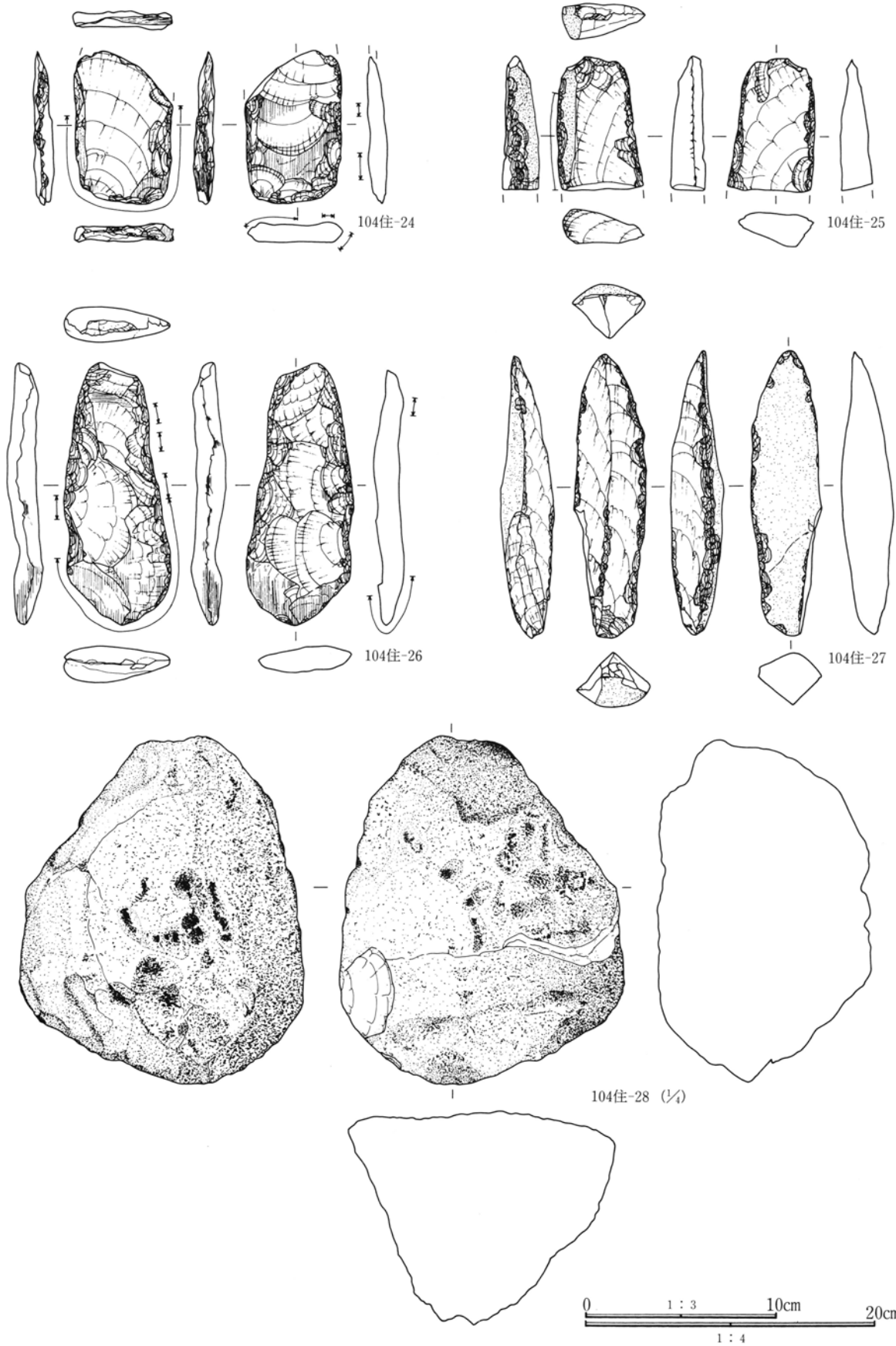
第162図 104号住居跡出土石器(1)

II 検出された遺構と遺物



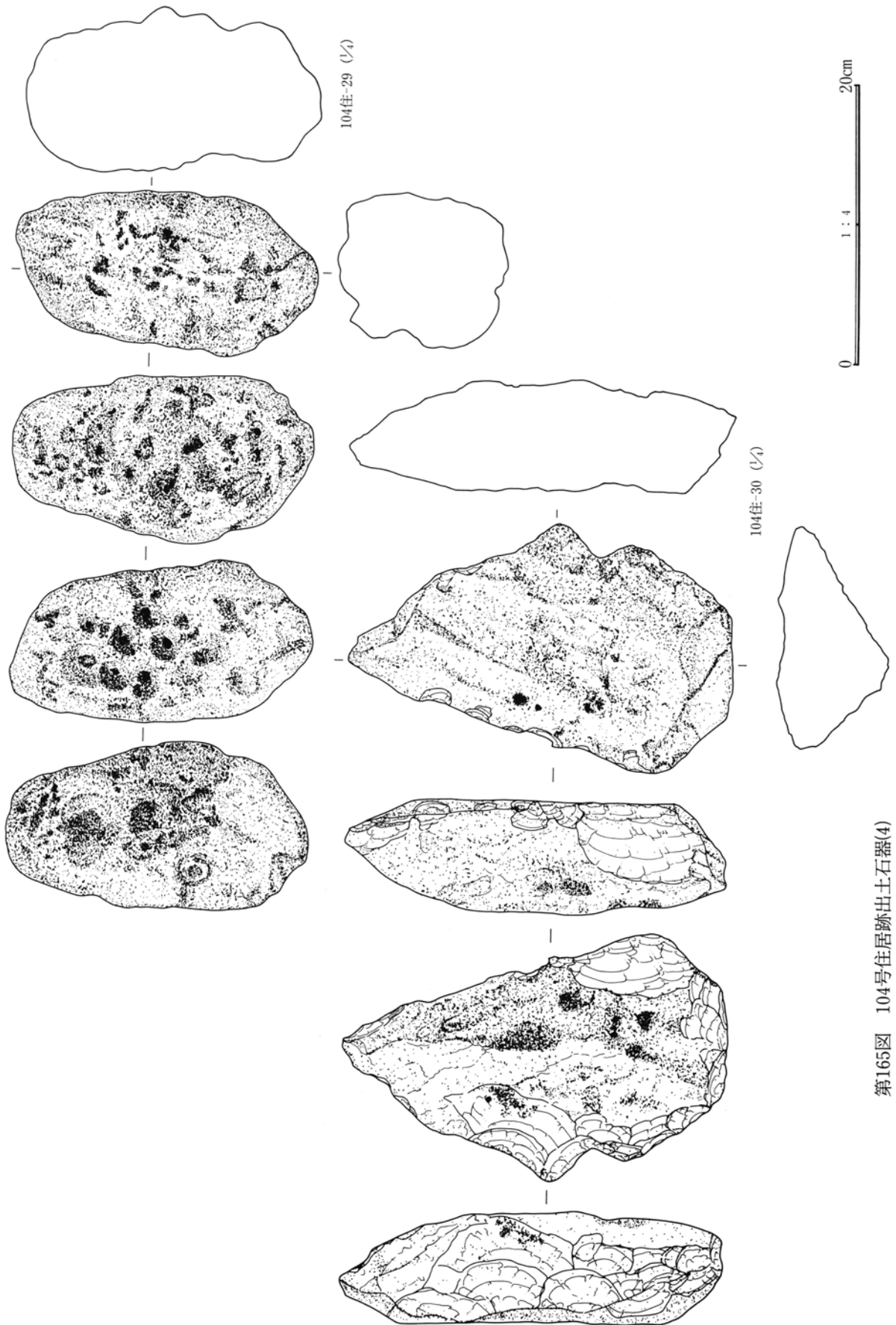
第163図 104号住居跡出土石器(2)

1. 縄文時代



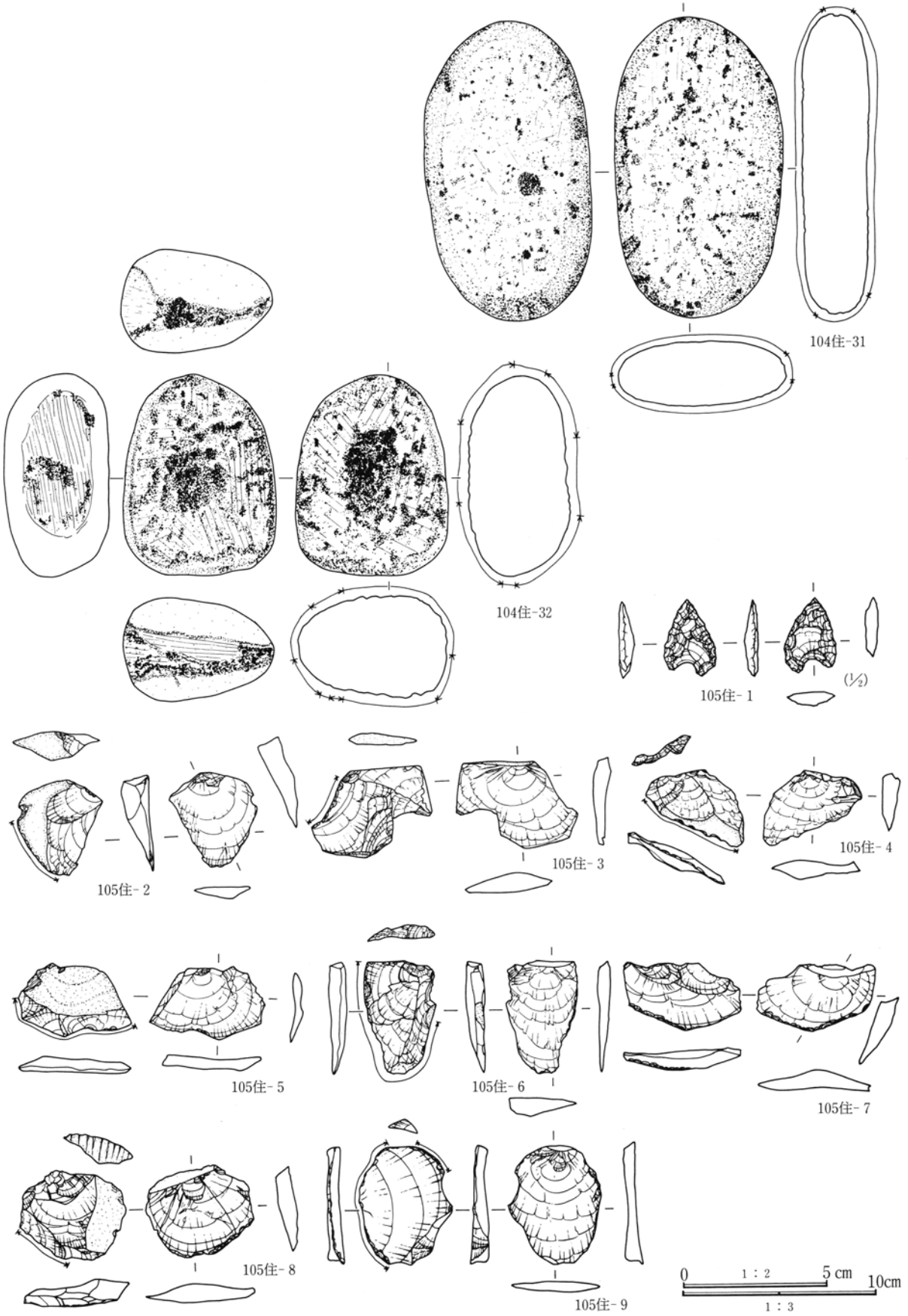
第164図 104号住居跡出土石器(3)

II 検出された遺構と遺物



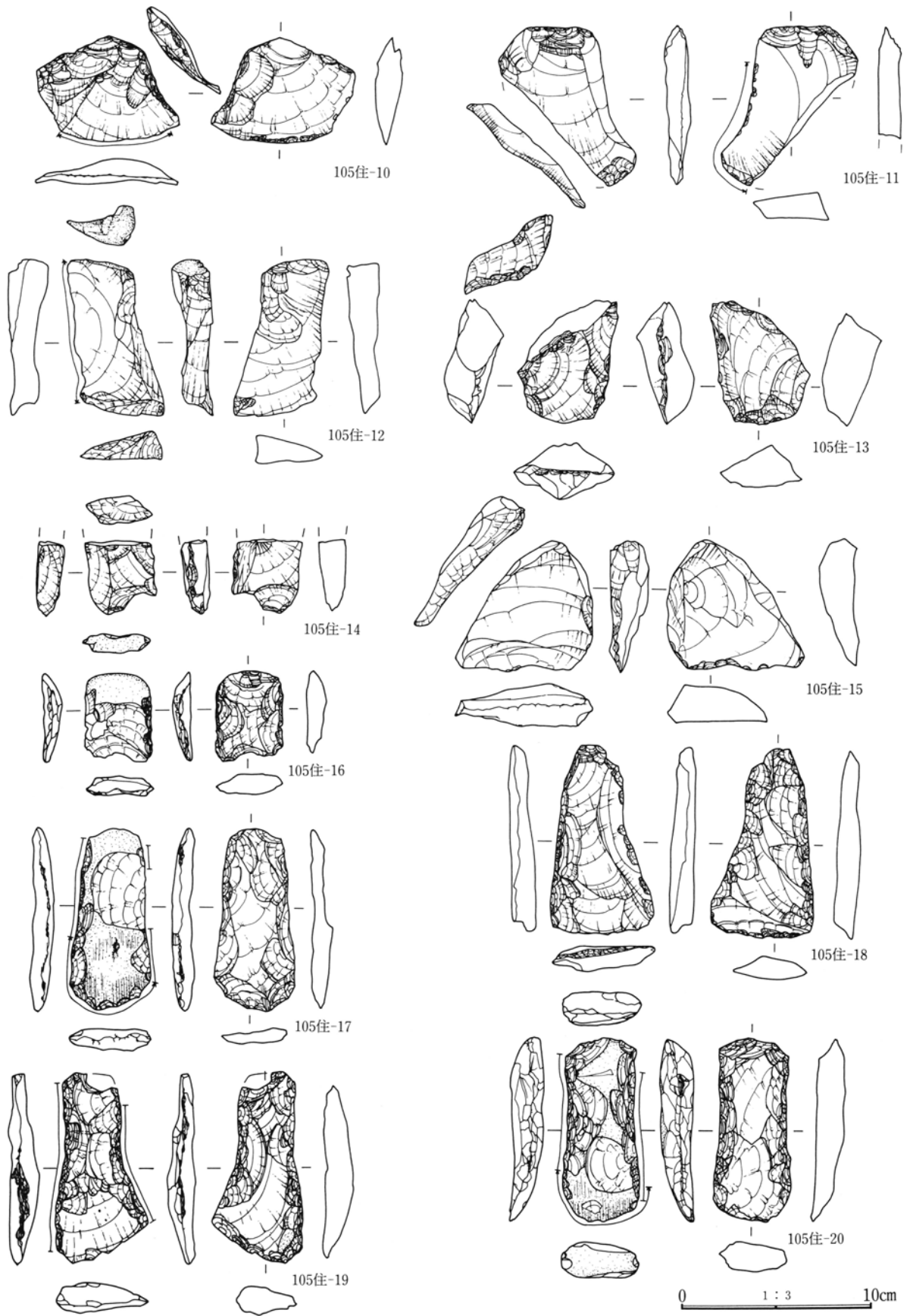
第165図 104号住居跡出土石器(4)

1. 縄文時代



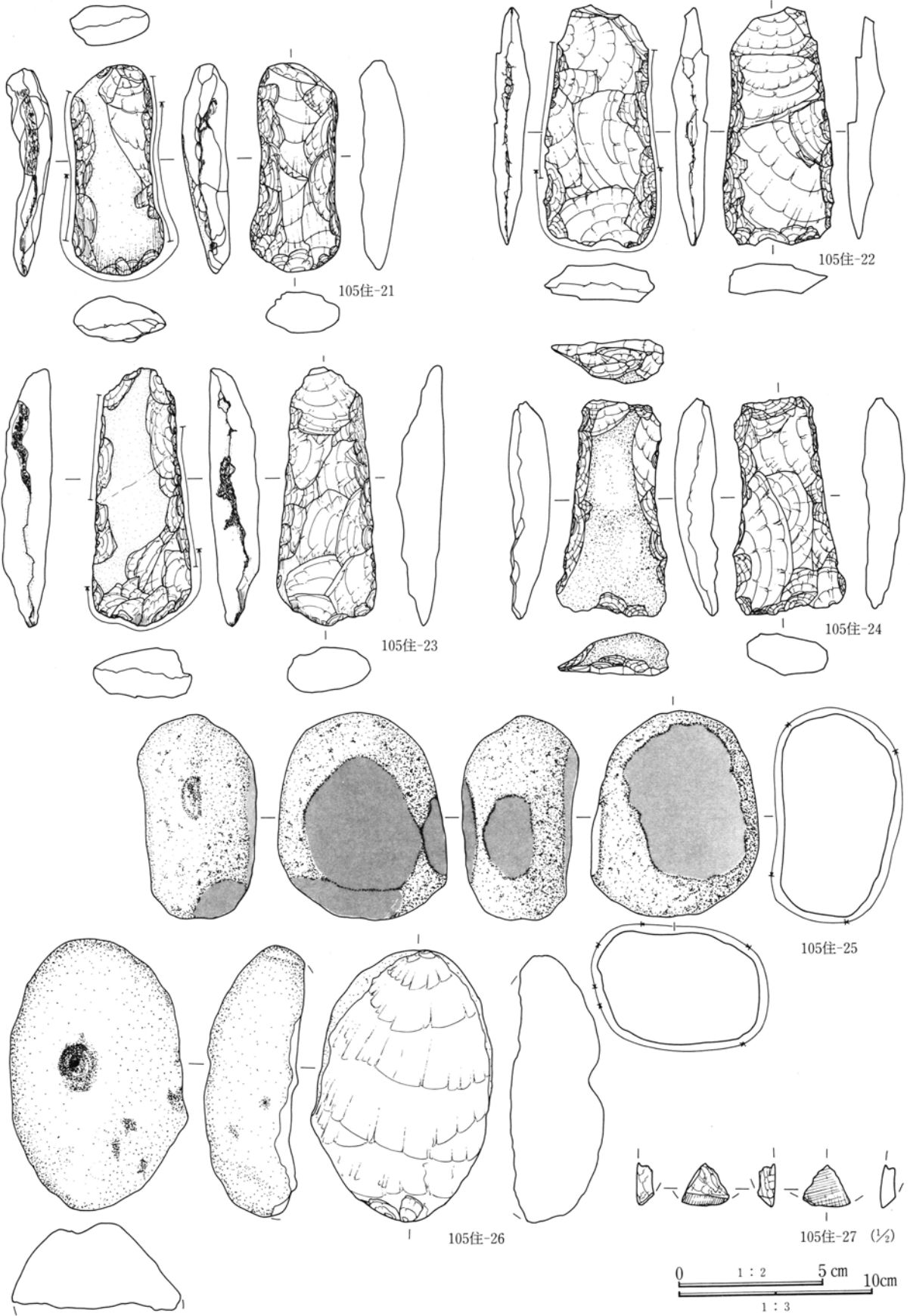
第166図 104・105号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



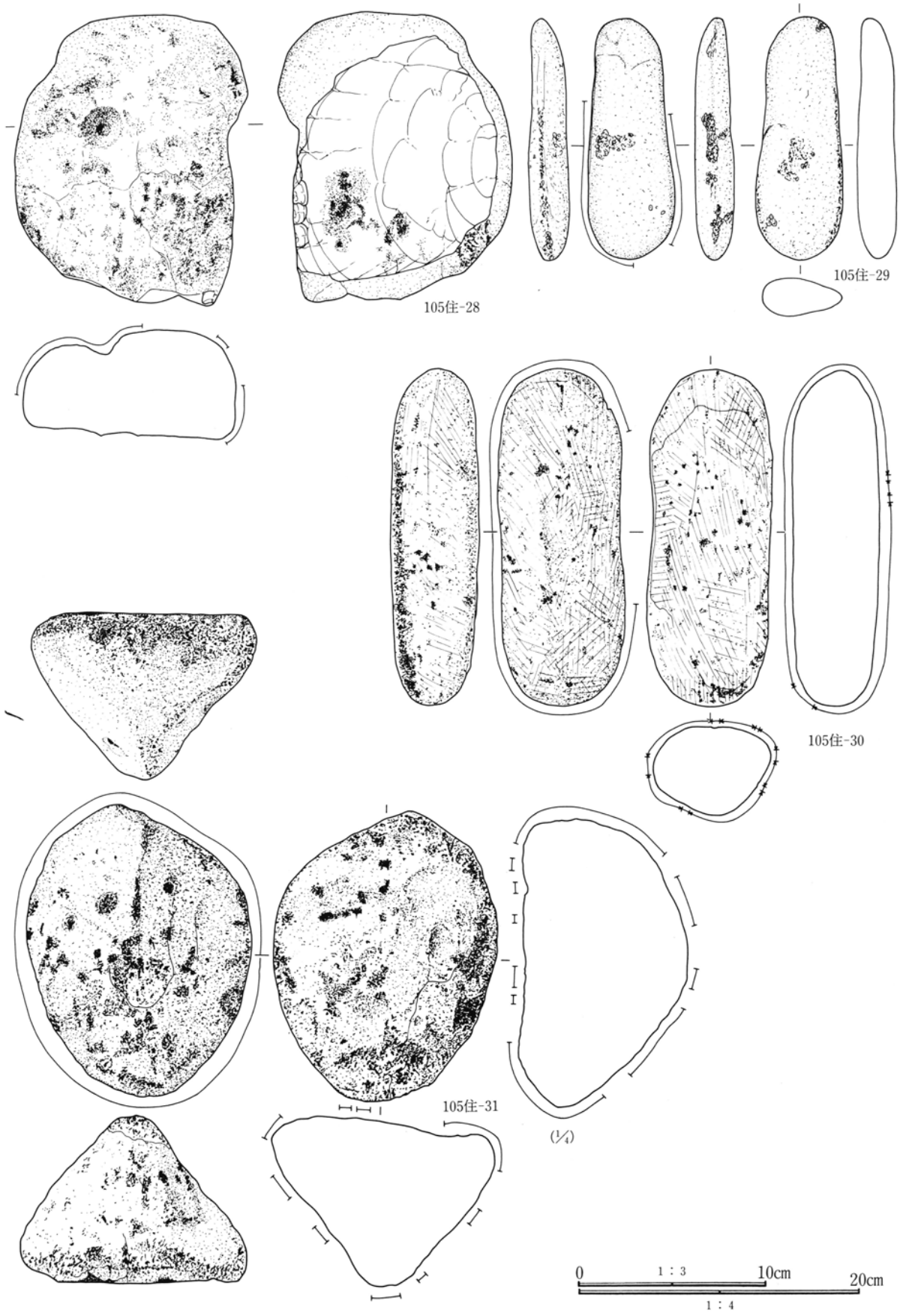
第167図 105号住居跡出土石器(1)

1. 縄文時代



第168図 105号住居跡出土石器(2)

II 検出された遺構と遺物



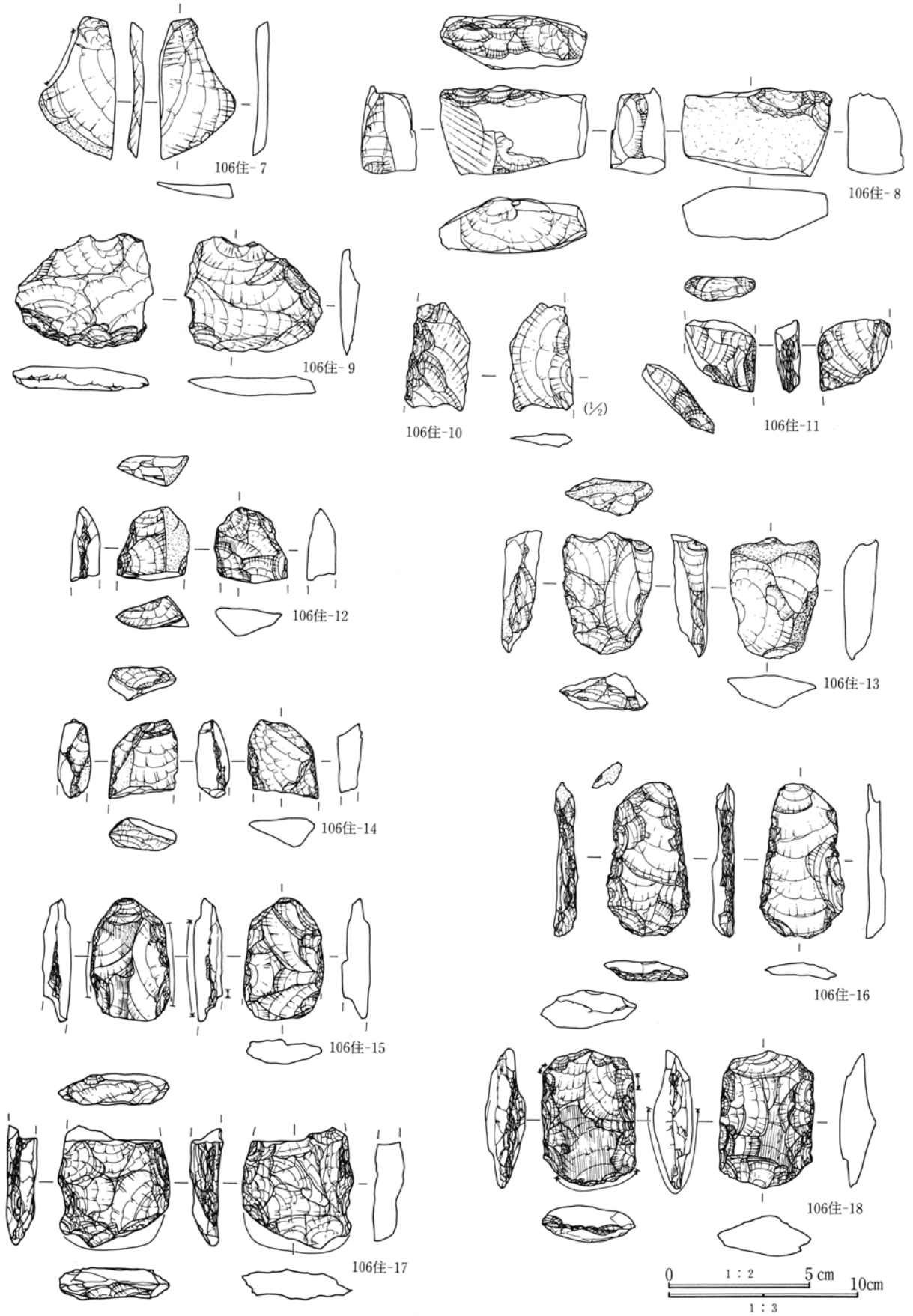
第169図 105号住居跡出土石器(3)

1. 縄文時代



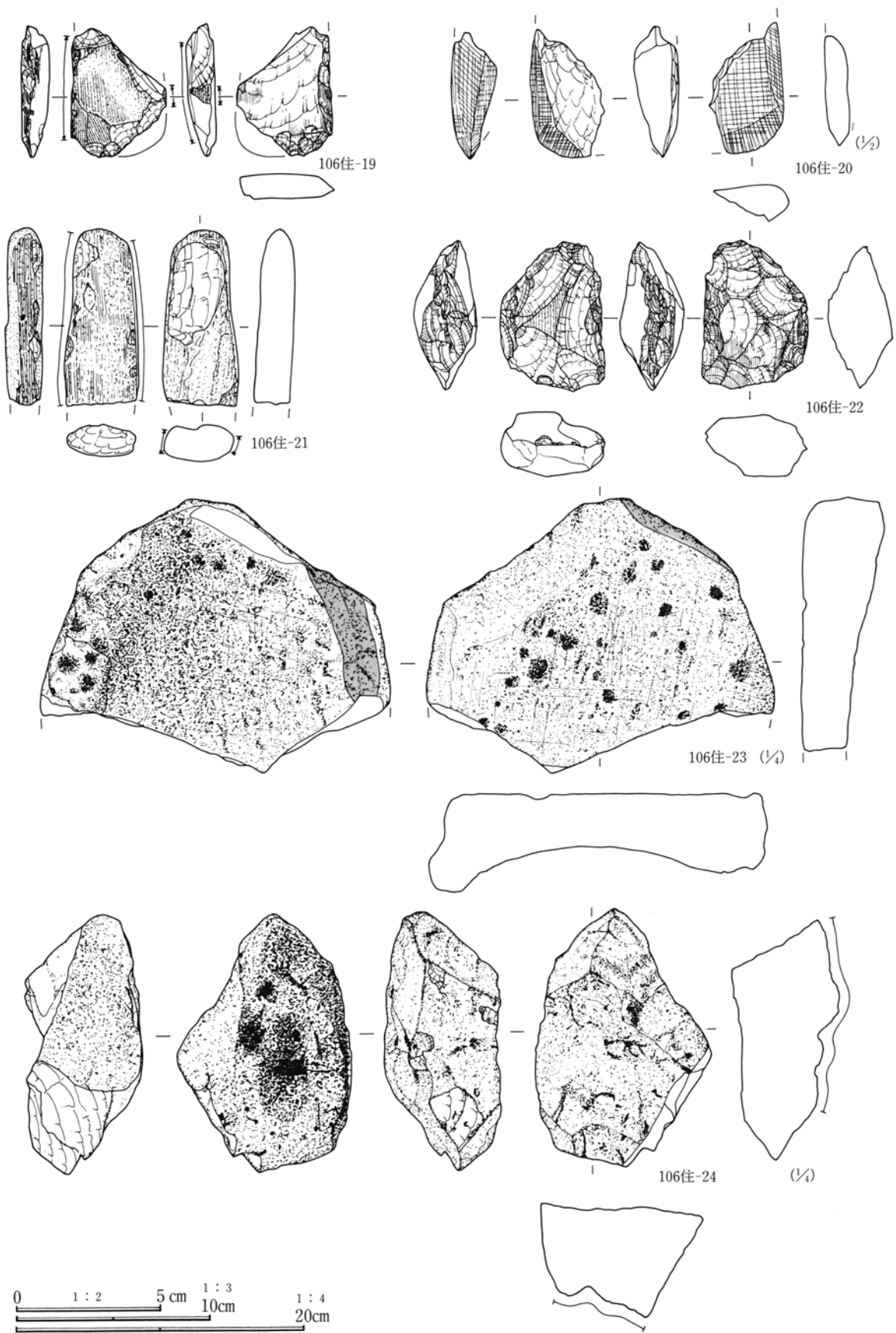
第170図 105・106号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



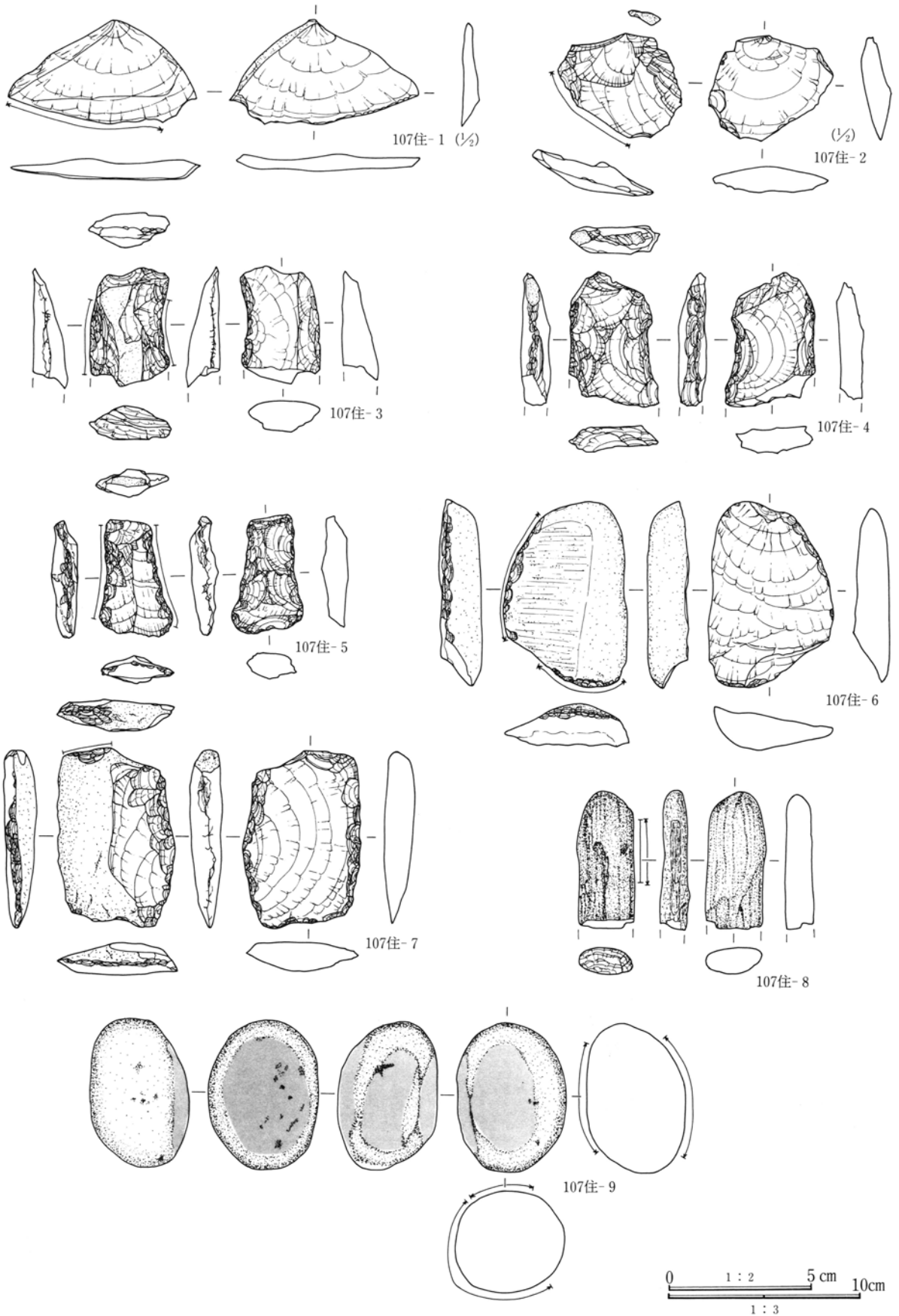
第171図 106号住居跡出土石器(1)

1. 縄文時代

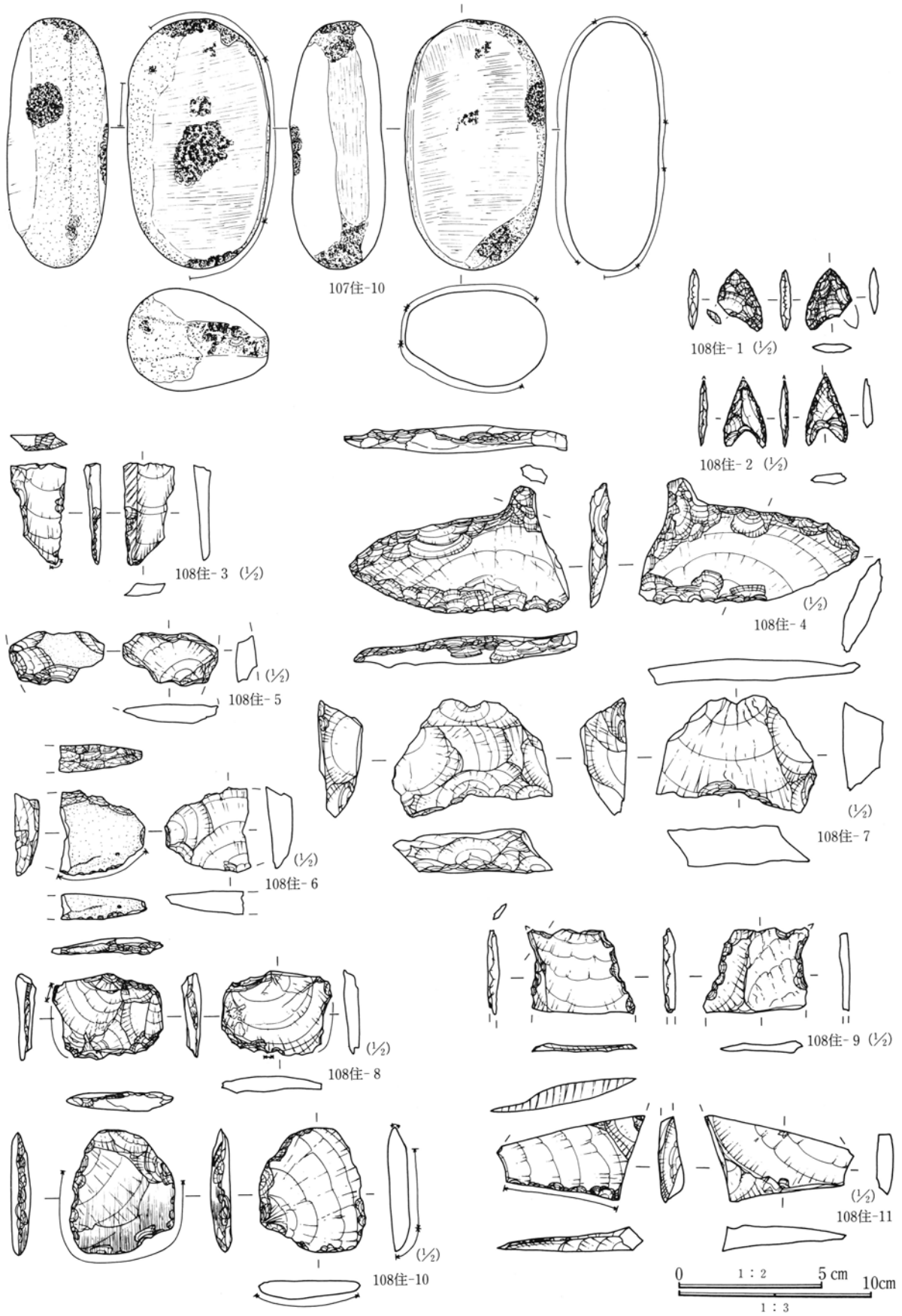


第172図 106号住居跡出土石器(2)

II 検出された遺構と遺物



第173図 107号住居跡出土石器



第174図 107・108号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



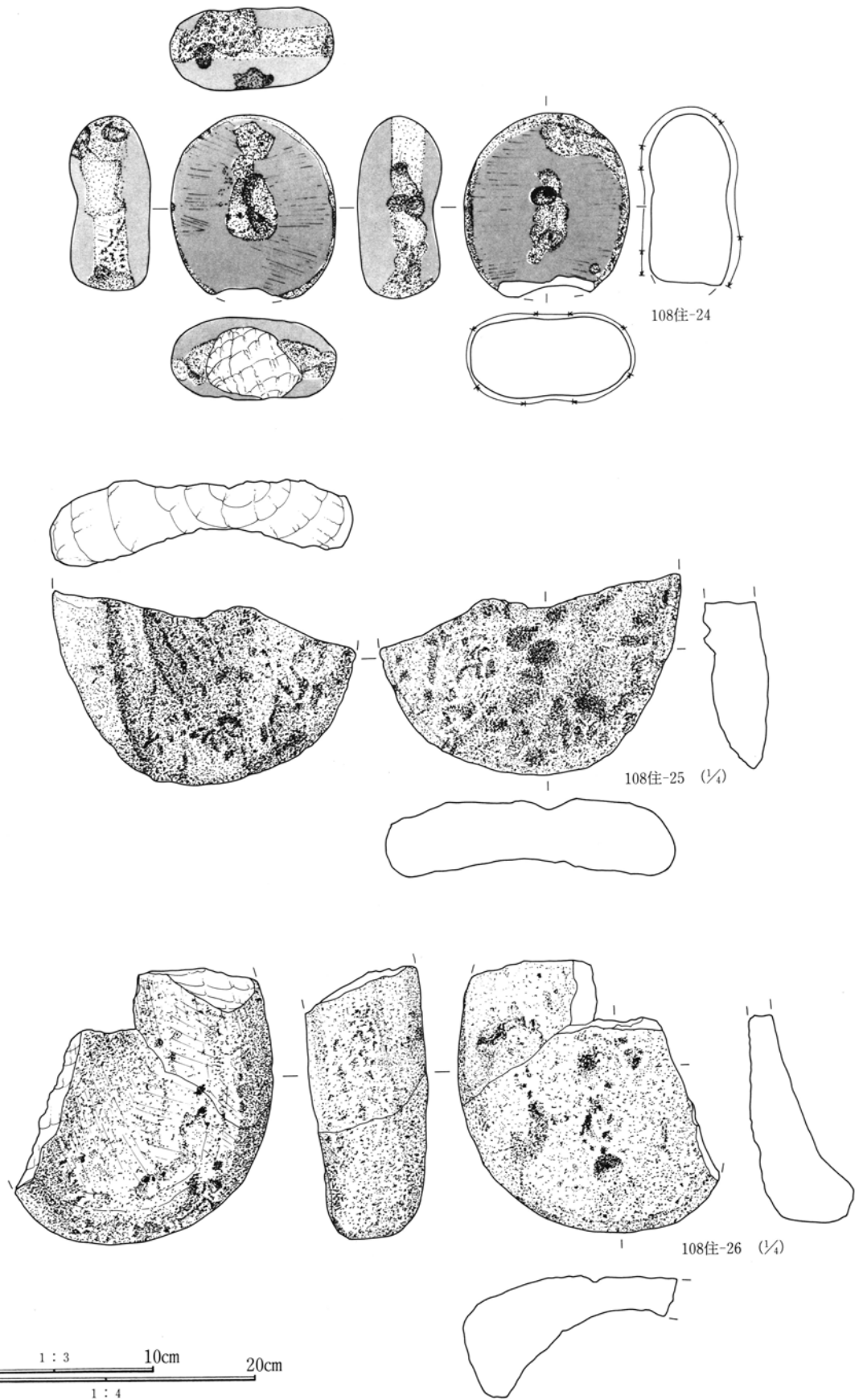
第175図 108号住居跡出土石器(1)

1. 縄文時代

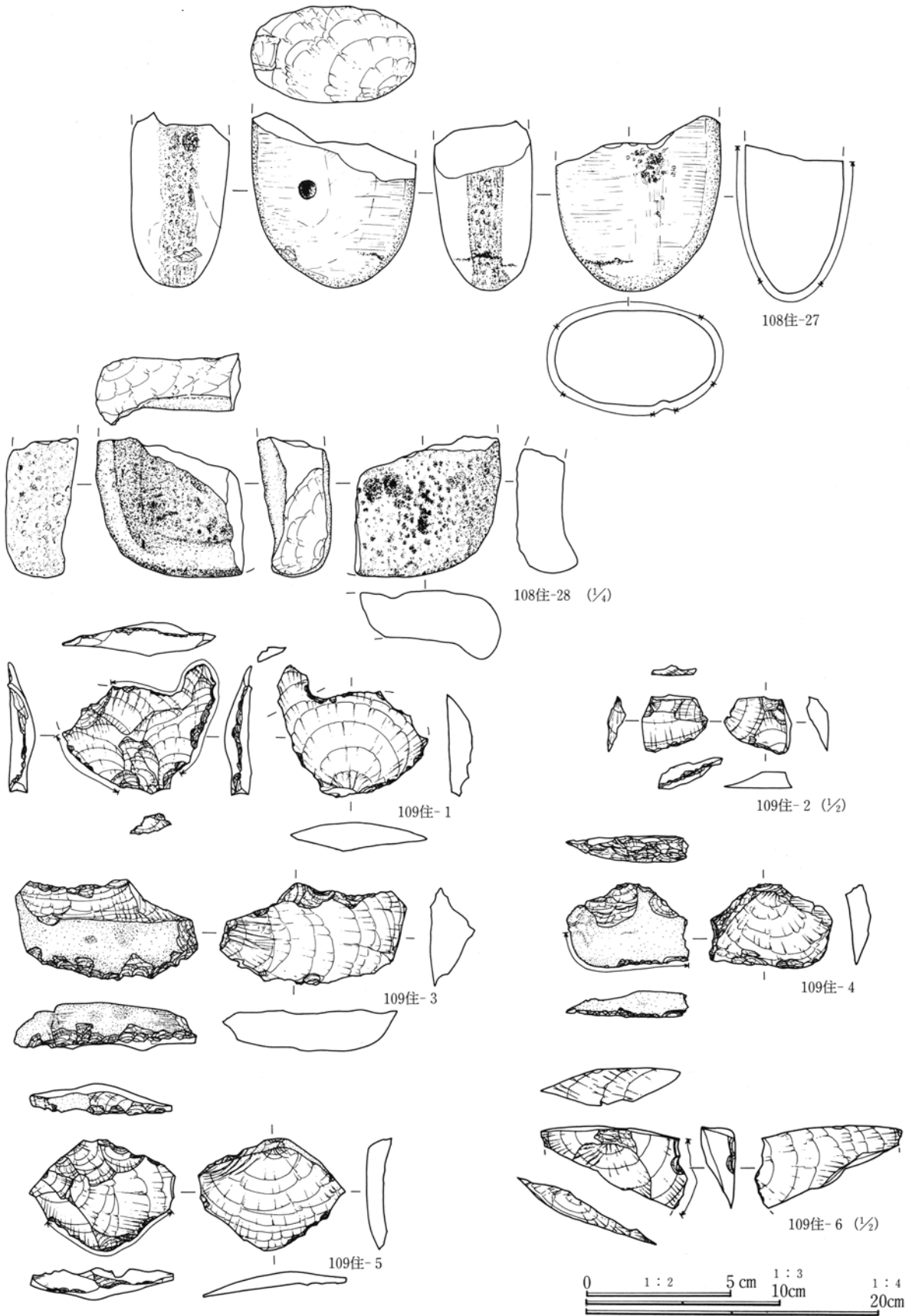


第176図 108号住居跡出土石器(2)

II 検出された遺構と遺物

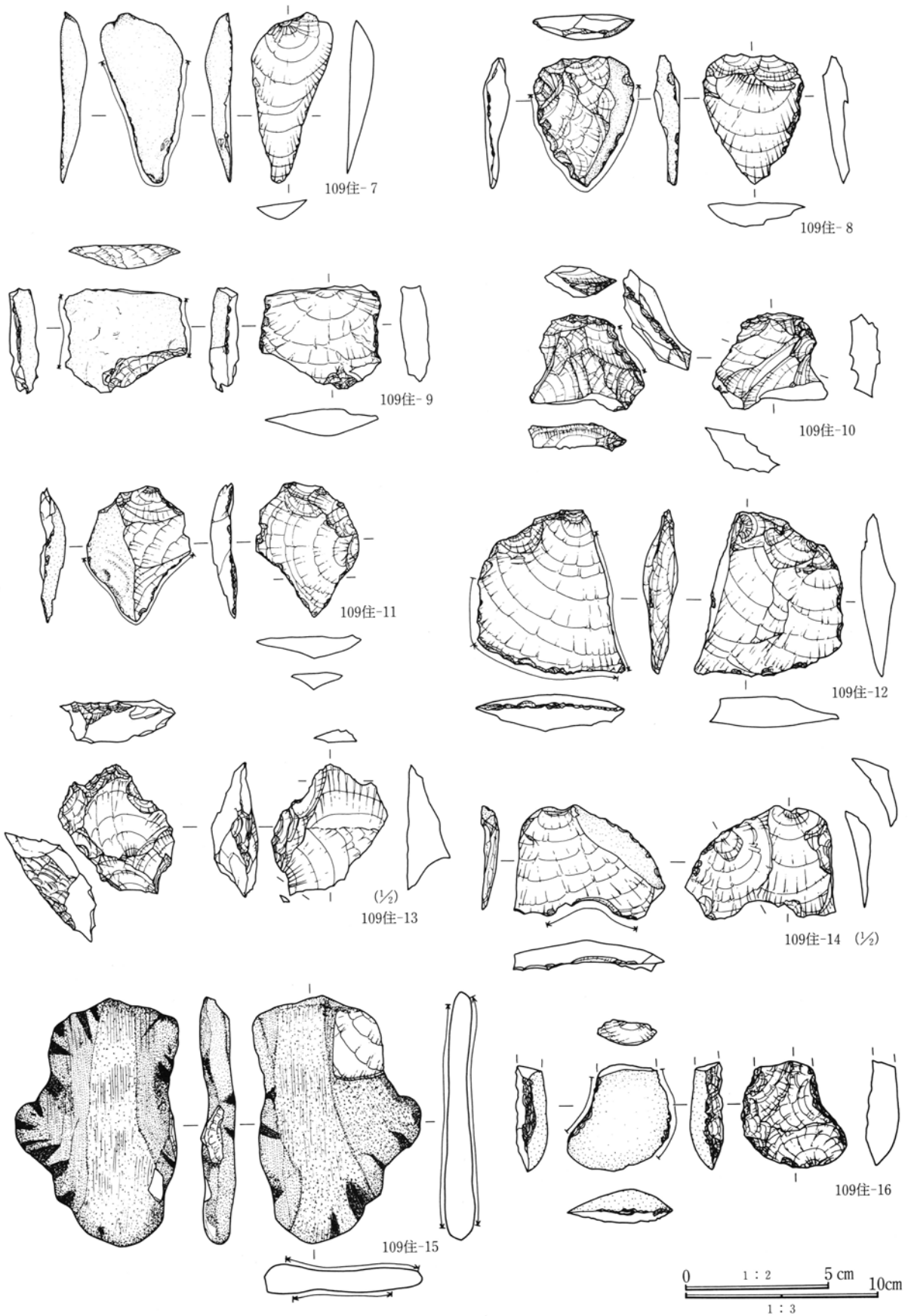


第177図 108号住居跡出土石器(3)



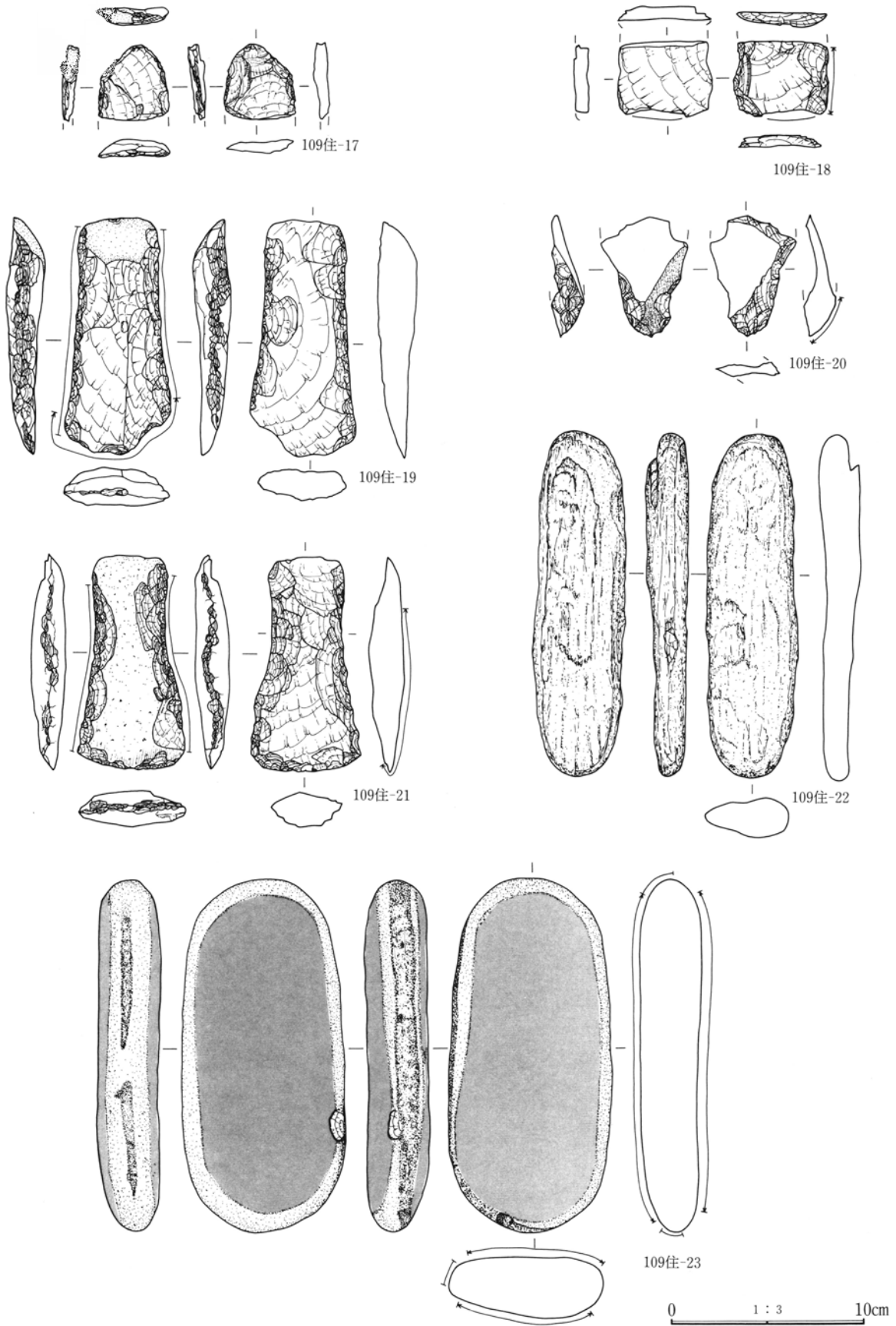
第178図 108・109号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



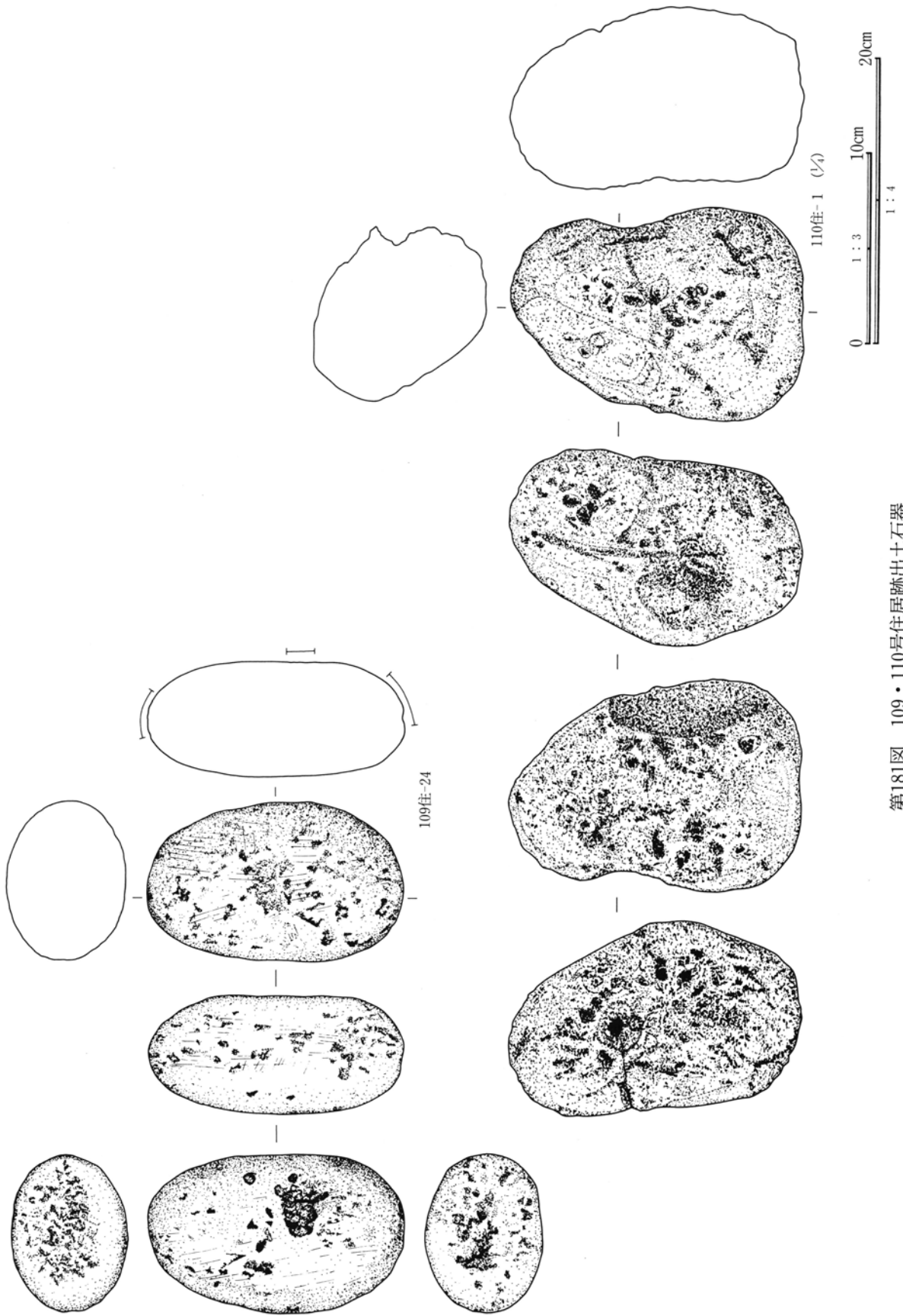
第179図 109号住居跡出土石器(1)

1. 縄文時代



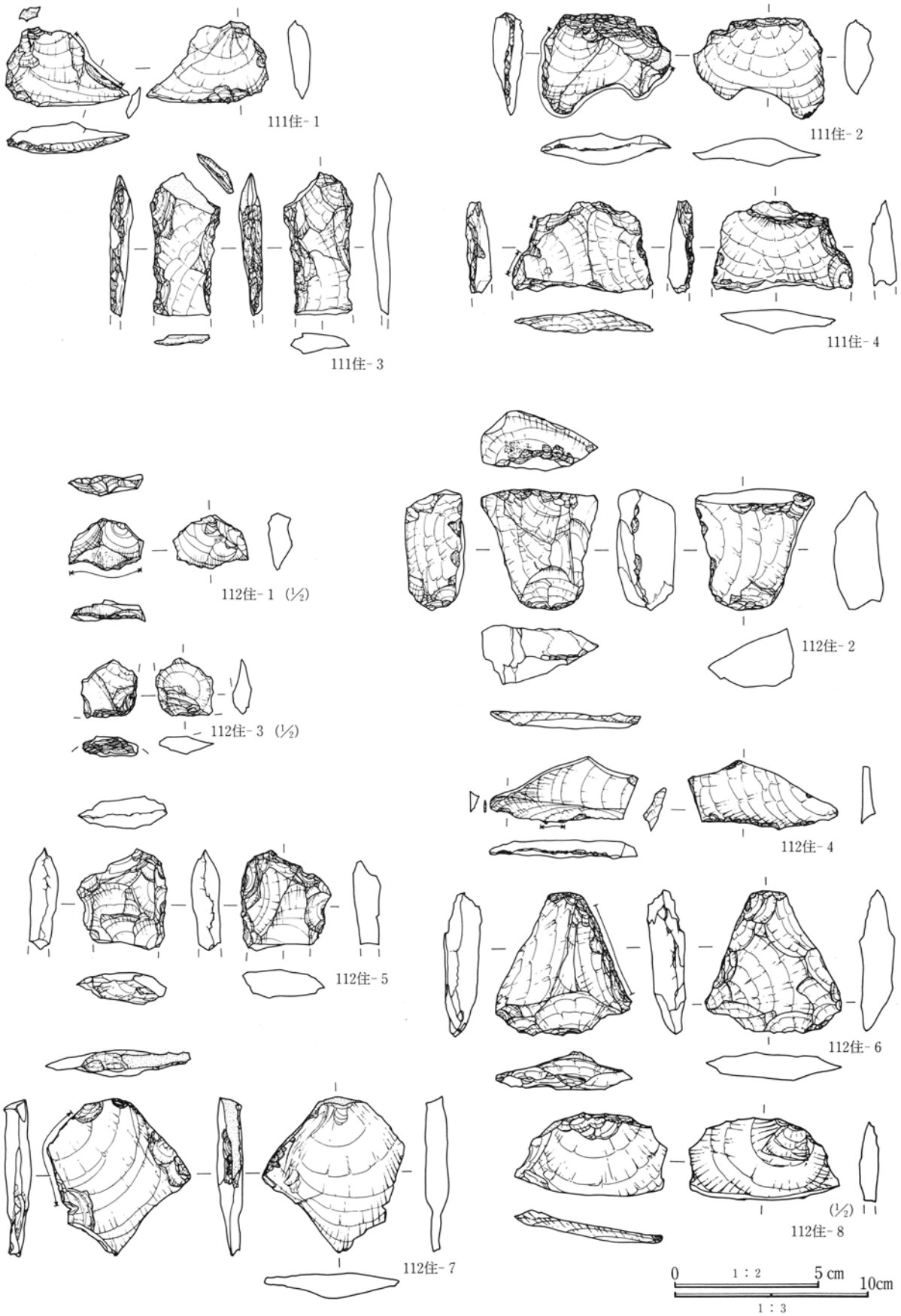
第180図 109号住居跡出土石器(2)

II 検出された遺構と遺物



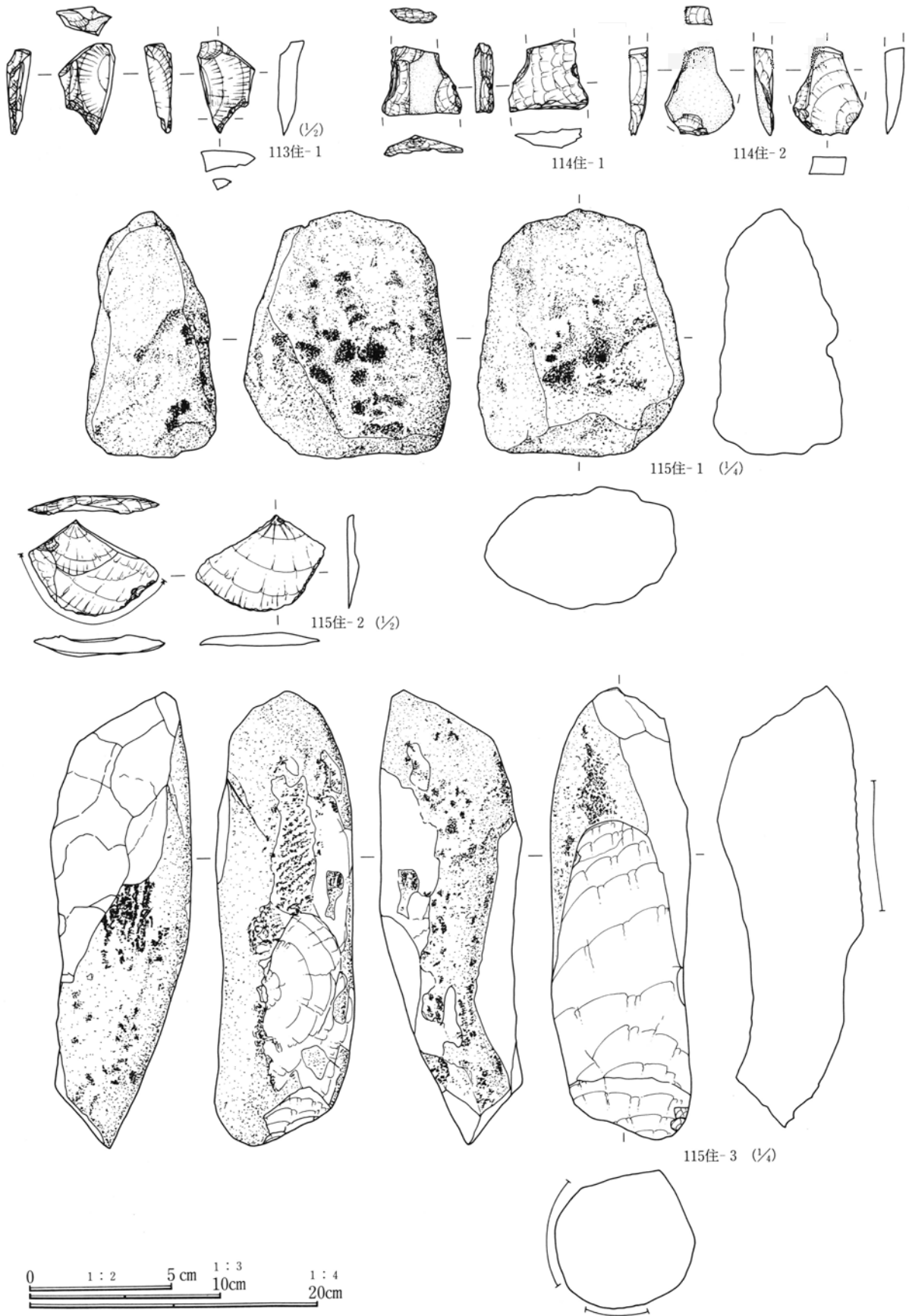
第181図 109・110号住居跡出土石器

1. 縄文時代



第182図 111・112号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



第183図 113・114・115号住居跡出土石器



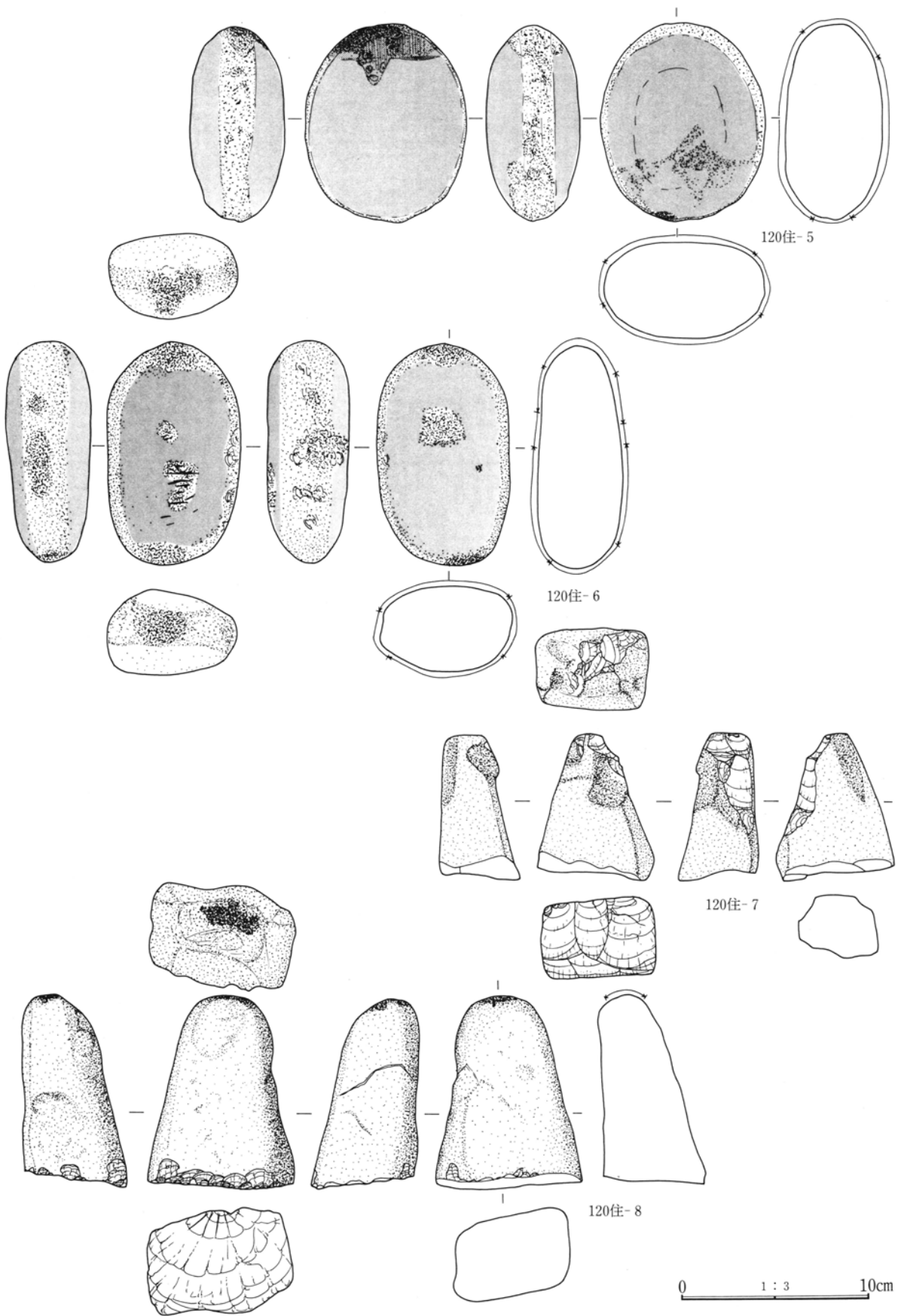
第184図 116号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



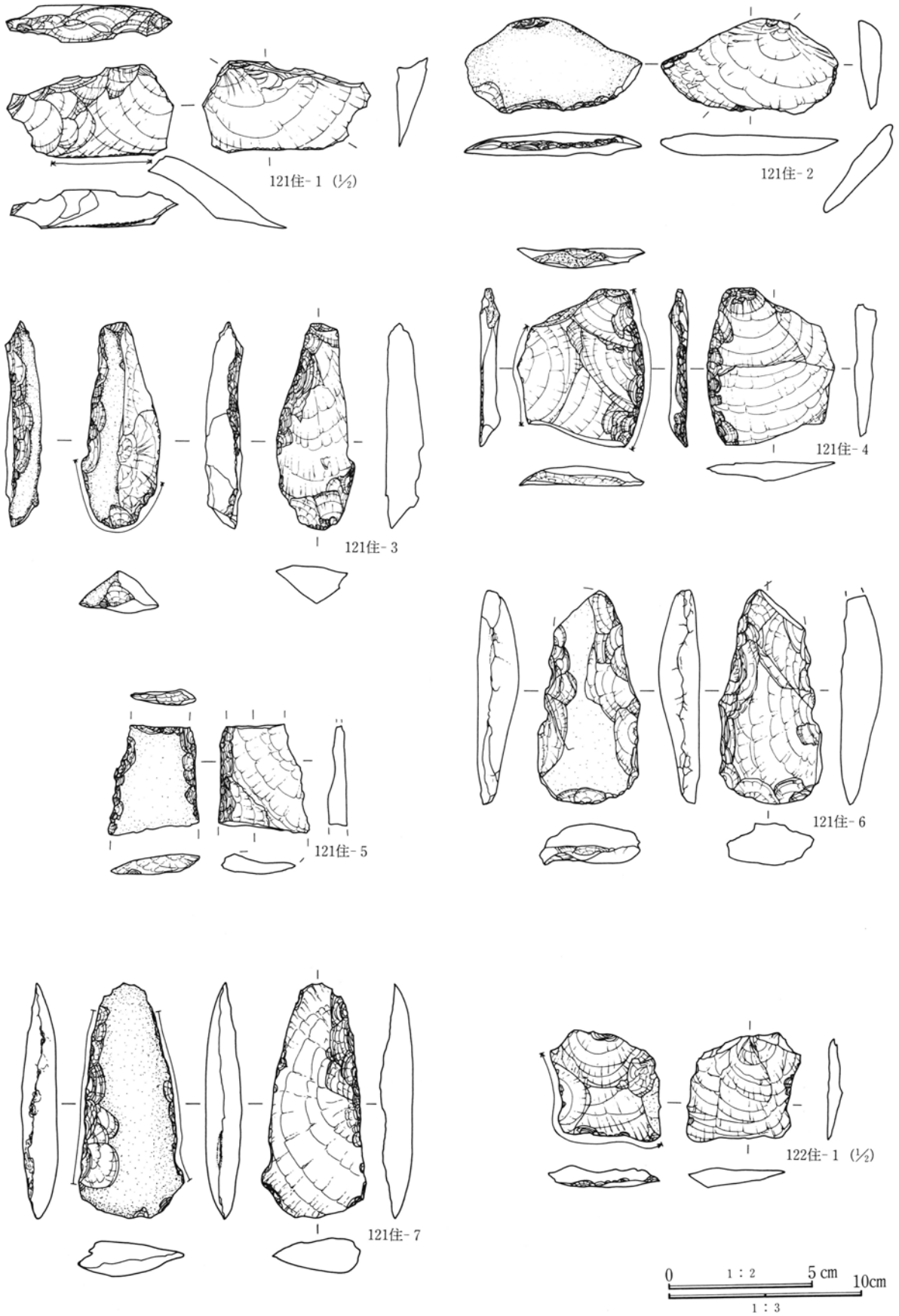
第185図 116・119・120号住居跡出土石器

1. 縄文時代



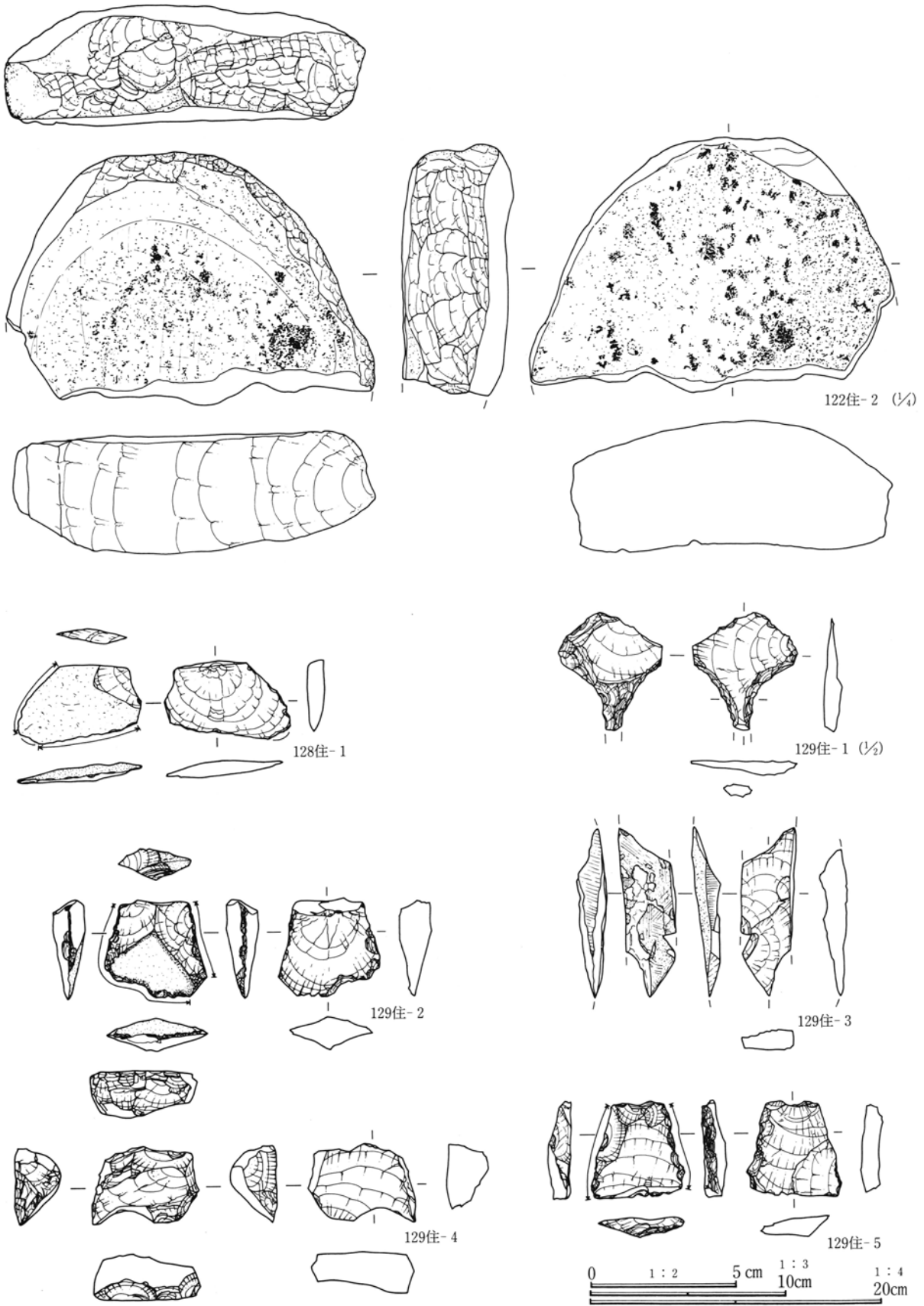
第186図 120号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



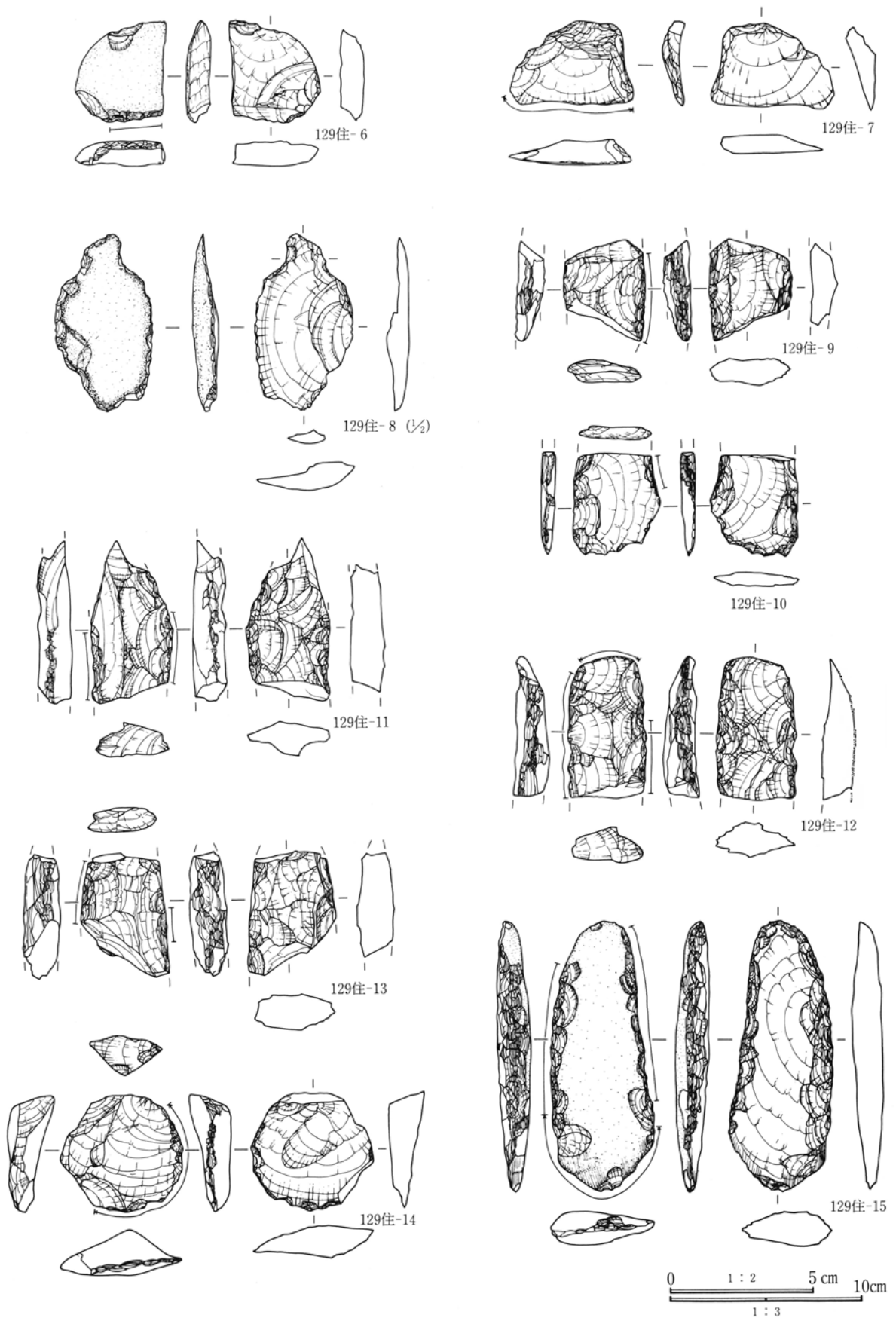
第187図 121・122号住居跡出土石器

1. 縄文時代



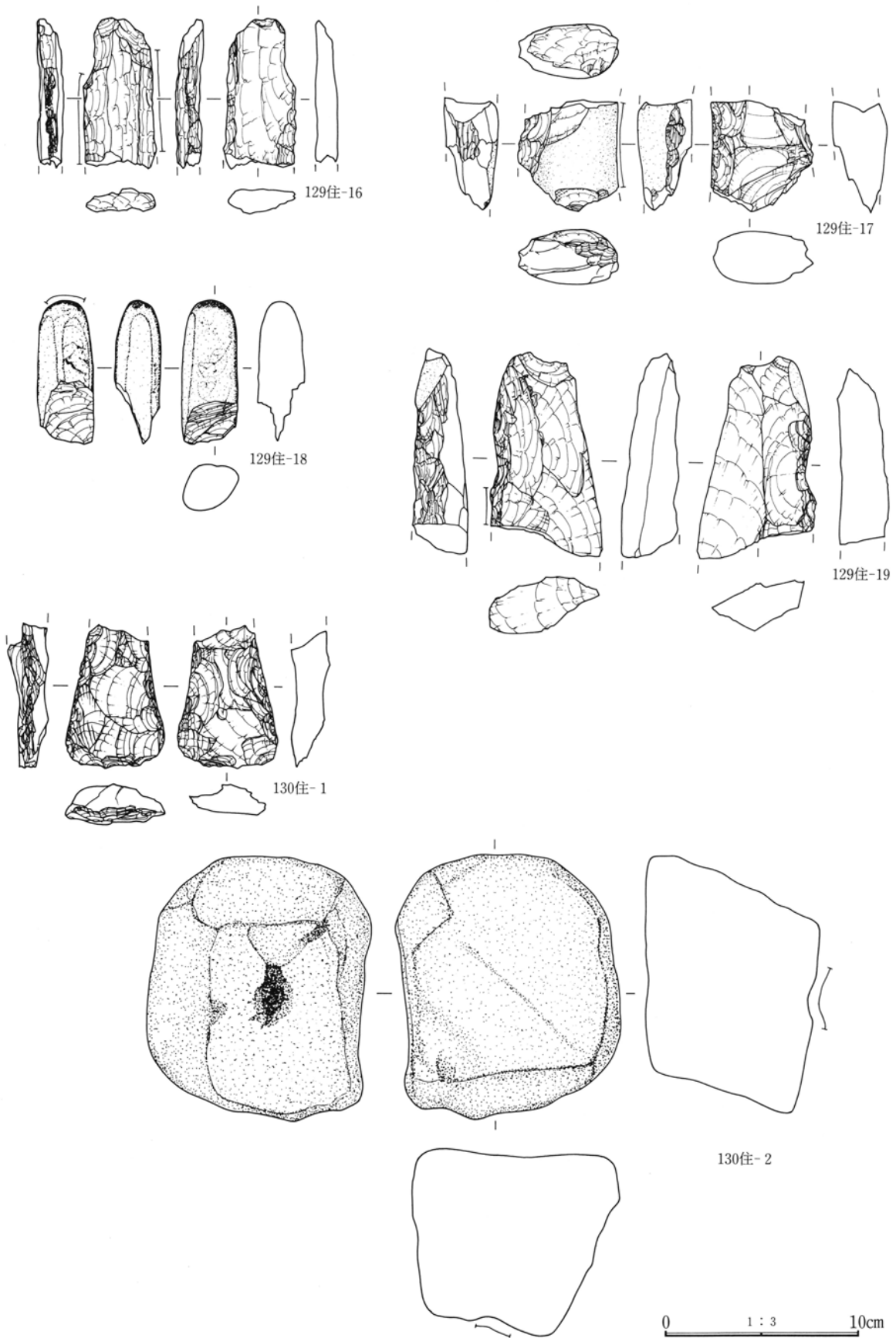
第188図 122・128・129号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



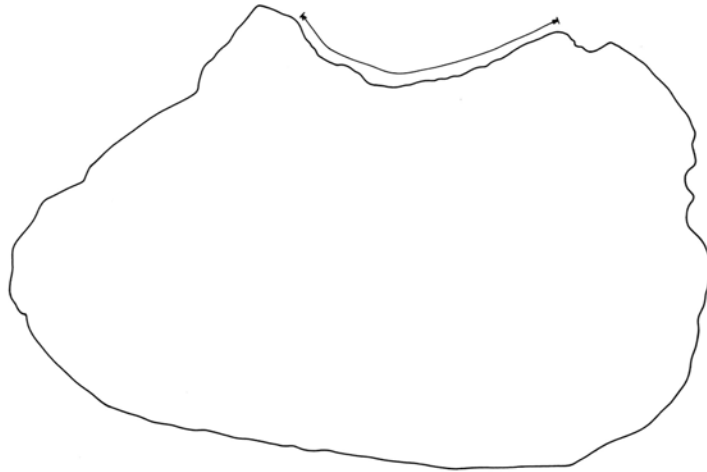
第189図 129号住居跡出土石器

1. 縄文時代



第190図 129・130号住居跡出土石器

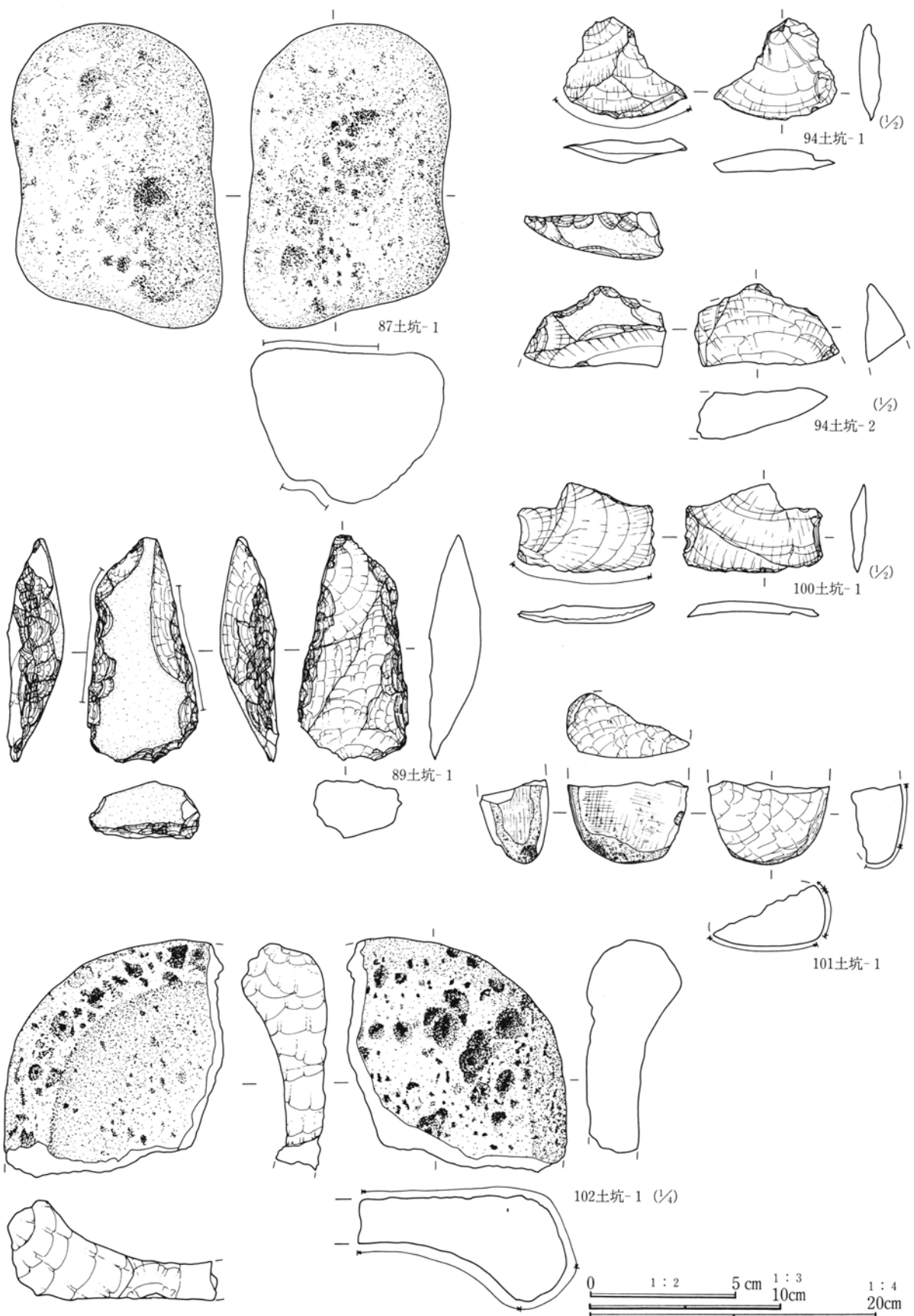
II 検出された遺構と遺物



0 1 : 6 30cm

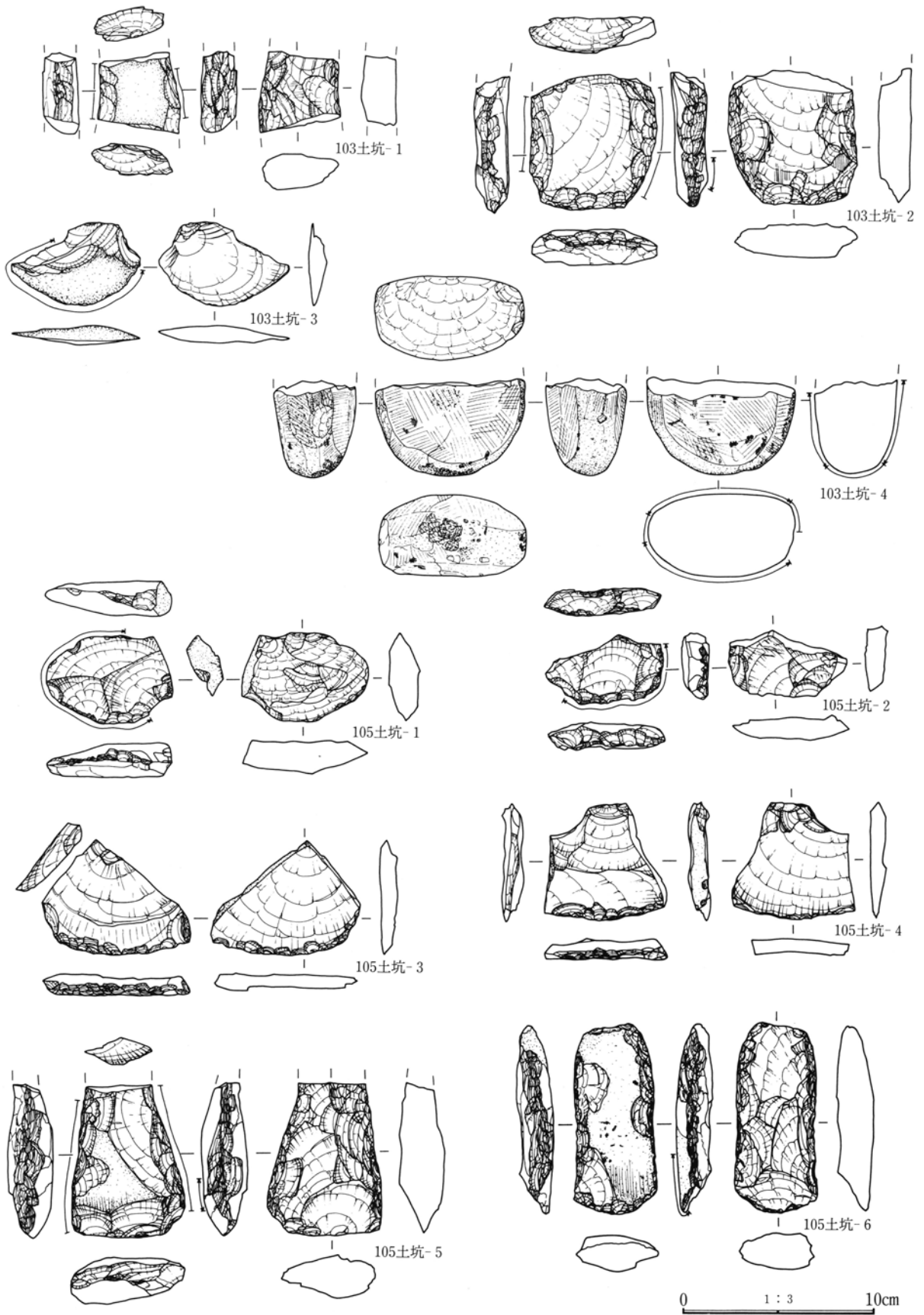
第191図 131号住居跡内399号土坑出土石器

1. 縄文時代



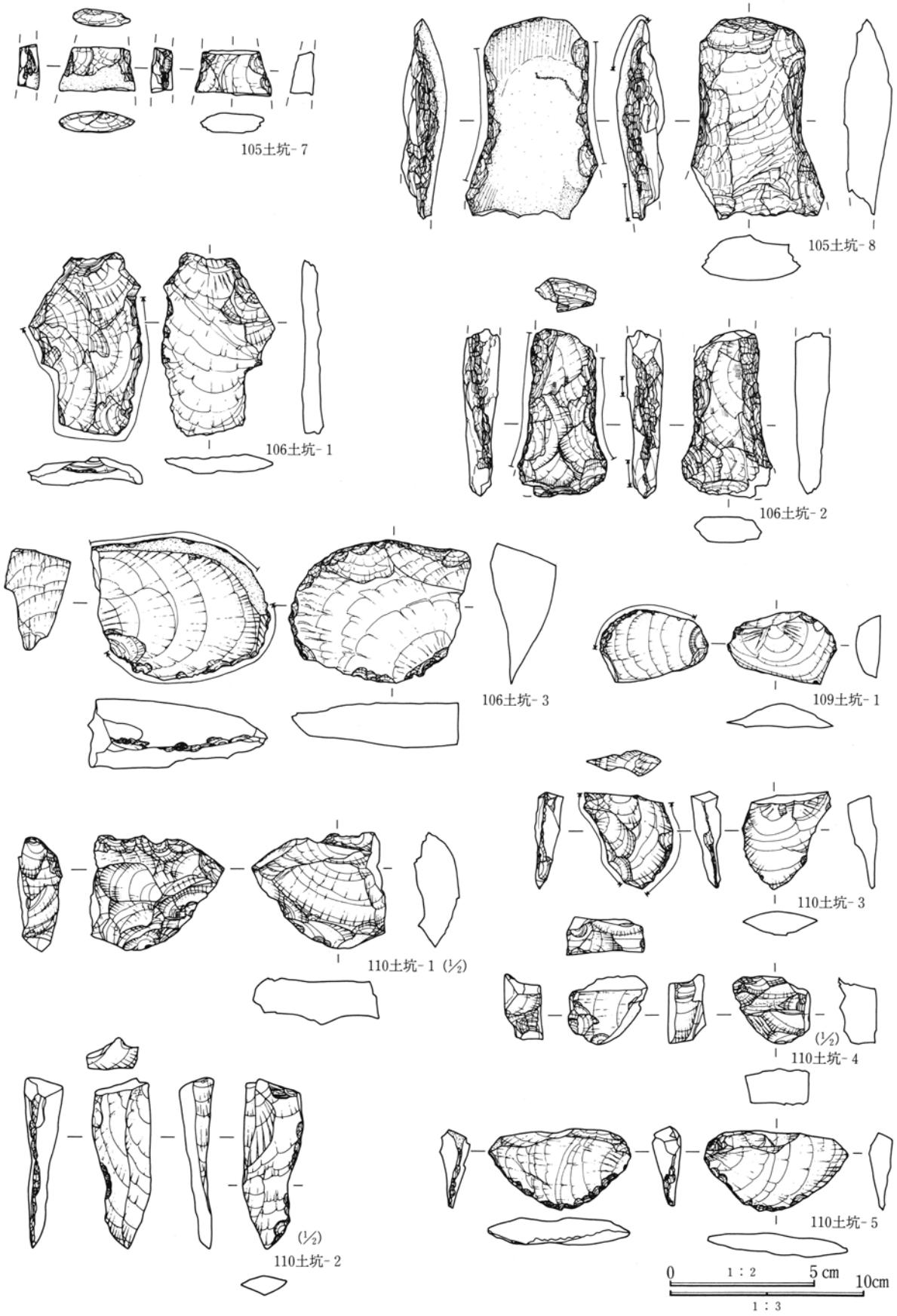
第192図 87・89・94・100～102号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



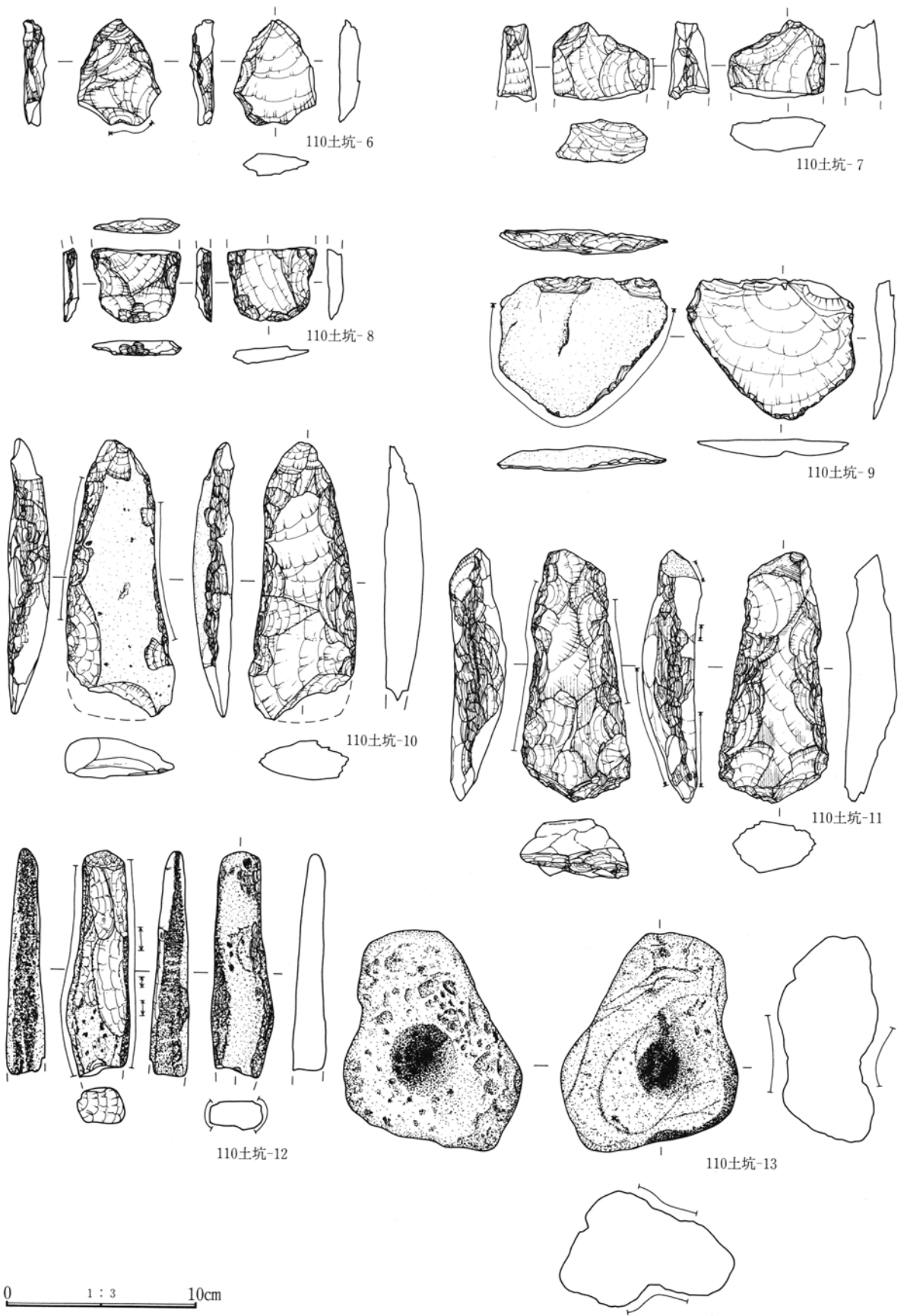
第193図 103・105号土坑出土石器

1. 縄文時代

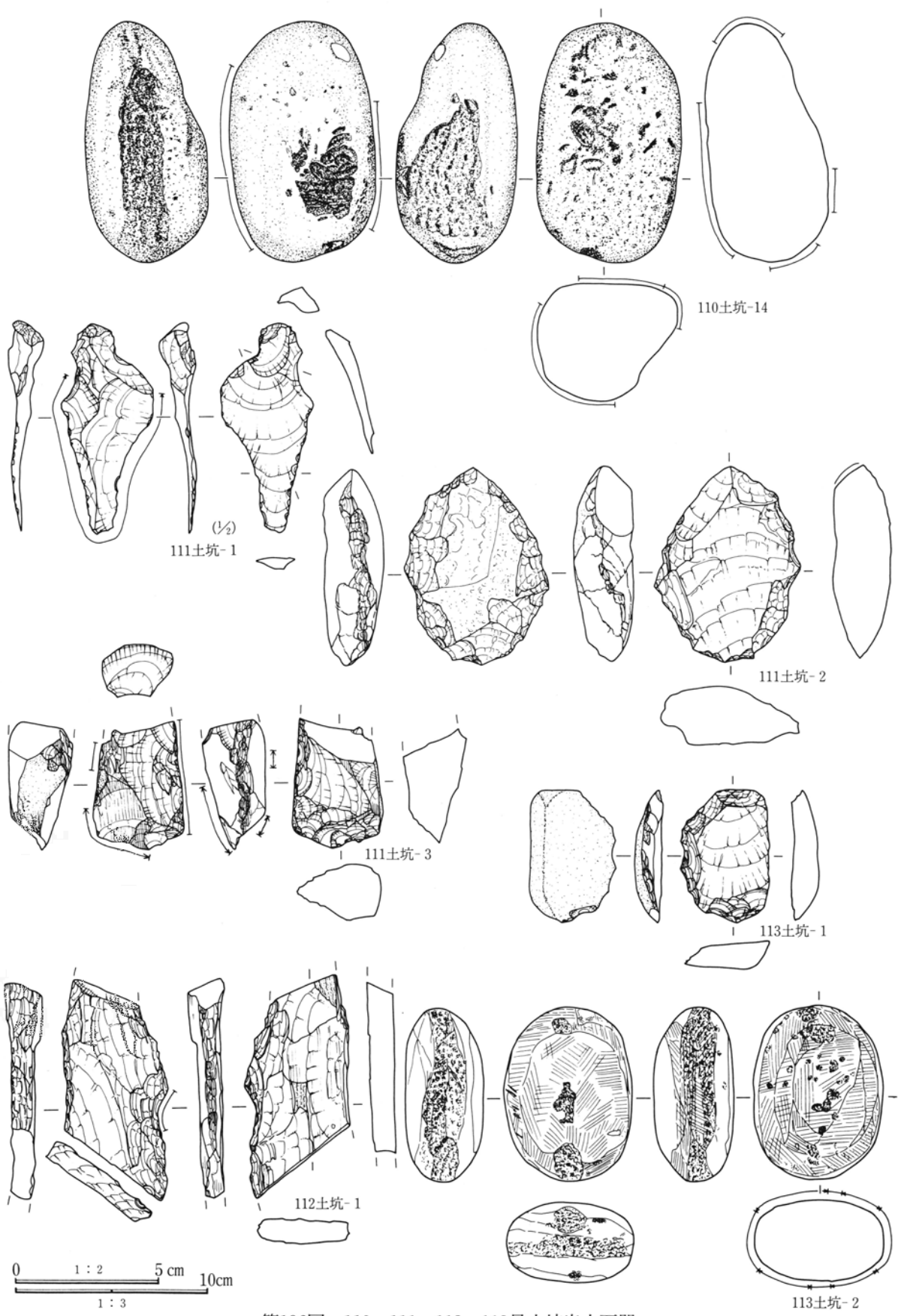


第194図 105・106・109・110号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物

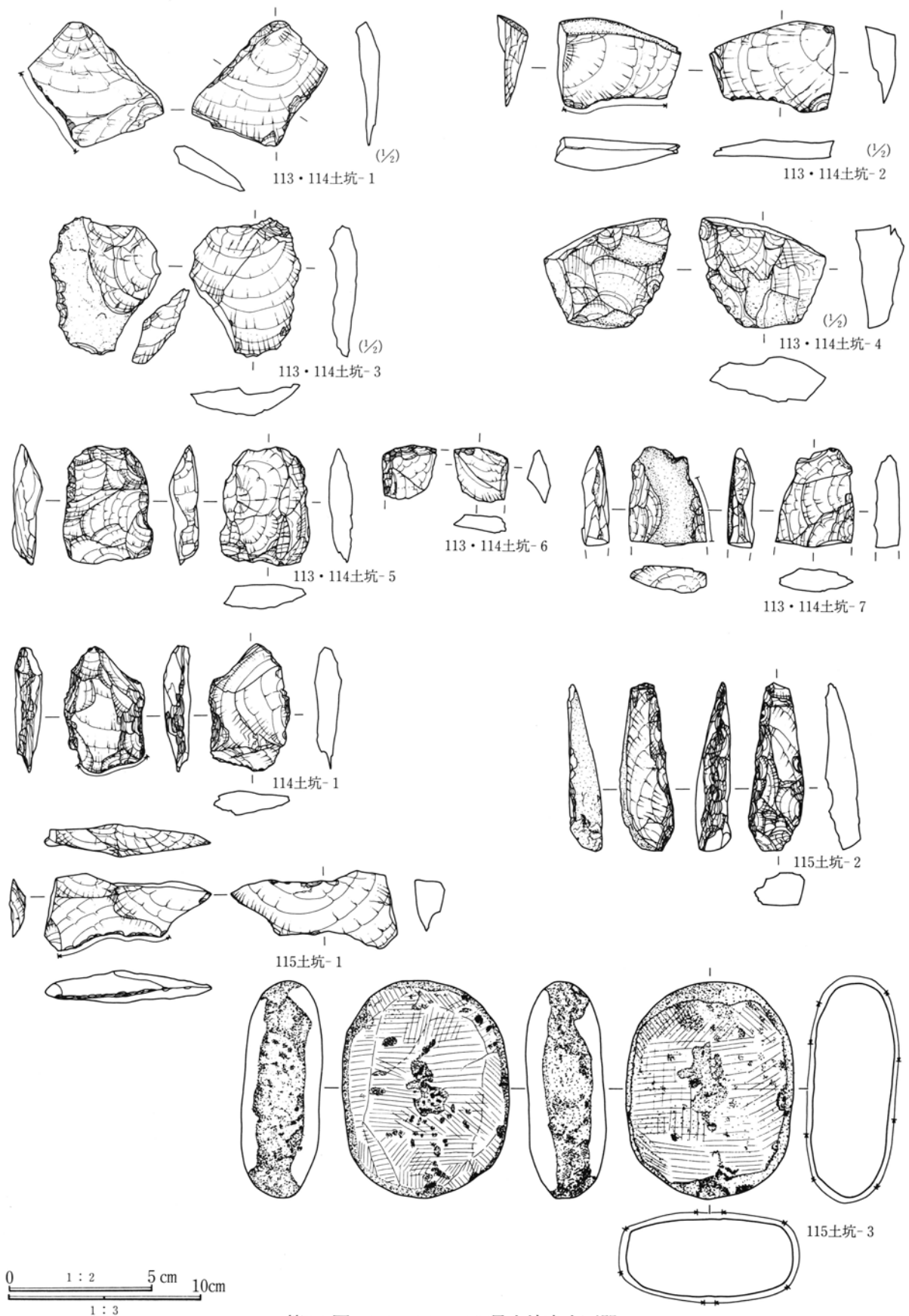


第195図 110号土坑出土石器



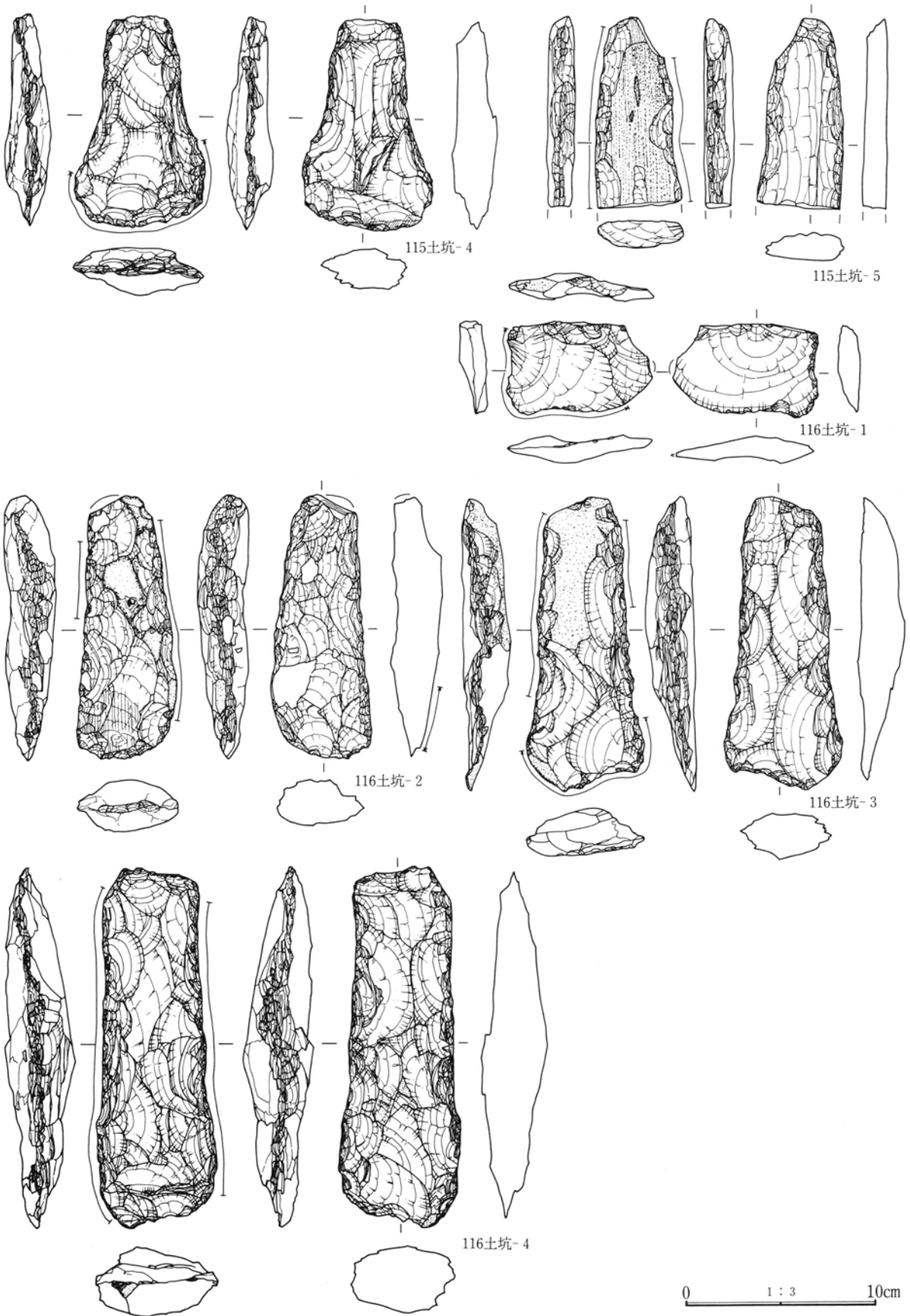
第196図 110・111・112・113号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



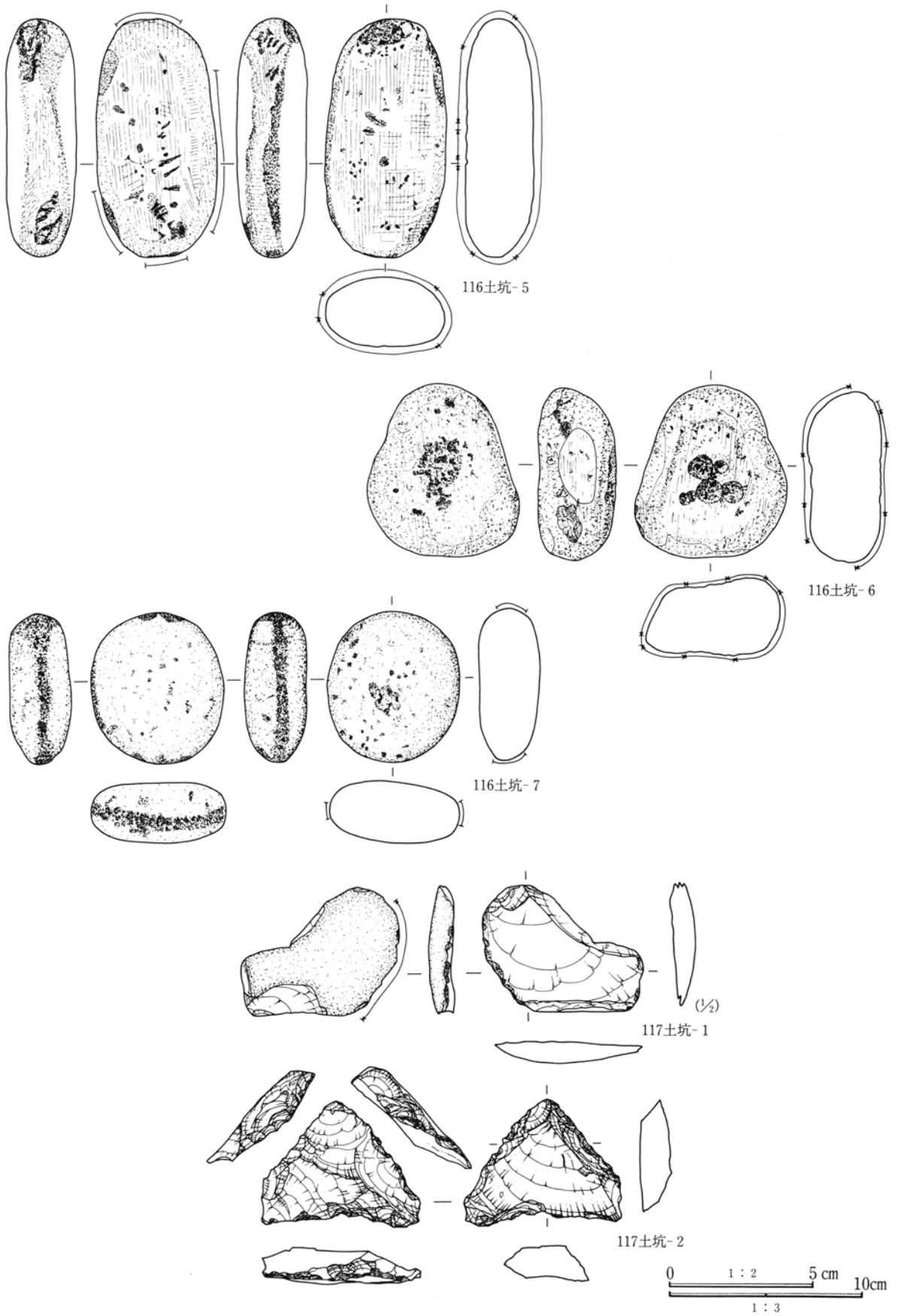
第197図 113・114・115号土坑出土石器

1. 縄文時代



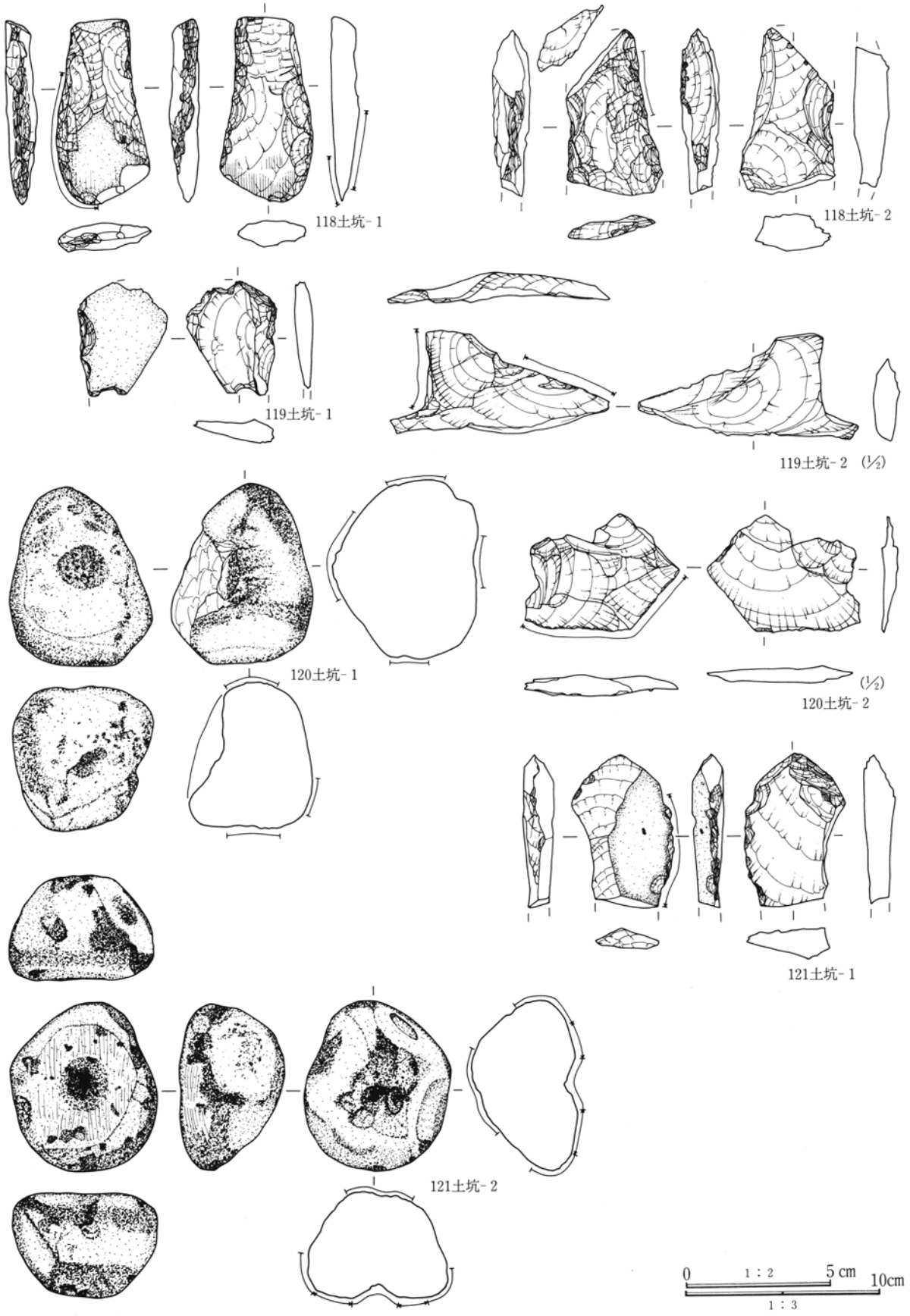
第198図 115・116号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



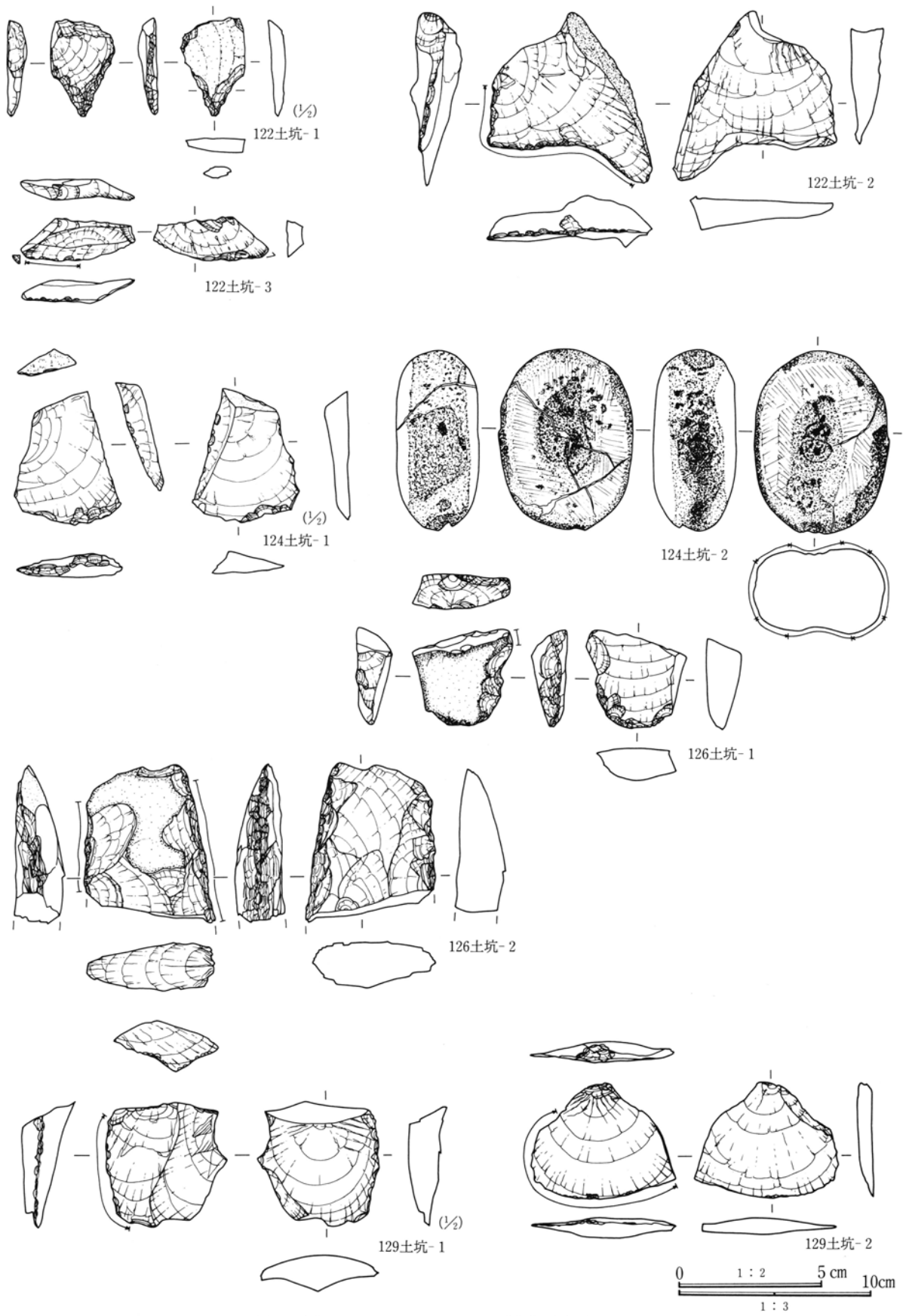
第199図 116・117号土坑出土石器

1. 縄文時代



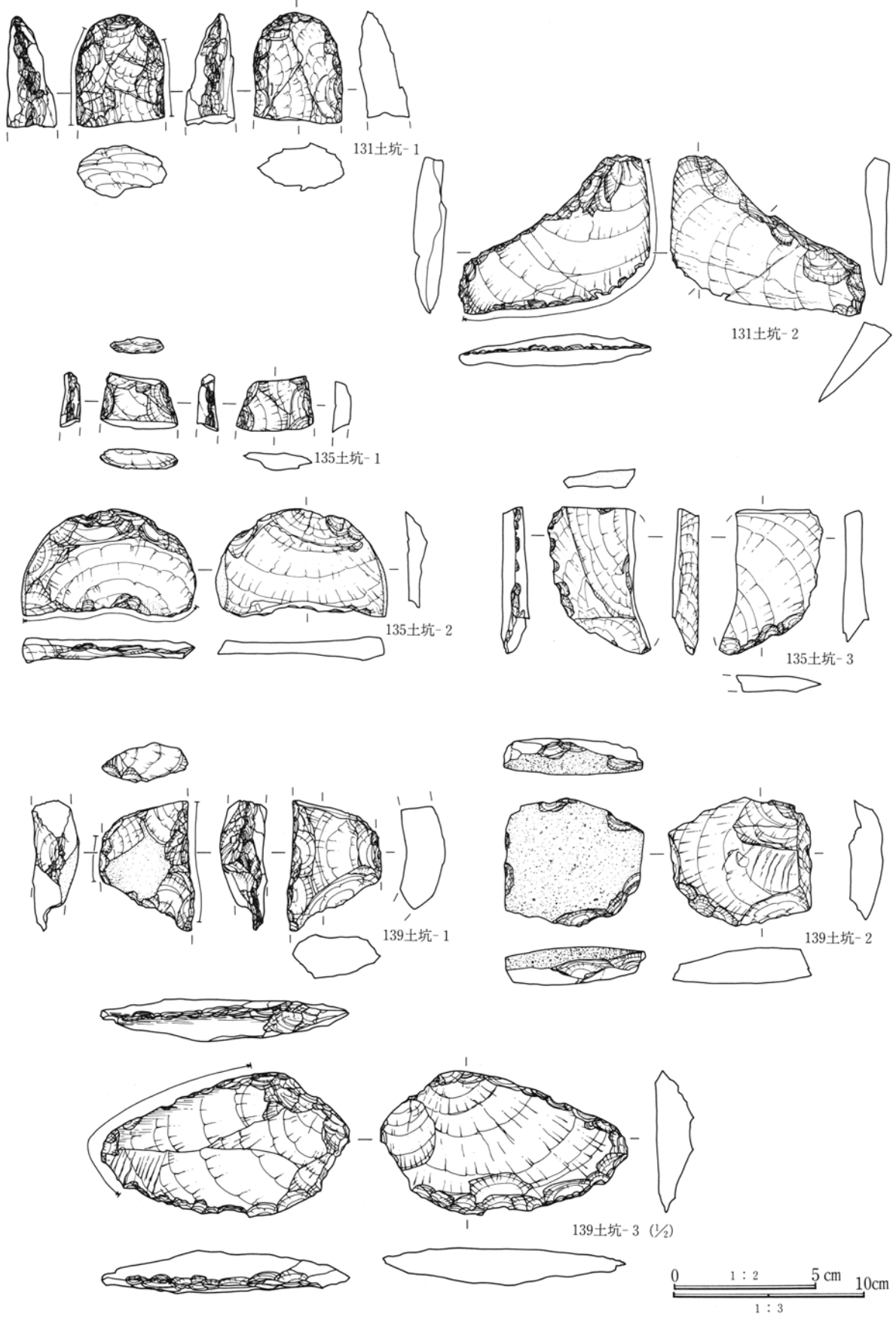
第200図 118・119・120・121号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



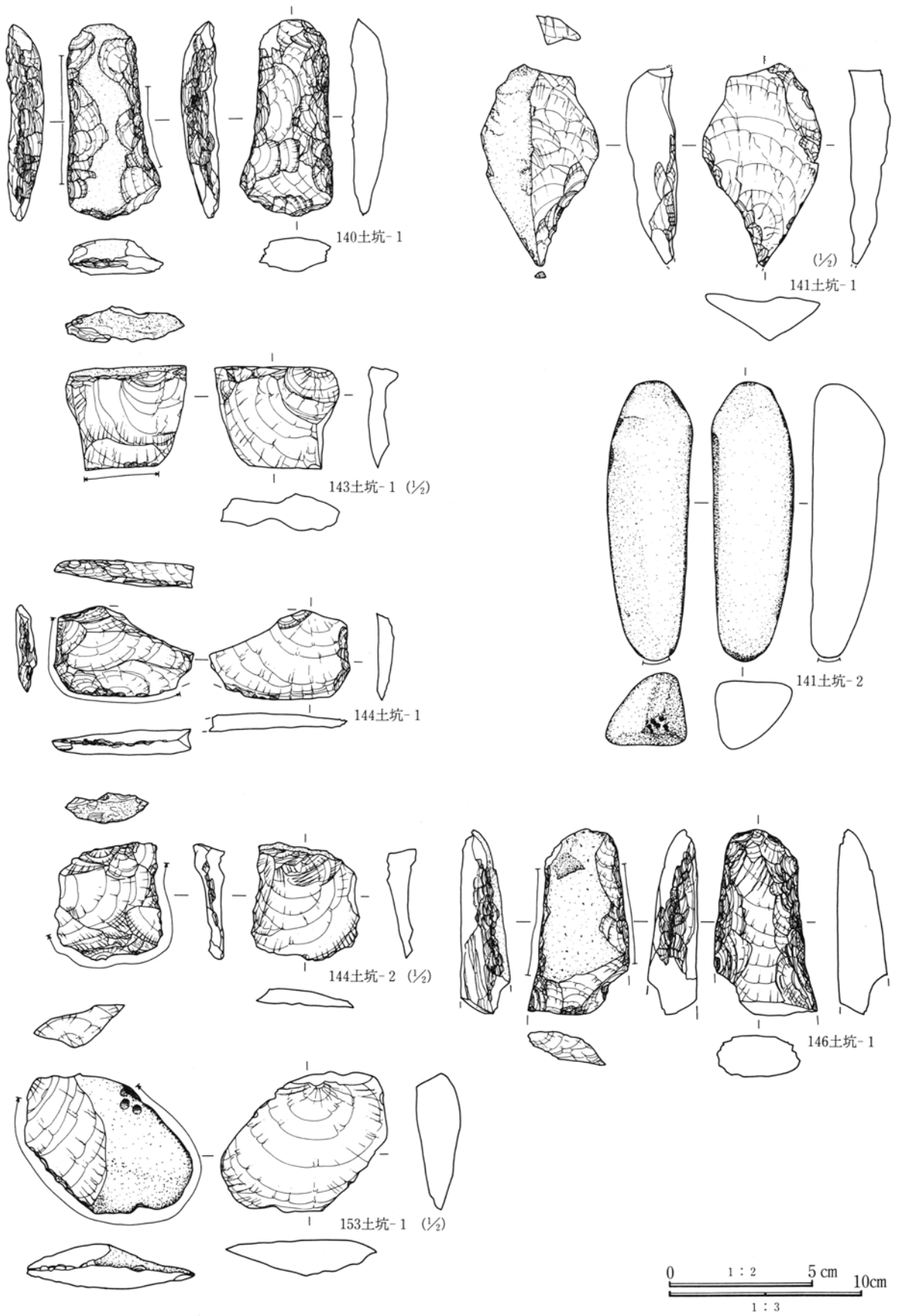
第201図 122・124・126・129号土坑出土石器

1. 縄文時代



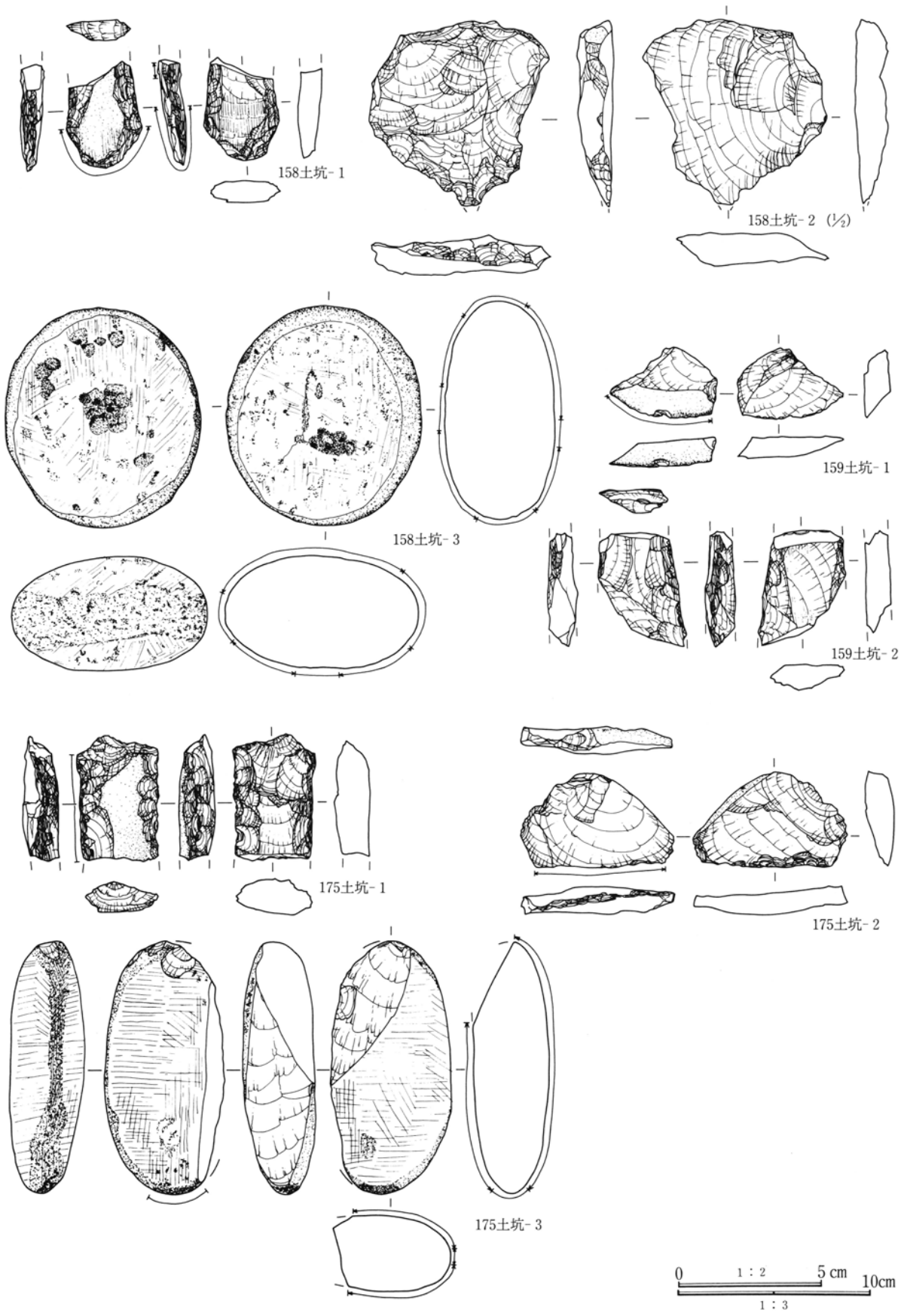
第202図 131・135・139号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



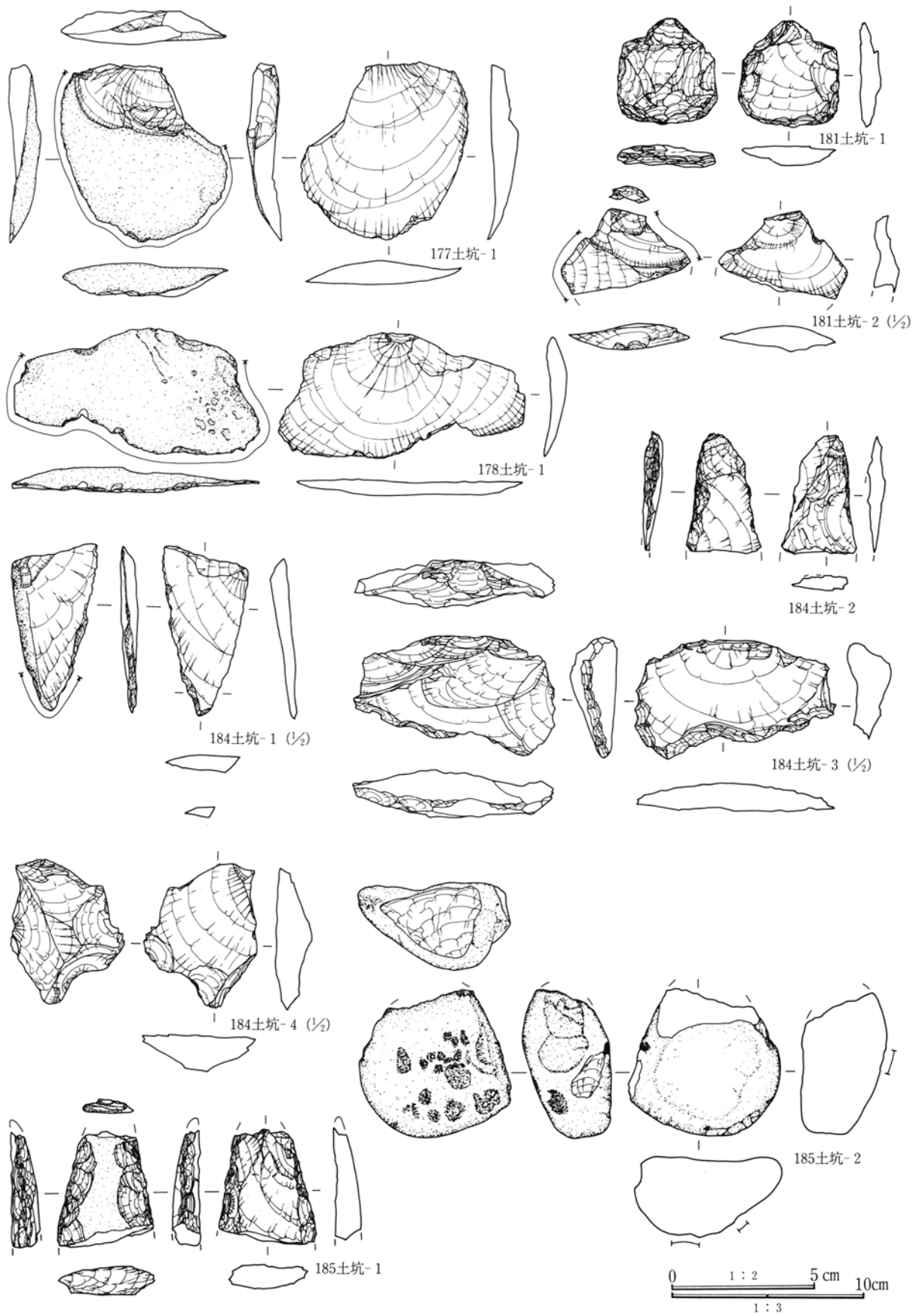
第203図 140・141・143・144・146・153号土坑出土石器

1. 縄文時代



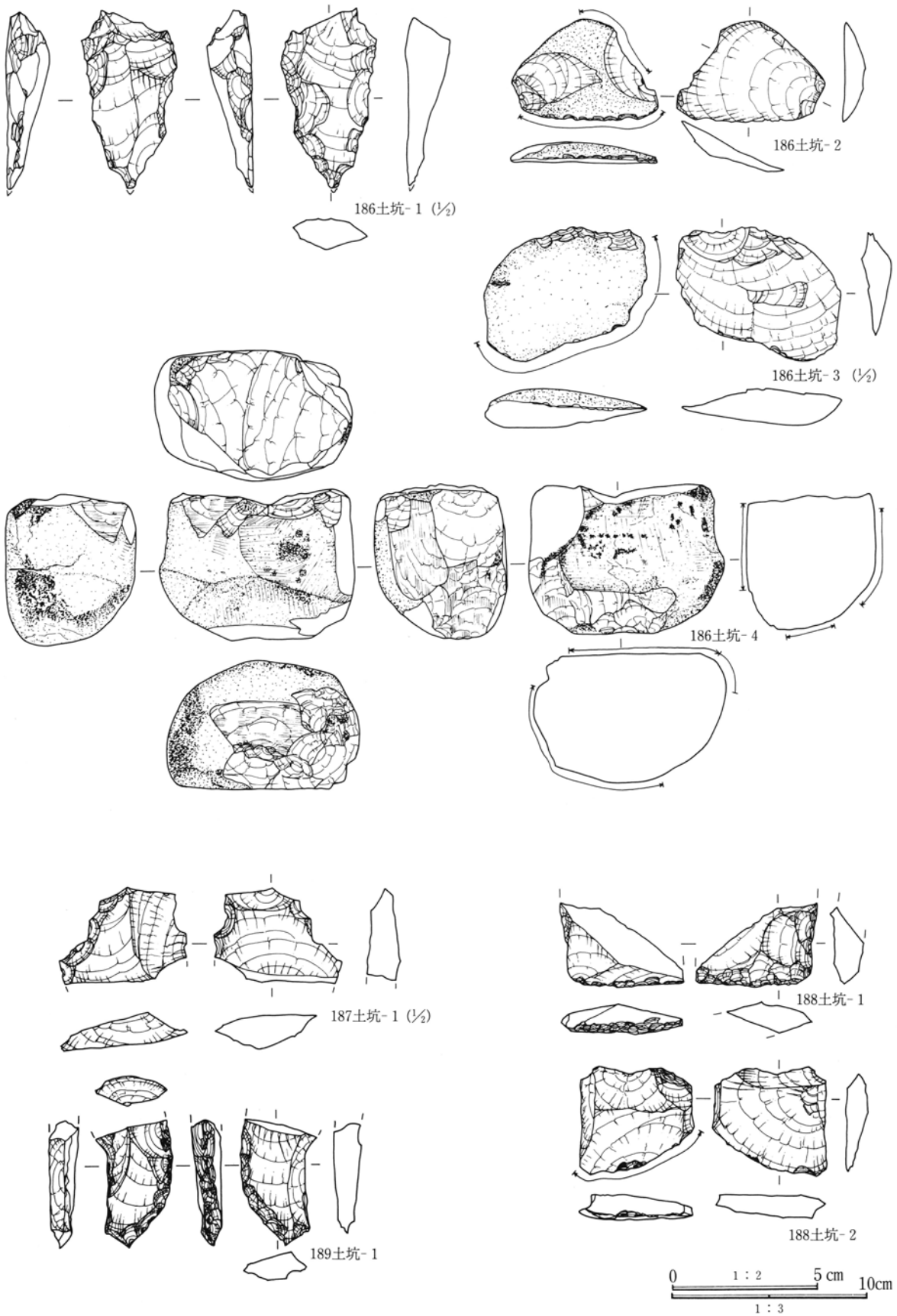
第204図 158・159・175号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



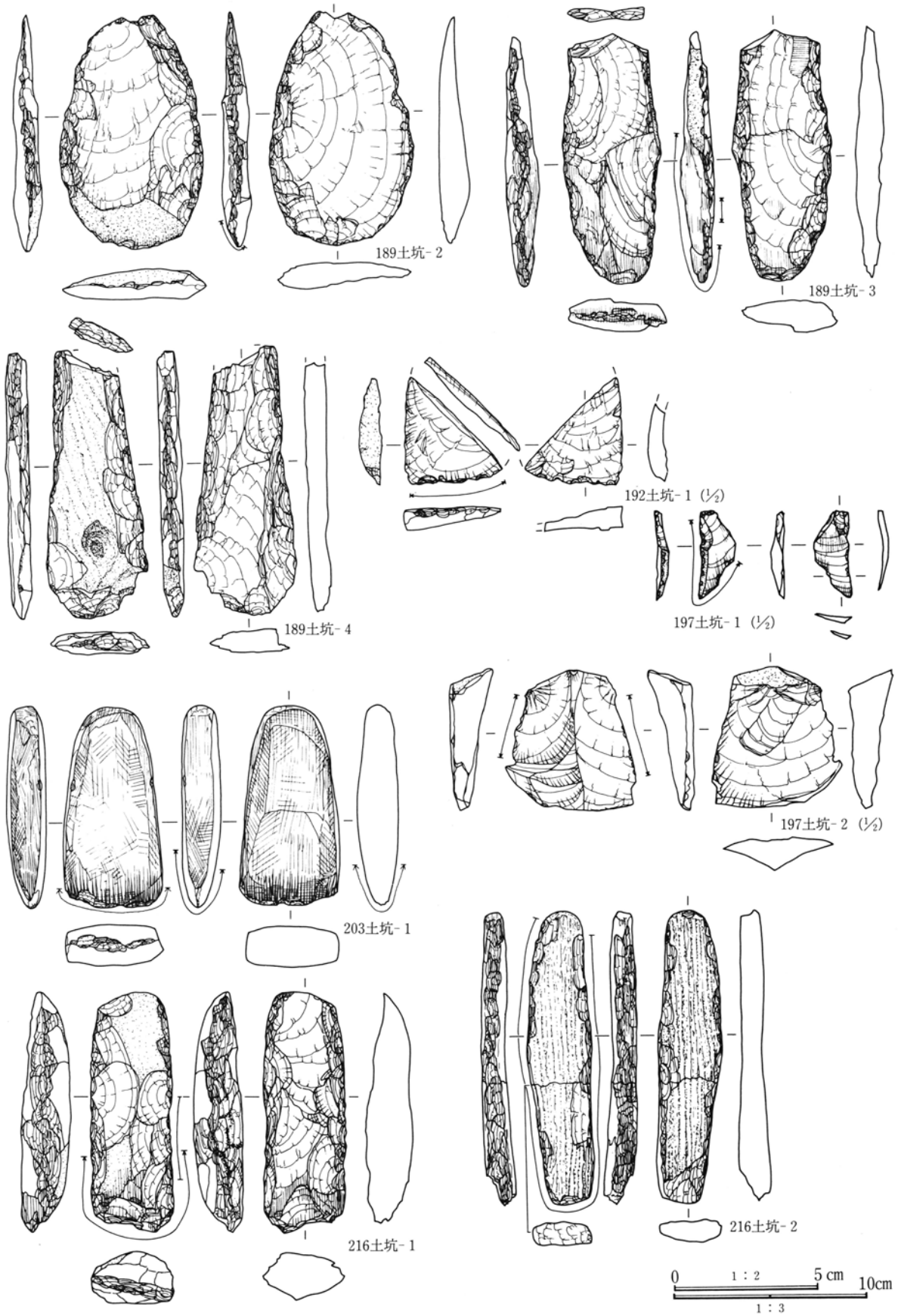
第205図 177・178・181・184・185号土坑出土石器

1. 縄文時代



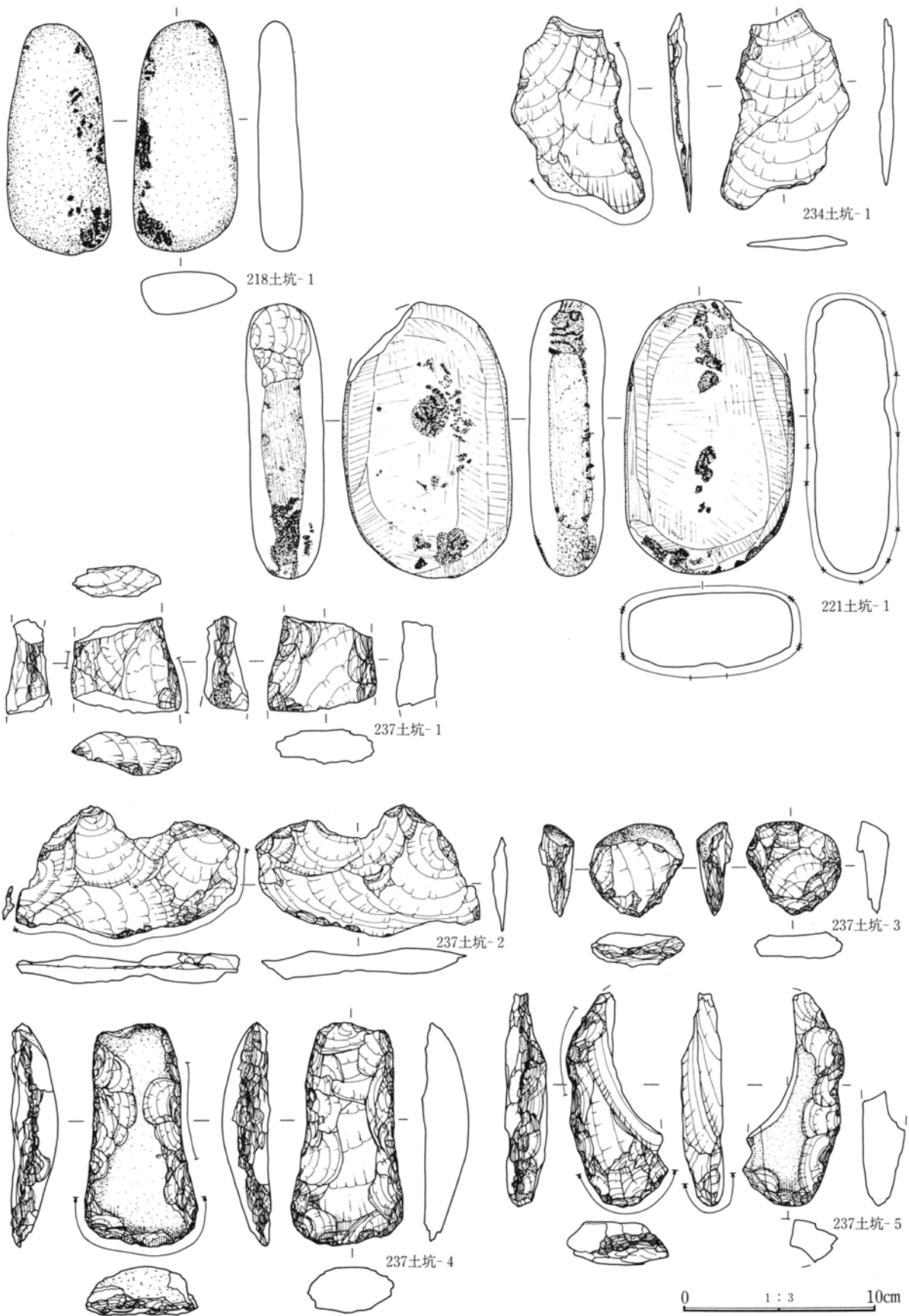
第206図 186・187・188・189号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



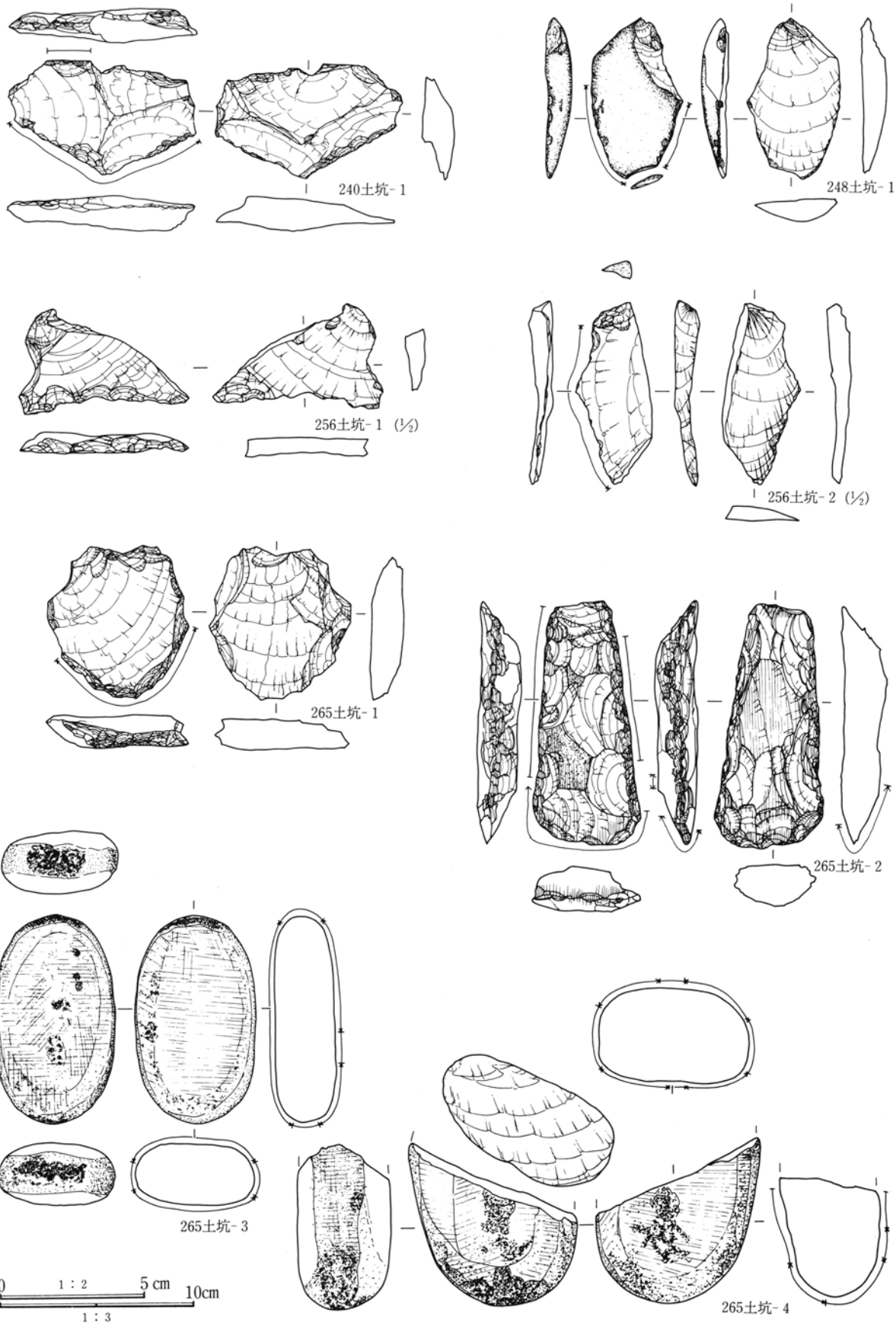
第207図 189・192・197・203・216号土坑出土石器

1. 縄文時代



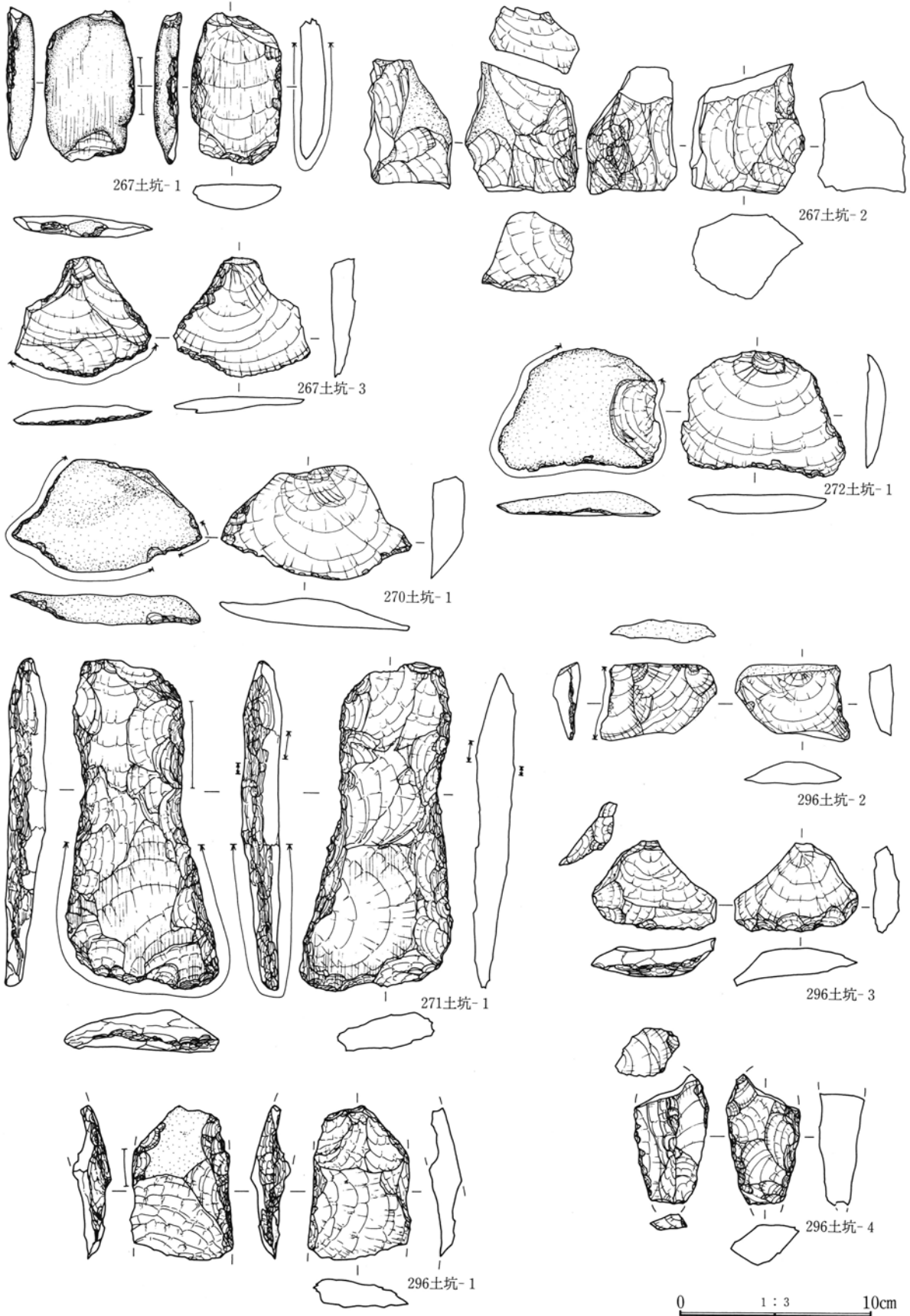
第208図 218・221・234・237号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



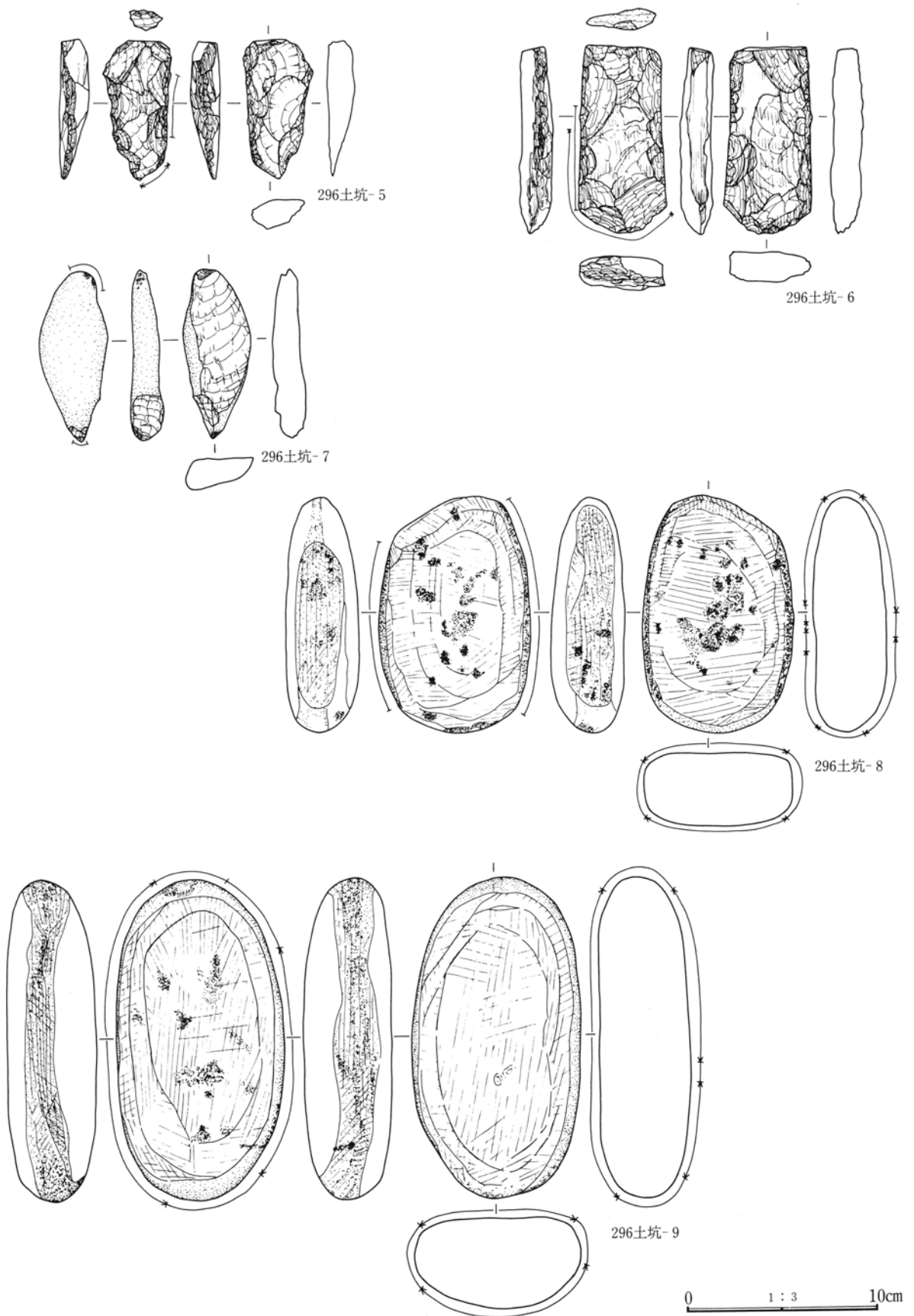
第209図 240・248・256・265号土坑出土石器

1. 繩文時代



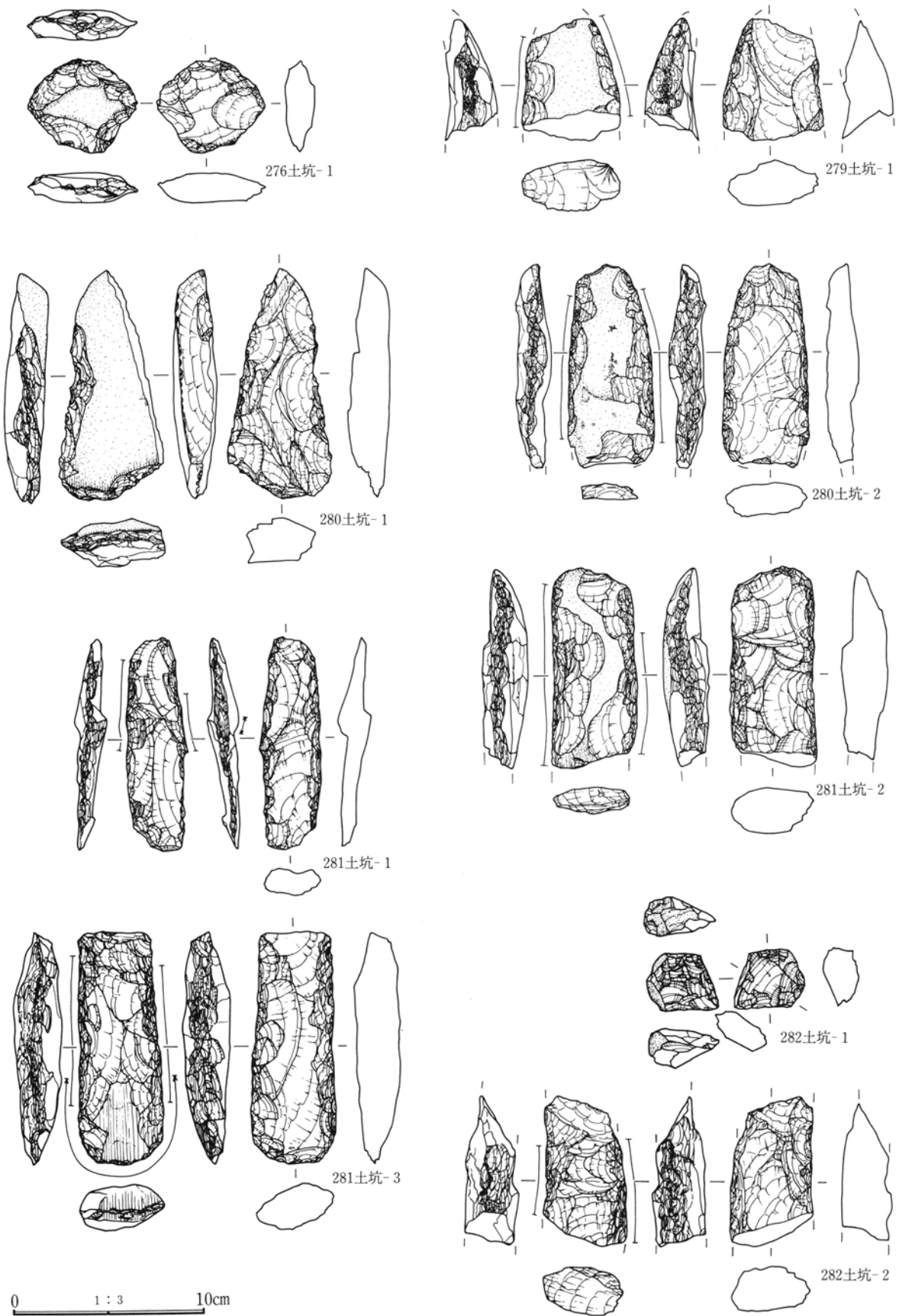
第210图 267・270・271・272・296号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



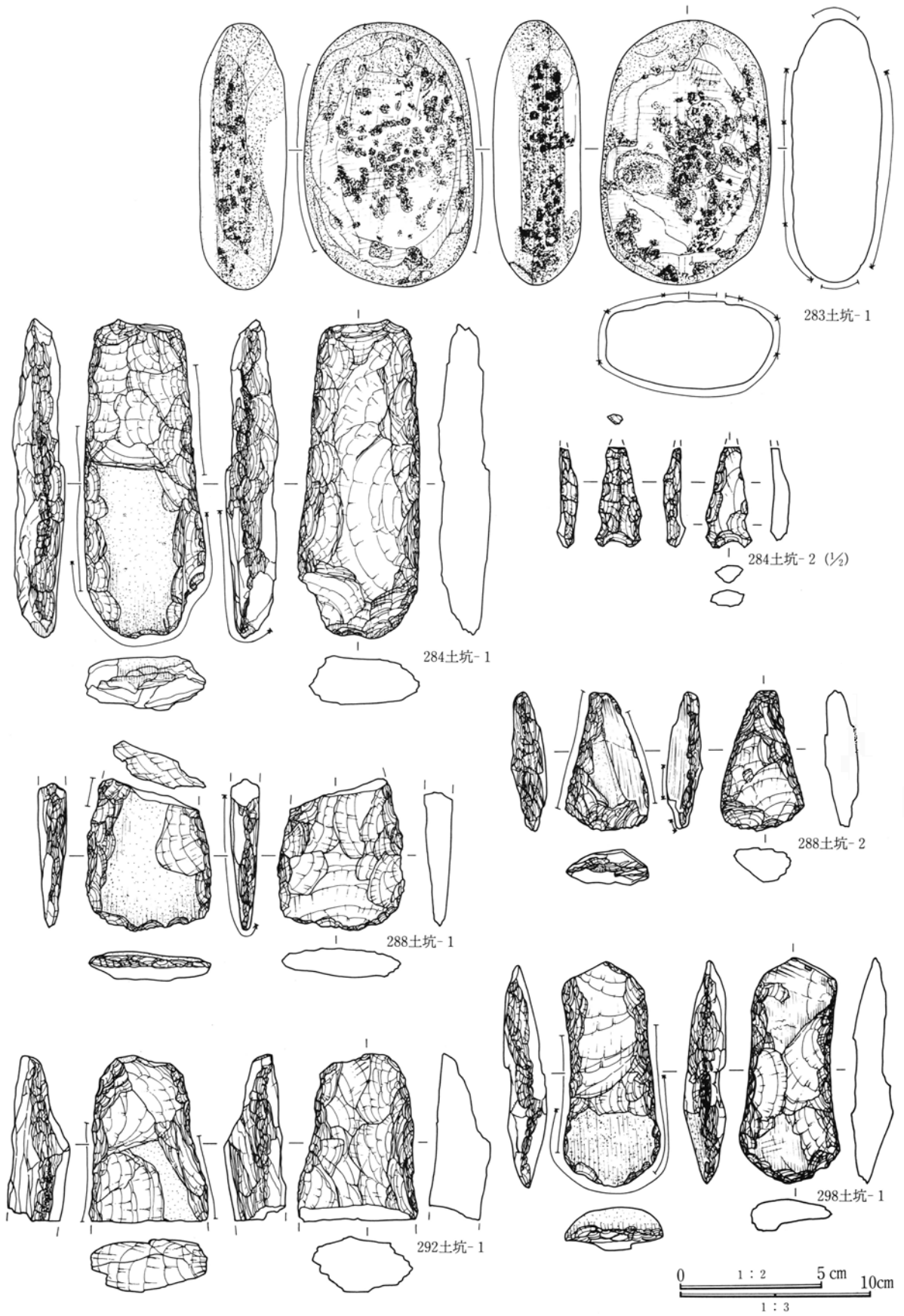
第211図 296号土坑出土石器

1. 縄文時代



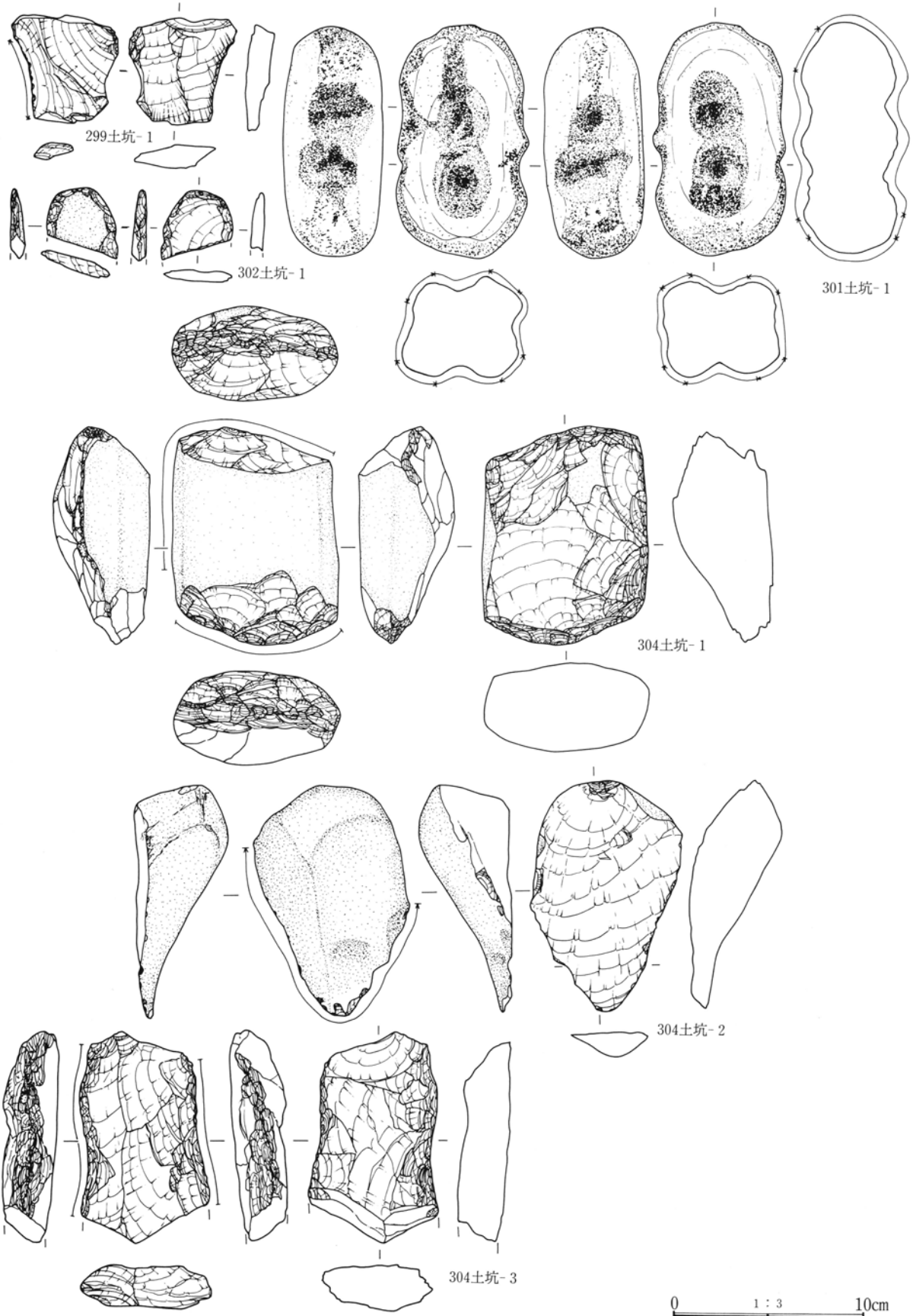
第212図 276・279・280・281・282号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



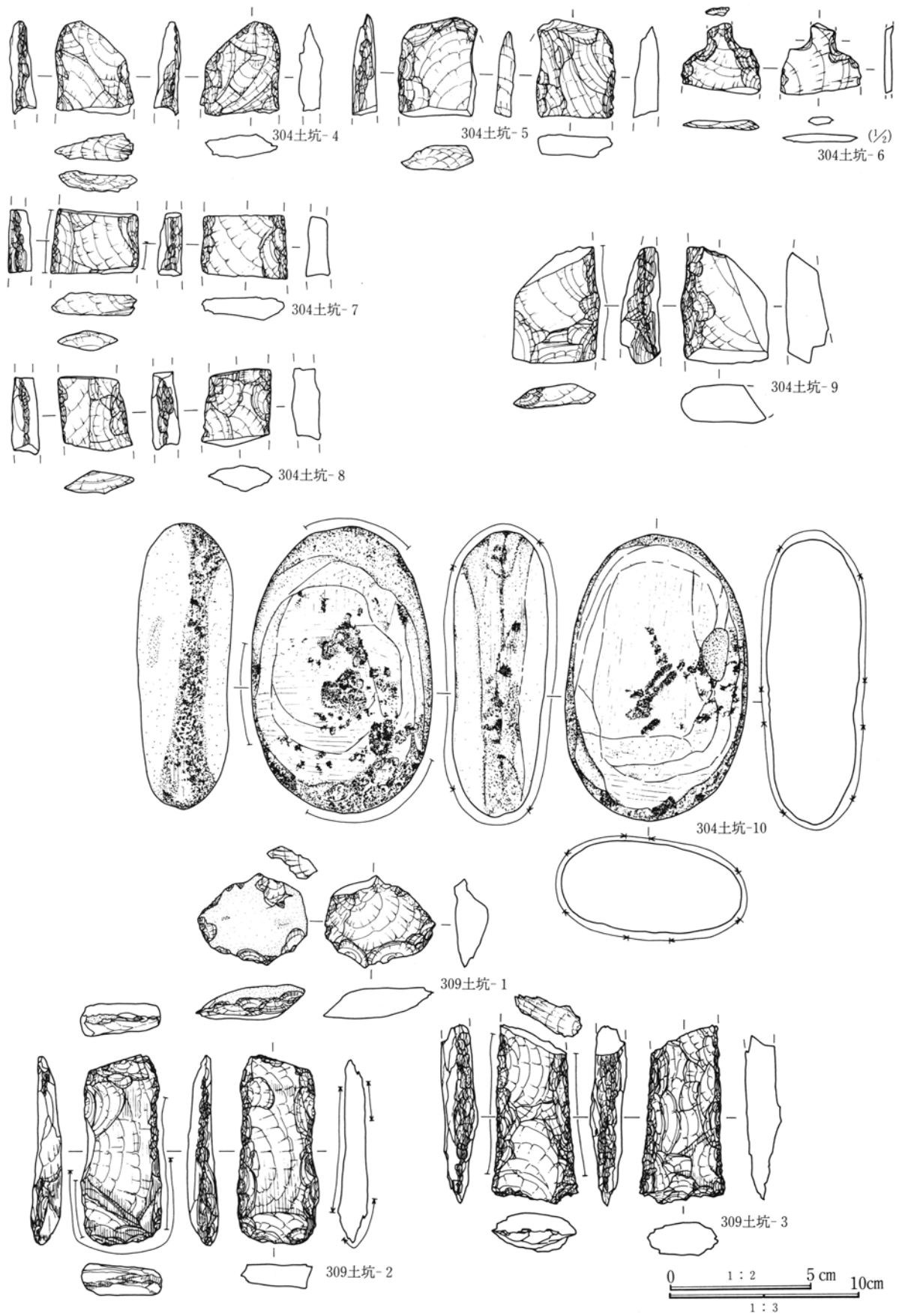
第213図 283・284・288・292・298号土坑出土石器

1. 縄文時代



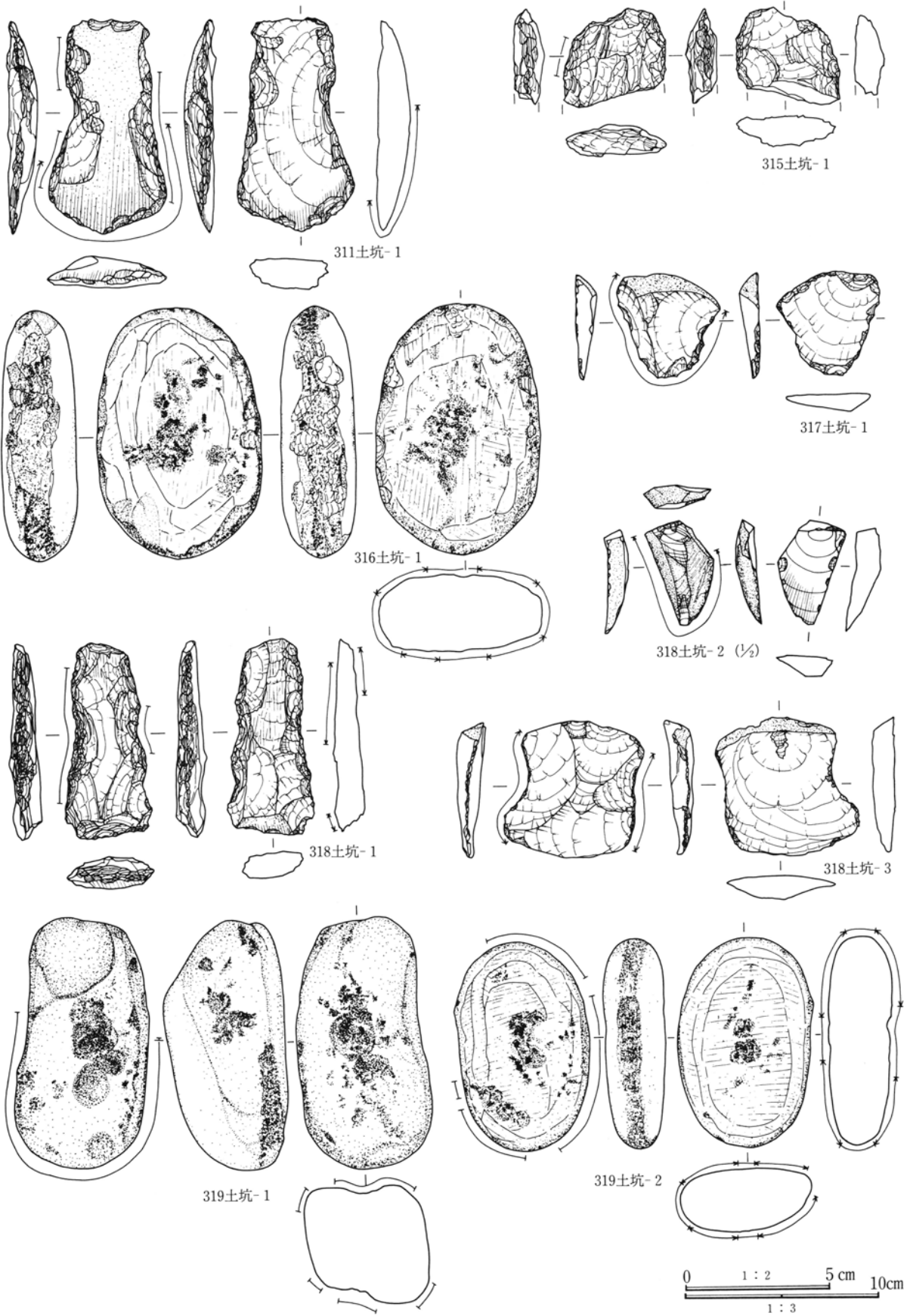
第214図 299・301・302・304号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



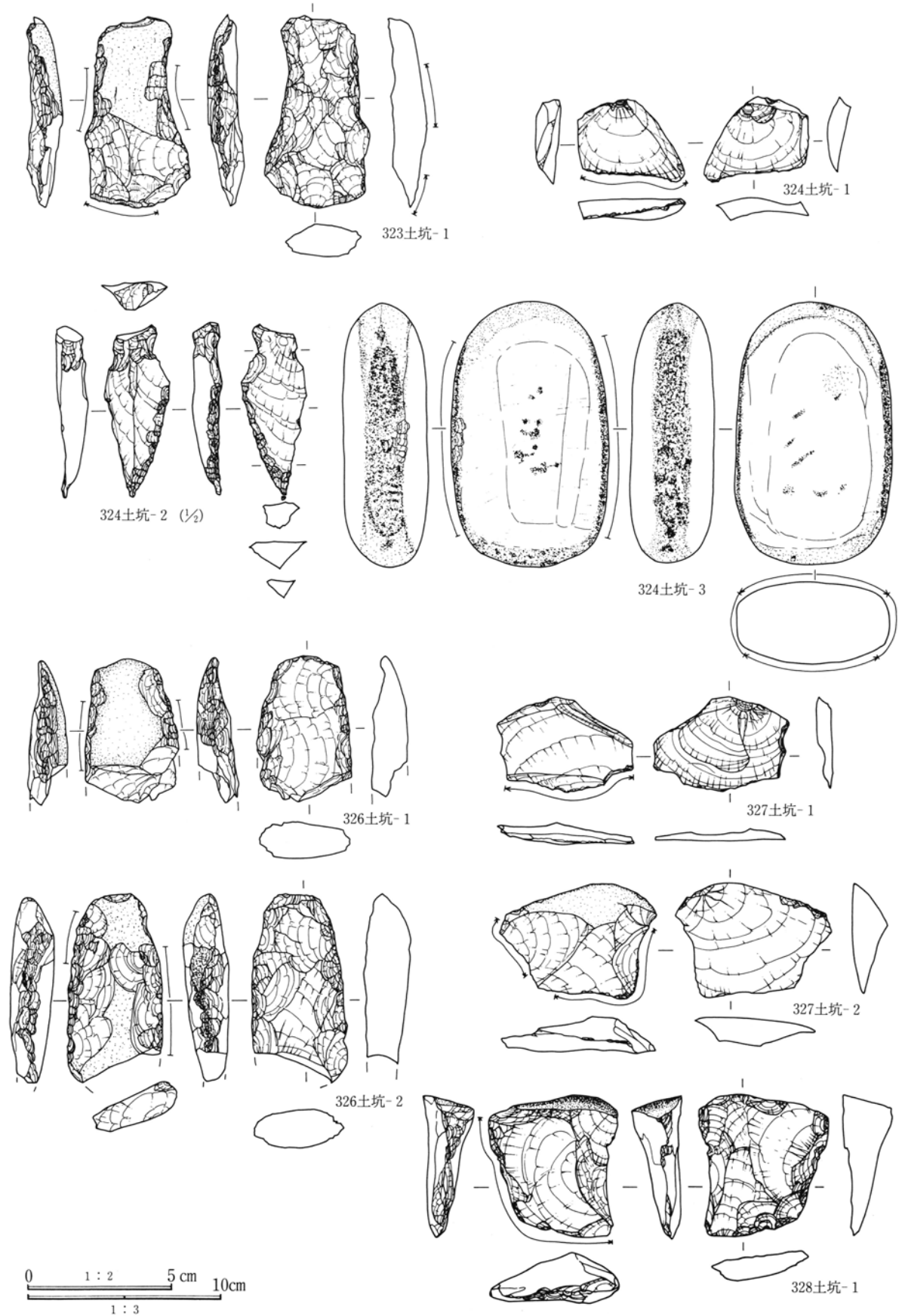
第215図 304・309号土坑出土石器

1. 縄文時代



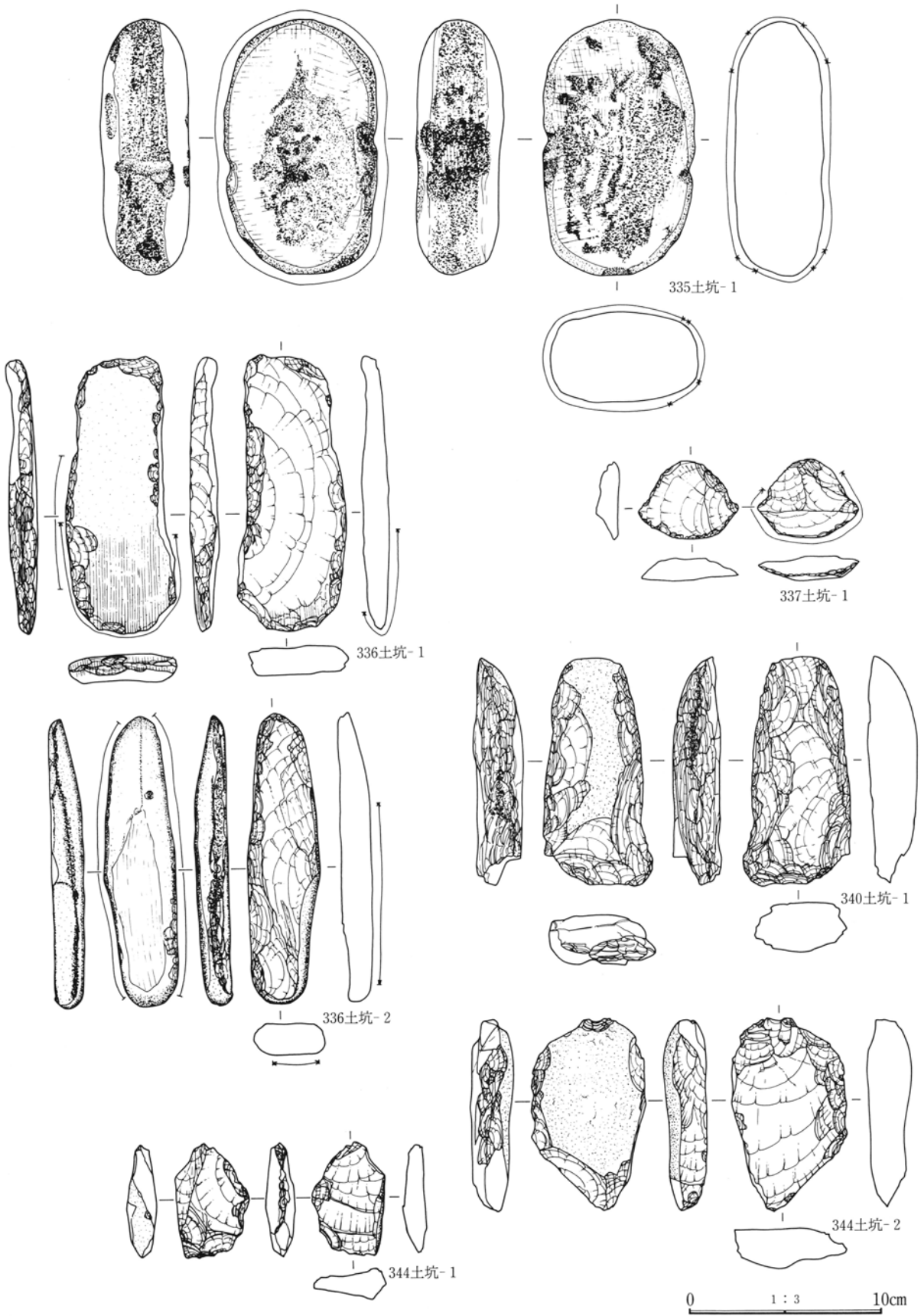
第216図 311・315~319号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



第217図 323・324・326~328号土坑出土石器

1. 縄文時代



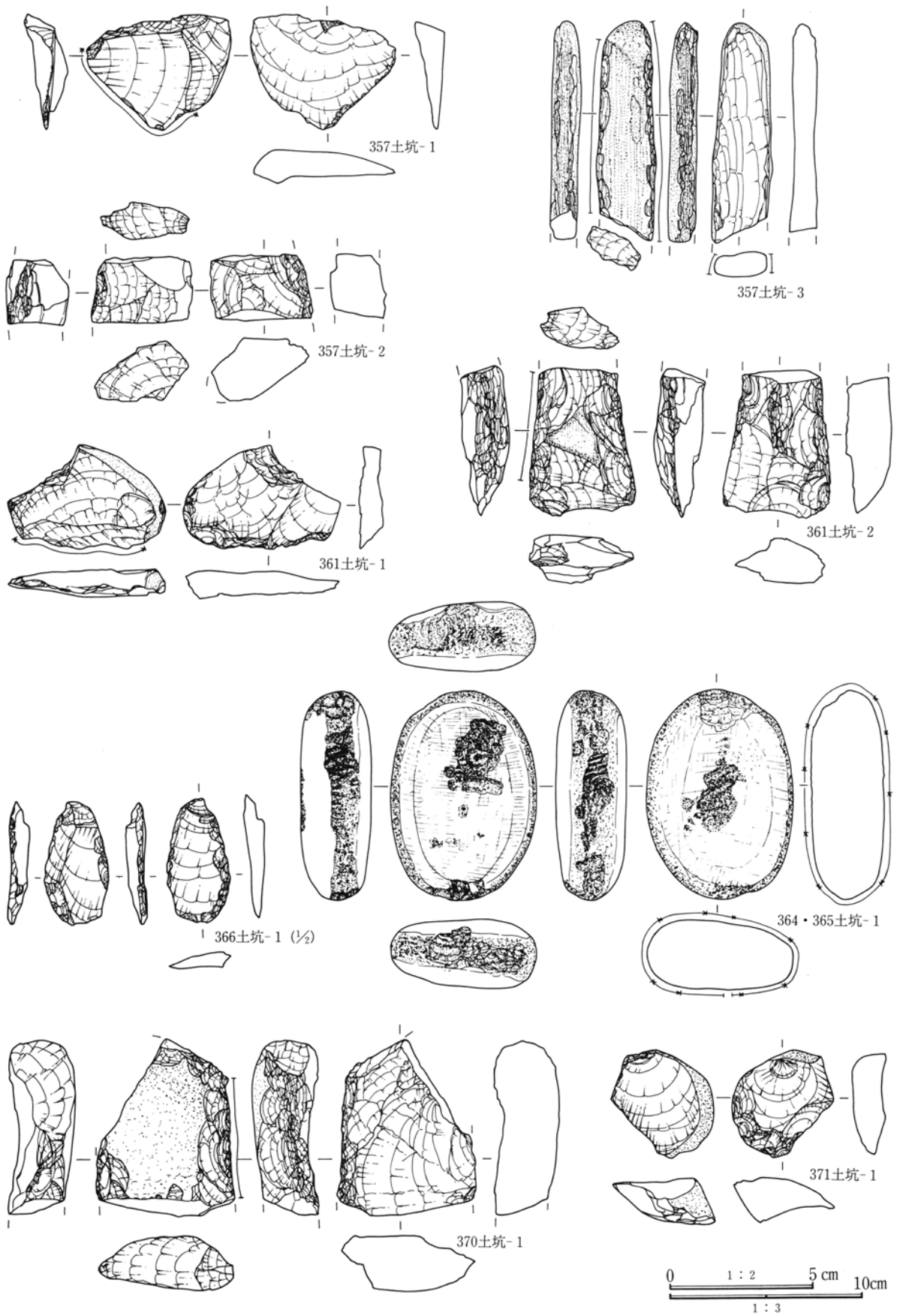
第218図 335~337・340・344号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



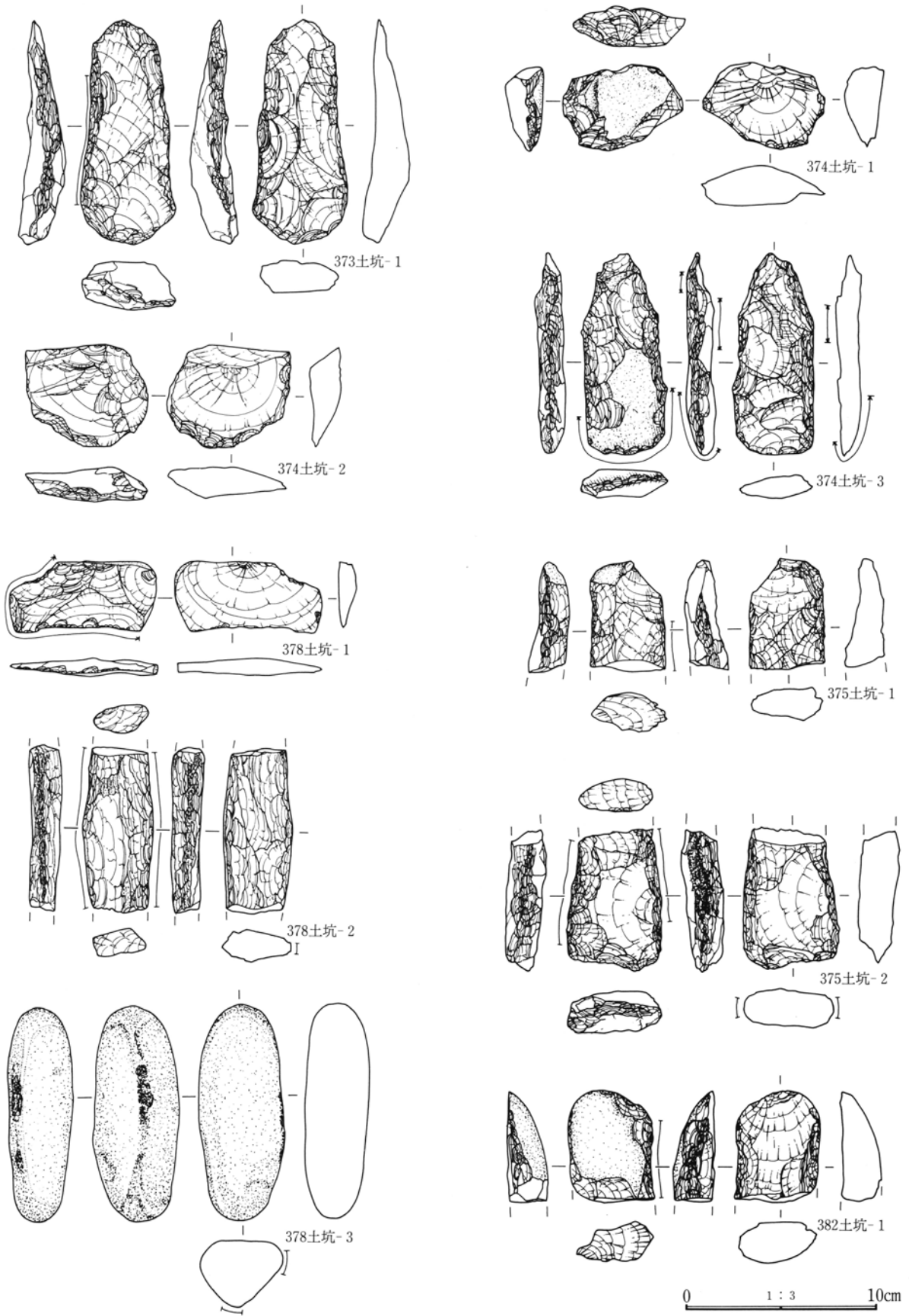
第219図 348・350・355号土坑出土石器

1. 縄文時代



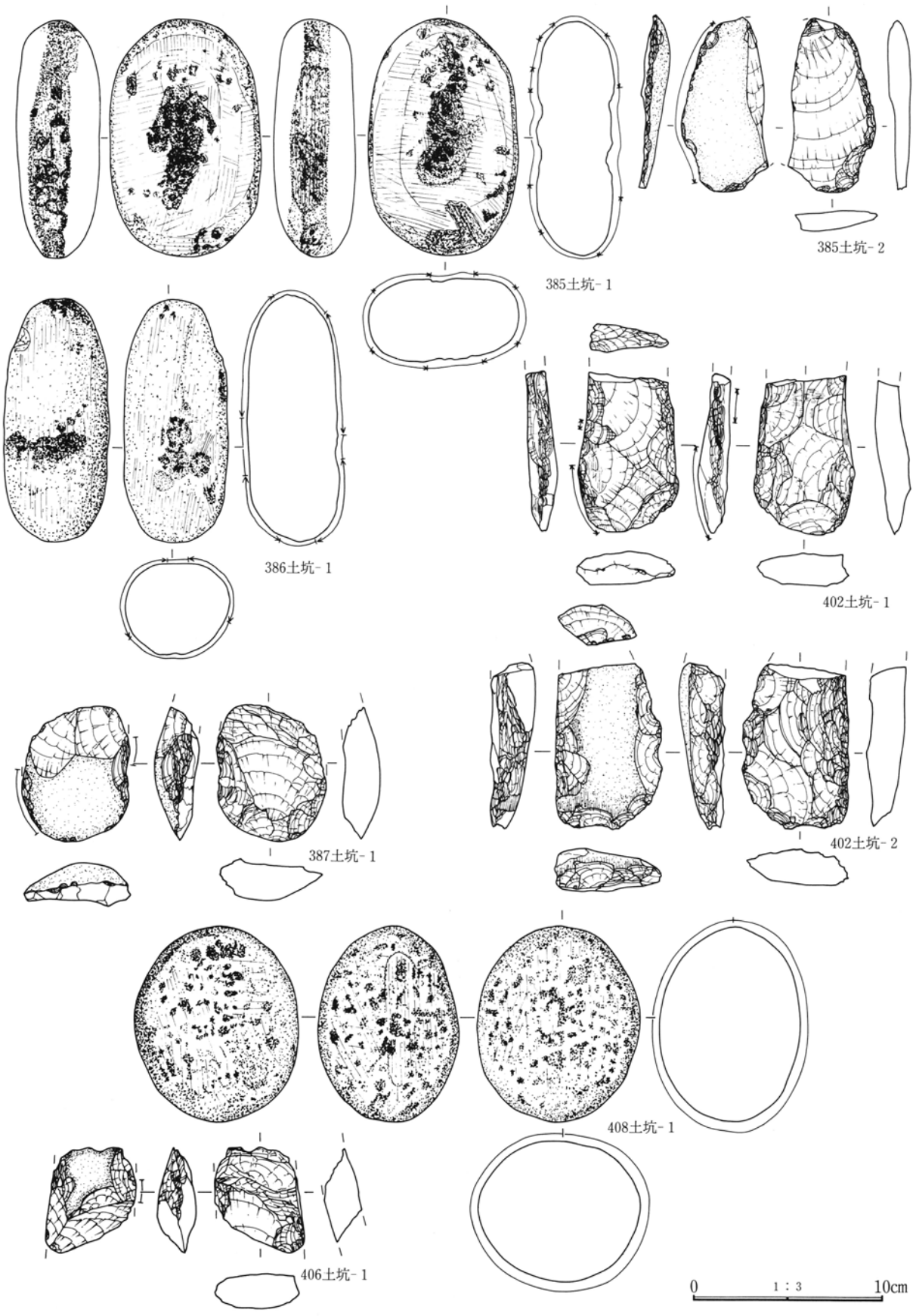
第220図 357・361・364~366・370・371号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



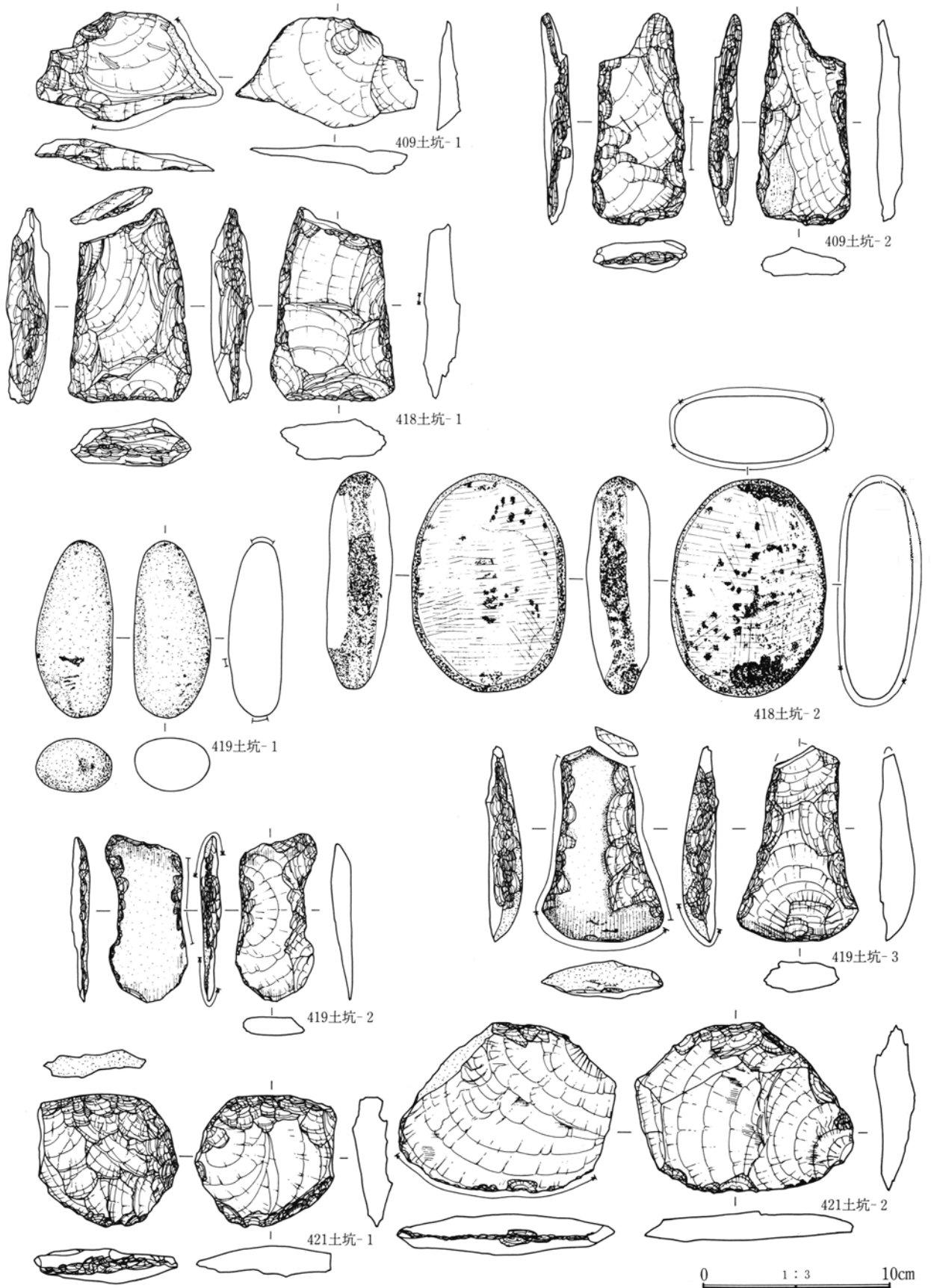
第221図 373~375・378・382号土坑出土石器

1. 縄文時代



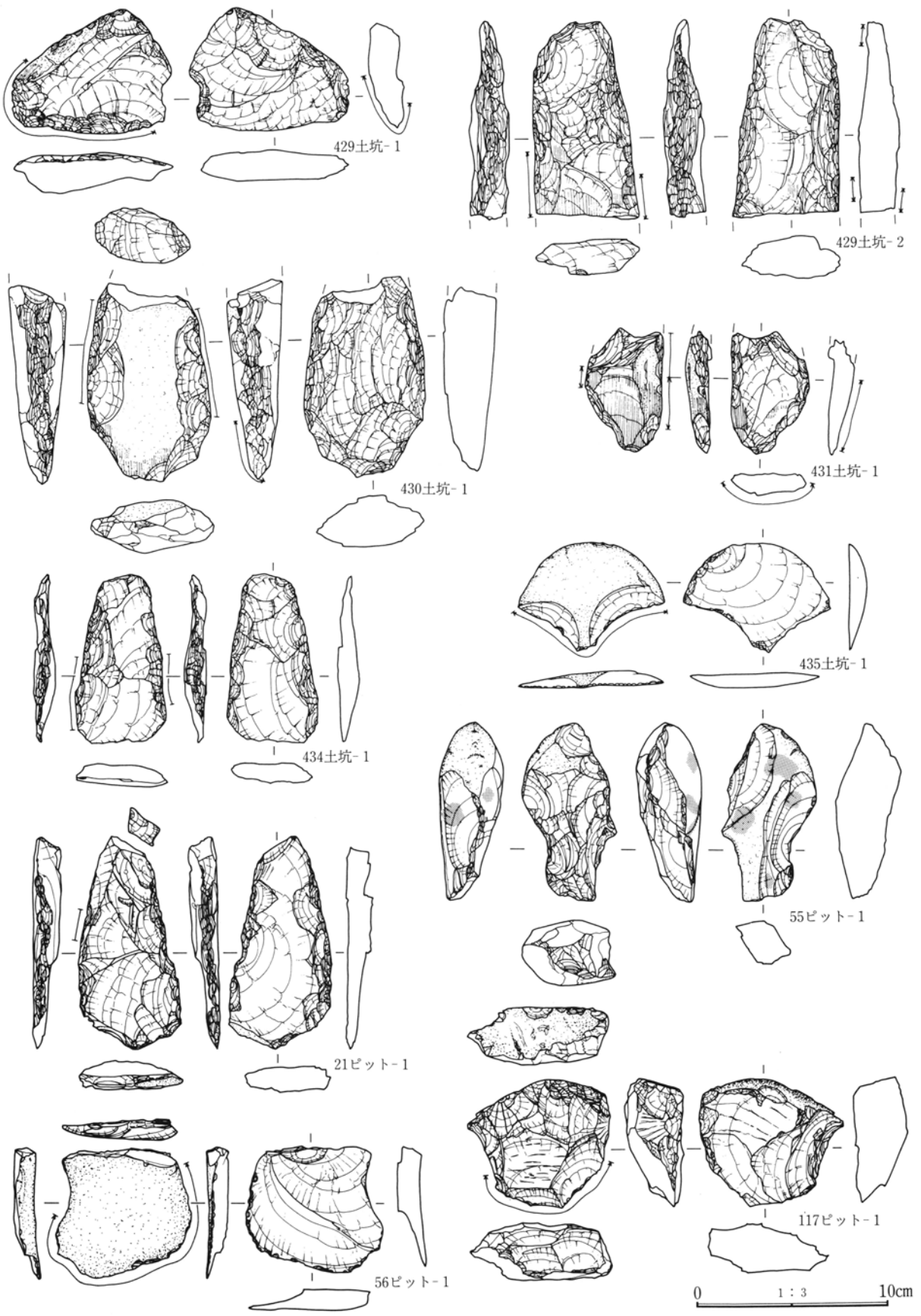
第222図 385~387・402・406・408号土坑出土石器

II 検出された遺構と遺物



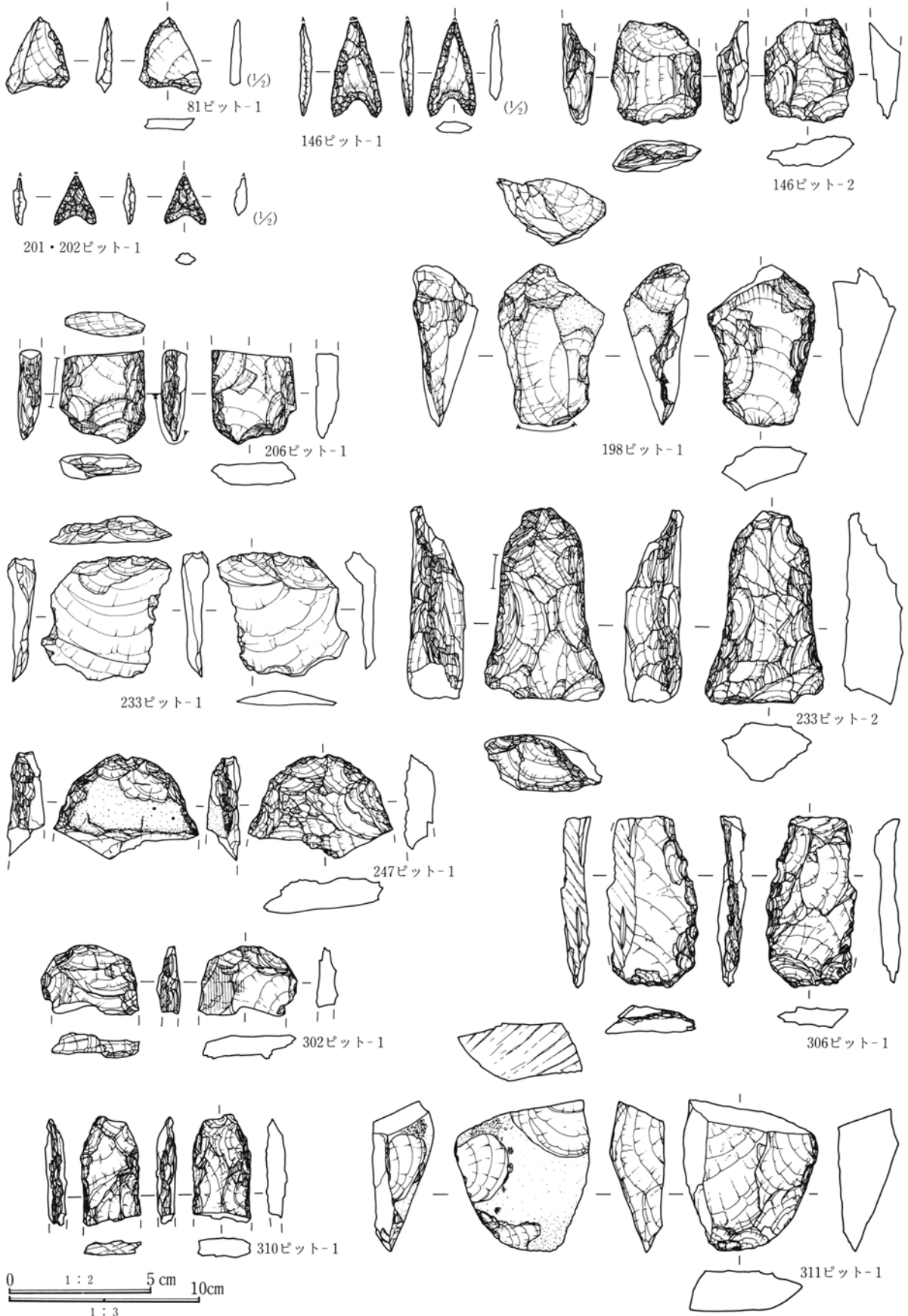
第223図 409・418・419・421号土坑出土石器

1. 縄文時代



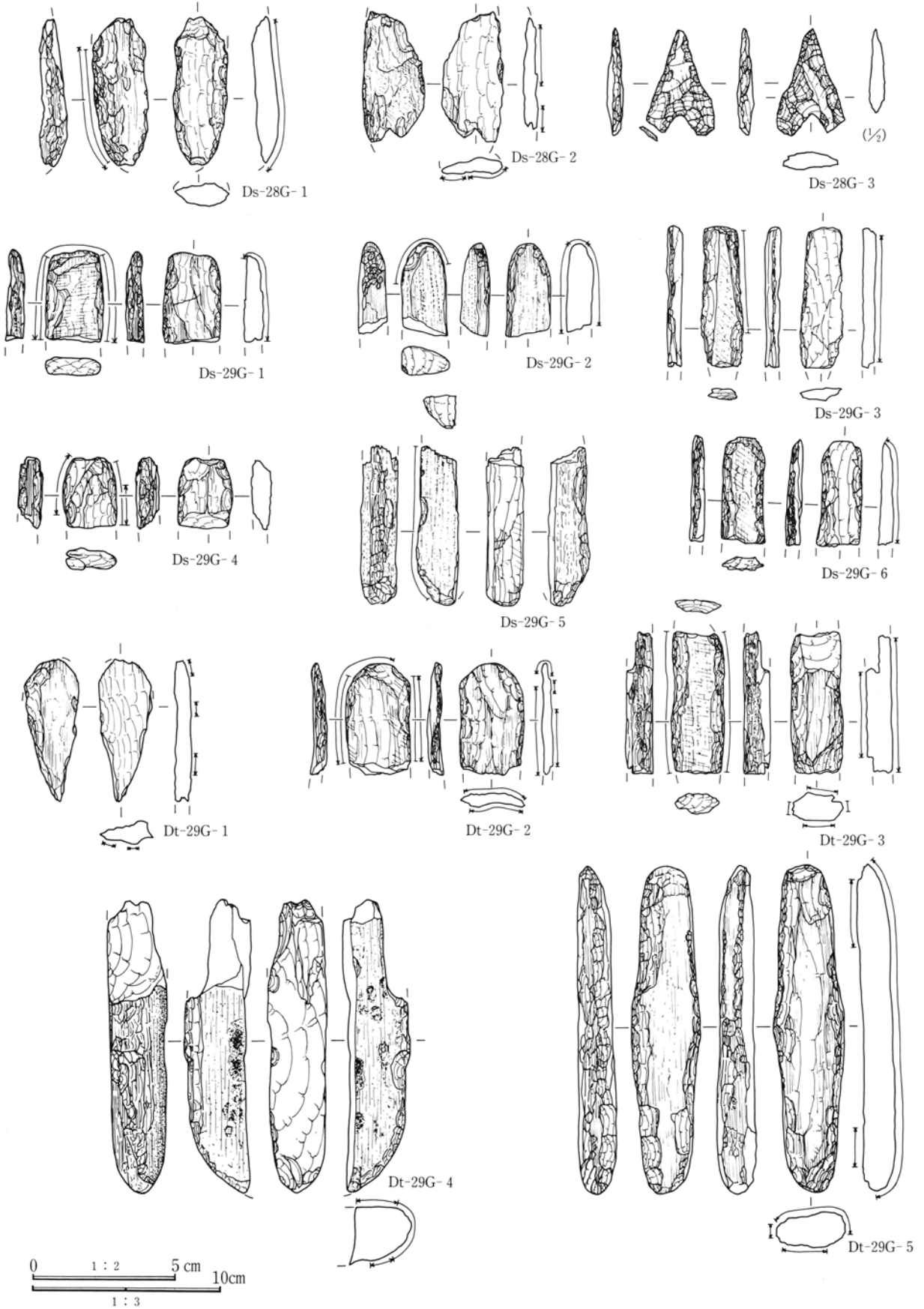
第224図 429・430・431・434・435号土坑・ピット出土石器

II 検出された遺構と遺物



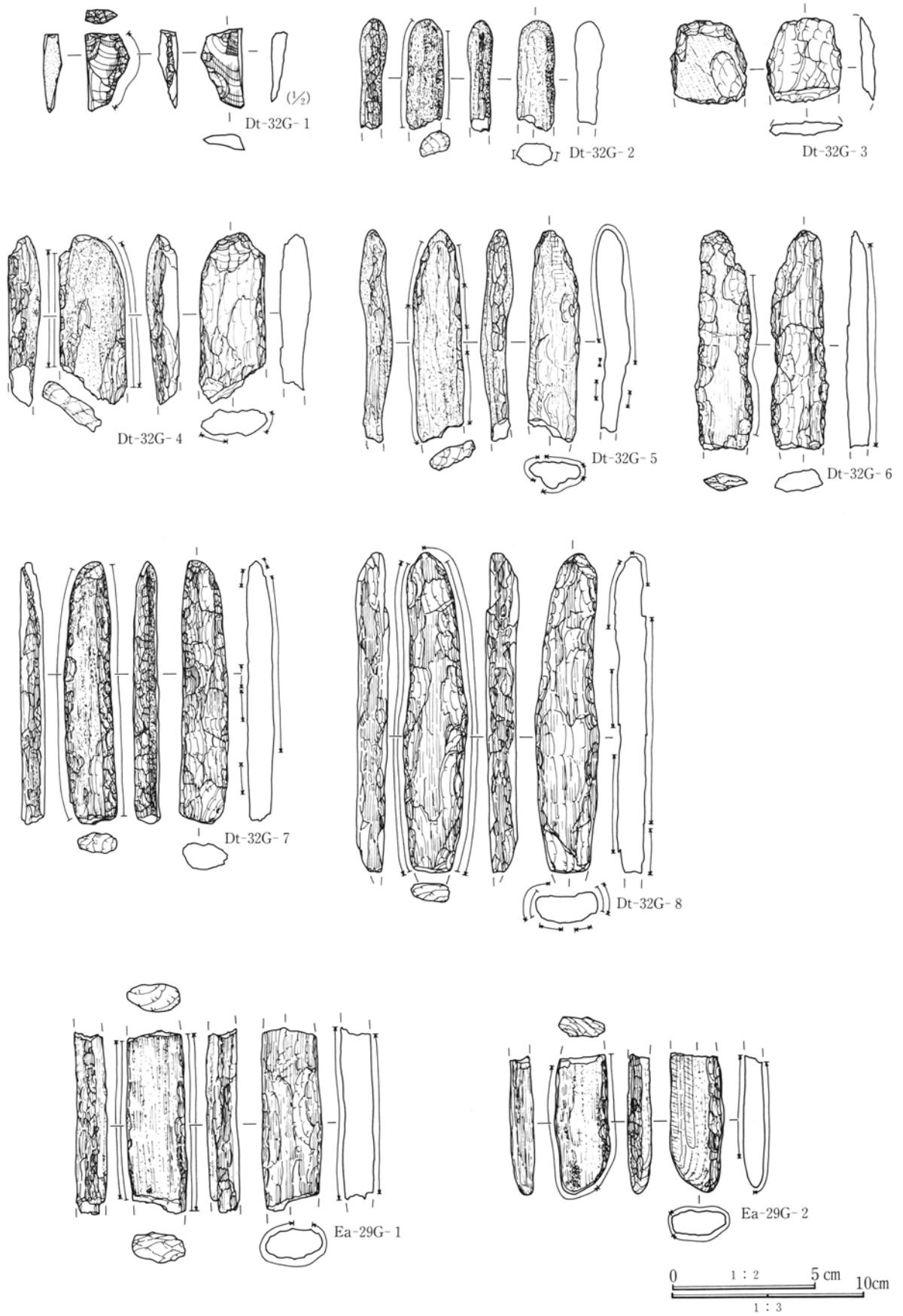
第225図 ピット出土石器

1. 縄文時代



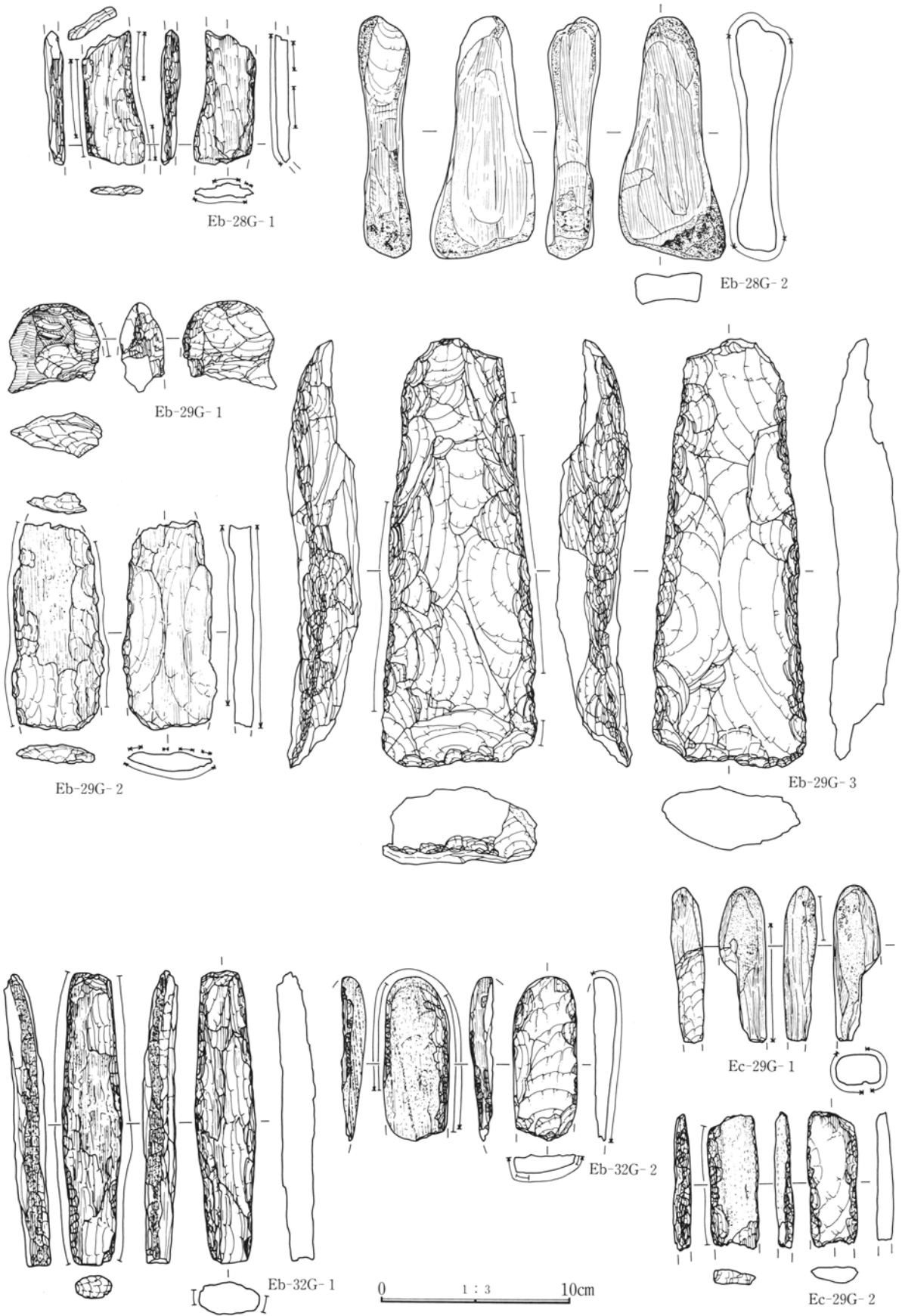
第226図 グリッド出土石器(1)

II 検出された遺構と遺物



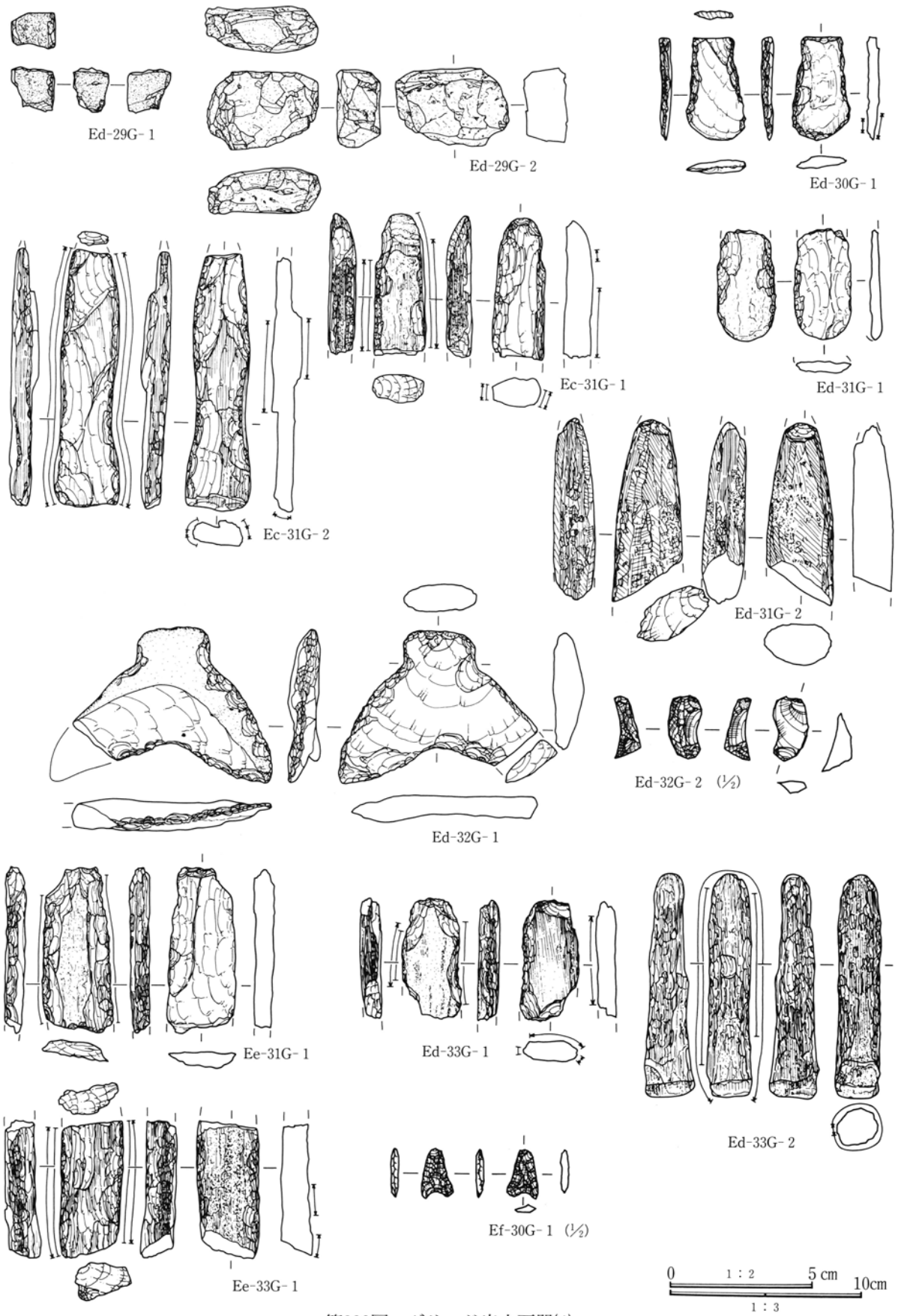
第227図 グリッド出土石器(2)

1. 縄文時代



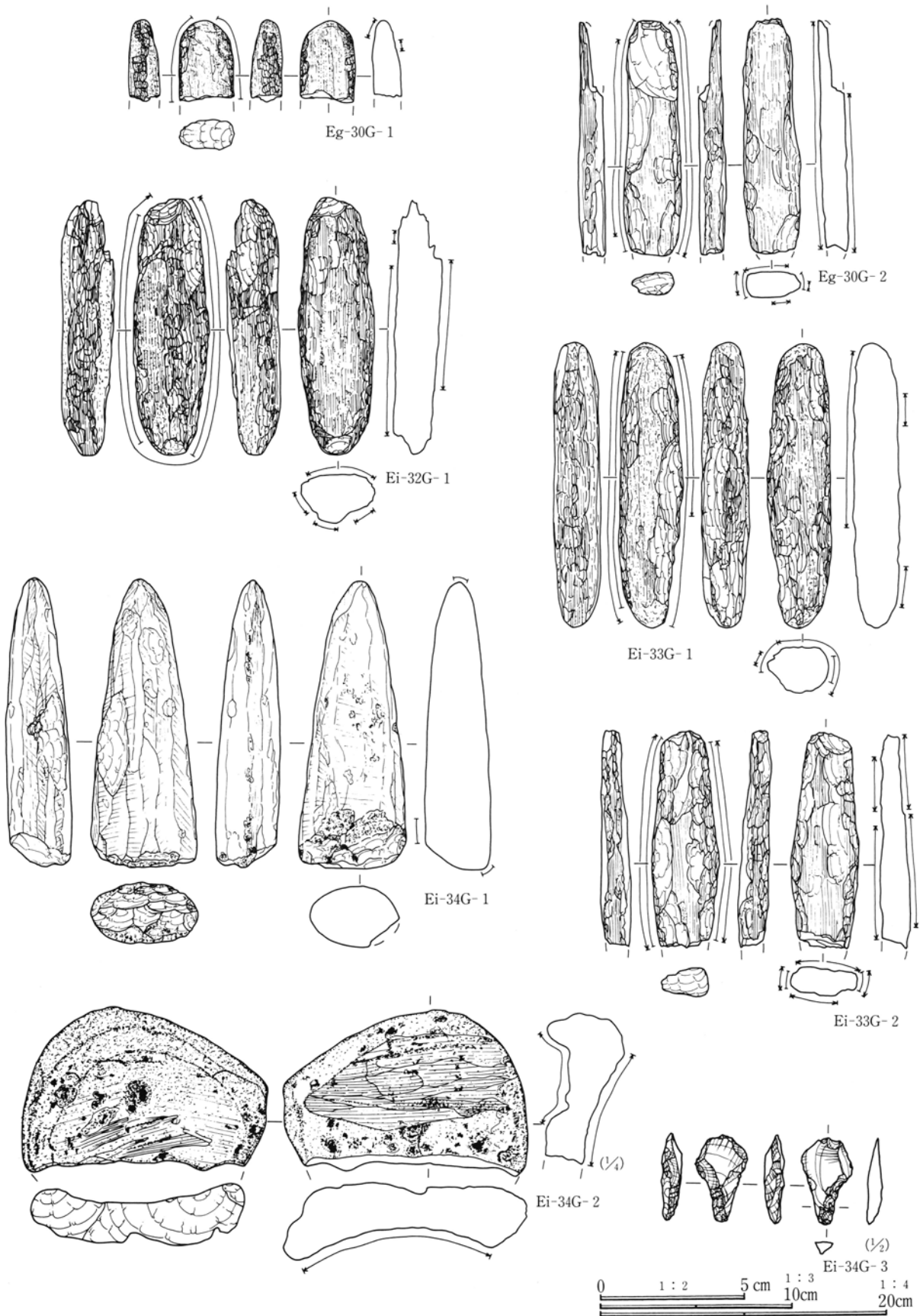
第228図 グリッド出土石器(3)

II 検出された遺構と遺物



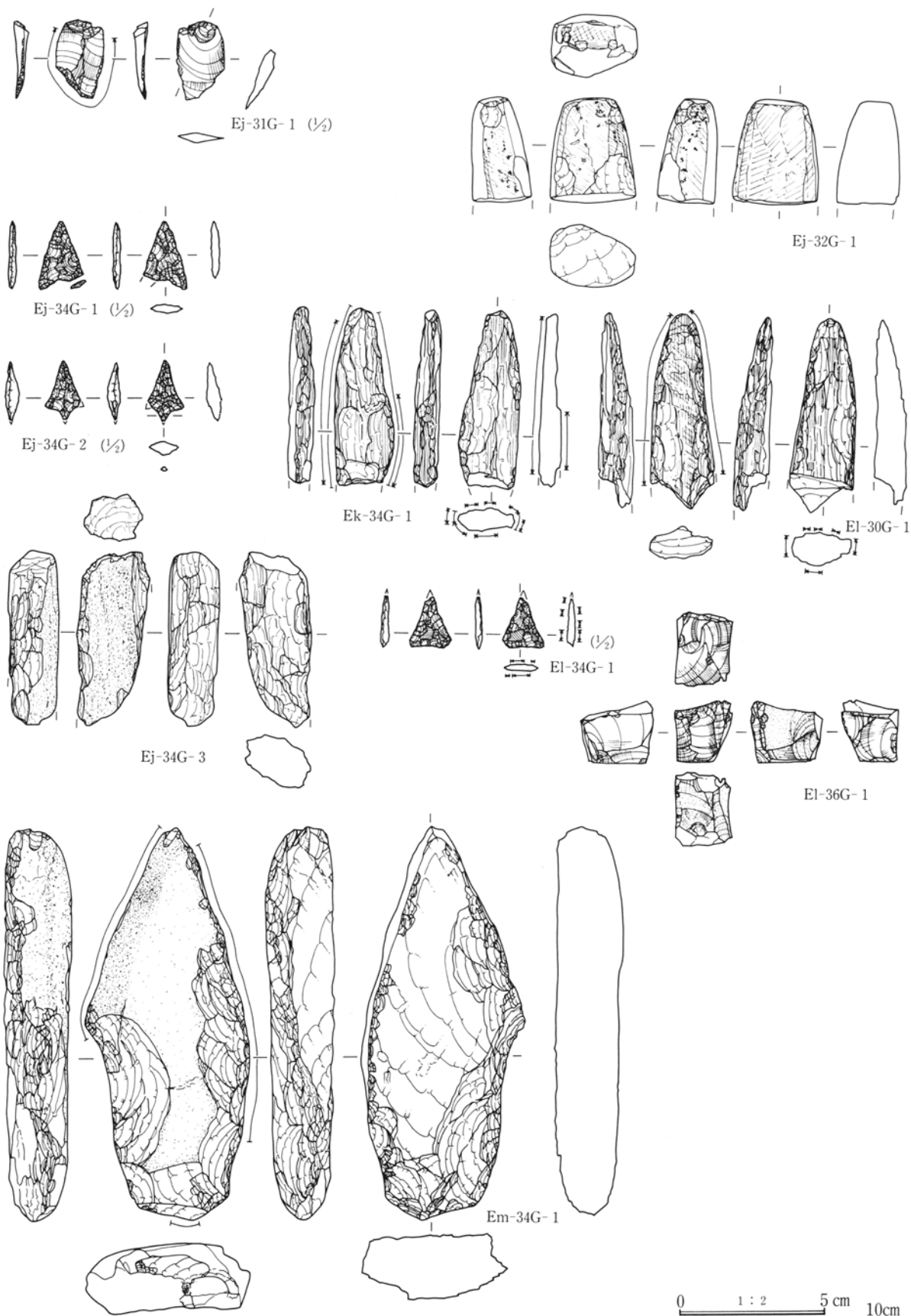
第229図 グリッド出土石器(4)

1. 縄文時代



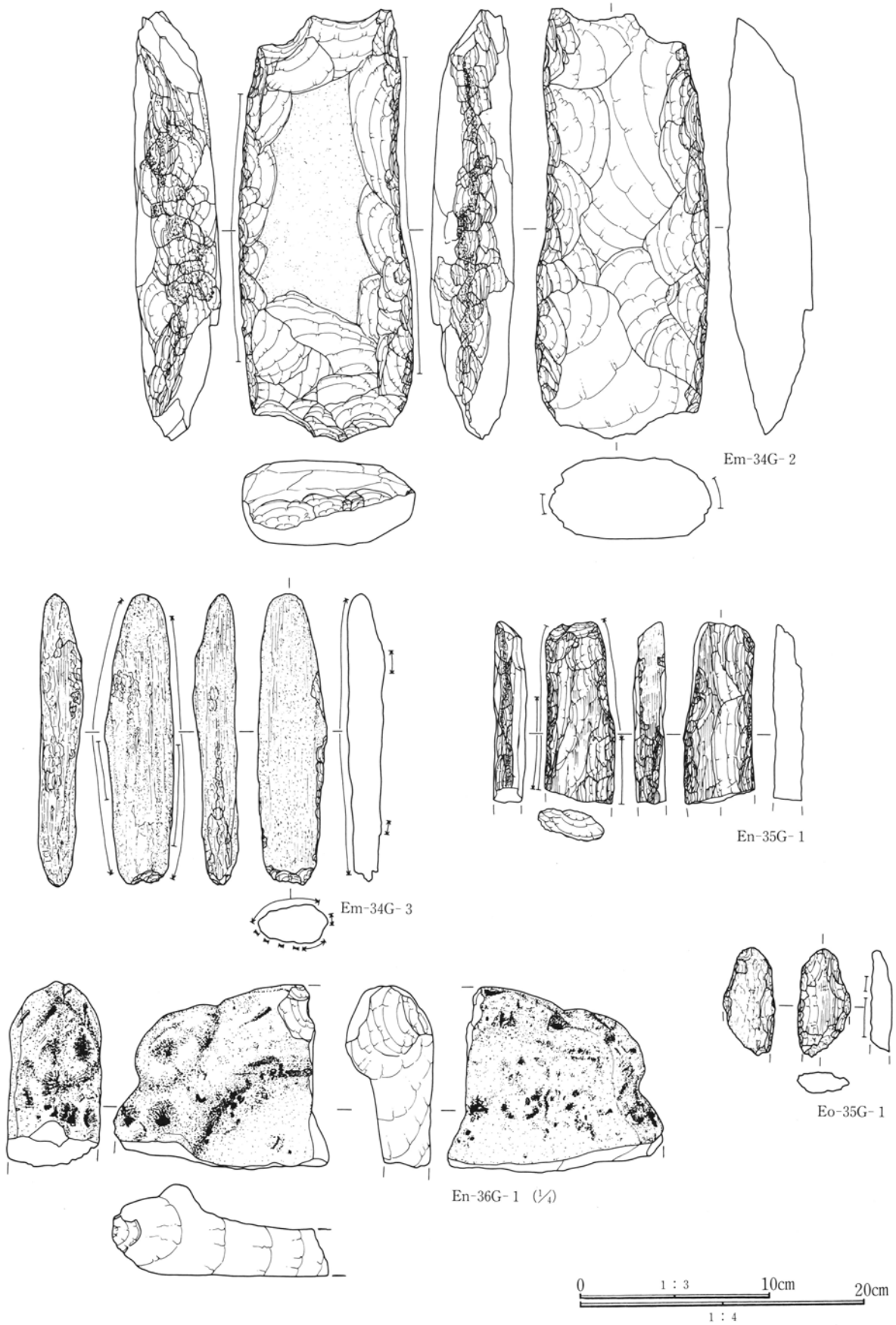
第230図 グリッド出土石器(5)

II 検出された遺構と遺物



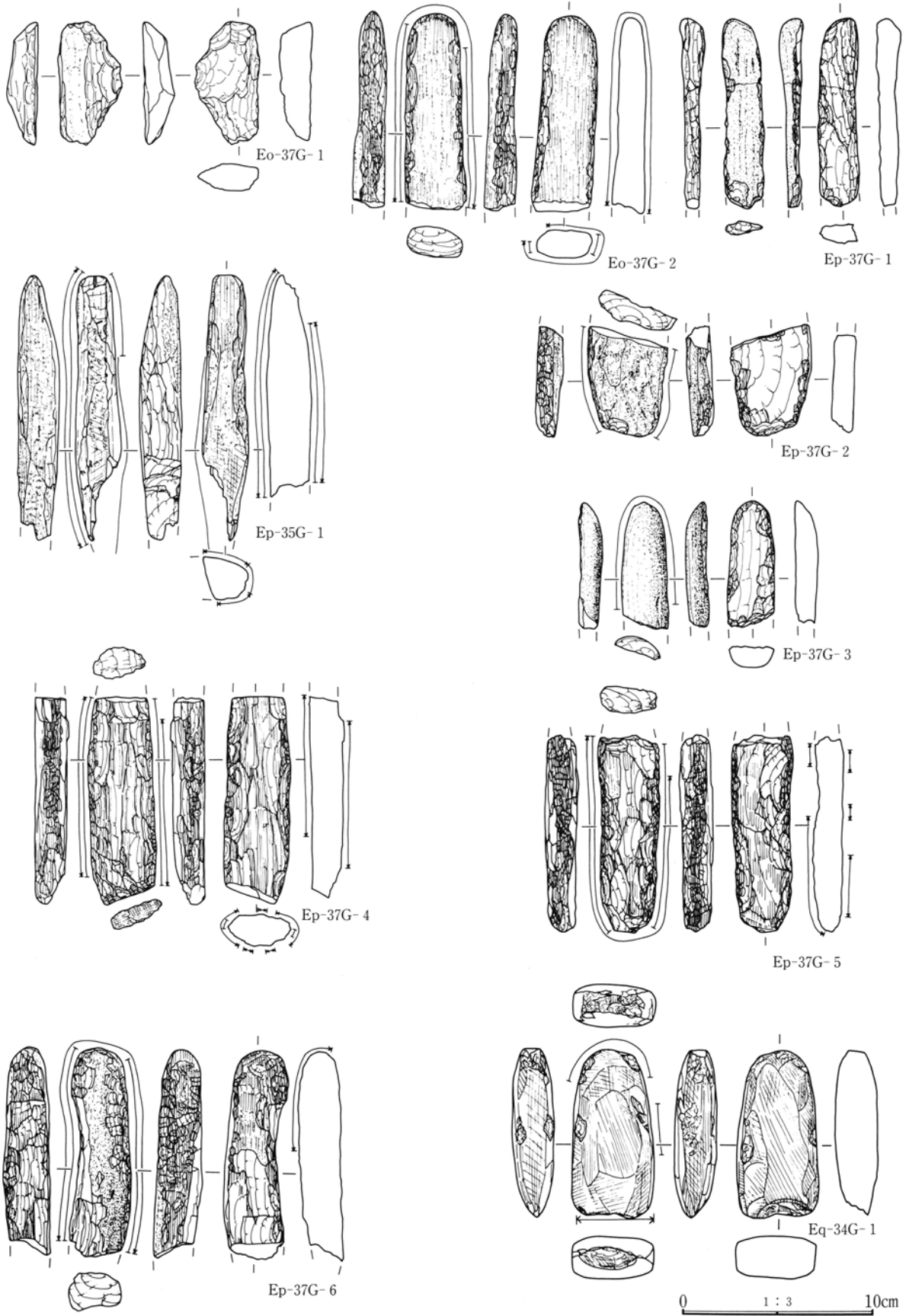
第231図 グリッド出土石器(6)

1. 縄文時代



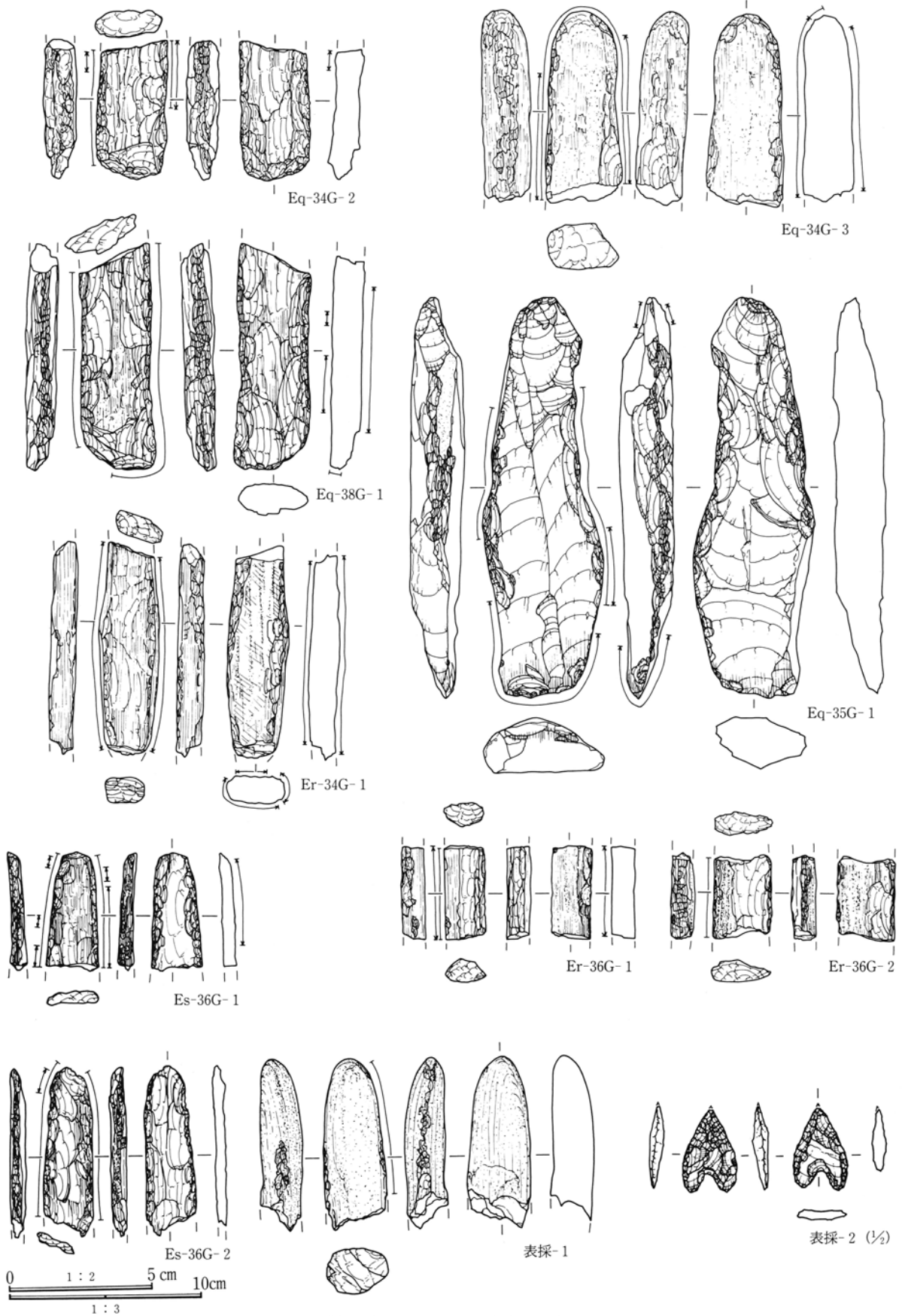
第232図 グリッド出土石器(7)

II 検出された遺構と遺物



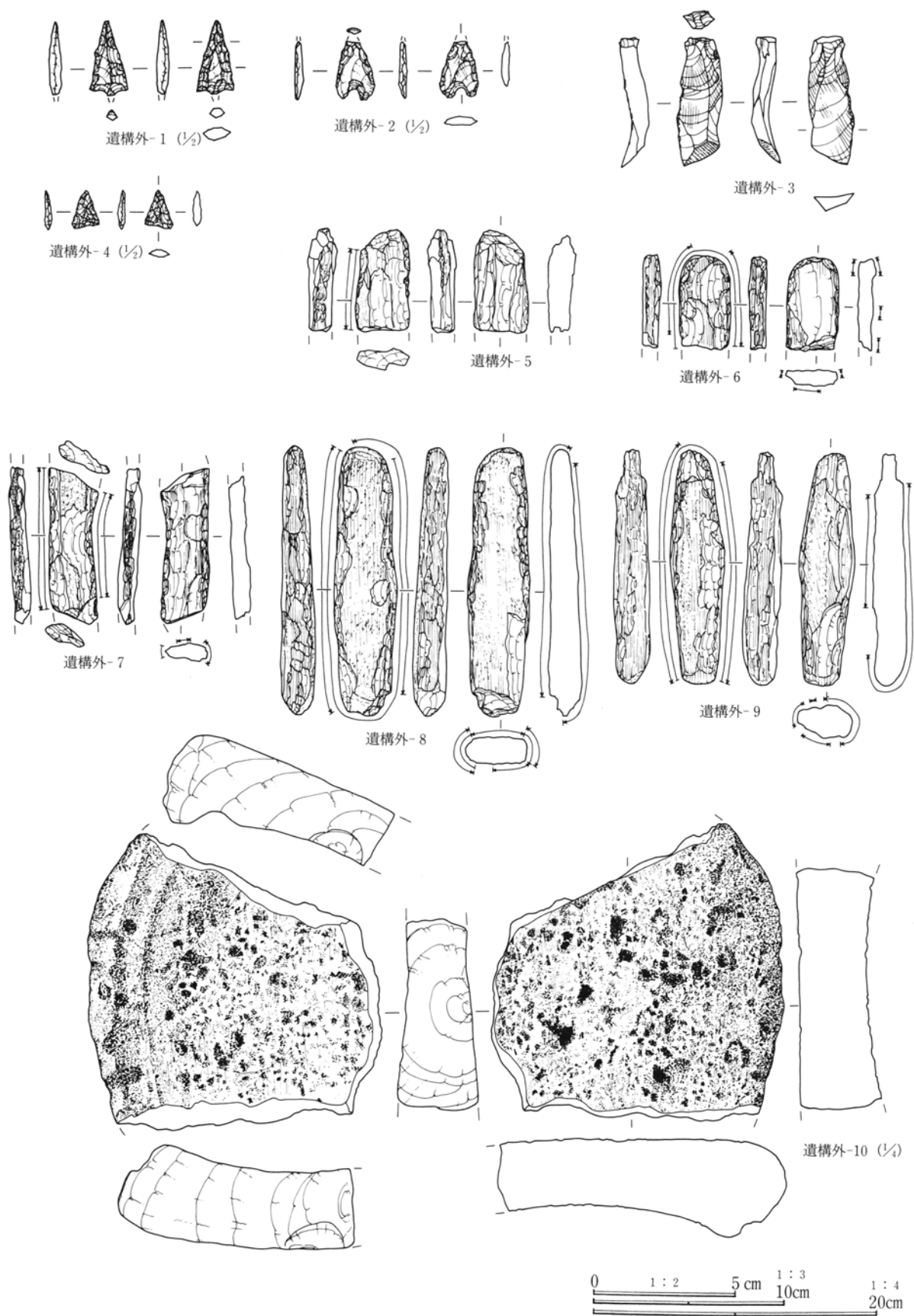
第233図 グリッド出土石器(8)

1. 縄文時代



第234図 グリッド出土石器(9)

II 検出された遺構と遺物



第235図 遺構外出土石器

2. 弥生時代

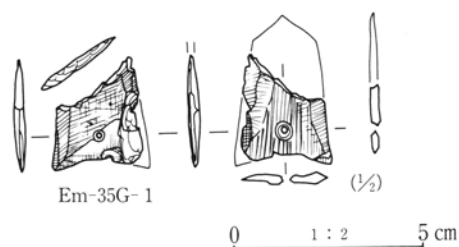
(1) 遺構

明確に弥生時代と言える遺構は、住居跡・土坑とも確認されなかった。ピットについても弥生時代の遺物を出土したものはなかった。

(2) 遺物

明確に弥生時代と考えられる遺物は、E区m-35グリッドで検出された磨製石鏃1点のみである(第236図)。この石鏃は先端部と基部の片方が欠損しており、中央の下端近くには両側穿孔による孔が1つ開く。石質は珪質準片岩であり、かなり薄手のつくりである。

なお、周辺のグリッドから他の打製石斧とはやや作りの違う大形で部厚い作りの打製石斧も出土した。それは弥生時代に属する可能性も考えられるが、その周辺からは同時に縄文土器も出土しており、やや他のものとは雰囲気が違うからと言って弥生時代とする根拠にはならず、ここでは縄文時代のものとして取り扱った。



第236図 弥生時代磨製石鏃

3. 古墳時代

(1) 遺構

明確に古墳時代と言える住居跡や土坑はまったく検出されなかった。しかし、調査区の北半で小ピット3基が並ぶように確認されたもののみであり、これらの上面にはHr-FAが薄く堆積していた。これら3基の掘り方は浅く、周辺をよく確認したが他に同様な穴は無く、掘立柱建物跡になる可能性は低いと思われる。柵列になる可能性はあるが、3基のみでまわりには他に同様な穴は無く、集落内での役割や住居跡との関係など不明確な点も多い。また、本当に3基が有機的な繋がりを持つものかどうかは厳密には不明と言わざるを得ない。

しかし、調査区の南側や東側、その他周辺地域には陣場岩屑なだれの流れ山の頂部を利用した古墳が多く存在する。その数は頂部のほとんどが古墳として利用されていると言っても良いほどである。調査区東側の畑の中の古墳周辺では形象埴輪の破片や鉄製品なども見つかっているし、調査区南東の「大岩」の周りの畑でも埴輪の破片も確認されているが、路線内では古墳及び古墳の周壕等は検出されなかった。

(2) 遺物

明確に古墳時代と言える遺物は73号住居跡の埋没土中から出土した埴輪破片(73住4)1点のみであり、それ以外のものはまったく検出されなかった。

古墳時代にはこの調査区内では住居跡やそれに伴う遺物もほとんど検出されず、周辺地域に日常生活の痕跡はほとんど感じられない。反対に古墳が多く造られていることからすると、この地域周辺は一大墓域となっていたことが想定される。

II 検出された遺構と遺物

4. 平安時代

(1) 遺 構

ここでも縄文時代同様、住居跡、土坑の順に説明し、出土遺物は別にまとめた。説明順は基本的に調査時における遺構番号を重視した。土坑計測表については観察表にまとめたので参照していただきたい。

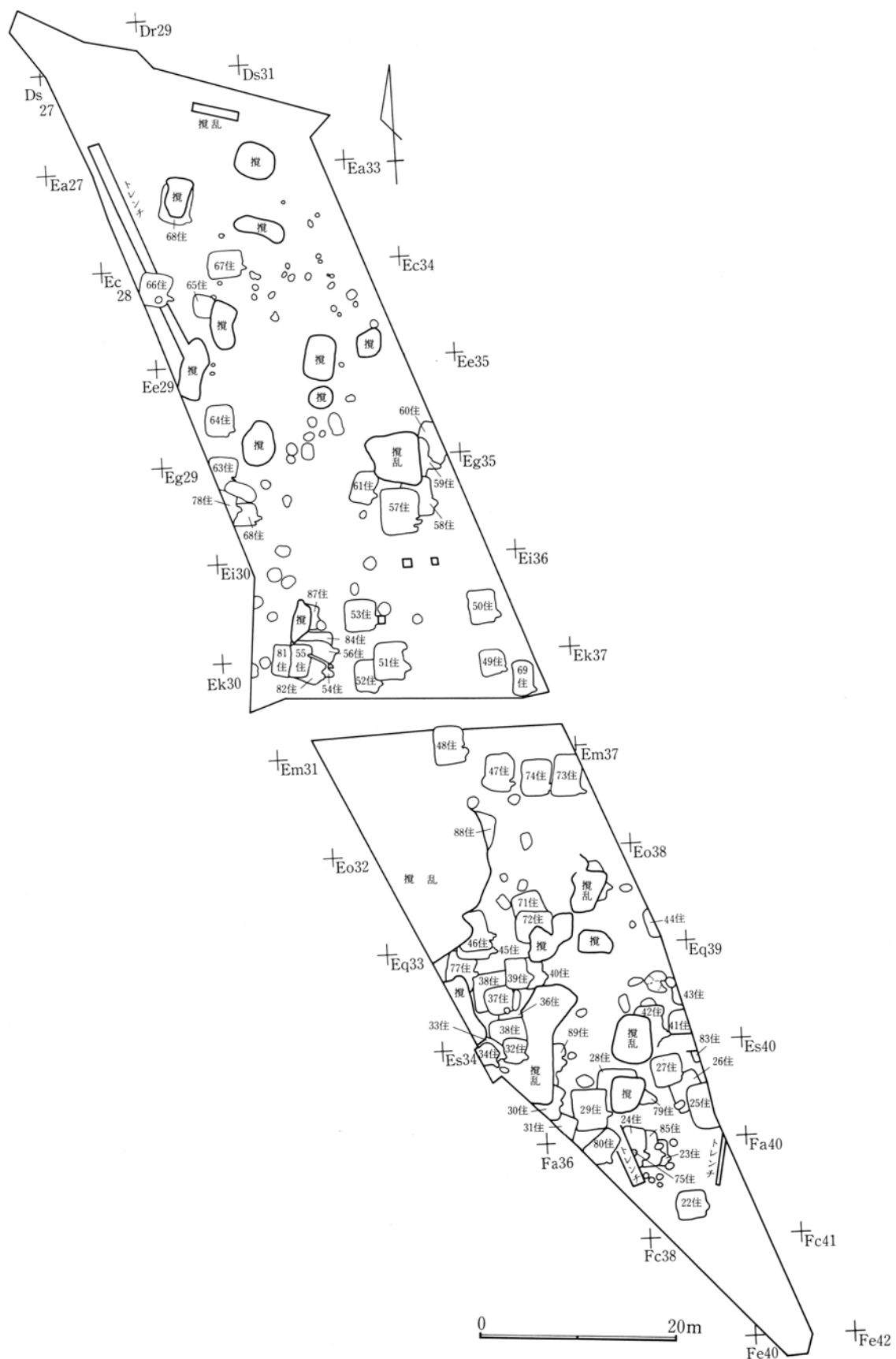
古墳時代から平安時代と考えられる遺構は、住居跡68軒、土坑100基、ピット約200基が検出された。しかし、そのうちの99%以上のものが平安時代のものであり、北部のピット数基のみがその覆土の上層にHr-FAを薄く含み、古墳時代と考えてもいいものであった。住居跡はその全てが平安時代のものであり、しかもそのほとんどが10世紀中頃から11世紀代に属するものであった。一般的に見つかることが多い奈良時代8世紀代のものや平安時代初期9世紀代ものは1軒も確認されなかった。極限られた期間のみに居住した集落であるということが言える。

全体の遺構配置を見てみるとそのあり方は調査区南端の午王頭川寄りの部分、中央西側の部分、北端西寄りの部分を除く一段低い部分に集中していた。要するに遺跡のなかで高い部分避けるように分布していたことになる。中央西寄りの高い部分には大きい攪乱が入ってはいはっきりしない面もあるが、中央の道路西寄りの部分では遺構分布はなく空白部を持つ可能性もある。そうすると縄文時代同様中央の高い部分を取り巻くように環状に配置される可能性も否定できない。東側はまだ畑等で残っている可能性は高いが、残念ながら調査区西側から南側にかけては午王頭川により台地が削られており、西側全体は残っていないものと思われるが。

住居群は大きく分けると調査区南半の攪乱集中部を挟む南側とその北側から北半南道路寄りの土坑群南部分、その土坑群から北側部分の3つに分けることができる。中央住居群の72号住居跡以外いずれの住居とも東向きカマドであり、ここにも集落内の

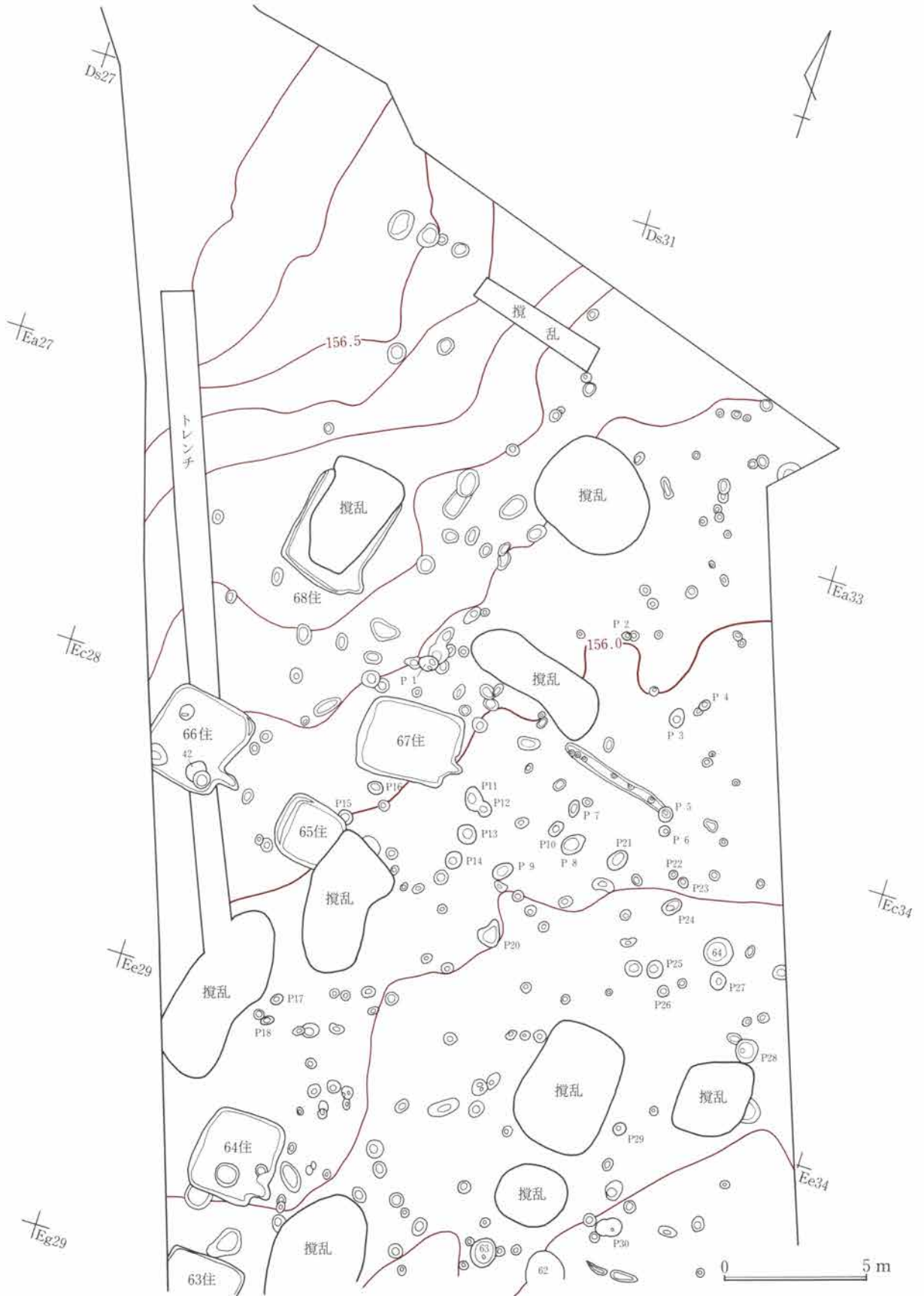
統一性が認められる。それぞれの住居群のなかをもう少し細かく見てみると方向性を同じくして少しずつずれて重複していたり、同じ場所にわずかにずれながら重複している一群が認められる。それを土層断面や土器から検討すると、南から北、東から西または西から東への移動であったり、と一定の方向性が認められる。また、それぞれの住居群には10世紀中頃を前後する時期の住居跡が1～2軒程あり、そうしたものが核になりそれ以後の住居が増えていったようにも見える。規模的にも小形のものも多く、あまり極端に大きな住居跡はない。住居の形態としては全体としては隅丸正方形に近いものが多いが、11世紀代になるとカマドに対し横長や縦長のものが増えてくる。

土坑・ピットは住居同様大きく調査区南半の攪乱集中部を挟む南側と、その北側から北半南道路寄りの部分、そこから北側部分の3つに分けることができる。南側では88号住居跡の東側を取り巻くように分布する長方形～楕円形の一群、攪乱の一群のところから南向きに半円形に分布する一群が認められる。しかし、そのほとんどは中央道路より北側に集中している。北側の土坑群は住居と重複するものは少なく住居を避けるように配置されているようにも見える。北側の集中部のなかをさらに分解して見ると縄文時代ほど明瞭ではないが、中央にやや分布状況の薄い空白部をもつ集中部分があるようにも見える。以前別の遺跡の整理をした時にも土坑・ピット群の配置が円形もしくは楕円形に並ぶ状況が見えたこともあったが、偶然ではないかという人もおり、あえて触れなかったが、もしそうだとすると時代を越えて同じような遺構配置を持つ可能性もある。地形に左右されたからとも言えるかもしれないが、反対に言うとなぎとそういう場所を選んだからとも言えるかもしれない。

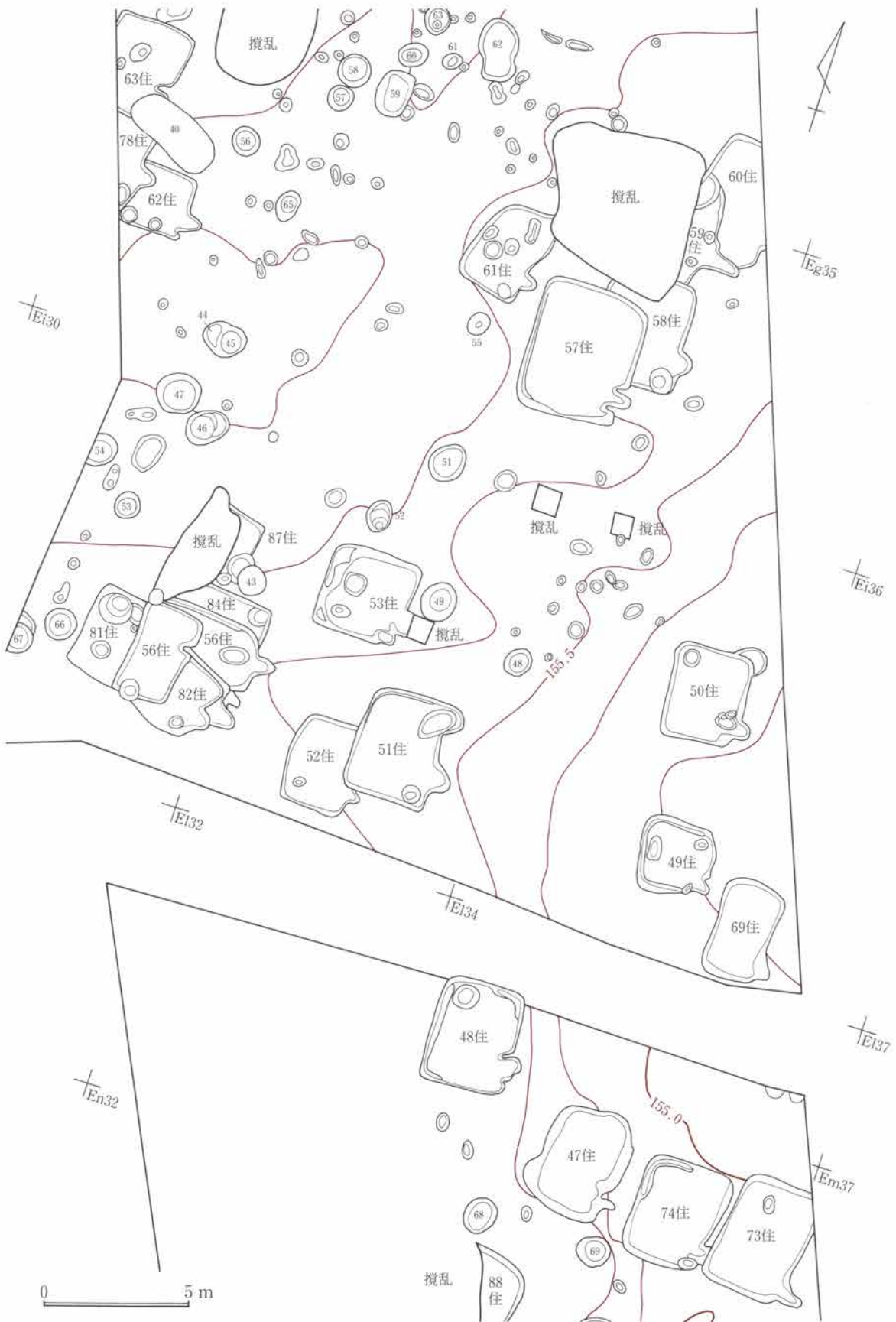


第237図 平安時代遺構配置図

II 検出された遺構と遺物

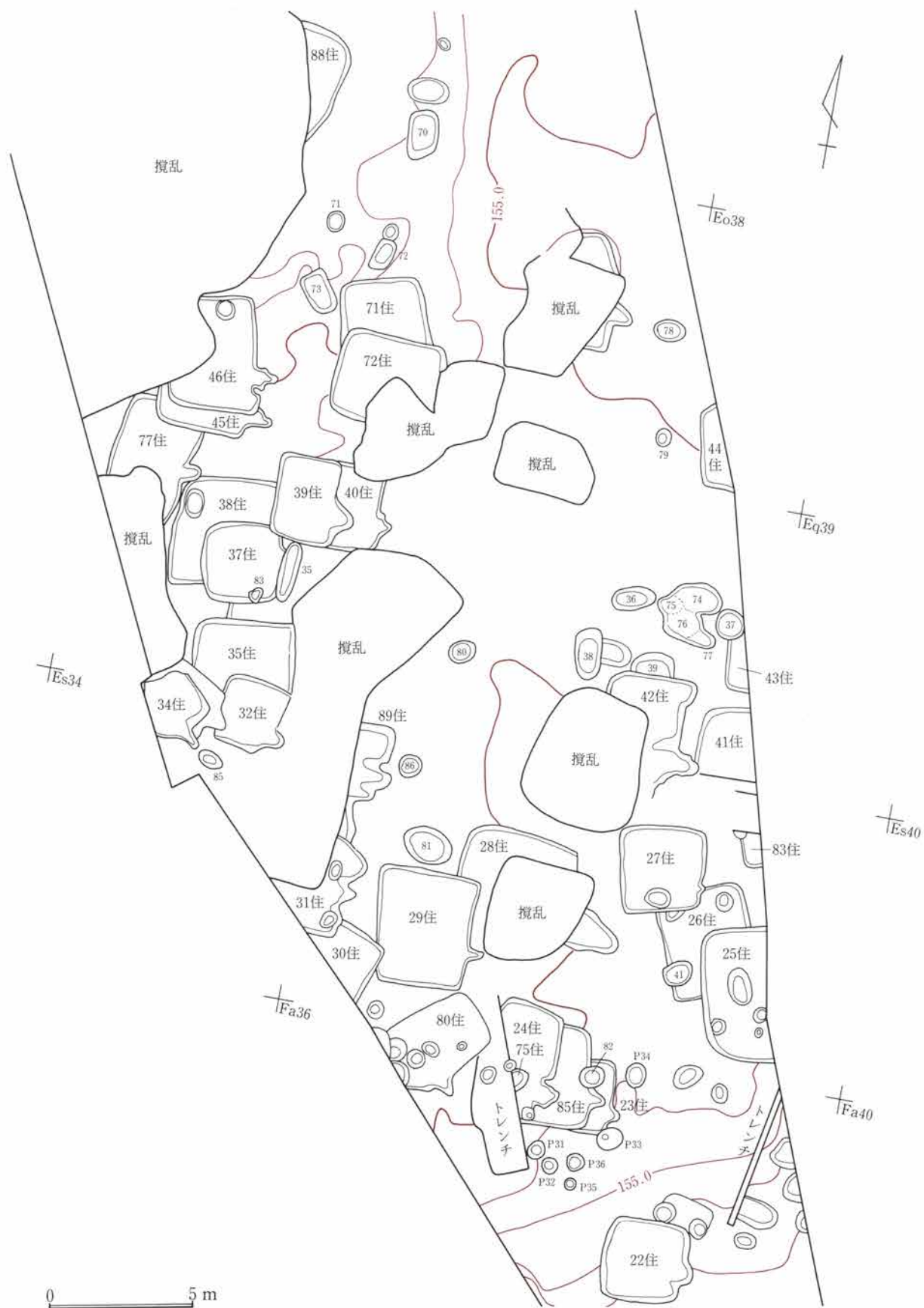


第238図 平安時代遺構全体図(1)



第239図 平安時代遺構全体図(2)

II 検出された遺構と遺物



第240図 平安時代遺構全体図(3)

a 住居跡

22号住居跡 (第241・314・340図、P L144・165・182)

位置 F区 b-38・39

主軸方位 N88°E

重複 無し。

規模 縦2.90m×横3.00m×深さ0.34m

形状 隅丸方形

埋没土 As-C及びローム漸移層ブロックを多く含む茶褐色土である。

掘り方 As-Cを含むロームに近い茶褐色土により埋められていた。カマド前に2基床下土坑がある。

床下土坑1は長径約86cm、短径約60cm、深さ約24cm、
床下土坑2は長径約56cm、短径約50cm、深さ約18cm

床面 貼り床有り。床面はほぼ平坦であるが、地形の影響で若干北側に傾斜する。しまりはやや弱い。

貯蔵穴 位置 南西隅

規模 長径約66cm 短径約53cm 深さ約13cm

形状 ほぼ円形

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 カマド及びその周辺からほとんどの遺物が出土した。それ以外のところからはほとんど出土しなかった。

カマド 位置 ほぼ東壁中央やや南寄り

規模 全長68cm 最大幅115cm 焚き口幅54cm

袖 有り。

煙道 住居壁を切り込んで、約38cm外へ延びる。

遺存状態 左袖は残りが悪く不明瞭であった。角礫・亜角礫はカマドの構築材として使用していたものと考えられる。中央部に約10cm程の炭を含む灰層があった。掘り方は深くしっかりしていたが、上部はかなり削平されているものと思われる。

遺物出土状態 陣場岩屑なだれのものと考えられる角礫・亜角礫が多く出土した。左袖に近い部分から杯(22住1)が、掘り方から羽釜(22住4)、瓦等が出土した。

備考 10世紀後半の住居と考えられる。

23号住居跡 (第242・338図、P L144・181)

位置 F区 a-38

主軸方位 N82°E

重複 23号住→85号住→24号住→75号住

規模 縦(0.90)m×横2.60m×深さ0.17m

形状 隅丸方形か?

埋没土 茶褐色土を斑状に含む暗褐色土である。全体に85号住の埋没土よりも明るい。

掘り方 ロームを多く含む茶褐色土により埋められていた。カマド右前が窪むが、他は全体的に平均して約5～6cm程下がる。平面とほぼ同じ形状をしている。

床面 貼り床有り。床面はほぼ平坦であり、あまり良くしまっていなかった。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 カマド及び北壁から円礫及び角礫と若干の土器片が出土したが、明確な時期判定の出来る遺物の出土はなかった。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長63cm 最大幅60cm 焚き口幅36cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約38cm外へ延びる。

遺存状態 奥壁の礫は据えられていたものと考えられる。中央部には約18cm程の焼土層があった。カマド右前が窪む。上部はかなり削平されていた。

遺物出土状態 無し。

備考 時期不明。

24号住居跡 (第242・243・314図、P L144・165)

位置 E区 t-37、F区 a-37・38

主軸方位 N91°E

重複 23号住→85号住→24号住→75号住

規模 縦2.20m×横4.00m×深さ0.22m

形状 隅丸長方形

埋没土 φ約3～5mm程のやや大きめのAs-Cを多く含む暗褐色土である。しまりは弱い。

II 検出された遺構と遺物

掘り方 ロームを多く含む茶褐色土により埋められていた。85号住掘り方の埋土よりもやや暗い。床より約5～6cmほど窪む。南半部を中心に径約50cm前後の床下土坑があく。西側や北側が若干高い。しまりはやや弱い。

貯蔵穴 位置 南東隅

規模 長径約44cm 短径約40cm 深さ約32cm

形状 円形

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 杯や椀類を中心にほぼ住居全体から散在的に出土した。左袖北床直から小形の杯（24住3）がほぼ完形で出土した。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長110cm 最大幅116cm 焚き口幅58cm

袖 有り。

煙道 住居壁を切り込んで、約64cm外へ延びる。

遺存状態 カマド構築材には陣場岩屑なだれに伴う角礫や亜角礫が出土した。上部は削平されていた。手前の焚き口部分には焼土と灰が拡がっていた。掘り方は使用面より約14cm窪む。奥の方が良く焼けていた。

遺物出土状態 左袖近くから羽釜、右袖近くから杯と甕破片が出土した。燃焼部より甕の破片が出土した。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

25号住居跡 (第244・315・340～342図、P L144・145・165・182・183)

位置 E区 s・t-38・39

主軸方位 N74°E

重複 26号住→25号住

規模 縦(2.20)m×横5.70m×深さ0.31m

形状 不明。

埋没土 As-Cと茶褐色土ブロックを多く含む暗褐色土である。中心にAs-Cが多く、周辺は茶褐色土ブロックの割合が多い。

掘り方 北側は平面とほとんど変わらないが、南側

は約12cm程下がる。焼土粒子を少量含む黒褐色～暗褐色土により埋められていた。湿気取りのため灰を撒いているものと思われる。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、地形の影響で北側に傾斜する。住居中央部に(約130cm×80cm、深さ約15cm)の土坑1がある。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 西壁南半に一部分残る。幅約20cm、深さ約4cm

柱穴 ピット1直径約34cm、深さ約30cmの円形、ピット2直径約45cm、深さ約22cmの円形、ピット3直径約40cm、深さ約22cmの円形ピットがある。

遺物出土状態 北東部と南西部から比較的まとまって出土した。南西部のものは角礫、亜角礫が多い。

カマド 位置 不明。東壁に位置するものと考えられる。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

26号住居跡 (第244・315・343図、P L144・145・166・183)

位置 E区 s・t-38・39

主軸方位 N67°E

重複 26号住→41号土坑 26号住→25号住
26号住→27号住

規模 縦3.10m×横(3.60)m×深さ0.30m

形状 隅丸方形か?

埋没土 As-Cを含む黒褐色～暗褐色土である。25号住の埋没土よりも全体にやや暗い。

掘り方 As-Cを少量含む黒褐色～暗褐色土により埋められていた。As-Cの量は埋没土に比べて少ない。ロームブロックや黒褐色土ブロック、焼土粒子も場所によって若干含まれる。北西隅に長径約94cm、短径約74cm、深さ約45cmの床下土坑がある。

床面より北側で約12cm、南側はほとんど下がる。床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 北東隅

規模 長径約72cm 短径約62cm 深さ約27cm

形状 ほぼ円形

4. 平安時代

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 北西隅より出土した2点の灰釉陶器の皿片(26住1)が接合した。羽釜や須恵器の甕は貯蔵穴周辺より破片で出土した。

カマド 位置 不明。25号住に壊されているものと思われる。

備考 10世紀前半頃の住居と考えられる。

27号住居跡(第245・315図、P L145・166)

位置 E区s-38

主軸方位 N101°E

重複 26号住→27号住

規模 縦2.90m×横3.10m×深さ0.22m

形状 方形

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色土である。周辺部には茶褐色土ブロックが多く混じる。

掘り方 焼土粒子を少量、炭化物粒子をやや多く含む黒褐色土により埋められていた。カマド灰を撒いているものと考えられる。掘り方は床面より約10cm程下がる。南半部に床下土坑が多く認められた。

床面 貼り床有り。床面はほぼ平坦であり、良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 南壁中央。角礫及び若干の土器破片が出土した。

規模 長径約70cm 短径約60cm 深さ約18cm

形状 楕円形

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 27住1は西壁中央床直上より出土したが、その他は中央部を除く周辺部から散在的に出土した。

カマド 位置 南東隅

規模 全長157cm 最大幅105cm 焼き口幅58cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約96cm外へ延びる。

遺存状態 燃焼部壁は比較的良く焼けていた。構築材には陣場岩屑なだれ層中の角礫及び円礫が使用さ

れていた。焼き口部分には厚さ約10～16cm程の灰層が残っていた。掘り方は焼き口部分で径約25～30cm、深さ約10cm程の小ピットが3基検出された。

遺物出土状態 若干の羽釜や甕の破片が出土している。

備考 10世紀前半頃の住居と考えられる。

28号住居跡(第246・316・338図、P L145・166・181)

位置 E区s・t-37

主軸方位 N100°E

重複 28号住→29号住

規模 縦(4.20)m×横(1.80)m×深さ0.28m

形状 隅丸方形か?

埋没土 As-Cを多く含む黒褐色土である。下半の方がやや軟質でAs-Cの量も少ない。

掘り方 29号住に近い部分で若干凹凸を持ち床面よりも約12cm程下がるが、それ以外のところは特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、非常に良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 西半部より出土した。特に北西部を中心に土器破片の出土が多くみられた。それとともに角礫や円礫の出土もみられた。

カマド 位置 不明。東壁側と考えられるが、攪乱により切られている。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

29号住居跡(第246・316図、P L145・166)

位置 E区s・t-36・37

主軸方位 N90°E

重複 28・80号住→29号住

規模 縦4.00m×横(3.50)m×深さ0.26m

形状 方形

埋没土 As-Cを多く含む茶褐色土である。北側の方がAs-Cの量が少なく、しまりもやや強い。

II 検出された遺構と遺物

掘り方 白色鉱物粒を含む茶褐色土により埋められていた。北東隅がやや高く残っていた。平均床面より約10cm前後低くなる。北西隅に長径約90cm、短径約50cm、深さ約4cmの床下土坑がある。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、北東隅付近が若干下がる。

貯蔵穴 位置 南東隅。断面図で見える限りでは埋め戻され床が貼ってあったが、位置的に貯蔵穴の可能性が高い。

規模 長径約80cm 短径約50cm 深さ約16cm

形状 楕円形

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 住居のほぼ中央に土器小破片及び礫が出土した。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長93cm 最大幅67cm 焚き口幅32cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約46cm外へ延びる。

遺存状態 使用面より上は削平されており、ほとんど残っていなかった。掘り方で焚き口部分が、約8cm程窪みだけであった。

遺物出土状態 掘り方より土器小破片が出土しただけである。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

30号住居跡 (第247・316・338図、P L145・166・181)

位置 E区 t-36

主軸方位 N111°E

重複 30号住→31号住

規模 縦 (2.10) m×横 (2.00) m×深さ0.17m

形状 方形か?

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色土である。下半部の方が暗く、炭化物も含まれていた。

掘り方 北東隅に直径約33cm、深さ約10cm、直径約25cm、深さ約15cmの円形小ピット2基と長径約50cm、短径約46cm、深さ約9cmの楕円形土坑がある。前2基の小ピットは柱穴の可能性もある。

床面 貼り床無し。床面はほぼ平坦であり、良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 調査範囲内のほぼ中央付近からまともに出て出土した。ほぼ完形で出土したのは、掘り方調査時に検出された30住1の小形杯1点のみである。その他に平面、掘り方ともに若干の円礫、角礫が出土した。

カマド 位置 不明。東壁か?

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

31号住居跡 (第247・248・316図、P L146・166)

位置 E区 s-36、t-35・36

主軸方位 N94°E

重複 30号住→31号住

規模 縦 (2.60) m×横 (3.00) m×深さ0.40m

形状 隅丸長方形か?

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色～茶褐色土である。

掘り方 As-C及びロームブロックを少量含む黒褐色土により埋められていた。床面より約5cm程下がる。カマドの焚き口手前に長径約70cm、短径約58cm、深さ約12cm程の床下土坑があり、中には灰が詰まっていた。

床面 貼り床有り。床面はほぼ平坦であるが、緩い凹凸を有する。

貯蔵穴 位置 南東隅。31住1の小形の杯、その他の土器片が出土している。

規模 長径約70cm 短径約54cm 深さ約16cm

形状 楕円形

周溝 無し。

柱穴 不明。カマド左袖前に長径約58cm、短径約50cm、深さ約20cmで、底面に約20cm程の礫が置いてあったピットがある。

遺物出土状態 カマド手前から甕や羽釜の破片がまともに出て出土したが、床直のものは少なかった。

4. 平安時代

カマド 位置 東壁ほぼ中央

規模 全長75cm 最大幅130cm 焚き口幅50cm

袖 有り。

煙道 住居壁を切り込んで、約47cm外へ延びる。

遺存状態 比較的良く残っていた。燃烧部から煙道にかけて火熱を受け若干赤変していた。カマドの構築材には主として粘土が使われ、礫は煙道の先端と燃烧部内側の左右に据えられていた。床面には約5cm程の焼土層があった。掘り方は使用面より約12cm程下がり、その部分には灰が堆積していた。

遺物出土状態 左袖部より31住4の羽釜が、カマド内から、他は羽釜破片が出土した。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

32号住居跡 (第249・317・343図、P L146・167・183)

位置 E区 r・s-35

主軸方位 N103°E

重複 35号住→32号住→33号住→34号住

規模 縦(2.20)m×横2.60m×深さ0.43m

形状 方形

埋没土 As-Cを多く含む茶褐色～暗褐色土である。上部の方がAs-Cが多く、全体に明るい。下部の方がAs-Cが少なく、全体に暗い。

掘り方 As-Cを少量、焼土粒子を含む暗褐色土により埋められていた。中央部が若干窪むが周辺部は床面のままほとんど下ならず、あまり大きな変化はない。北東隅に長径約48cm、短径約40cm、深さ約28cmの床下土坑1、南西隅に長径約54cm、短径約42cm、深さ約11cmの床下土坑2がある。

床面 貼り床有り。比較的平坦であった。しまりは比較的良かった。

貯蔵穴 位置 不明。掘り方で検出された床下土坑1・2がその可能性がある。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 ほぼ全体から破片の状態で出土したが、周辺部のものは出土レベルが高い。大形の礫については床面直上から検出された。その周辺は何ら

かの作業場の可能性がある。32住6の甕は、南東隅より出土した小破片が接合したものである。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長73cm 最大幅61cm 焚き口幅38cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約33cm外へ延びる。

遺存状態 煙道の先端部は東側の攪乱により壊されていたが、構築材には角礫を用いそのまわりを粘土でかためて作られていた。燃烧部は良く焼けており、礫も焼土も赤変していた。底面には約5～7cm程の焼土層があった。掘り方は使用面より約20cm下がる。

遺物出土状態 ほとんど遺物は出土しなかった。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

33号住居跡 (第250・317図、P L146・167)

位置 E区 r・s-34・35

主軸方位 N135°E

重複 36号住→35号住→32号住→33号住→34号住

規模 縦(1.80)m×横(1.70)m×深さ0.32m

形状 隅丸長方形か？

埋没土 As-Cを多く含む茶褐色土である。34号住の埋没土よりもAs-Cの量はやや少ない。

掘り方 カマド部分以外はほとんど残存していなかった。セクションで見ると限りにおいては特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。床面はほぼ平坦である。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

カマド 位置 東壁中央

規模 全長85cm 最大幅80cm 焚き口幅46cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約60cm外へ延びる。

遺存状態 集落内の住居中では比較的良く残っていた。煙道先端には礫が置かれ、粘土で全体は形成されていた。燃烧部の両壁は良く焼けていた。

遺物出土状態 右袖内側に須恵器の甕破片が、煙道先端部から須恵器や土師器の甕破片が出土した。

II 検出された遺構と遺物

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

34号住居跡 (第250・251・317・343図、P L146・167・183)

位置 E区 r・s-34・35

主軸方位 N131°E

重複 36号住→35号住→32号住→33号住→34号住

規模 縦(1.80)m×横(2.20)m×深さ0.25m

形状 隅丸方形か?

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色土である。下半部は粘性を持つ灰黄褐色土である。

掘り方 ローム漸移層ブロック及びAs-Cを含む褐色土により埋められていた。北側は床面よりほとんど下がらないが、南側は遺物がまとまって出土した部分を中心として床面より約15cm前後下がる。明確な床下土坑、ピット等は検出されなかった。

床面 貼り床有り。床面はほぼ平坦であるが、掘り方がある部分については緩やかに窪む。床は特別に硬くしまつてはいなかった。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 カマド内から甕の破片が、カマド手前から2点ほどの土器片が出土した。他はすべて掘り方調査時に破片で出土したものである。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長90cm 最大幅55cm 焚き口幅31cm

袖 有り。

煙道 住居壁を切り込んで、約75cm外へ延びる。

遺存状態 非常に良く残っていた。カマド構築材には主に角礫や亜角礫が使用され、その間を粘土で埋めて全体が形作られていた。手前の大形の礫はもともとは両袖の上に乗っていたものと考えられる。燃烧部から煙道にかけてはよく焼けていたが、床面に純粋な焼土層や灰層はなかった。

遺物出土状態 カマド壁や左袖から瓦の破片が出土したが、礫とともにカマドの構築材として使用されたものと思われる。

備考 時期不明。

35号住居跡 (第252・318図、P L147・167・181)

位置 E区 r・s-34・35

主軸方位 N83°E

重複 36号住→35号住→32号住→33号住→34号住

規模 縦3.50m×横(2.40)m×深さ0.22m

形状 長方形か?

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。34号住の埋没土よりもAs-Cの量は多い。

掘り方 北半部は掘り方を持たないが、南半部は床面より約3cm前後下がる。砂質で単一的な褐色土が堆積していた。特に明確な床下土坑、床下のピット等は検出されなかった。

床面 貼り床有り。床面はほぼ平坦であり、良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 灰釉陶器破片(35住1)が南東隅から、北西隅から土器小破片が3点、その他は小破片が散在的に出土した。

カマド 位置 不明。南壁の可能性有り。

備考 10世紀前半頃の住居と考えられる。

36号住居跡 (第252図、P L147)

位置 E区 r-35

主軸方位 N86°E

重複 36号住→37号住

規模 縦2.00m×横(0.90)m×深さ0.12m

形状 不明。

埋没土 As-Cを多量、ローム漸移層ブロック溶混を含む暗褐色土である。

掘り方 明確な掘り方は持たない。床下土坑、床下のピット等もない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であるが、若干の凹凸を有する。

貯蔵穴 位置 不明。

4. 平安時代

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 時期判定の参考にできるような遺物は出土しなかった。

カマド 位置 不明。

備考 10世紀中頃以前と考えられるが、明確な時期は不明である。

37号住居跡 (第253・318図、P L147・167)

位置 E区q・r-34・35

主軸方位 N88°E

重複 38号住→37号住→39号住 37号住→84号住

規模 縦2.80m×横2.70m×深さ0.11m

形状 隅丸方形

埋没土 As-Cを多く、暗褐色土ブロックを斑状に含む茶褐色～黄褐色土である。南側の方が、As-Cの量がやや多い。

掘り方 As-Cを少量、焼土粒子や灰白色粘質土、ローム漸移層ブロック溶混等が混じる暗褐色～褐色土により埋められていた。床面より深いところで約15cm程下がる。カマド手前の2基の土坑は本住居跡に伴うものとは考えられない。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬く良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 南東隅

規模 長径約50cm 短径約40cm 深さ約5cm

形状 楕円形

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 中央部よりやや南西寄りの部分に小破片で散在的に出土した。全体的に遺物量も少なかった。

カマド 位置 東壁中央よりやや北寄り

規模 全長91cm 最大幅88cm 焚き口幅48cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約65cm外へ延びる。

遺存状態 極めて良く残っていた。角礫や亜角礫を配置して、その間を粘土で固定して全体の形を整形

していた。燃焼部は特に良く組まれており、礫は赤変していた。焚き口南側には約5cm程の灰層があった。掘り方は使用面より約8cm程下がる。

遺物出土状態 わずかに甕破片等の土器片が出土している。角礫及び亜角礫が多く検出された。

備考 10世紀前半頃の住居と考えられる。

38号住居跡 (第253・318図、P L147・167)

位置 E区q・r-34・35

主軸方位 N89°E

重複 38号住→37号住→39号住

規模 縦(3.30)m×横4.00m×深さ0.24m

形状 隅丸方形か?

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。

掘り方 As-Cや暗褐色土ブロックを斑状に含む暗灰黄褐色～黄褐色土である。床下土坑1、長径約88cm、短径約65cm、深さ約25cm、床下土坑2、長径約95cm、短径約85cm、深さ約45cmがある。部分的に床面より約10cm程下がる。

床面 貼り床有り。全体にやや凹凸が有り、特に床下土坑1は凹凸が大きい。床下土坑1上で約10cm程の貼り床があるが、それ以外のところでは見られない。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 西半部、特に南西部から比較的まとまって小破片の状態出土した。図化した杯(38住1・2)はいずれも床下土坑の西側から検出されたものである。

カマド 位置 東壁に位置するものと考えられるが、37号住に壊されているため不明である。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

39号住居跡 (第254・255・318図、P L147・167)

位置 E区q-35

主軸方位 N90°E

重複 38号住→39号住 40号住→39号住

II 検出された遺構と遺物

規模 縦2.10m×横3.10m×深さ0.09m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-Cを少量、茶褐色土ブロックを斑状に含む暗褐色土である。

掘り方 As-Cを少量含む暗褐色土により埋められていた。西側の床下土坑上では灰や炭化物の層が確認された。(なお、これらの床下土坑が40号住に伴うものか、39号住に伴うものかは不明であるが、調査時所見では40号住のものと推定した。)

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、特別に硬くしまってはいなかった。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 角礫及び亜角礫は出土したが、土器片はほとんど出土しなかった。わずかに須恵器甕破片が若干検出されたのみであり、明確な時期判定に使えるような遺物は1点もなかった。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長127cm 最大幅118cm 焚き口幅63cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約83cm外へ延びる。

遺存状態 比較的良く残っていた。円礫や亜角礫を配置し、その間を粘土でおさえ全体を形作る手法は37号住のカマドと良く似ているが、こちらの方がやや角が丸い礫が多いように思われる。礫は火熱のため若干赤変していた。焚き口か、燃焼部に部分的に焼土が残っていた。

遺物出土状態 遺物はまったく出土しなかった。

備考 住居の切り合い関係から、10世紀後半以降～11世紀代のものと考えられる。

40号住居跡 (第254・255・318・338図、P L148・168・181)

位置 E区q-35・36

主軸方位 N86°E

重複 40号住→39号住

規模 縦(1.50)m×横3.20m×深さ0.14m

形状 不明。

埋没土 As-Cを多く含む灰褐色土である。下半部は灰褐色粘質土ブロックを含む。

掘り方 カマド手前等に約3cm前後の灰を含む暗褐色土が認められた。カマド手前を除く部分に6基の床下土坑が検出された。径約60cmの円形で小形の床下土坑2・3、長径約140cm、短径約75cmの長楕円形の床下土坑4、径約75cm前後の中形の床下土坑1、長径約100cm以上のやや楕円形を呈するも床下土坑5・6(このうち39号住内に位置する床下土坑2・5・6は40号住に伴うものとは言えないと思われる。)

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 北東部から土器の小破片が出土したが、それ以外はほとんどカマド内もしくはその手前からの出土である。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長122cm 最大幅82cm 焚き口幅38cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約35cm外へ延びる。

遺存状態 カマド燃焼部は若干の礫と粘土によって形作られていたものと考えられる。39号住などに比べると使用されている礫の量は少ない。右袖側には未固結凝灰岩と角礫と焼土が部分的に残っていた。左袖側には厚さ約10cm程の粘土層が残っていた。使用面に焼土層や灰層は残っていなかった。

遺物出土状態 カマド内から甕の小破片が、カマド手前から右袖側にかけて甕破片が出土した。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

41号住居跡 (第256・318図、P L148・168)

位置 E区r-38

主軸方位 N86°E

重複 無し。

4. 平安時代

規模 縦 (1.80) m×横 (2.50) m×深さ0.29m

形状 不明。

埋没土 茶褐色土ブロックを斑状に、As-Cを少量含む暗褐色土である。

掘り方 As-Cを少し含む暗褐色土により埋められていた。確認された部分の中央が東西にやや高く、それを境に南側と北側が緩やかに窪む。北東部と南東部に径約65cm程で、深さ約5cm程の浅い床下土坑がある。

床面 貼り床有り。南半部は比較的平坦であるが、北半部は緩やかに窪む。差ほど硬質な面は残っていなかった。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 埋没土中より若干の土器小破片が出土した。

カマド 位置 不明。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

42号住居跡 (第257・258・318・338・344図、P L148・168・181・184)

位置 E区 r-37、s-38

主軸方位 N91°E

重複 41号住→42号住 39号住→42号住

規模 縦3.00m×横3.80m×深さ0.31m

形状 隅丸方形

埋没土 As-Cを多く、茶褐色土ブロックを斑状に炭化物を多く含む暗褐色土である。下半部の方がわずかに暗い。

掘り方 北半は床面からほとんど下がらず、明確な掘り方は持たないが、南側のカマド手前付近は床面より約7、8cm～20cm程下がる。掘り方調査時に長径約55cm、短径約45cm、深さ約10cmのピット2が、長径約70cm、短径約54cm、深さ約18cmのピット1が検出された。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、北側の39号土坑に近い部分は若干窪む。

貯蔵穴 位置 不明。ピット2がその可能性がある。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 遺物は北東隅及び北西隅を除いた、部分から出土した。南西部は攪乱により壊されていた。ピット1から42住3の杯が、カマド右脇から鉄製紡錘車の芯棒(鉄10)が検出された。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長172cm 最大幅178cm 焚き口幅40cm

袖 右袖はあまりはっきりしないが、左袖は長さ約65cm、高さ約18cm程残っていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約80cm外へ延びる。

遺存状態 比較的良く残っていた。角礫や亜角礫、円礫を用いてカマドを組み上げ、その間を粘土で埋める手法により形作られていた。カマド手前からは多くの炭化物片が検出された。掘り方は焚き口部分が約10cm程緩やかに窪む。

遺物出土状態 右袖部から須恵器の甕(42住4)破片が、カマド内より甕の破片等が出土した。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

43号住居跡 (第259・319図、P L148・168)

位置 E区 q・r-38

主軸方位 N88°E

重複 43号住→37号土坑

規模 縦(0.90)m×横(1.10)m×深さ0.25m

形状 隅丸方形か?

埋没土 As-Cを多量、礫(φ約1～3cm)を含む暗褐色土である。中心部にAs-Cの量が多く、周辺部は少ない。

掘り方 As-Cをほとんど含まない暗褐色土で埋められていた。床面より約5cm程下がるが、目立った床下土坑、ピット等はなかった。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、あまり硬くしまった面はなかった。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

II 検出された遺構と遺物

遺物出土状態 土器破片は特に集中する部分はなく、ほぼ全体から散在的に出土した。

カマド 位置 不明。

備考 時期不明。

44号住居跡 (第260・319図、P L149・168)

位置 E区P-38

主軸方位 N72°E

重複 無し。

規模 縦(0.90)m×横3.20m×深さ0.41m

形状 隅丸方形か?

埋没土 As-Cを多く、茶褐色土ブロックを斑状に含む暗褐色土である。

掘り方 As-Cを少量含む暗褐色土により埋没していた。北半部は床面より約5cm程下がるが、床下土坑等明確な掘り方はなかった。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、特に硬くしまった面は認められなかった。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 埋没土中より須恵器椀の小破片が出土したが、床面か掘り方から検出された遺物は縄文土器や石器等、縄文時代の遺物であった。

カマド 位置 不明。

備考 時期不明。

45号住居跡 (第261・262・319図、P L149・168)

位置 E区P・Q-34・35

主軸方位 N91°E

重複 77号住→45号住→46号住

規模 縦3.50m×横3.70m×深さ0.32m

形状 隅丸方形

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色～褐色土である。下半部の方がやや明るく、As-Cの量もやや少ない。かなりしまりが良く、人工的に埋め戻されている可能性がある。

掘り方 As-Cを少量含む褐色～暗褐色土により埋

没していた。下半部は暗褐色土に褐色土ブロックが斑状に混じる。南側中央部分は幅約90cm、床面からの深さ約20cm程窪む。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。

規模 長径約58cm 短径約54cm 深さ約15cm

形状 円形

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 住居南側中央より若干の小破片が出土したが、それ以外はほとんどカマド内及びその周辺からの出土であった。

カマド 位置 東壁南東隅

規模 全長113cm 最大幅61cm 焚き口幅34cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約100cm程外へ延びる。

遺存状態 上半部は削平されたものと思われる。燃烧部に落ち込んでいた細長い礫は、カマドの焚き口の上に載っていた可能性がある。構築材には礫と粘土が用いられていた。カマド手前には灰層があった。右袖側に残る石組みは、北側のカマドを作り変える前の古いカマドの可能性がある。

遺物出土状態 カマド煙道先端部から、まとまって羽釜の大形破片が出土した。カマドの上半部が削平されているため判断が難しいが、カマドで使用されていた可能性があるものもあった。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

46号住居跡 (第261・262・319・320図、P L149・168・169)

位置 E区P・Q-34・35

主軸方位 N95°E

重複 77号住→45号住→46号住

規模 縦3.20m×横4.10m×深さ0.46m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色～黒褐色土である。上半部は礫(φ約1～3cm)や茶褐色土ブロッ

クを斑状に含む。下半部は As-C の量がやや少なく、ロームブロックを含む。

掘り方 南半は黒褐色土を含む暗褐色土、北半は暗褐色土を含むにぶい黄褐色土により埋められている。全体に床面より約 5 cm 前後下がる。長径約 70 cm、短径約 65 cm、深さ約 27 cm の床下土坑がある。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。

貯蔵穴 位置 北壁寄り中央。、本住居跡よりも新しい可能性もある。

規模 径約 70 cm 深さ約 36 cm

形状 ほぼ円形

周溝 幅約 10 cm、深さ約 3 cm 前後で南東隅からカマド左袖手前まで廻る。

柱穴 無し。

遺物出土状態 カマド及びカマド手前等を除くと、ごくまばらに小破片が出土しただけである。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長 125 cm 最大幅 97 cm 焚き口幅 25 cm

袖 両袖には石と粘土が用いられていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約 65 cm 外へ延びる。

遺存状態 比較的良く残っていた。カマド構築材には主に礫と粘土が用いられていたが、他のカマドに比べ円礫が多かった。燃焼部壁は赤く焼けていた。支脚には円礫が 2 つ立てられていた。手前の大きめの角礫は焚き口の上に乗っていたものと思われる。カマド底には約 10 cm 程の焼土と灰の層が堆積していた。掘り方では焚き口部分は緩やかに窪む。

遺物出土状態 カマド内及びその手前からは多くの甕破片、杯等が出土していたが、ほとんどのものがカマド構築材の一部に使用されていたものと思われる。

備考 10 世紀後半頃の住居と考えられる。

47号住居跡 (第263・320・338・345図、P L 149・169・181・184)

位置 E 区 m-35

主軸方位 N86°E

重複 無し。

規模 縦 3.20 m × 横 4.10 m × 深さ 0.47 m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-C を多量に含む暗褐色～黒褐色土である。下半部は As-C の量は少なく、ローム漸移層ブロックを多く含む。

掘り方 As-C を少量、焼土粒子を微量含む黒褐色土により埋められていた。床面より約 5～10 cm 程下がる。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。掘り方調査時に、ピット 4 (長径約 80 cm、短径約 60 cm、深さ約 20 cm) が確認されたが、これが貯蔵穴の可能性はある。

周溝 無し。

柱穴 掘り方調査時に長径約 45 cm、短径約 23 cm、深さ約 5～10 cm のピット 3 基が検出されたが、明確な柱穴は確認できなかった。

遺物出土状態 住居全体から小破片が散在的に出土したが、ほとんどがカマド内及びカマド手前からのものであった。カマド手前からまとまって出土した破片は接合し、47 住 4 の甕となった。同甕は底部表面は剝落しており、胴上部までススが付着していたので、カマドで火にかけて使用していたものが転げ落ちたものと考えられる。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長 102 cm 最大幅 70 cm 焚き口幅 20 cm

袖 左袖は角閃石安山岩の切り石の上に円礫が載せられていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約 55 cm 外へ延びる。

遺存状態 良好に残っていた。角礫や角閃石安山岩の切り石を利用して組まれており、左袖ばかりでなく焚き口部分にも切り石が敷かれていた。燃焼部から煙道部分にかけては良く焼けていた。手前の角礫や切り石は構築材として使用していたにしては量が多すぎる。掘り方は使用面より約 20 cm 窪み、その中には焼土粒子や炭化物を含む灰が堆積していた。

遺物出土状態 カマド奥から正位で出土した鉢 (47

II 検出された遺構と遺物

住2)は支脚として据えられていたものと考えられる。羽釜の大形破片が焚き口から左袖側にかけて出土した。手前から多くの角礫、切り石が出土した。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

48号住居跡 (第264・320・346図、P L150・169・184)

位置 E区 l・m-34

主軸方位 N84°E

重複 無し。

規模 縦3.00m×横2.90m×深さ0.39m

形状 隅丸方形

埋没土 中央部はAs-Cを多く含む暗褐色土、その周辺はAs-Cと漸移層ブロックを多量に含む茶褐色土、さらに住居縁辺はAs-Cを少量含む黒褐色土である。

掘り方 黒褐色土とロームの混合土により埋められていた。床面より約2、3cm～5、6cm程下がる。

カマド西側に長径約95cm、短径約55cm、深さ約20cmの床下土坑がある。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、北西隅の土坑付近はやや下がる。

貯蔵穴 **位置** 北西隅。セクションでは上部にしまりの良い層があり床下土坑の可能性も否定できないが、本土坑がその可能性が高い。

規模 長径約95cm 短径約85cm 深さ約50cm

形状 ほぼ円形

周溝 幅約15cm、深さ約5cmで北東付近と西壁～南西隅にかけて廻る。

柱穴 無し。

遺物出土状態 北西隅を除き、ほぼ住居全体から破片の状態で出土した。南半、北半で分けると南半部の方に集中する傾向が見られた。床面よりもやや浮いているものが多かった。

カマド **位置** 東壁南寄り

規模 全長100cm 最大幅115cm 焚き口幅68cm

袖 左袖は粘土で、右袖は細長い円礫を使用していた。

煙道 住居壁を切り込んで、約35cm外へ延びる。

遺存状態 石組みのものに比べるとあまり良好とは言えない。東壁に対して直交せず、やや北向きに作られていた。左袖の粘土は赤く焼けていた。掘り方は焚き口部分で使用面より約20cm程下がり、そのうち約18cm程は焼土粒や炭化物を含む灰層であった。

遺物出土状態 カマド奥と両袖部分から羽釜の破片等が出土した。両袖のものは構築材の一部として使用されていたものと思われる。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

49号住居跡 (第265・321・346図、P L150・170・184)

位置 E区 k-35

主軸方位 N110°E

重複 無し。

規模 縦2.60m×横2.60m×深さ0.33m

形状 隅丸方形

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。床面近くには、As-Cをわずかに含むやや黄色味を帯びるしまりの良い暗褐色土が約2～3cm堆積していた。

掘り方 カマド周辺を除き、明確な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦で硬くしまっていた。床面にはやや粘性のあるしまりの良い土が堆積していた。

貯蔵穴 **位置** 北東。西壁中央の長径約80cm、短径約45cm、深さ約20cmの長楕円形を呈する土坑がその可能性がある。

規模 長径約50cm 短径約40cm 深さ約35cm

形状 楕円形

周溝 幅約15cm前後、深さ約3cm前後で北壁～南壁カマド右側まで廻る。

柱穴 無し。

遺物出土状態 小破片がごくわずかに住居東半部より散在的に出土した。それ以外にほとんど礫が出土した。

カマド **位置** 南東隅。

規模 全長65cm 最大幅62cm 焚き口幅25cm

袖 両袖は1つの細長い石を2分割し、その上に角礫が据えられていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約32cm外へ延びる。

遺存状態 天井は崩れていたが、比較的良く残っていた。焚き口部分にあった未固結凝灰岩は天井石の可能性が高い。手前の礫も構築材の可能性が高い。未固結凝灰岩は近くから切り出してきているものと思われるが、風化のため削り痕は確認できなかった。両袖よりも奥側は粘土で作られており赤変していた。

遺物出土状態 燃焼部とカマド右前から出土した内黒土器が接合した(49住1)。その他に小形杯破片(49住2)が若干出土しただけが目立った遺物はなかった。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

50号住居跡 (第266・321図、P L150・170)

位置 E区 i・j-34・35

主軸方位 N95°E

重複 50号住→北東隅土坑

規模 縦2.80m×横3.40m×深さ0.38m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-Cを多く含む黒褐色～暗褐色土である。下半部の方が明るく、As-Cの量も少ない。

掘り方 As-Cを少量含む黒褐色土である。掘り方の土というよりも床面に踏み固められた土という感じであり、特別な床下土坑等は持たない。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。

貯蔵穴 **位置** ピット1長径約55cm、短径約50cm、深さ約22cm及びピット2長径約60cm、短径約40cm、深さ約26cmもその可能性がある。

規模 長径約50cm 短径約45cm 深さ約10cm

形状 ほぼ円形

周溝 有り。

柱穴 不明。

遺物出土状態 カマド及びカマド周辺部を中心として、東半部より出土した。小破片が多かった。遺物量は少ない。

カマド **位置** 東壁南寄り

規模 全長133cm 最大幅120cm 焚き口幅50cm

袖 左幅は円礫と粘土により作られていたが、右袖は不明瞭であった。

煙道 住居壁を切り込んで、約60cm東へ延びる。

遺存状態 燃焼部底面及び壁は、良く焼けており赤変していた。左袖に使われていた石の内側とカマド手前に散っていた礫も焼けており、構築材に使用されていたものと考えられる。掘り方は使用面より約27cm下がり、その中には灰がつまっていた。

遺物出土状態 羽釜や甕破片が、燃焼部から右袖側にかけて出土した。カマド構築材として使用されていた可能性もある。

備考 11世紀代の住居と考えられる。

51号住居跡 (第267・268・321・322・338図、P L150・170・171・181)

位置 E区 j・k-33

主軸方位 N91°E

重複 52号住→51号住

規模 縦3.00m×横3.80m×深さ0.28m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。下半部はロームブロックを少量含みやや明るい。

掘り方 ロームブロックを含む黒褐色土により埋められていた。掘り方の底に近い方が、含まれるロームブロックの割合が多い。全体にかなり凹凸を持ち、南東隅から西壁にかけては不規則に窪む。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、若干北側に傾斜している。部分的に硬くしまった部分もあったが、全体的にはあまり硬くしまった状態ではなかった。

貯蔵穴 **位置** 南東隅。土坑1長径約115cm、短径約95cm、深さ約20cmの楕円形、これもその可能性がある。

規模 長径約64cm 短径約60cm 深さ約17cm

形状 ほぼ円形

周溝 幅約20cm、深さ約3cmで西壁中央～カマド左

II 検出された遺構と遺物

側手前約50cmまで北側に廻る。

柱穴 不明。南西隅に角礫があったが、柱の根石の可能性も否定できない。

遺物出土状態 北壁側を除き、ほぼ全体から多量の遺物が出土した。床面から浮いたものもあるが、床に付いたものも多かった。接合関係はカマド内同士やカマド内とその手前の遺物等、カマドを中心とする接合関係のものが多いが、北東隅の土坑の端から出てきたものとカマド内の羽釜の接合例（51住10）もある。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長115cm 最大幅110cm 焚き口幅42cm

袖 手前に長く延びるものではないが、角礫と粘土により構築されていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約65cm外へ延びる。

遺存状態 天井部分は崩落して残存していなかったが、比較的良く残っていた。角礫を用いてその間を粘土で埋める手法は他のカマドと同じであるが、燃烧部の掘り方からも多くの羽釜破片が出土しており、下に敷かれていた可能性もある。掘り方は使用面より約15cm程下がり、そのうち厚さ約8cmは灰層であった。カマド手前は長径約65cm、短径約55cm、深さ約9cm程窪む。

遺物出土状態 破片に割れた状態で多量の羽釜が出土した。掘り方からも多くの羽釜が出土したが、使用面のものと接合するもの（51住11）もある。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

52号住居跡（第267・268・322・338・347図、P L 151・171・181・185）

位置 E区k-32・33

主軸方位 N89°E

重複 52号住→51号住

規模 縦2.10m×横3.10m×深さ0.15m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色土である。炭化材を多く含む。

掘り方 陣場泥流層の小礫やロームを含む黒褐色土

で埋められていた。全体的にかなり凹凸を持つ。北西の大形礫のまわりは、若干土の色調は暗く掘り方をもつものと思われる。掘り方も北側の方がやや下がる傾向にある。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、若干北側の方が下がる。南側の方が、陣場泥流層の礫層までの厚さが薄いためと考えられる。

貯蔵穴 位置 南東隅。かなり浅く明瞭なものはないが、掘り方調査時に確認された本土坑がその可能性がある。

規模 長径約80cm 短径約75cm 深さ約5cm

形状 ほぼ円形

周溝 無し。

柱穴 不明。南西隅の径約35cm、深さ約10cmのピット2基、カマドから50cm程手前の同様な小ピットと北西隅の同様な小ピットもその可能性がある。北西部の大形礫も柱の根石の可能性もある。

遺物出土状態 住居南東部のカマド手前からの出土が多かった。羽釜破片等が多いが、52住1のようにほぼ完形の杯も出土した。住居そのものは浅く上はかなり削平されているものと思われるが、全体から多くの炭化材や炭化物粒子が出土しており、焼失家屋の可能性が高い。南壁より鉄-15が出土した。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長67cm 最大幅（45）cm 焚き口幅35cm

袖 不明。

煙道 住居壁を切り込んで、約35cm外へ延びる。

遺存状態 使用面より上は削平されており残っていなかった。焚き口部分にかろうじて、長径約35cm、短径約25cmの炭化物や焼土粒子を含む範囲を確認した。掘り方はやや不規則に窪むが、石の下とその対面側の凹みが両袖の痕跡の可能性もある。

遺物出土状態 焚き口部分から羽釜が1点出土した。それ以外の羽釜破片はカマド右前の貯蔵穴付近からの検出であった。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

53号住居跡（第269・323・338図、P L 151・171・181）

位置 E区 i・j-32・33

主軸方位 N95°E

重複 無し。

規模 縦3.10m×横3.10m×深さ0.36m

形状 隅丸方形、西壁は段を有する。

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。下部はAs-Cの量はやや少なく、暗黄褐色土ブロックやローム漸移層ブロックを含む。

掘り方 As-Cを含む黒褐色～暗褐色土により埋められていた。カマド手前の床下土坑の壁には粘土が貼り付けられており、中には暗褐色土とロームの混合土が詰められていた。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、わずかに北側に傾斜する。

貯蔵穴 **位置** 南東隅。ピット1長径約80cm、短径約60cm、深さ約26cm、ピット2長径約70cm、短径約65cm、深さ約25cmの隅丸方形がある。

約26cm程の礫が右袖に近い方から出土している。

規模 長径約50cm 短径約40cm 深さ約24cm

形状 楕円形

周溝 無し。

柱穴 なし。

遺物出土状態 全体的に遺物量はあまり多くない。カマド部分を除き住居内全体から小破片の状態で散在的に出土したが、レベル的には床面近くのものが多い。

カマド **位置** 東壁南寄り

規模 全長(60)cm 最大幅95cm 焚き口幅40cm

袖 左袖には角礫と瓦が使用されていた。右袖は粘土で作られていた。

煙道 攪乱で切られ不明。

遺存状態 東側を攪乱で切られていたため、残りはあまり良く無かった。燃焼部中央と両袖の粘土を使用した部分は良く焼けており赤変していた。焚き口部分から燃焼部にかけては、炭化物と焼土粒子が散っていた。掘り方は使用面より約15cm程下がり、そのうち約10cm程が灰層であった。灰層の下には硬くしまった暗黄褐色土があった。

遺物出土状態 カマド燃焼部から内黒の椀(53住1)が、左袖部から燃焼部壁にかけて瓦5.6が出土した。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

54号住居跡(第270・323図、P L151・171)

位置 E区 j-31、k-31・32

主軸方位 N109°E

重複 86号住→84号住→56号住→54号住→82号住

規模 縦(0.70)m×横(1.20)m×深さ0.16m

形状 縦長方形

埋没土 As-Cを多量に、焼土粒子をやや多く含む暗褐色土である。82号住の埋没土よりもやや暗い。

掘り方 明確な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。比較的平坦であり、良くしまっていた。

貯蔵穴 **位置** 不明。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 北壁から西壁にかけて、かなり壁に近い部分から出土した。82号住や86号住と重複する部分も多く平面的にどの住居に伴うものか難しいところであるが、セクションや床面のつながりから本住居に伴うものと判断した。

カマド **位置** 東壁中央

規模 全長80cm 最大幅100cm 焚き口幅52cm

袖 陣場泥流層を掘り残して作られていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約60cm外へ延びる。

遺存状態 上部は削平されており、あまり良好とは言えない。燃焼部中央の礫は支脚の可能性がある。袖も含めカマド全体が陣場泥流層を掘り貫いて作られているため使用面からほとんど下がらないが、袖の内両側に小ピットが検出された。手前から粘土が検出された。

遺物出土状態 遺物はほとんど出土しなかった。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

55号住居跡(第271・272・323・338図、P L151・171・181)

II 検出された遺構と遺物

位置 E区 j・k-31

主軸方位 N87°E

重複 86号住→84号住→56号住→54号住→81号住→55号住

規模 縦2.10m×横3.30m×深さ0.08m

形状 隅丸横長方形

埋没土 As-Cを多量に含むしまりの良い暗褐色土である。

掘り方 特別な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。

貯蔵穴 無し。南西部の土坑はセクションで確認したが、明らかに住居よりも新しいものであった。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 掘り方及び埋没土中より小破片で甕や杯類が出土したが、完形の遺物等はなかった。

カマド 位置 東壁中央やや北寄り

規模 全長85cm 最大幅85cm 焚き口幅37cm

袖 右袖は不明瞭であるが、左袖は礫を粘土で挟み込む様に形作られていた。

煙道 掘り方は住居壁を切り込んで、約50cm程外へ延びるが使用面はほとんど出ない。

遺存状態 上部は削平されており、あまり良好ではなかった。一部には礫が用いられていたが、ほぼ全体は粘土より形作られていた。中央部の礫は天井に使用されていた可能性がある。燃焼部奥壁は良く焼けており、手前には径約70cm×70cmの範囲の炭化物を含む焼けた粘性土があった。掘り方は使用面より約7cm程下がる。

遺物出土状態 杯や甕の小破片が若干出土した。その他は角礫であった。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

56号住居跡 (第273・323・338図、P L152・172・181)

位置 E区 j・k-31・32

主軸方位 N89°E

重複 86号住→84号住→56号住→82号住

規模 縦3.70m×横2.20m×深さ0.16m

形状 隅丸縦長方形

埋没土 As-Cを多量、焼土ブロック少量、礫を含む暗褐色土である。

掘り方 カマド手前に、炭化物粒子や焼土粒子を少量含む暗灰褐色土により埋められた長径約110cm、短径約80cm、深さ約10cmの楕円形の床下土坑があるが、それ以外は目立ったものはない。

床面 貼り床一部有り。ほぼ平坦であるが、やや南側が下がる傾向がある。床下土坑の影響でその上は若干窪む。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅約15cm、深さ約5cmで北壁と西壁の一部に廻る。

柱穴 無し。

遺物出土状態 ほぼ全体から出土したが、図化した完形もしくはそれに近い杯類はレベル的には床面よりもやや浮いた状態ではあったが、北壁に近い部分から出土した。56住2と3は2枚重ねて正位の状態でも出土した。カマド手前の床下土坑内から若干の土器が出土した。

カマド 位置 東壁中央

規模 全長188cm 最大幅78cm 焚き口幅60cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約55cm外へ延びる。

遺存状態 削平されており、ほとんど残っていなかった。カマド右側には若干粘性土が残っており、袖の一部であった可能性もある。カマド中央の角礫は天井石の一部もしくは支脚の可能性もある。

遺物出土状態 ほとんど遺物の出土はなかった。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

57号住居跡 (第274~276・323・324・338・347・348図、P L152・172・181・185)

位置 E区 g・h-33・34

主軸方位 N89°E

重複 58号住→57号住

規模 縦3.80m×横4.70m×深さ0.38m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。下部に行くに従ってAs-Cの量は少なくなり、ロームブロックや炭化物粒子を含むようになる。

掘り方 ロームブロックを含む暗褐色～黒褐色土である。南壁中央付近に径約80cm、深さ約20cm程の床下土坑3基が、北壁中央に同規模の床下土坑があった。いずれの土坑の埋土にも粘土が含まれており、特に床下土坑3の壁面には灰紫色の粘土が貼られていた。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。北東側で58号住と重複しており、その部分では若干下がっていた。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅約10cm、深さ約4cmで西壁側のみで検出された。

柱穴 不明。掘り方調査時に北西隅より長径約45cm、幅約30cm、深さ約8cmの小ピットが検出された。

遺物出土状態 ほぼ全体から出土したが、北東部分はやや少ない傾向が見られた。ほとんどのものが床よりあまり浮かない状態で検出された。カマド以外では住居中央部にまとまりが見られた。土器では羽釜、内黒の椀、甕が、鉄器では鉄釘が出土した。それ以外に西壁側で台石が南西隅付近で大形の砥石(S3)が出土した。西側の小鍛冶遺構(61号住居跡)と何らかの関係を推定させる。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長130cm 最大幅151cm 焚き口幅32cm

袖 礫を用い、粘土で形作られていた。

煙道 無し。

遺存状態 天井部分は崩落していたものの、比較的良く残っていた。焚き口から左袖にかけて検出された細長の礫はその可能性が高い。燃焼部は板状の円礫や角礫を立てて用い、その間を粘土で埋めて形作られていた。中央には細長い円礫が立てられていた。支脚と思われる。内壁は良く焼けており赤変していた。底には約10cm程の灰が堆積していた。掘り方は使用面より約25cm程下がる。

遺物出土状態 燃焼部から左袖側にかけて多くの椀や杯類が出土した。カマドの構築材の一部として使用されていた可能性もある。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

58号住居跡 (第274・275・324・325・339図、P L152・173・181)

位置 E区g・h-33・34

主軸方位 N84°E

重複 58号住→57号住

規模 縦3.20m×横3.80m×深さ0.32m

形状 隅丸方形か？

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。ロームブロックも少量含まれるが、下部の方が含まれる量はやや多い。

掘り方 ロームと黒褐色土の混合土により埋められていた。南側の2/3は緩やかに窪む。その中に長径約85cm、短径約60cm、深さ約20cmの楕円形の床下土坑がある。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。

貯蔵穴 位置 北東隅

規模 長径約85cm 短径約74cm 深さ約21cm

形状 ほぼ円形

周溝 幅約10cm、深さ約3cmで東壁から北壁にかけて廻る。

柱穴 不明。掘り方調査にP1～P3までの径約30cm、深さ約15cm前後の小ピット3基を検出した。

遺物出土状態 カマド及び貯蔵穴を除くと、北東隅から鉄製の紡錘車や土器片が出土した。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長124cm 最大幅100cm 焚き口幅60cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約50cm外へ延びる。

遺存状態 上部は削平され、天井は崩れておりあまり良好ではなかった。燃焼部左右の立っていた礫は原位置を動いていないものと思われる。中央部にみられる長い円礫は天井石と思われる。カマド手前に

II 検出された遺構と遺物

は焼土及び炭化物の粒子が散っていた。掘り方は使用面より約15cm下がる。約10cm程の灰層があった。

遺物出土状態 構築材の礫の上や礫と礫の間から土片が出土した。カマド内から出土したものと右脇の貯蔵穴内から出土したものとが接合した須恵の椀（58住3）掘り方からも羽釜（58住4）が出土しており下に敷かれていた可能性がある。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

59号住居跡（第277・278・325・349～351図、P L153・173・185～187）

位置 E区f・g-34

主軸方位 N106°E

重複 60号住→59号住

規模 縦（1.20）m×横4.00m×深さ0.26m

形状 不明。

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。上部はやや砂質で、ロームブロックは含まない。下部はAs-Cの量が少なく、ロームブロックを含む。

掘り方 総社砂層ブロックを多く含む明褐色土により埋められていた。カマド手前を除き、特別な土坑とは確認できなかった。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、特別にしまりは良くなかった。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。掘り方調査時にカマドの左右の袖前にそれぞれ径約40cm、深さ約20cm程の小ピットが検出された。カマドの施設に伴うものか、あるいは柱穴になる可能性もある。

遺物出土状態 住居西側のほとんどを攪乱で壊されているため、カマド内及びその周辺を除くとほとんど遺物は出土しなかった。

カマド 位置 東壁南東隅

規模 全長182cm 最大幅100cm 焚き口幅55cm

袖 左袖は垂角礫と円礫が、右袖には角閃石安山岩の切り石が用いられていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約125cm外へ延びる。先

端に長径約30cm、短径約25cmの煙突が開く。

遺存状態 非常に良好な状態で残っていた。燃焼部の上には黄褐色粘性土が残っており天井と考えられる。煙道もこの集落の中では一番良い。燃焼部から煙道にかけては良く焼けていた。角閃石安山岩は焚き口中ほどに落ちていたが上に載っていた可能性がある。掘り方は使用面より約15cm程下がる。

遺物出土状態 煙突部分を除き、焚き口から燃焼部にかけて多くのものが出土した。遺物は多岐に亘り、灰釉陶器の椀（59住1）、内黒の椀（59住4）、須恵器の杯（59住3）、羽釜（59住8）、甕（59住6）などが出土した。甕や羽釜はカマドの壁内からも破片の状態で見出された。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

60号住居跡（第277・326図、P L153・174）

位置 E区f・g-34

主軸方位 N109°E

重複 60号住→59号住

規模 縦（2.80）m×横4.30m×深さ0.25m

形状 隅丸横長方形

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色～黒褐色土により埋没していた。下部は、ロームブロックや焼土粒子を少量含む。

掘り方 地山の総社砂層ブロックを多く含む黒褐色～明褐色土により埋められていた。南西隅には径約20cm、深さ約10cm程の小ピットが不規則に並ぶ。南東隅から西壁にかけて一列に浅い窪みが3基並ぶ。それ以外は不規則に凹凸を持つ。

床面 貼り床有り。カマド手前を除きほぼ平坦であり、非常に良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 南半部から散在的に小破片に割れた状態で出土した。60住4の羽釜底部は59号住のカマドから出土した破片とカマド右前から出土した破片が接合したものである。

4. 平安時代

カマド 位置 調査区壁のセクションから東壁南寄りと確認できた。

規模 不明。

袖 左袖の一部と考えられる粘土が確認された。

煙道 不明。

遺存状態 カマド本体は調査区の東壁と考えられる。壁セクションで焼土や粘土が確認された。掘り方は使用面より約6cm程窪み、その間には灰が堆積していた。

遺物出土状態 焚き口右側から羽釜（60住3）や須恵器の椀（60住2）が出土した。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

61号住居跡（第279・326・352～354図、P L153・174・187・188）

位置 E区g-32・33

主軸方位 N112°E

重複 無し。

規模 縦2.20m×横3.50m×深さ0.14m

形状 隅丸横長方形 北東隅がやや張り出す。比較的浅かった。

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色土である。

掘り方 ロームブロック、焼土粒子を少量含む暗褐色土である。全体にかなり凹凸を持ち、平面に比べて新たに径約20～30cm程の小ピットが4基ほど検出された。

床面 貼り床有り。緩やかな凹凸を持ち、北側が若干高くなる。床面は硬くしまつてはいなかった。

貯蔵穴 位置 南東隅

規模 長径約65cm 短径約64cm 深さ約9cm

形状 ほぼ円形

周溝 無し。

柱穴 不明。掘り方調査時に確認された小ピットがその可能性がある。

遺物出土状態 遺物の大半が南半部から出土した。特に、貯蔵穴及び炉跡や台石の周辺からまとまって検出された。61住7の羽口は先が炉の方を向いており、その場所に据えられていたものと思われる。ま

た炉の南隣りには円礫と亜角礫の台石（S1・2）があり、それらの周辺には微細なチップが散っていた。小スラグも確認されたがあまり大きなものではなく、鉄製農具等を直す程度の仕事をしていたものと考えられる。その他に羽釜の破片も散っていた。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長95cm 最大幅65cm 焚き口幅52cm

袖 無し。

煙道 住居壁を切り込んで、約50cm外へ延びる。

遺存状態 かなり上は削平されているものと思われる、ほとんど残っていなかった。手前の部分からは焼土と炭化物を含む粘性土が確認された。位置からしてカマドの可能性が高いが、炉跡の可能性も完全には否定できない。

遺物出土状態 中央部から円礫（S5）が、その隣りからは鉄錆の付着した亜角礫（S6）が出土した。羽釜（61住2・4）出土した。

炉跡 位置 住居内ほぼ中央

規模 長径約50cm 短径約50cm 深さ約10cm

形状 ほぼ円形

遺存状態 あまり良好な状態とは言えないが、床面及び壁は焼けており上が赤くその下が青く変色していた。

遺物出土状態 土器小破片や周辺から羽口（61住6・7）が出土している。炉内からは小スラグ、鉄滓も出土している。

台石周辺施設 位置 住居内中央寄りやや西壁寄り

規模 円礫の周辺は長径約65cm、短径約43cm、深さ約10cmの楕円形に窪む

遺存状態 多少動いている可能性はあるが、原位置からあまり大きくは動いていないものと思われる。台石を置く際に下をやや掘り窪めてから設置したものと思われる。西側の亜角礫のまわりにはそうした施設はなかった。

遺物出土状態 敲石や砥石に使用されたと考えられる礫（S3・4）が出土した。かなり多量のチップが散っていた。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物

62号住居跡 (第280・327・339・354図、P L154・174・181・188)

位置 E区g・h-30

主軸方位 N90°E

重複 78号住→62号住

規模 縦2.20m×横2.20m×深さ0.10m

形状 隅丸方形

埋没土 しまりの良くないAs-Cを多く含む暗褐色土である。

掘り方 ロームブロックを含む暗褐色～黒褐色土により埋められていた。埋没土に比べるとAs-Cの量は少ない。掘り方は床面より約3cm程下がる。

床面 貼り床有り。北東部の攪乱部分を除きほぼ平坦であり、非常に硬くしまっていた。

貯蔵穴 位置 南東隅。中央に円礫があり、若干の土器片も出土した。

規模 長径約48cm 短径約35cm 深さ約10cm

形状 ほぼ円形

周溝 幅約10cm、深さ約3cmで東壁～北壁にかけてと南壁中央で確認された。

柱穴 不明。南隅に長径約50cm、短径約48cm、深さ約25cmで土器片を出土した円形のピット1がある。南壁中央には長径約40cm、短径約38cm、深さ約8cmの円形ピットがある。

遺物出土状態 北東部の攪乱部分を除き、ほぼ全体から出土した。住居は上部がほとんど削平されており約10cm程しか残っていなかったが、多くの遺物が検出された。そのせいか床面に近いものが多かった。個体としては羽釜が多かったが、62住1のような杯も検出された。東壁中央付近からは刀子の(鉄21)も出土した。南東部の貯蔵穴上から検出された円礫は台石と考えられるが、穴の重石に転用された可能性もある。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長125cm 最大幅95cm 焚き口幅28cm

袖 左袖は明瞭ではなかったが、その位置に粘土が残っていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約55cm外へ延びる。

遺存状態 削平されており上部施設はほとんど残っていなかった。使用面までも約5cm程であった。カマド手前から貯蔵穴上を覆うように焼土粒子と炭化物粒子を含む灰層が検出された。灰層を除いていく過程で貯蔵穴上の円礫が確認された。掘り方は使用面より約10cm程下がる。燃焼部両袖は粘土により形作られておりそれをはずすと両脇が広がる。

遺物出土状態 カマド内のものは燃焼部の両壁に近いところから出土した。カマド手前の羽釜(62住3)はカマドで使用されていた可能性がある。燃焼部中央の細長い角礫は変色状況から壁に立っていた可能性がある。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

63号住居跡 (第281・327図、P L154・175)

位置 E区f・g-29・30

主軸方位 N112°E

重複 78号住→63号住→40号土坑

規模 縦2.80m×横3.40m×深さ0.27m

形状 隅丸方形

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色～黒褐色土である。

掘り方 As-Cを多く、ロームブロックを少量含む黒褐色土により埋められていた。床面より平均約2～3cm、深い所でも約5cm程であり特別な床下土坑等は持たない。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、中央より北寄り部分で長径約80cm、短径約60cm、深さ約10cmの浅い窪みがある。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 幅約10cm、深さ約5cmで、東壁から北壁と西壁まで廻る。

柱穴 不明。

遺物出土状態 カマド部分を除くと破片の状態ではほぼ全体から散在的に検出された。床直のものよりもやや浮いたものが多かった。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長135cm 最大幅(50)cm 焚き口幅(14)cm

袖 左袖のみ検出された。右袖は40号土坑により壊

4. 平安時代

されていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約100cm外へ延びる。

遺存状態 南側は40号土坑により壊されており、北壁だけ残存していた。左袖の先端には円礫が使用され、粘土で固定されていた。奥の円礫も掘り方壁に付けるように立てられていた。要所要所に円礫を用い、その間を粘土に土器片を貼り付けて作られていた。掘り方は使用面より約10cm程下がり、燃焼部から煙道部分にかけて2カ所窪みを有する。

遺物出土状態 カマド内からは多くの羽釜(63住5)や甕(63住4)が検出されたが、壁に突き刺さっているものや粘土で貼り付けたようなものもあるので構築材として使用されていた可能性が高い。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

64号住居跡(第282・327・339図、P L154・175・181)

位置 E区e・f-29・30

主軸方位 N100°E

重複 無し。

規模 縦2.80m×横3.20m×深さ0.29m

形状 隅丸方形

埋没土 As-Cを多く含む黒褐色土である。下部は茶褐色土ブロックが混じる。

掘り方 As-Cを含む暗褐色～明褐色土により埋められていた。茶褐色土ブロックも含まれるが、なぜか埋没土と比べあまりしまった土ではなかった。掘り方は床面より約10cm程下がる。平面と比べてそれほど大きな違いはないが、南西隅で長径約80cm、短径約60cm程の不規則に窪む床下土坑が検出された。

床面 貼り床有り。比較的平坦であるが、特に硬くしまった面はなかった。南壁中央寄り部分で径約75cm、深さ約7cm程の浅いピット1が確認された。

貯蔵穴 **位置** 不明。カマド左脇の長径約45cm、短径約40cm、深さ約15cmのピット2が可能性がある。

周溝 無し。

柱穴 不明。南西隅の床下土坑の一部がその可能性もある。

遺物出土状態 カマド及びカマド周辺を除くと、わ

ずかに羽釜破片(64住4)や灰釉陶器の椀破片(64住1)が西壁付近から出土しただけであった。全体的に遺物量は少ない。

カマド **位置** 東壁南東隅

規模 全長105cm 最大幅100cm 焚き口幅45cm

袖 手前に据えられていた礫が袖先と考えられる。

煙道 住居壁を切り込んで、約70cm外へ延びる。

遺存状態 天井は検出されなかったものの比較的良好な状態で残っていた。構築材には主に円礫や亜角礫を、左袖側には多くの粘土を用い、一部には羽釜破片をも利用して全体が形作られていた。粘土部分は薄く赤変していた。袖石の内側も赤く焼けていた。燃焼部中央の礫は天井の一部の可能性が高い。掘り方は使用面より約10cm程下がる。

遺物出土状態 カマド内及び両袖脇から羽釜破片が出土した。両袖脇のものは粘土のところに貼り付いて出土したのでカマドの構築材として使用されていた可能性がある。右袖脇の高い位置から64住2のような杯類も検出された。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

65号住居跡(第283図、P L154)

位置 E区c-29・30

主軸方位 N103°E

重複 無し。

規模 縦(2.20)m×横2.10m×深さ0.28m

形状 隅丸方形。他の住居と比べても小形である。東側は攪乱で切られる。

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色～黒褐色土である。しまりは弱い。

掘り方 明確な掘り方は持たない。床下土坑、ピット等も検出されなかった。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、特に硬くしまった面は持たない。西側は段状になる。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 比較的床に近い位置で、小破片が出

II 検出された遺構と遺物

土しただけである。

カマド 位置 不明。有るとすれば東壁しか考えられないが、攪乱の底の状況からするとカマドを持たない可能性もある。

備考 明確な時期は不明であるが、11世紀前半頃かと思われる。

66号住居跡 (第284・285・328・354図、P L 154・155・175・188)

位置 E区c-28・29

主軸方位 N105°E

重複 無し。

規模 縦3.20m×横3.40m×深さ0.30m

形状 隅丸方形。北西部は試掘トレンチによって切られる。

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。下部の方がAs-Cの量はやや少なく、ロームブロックを含む。

掘り方 As-Cを少量含む黒褐色土により埋められていた。下部は黄褐色土ブロックを少量含みしまりも上部より弱い。カマド手前の42号土坑の中には灰や焼土等はなく、住居よりも古い段階のものと判断した。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。

貯蔵穴 位置 南東隅。若干の土器片及び礫が出土している。中には灰層が詰まっておリ、人為的に詰めた可能性が高く他の貯蔵穴とは違う可能性もある。

規模 長径約60cm 短径約56cm 深さ約52cm

形状 ほぼ円形

周溝 幅約10cm、深さ約3cmで北壁と南壁に廻る。

柱穴 不明。北西隅に長径約55cm、短径約45cm、深さ約12cmのピット1がある。

遺物出土状態 小破片の状態で出土したものが多く、比較的床もしくは壁に付いて出土したものが多かった。住居中央よりやや北東寄り部分で内黒の椀(66住3)が出土した。それ以外はカマド及び貯蔵穴周辺であった。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長135cm 最大幅80cm 焚き口幅25cm

袖 両袖先には円礫が用いられ、粘土で形作られていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約75cm外へ延びる。

遺存状態 天井は崩落していたがそれ以外の施設は良く残っていた。袖から燃焼部にかけて円礫を立てて配置し、その間を粘土で埋め補助的に羽釜破片等が貼り付けられていた。礫の内側及び壁は焼けて赤変していた。燃焼部の中央にやや小形の細長い礫を立て、その上に杯をかぶせ接地面が安定するように作られていた。掘り方の小さな穴は石が立っていた部分である。掘り方は使用面から約10cm程下がる。

遺物出土状態 カマド燃焼部から煙道にかけての両壁から羽釜(66住5)が出土していたが、構築材の一部として使用されていたものと考えられる。左壁からはスラグが出土したが、これもその一部と思われる。また、中央部の支脚にかぶせるように66住1の杯が出土した。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

67号住居跡 (第286・328・339図、P L 155・175・176・181)

位置 E区b・c-30

主軸方位 N96°E

重複 無し。

規模 縦3.60m×横2.90m×深さ0.45m

形状 隅丸縦長方形

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。上、中、下の3層に分けると中間がやや暗い。

掘り方 As-Cを少量含む暗褐色土が底面に堆積していた。掘り方は床面より約5cm程下がる。住居中央やや北寄りに径約25cm、深さ約5cmの浅い小ピットがあるが、それ以外は目立ったカマド周辺を除くと土坑、ピット等はなかった。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。

貯蔵穴 無し。

4. 平安時代

周溝 幅約10cm、深さ約3～7cmで南東隅を除く部分に廻る。

柱穴 不明。掘り方調査時に確認されたカマド左脇の小ピットと中央北寄りの小ピット等がその可能性がある。

遺物出土状態 西半部からはほとんど出土しなかった。カマド及びカマド手前から集中して検出された。全体に遺物量は多く杯の破片も出土したが、圧倒的に羽釜の破片が多かった。埋没土中から1本、掘り方調査時に2本、計3本の鉄釘が出土している。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長120cm 最大幅85cm 焚き口幅45cm

袖 両袖には礫が立てられていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約50cm外へ延びる。

遺存状態 天井部分はなかったものの比較的良好であった。手前の大形礫は天井石と考えられる。細長い角礫及び亜角礫を立てて配置し、その間に粘土で埋め羽釜破片を補助的に貼って形作られていた。壁及び底面は非常に良く焼けており赤変していた。燃焼部の立てられた角礫2個は支脚と考えられる。掘り方は使用面から壁際で約20cm程下がる。

遺物出土状態 カマド及びその周辺から4個体以上の羽釜破片が出土した。燃焼部の底面から敷かれたような状態で出土したものもあるが、天井の崩落とともに潰されて散乱した個体もある。67住5の羽釜は壁に貼られたような状態で出土しており、構築材の一部と考えられる。

備考 10世紀前半頃の住居と考えられる。

68号住居跡 (第287・329・339図、P L155・176・181)

位置 E区 a・b-29

主軸方位 N116°E

重複 無し。

規模 縦3.10m×横3.50m×深さ0.34m

形状 隅丸長方形。中央部は攪乱によって切られていた。

埋没土 As-Cを多量、小礫(φ約1～2cm)を含む黒褐色土である。

掘り方 As-Cを少量含む暗褐色土により埋められていた。掘り方は中央部が攪乱により壊されているためはっきりしないが、残っている部分からは床下土坑、ピット等は検出されなかった。床面より約4～5cm程下がる。

床面 貼り床有り。比較的平坦であり、硬くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 幅約10cm、深さ約7cmでカマド部分を除き全周するものと思われる。

柱穴 不明。

遺物出土状態 カマド周辺を除くとほとんど出土しなかったが、東壁中央付近で鉄鏟(鉄25)が出土した。西側から出土したものは縄文土器片が多い。

カマド 位置 東壁南東

規模 全長93cm 最大幅77cm 焚き口幅28cm

袖 あまり内側に長くは入り込まない。左袖先の礫は内側に倒れているものと思われる。

煙道 住居壁を切り込んで、約55cm外へ延びる。

遺存状態 天井部分は崩落していたものの比較的良好に残っていた。天井部についてはカマド手前に礫や土器片とともに落ちていた。両袖と支脚は角礫を用い、奥壁は粘土と土器片で形作られていた。燃焼部の壁及び底面は良く焼けており赤変していた。掘り方は中央部で使用面より約5cm程下がる。

遺物出土状態 68住1の台付鉢を割ってカマドに貼り付けたように出土した。燃焼部奥の円礫の上にはカーブのある破片が載せられていた。左袖脇の円礫と角礫はカマドとは直接関係はないものと考えられる。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

69号住居跡 (第288・329・355図、P L155・176・189)

位置 E区 h-35・36

主軸方位 N119°E

重複 無し。

規模 縦2.20m×横3.60m×深さ0.50m

形状 隅丸横長方形。南東隅に段を有する。

II 検出された遺構と遺物

埋没土 しまりあまり良くない。As-Cを多く含む暗褐色土である。

掘り方 As-Cを少量含む黒褐色土により埋められていた。床面より約5cm程下がるが特別な土坑、ピット等は検出されなかった。なお、掘り方で出土した遺物のほとんどは縄文の石器や土器であった。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、中央部がやや高くなる。非常に硬くしまっていた。

貯蔵穴 **位置** 北西隅。穴の周辺が土手状にわずかに高くなっていた。底面には円礫があった。

規模 長径約40cm 短径約30cm 深さ約9cm

形状 円形

周溝 有り。

柱穴 不明。北西隅の貯蔵穴としたものがその可能性がある。

遺物出土状態 ほぼ全体から出土したが、全般的な傾向としては石は底面から高い位置からで土器片は底面に近い位置からであった。カマド及びその周辺に集中がみられた。

カマド **位置** 東壁南東隅。

規模 全長107cm 最大幅75cm 焼き口幅23cm

袖 両袖とも先端に角礫が立てられ、粘土で固定されていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約55cm外へ延びる。

遺存状態 天井部分は崩落していた。手前の円礫や角礫はそれと思われるが、量が多いのでかなり手前まで構築物がきていた可能性もある。両袖と奥に礫が使われており、それ以外の部分は粘土で作られ土器片が貼られていた。壁は良く焼けていた。手前には灰が径約60cm程の範囲に散っていた。さらにその手前には焼土が散っていた。掘り方は住居壁際で約10cm程窪む。

遺物出土状態 69住1の杯はカマド右壁上のかなり高い位置からの出土であった。左壁からは69住2・4のような杯が出土したが、粘土で固定されており構築材として使用されていた可能性が高い。燃焼部から検出された羽釜(69住6)についてもその可能性がある。掘り方からは甕破片(69住5)が出土し

た。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

70号住居跡 (第289・329図、P L156・177)

位置 E区O・P-37

主軸方位 N104°E

重複 無し。

規模 縦(0.70)m×横(1.70)m×深さ0.32m

形状 不明。カマド周辺のみ残存していた。

埋没土 しまりはあまり強くない。As-Cを多く含む暗褐色土である。下部はロームブロックを斑状に含む。

掘り方 手前を攪乱で切られており不明。

床面 不明。

貯蔵穴 **位置** 不明。

周溝 不明。

柱穴 不明。

遺物出土状態 カマド手前の攪乱の中から多くの杯や縄文の石器等が出土した。

カマド **位置** 東壁南寄り

規模 全長(82)cm 最大幅70cm 焼き口幅45cm

袖 両袖先には円礫が立てられていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約75cm外へ延びる。

遺存状態 天井部はなかったが、比較的良好であった。両袖及び燃焼部両壁には円礫及び板状の角礫が立てられており、その間を粘土で埋め全体が形作られていた。支脚も2つ細長い礫が立てられていた。燃焼部壁は良く焼けており、礫の内側も赤変していた。

遺物出土状態 70住3の杯が左側の支脚にかぶせられた状態で出土した。燃焼部中央から破れた状態で羽釜(70住4)が出土した。カマドで使用していたものと思われる。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

71号住居跡 (第290・291・330図、P L156・177)

位置 E区O・P-35・36

主軸方位 N80°E

重複 71号住→72号住

規模 縦3.00m×横(1.90)m×深さ0.43m

形状 隅丸方形か？

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色土である。上部の方がローム漸移層ブロックを多く含む。72号住の埋没土に比べ、全体にやや明るい。

掘り方 特別な掘り方は持たないが、北東部付近で長径約70cm、短径約55cm、深さ約10cm程の床下土坑と長径約30cm、短径約25cm、深さ約5cm程の浅い小ピットを検出した。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、特に硬くしまつてはいなかった。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。掘り方調査時の床下土坑やピットがその可能性がある。

遺物出土状態 住居の埋没土中より須恵器の杯や羽釜破片等が若干出土した。遺物量は少なかった。掘り方から縄文土器等が出土した。

カマド 位置 不明。南壁の可能性がある。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

72号住居跡 (第290・291・330・355図、P L156・177・189)

位置 E区P-35・36

主軸方位 N93°E

重複 71号住→72号住

規模 縦3.90m×横3.40m×深さ0.33m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-Cを多く含む暗褐色土である。上部の方がローム漸移層ブロックが多く含まれる。71号住の埋没土に比べてやや暗い。

掘り方 As-Cを多く含む黒褐色～黒褐色土とローム漸移層ブロックの混合土により埋められていた。掘り方は床面から約5～8cm程下がり、西壁中央手前部分を除き、床下土坑2やピットが確認された。

床面 貼り床有り。比較的平坦であるが、中央部はやや高かった。中央部分は硬くしまつていたが、周

辺部はさほどしまつてはいなかった。

貯蔵穴 位置 不明。位置からして、掘り方調査時に南西隅で確認された長径約65cm、短径約40cm、深さ約8cmの楕円形小ピットがその可能性がある。

周溝 無し。

柱穴 不明。掘り方調査時の土坑、ピットがその可能性がある。

遺物出土状態 ほぼ全体から多くのものが出土した。小さく割れたものが多く、また床面から浮いた状態のものが多かった。後から投げ込まれた可能性が高い。平面的には北西部付近と北東部付近に集中する傾向がみられた。

カマド 位置 不明。南壁やや西寄りと推定される。

遺存状態 カマド本体は南側の攪乱で壊されているものと思われるが、住居南壁西寄り部分で焼土粒子や炭化物が散る部分が検出された。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

73号住居跡 (第292・293・330図、P L156・177)

位置 E区m-36・37、n-36

主軸方位 N96°E

重複 74号住→73号住

規模 縦2.90m×横4.10m×深さ0.54m

形状 隅丸横長方形

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。上部はローム漸移層ブロックを含むが、下部は焼土粒子を含む。

掘り方 主に白色粘土ブロック及び焼土粒子を少量含む黒褐色土により埋められていた。掘り方面はかなり凹凸を持ち床面から約5～10cm程下がる。住居のほぼ中央に長径約75cm、短径約55cm、深さ約20cmの楕円形の床下土坑2があった。その中にはAs-Cや焼土粒子を少量含む暗褐色土が詰められていた。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまつていた。

貯蔵穴 位置 不明。掘り方調査時に北東隅約径100cm、深さ約28cmの床下土坑1が検出されたが、その中から炭化物や灰が発見された。

II 検出された遺構と遺物

周溝 無し。

柱穴 不明。北壁手前から長径約50cm、短径約40cm、深さ約12cmの楕円形小ピットが検出された。

遺物出土状態 ほぼ全体から破片の状態で出土した。東半部にややまとまる傾向がみられた。土器片は比較的床に近いものが多かったが、礫は南西隅の2点を除き高い位置からのものが多かった。住居の中央よりやや北寄り部分で埴輪(73住4)が検出された。

カマド 位置 東壁南東隅

規模 全長119cm 最大幅82cm 焚き口幅52cm

袖 明確な袖はなかったが、左袖の位置には焼けた粘土が残っていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約70cm外へ延びる。

遺存状態 あまり良好とは言えないが、燃烧部底面及び壁は赤く焼けていた。特に北側は良く焼けていた。掘り方調査時に燃烧部両脇から径約15~20cm、深さ約10cm程の小ピットが検出された。燃烧部奥壁に煙道方向に斜めに入る径約5cm程の小ピットも発見された。両脇のものが袖につながる施設で奥のものが支脚の据えられていた痕の可能性はある。

遺物出土状態 カマド手前からは羽釜(73住3)等が比較的まとまって出土したが、カマド内からは小破片が少量検出されたのみであった。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

74号住居跡(第294・331・355・356図、P L156・177・189)

位置 E区m-35・36

主軸方位 N99°E

重複 74号住→73号住

規模 縦3.10m×横3.70m×深さ0.56m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-Cを多量、ローム漸移層ブロックを多く含む暗褐色~黒褐色土である。下部の方がAs-Cの量は少なく、焼土粒子も少量含まれる部分も多い。
掘り方 As-Cを少量含む暗褐色~黒褐色土である。住居中央から北壁側にかけては、白色粘土ブロックを少量含む暗褐色土により埋められていた。住居

の床面に粘土混じりの土を撒いて固めたものと思われる。住居中央部からは底面や壁に灰白色粘土を貼り付けた長径約115cm、短径約85cm、深さ約20cmの楕円形の床下土坑が検出された。その中の土は粘土が焼けたブロック及び粒子を多く含む暗褐色土が詰まっていた。カマド右手前には長径約90cm、短径約80cm、深さ約13cmの楕円形の床下土坑がある。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。床下土坑の上はやや高く盛り上がっていた。

貯蔵穴 位置 南東隅。掘り方調査時に確認された北東隅の径約40cm、深さ約10cmの円形ピットもその可能性がある。

規模 長径約56cm 短径約36cm 深さ約14cm

形状 楕円形

周溝 幅約15cm、深さ約3cmで東壁から西壁まで廻る。

柱穴 不明。

遺物出土状態 ほぼ全体から小破片の状態で出土した。住居西半部から出土したものが多く、特に南西隅のものは床面から浮いた位置で検出されたものが多い。焼礫についてはカマド手前だけでなく住居中央部から西側にかけても出土した。

カマド 位置 東壁南東隅。

規模 全長(106)cm 最大幅65cm 焚き口幅31cm

袖 左袖部分には粘土が残っていた。

煙道 73号住に切られていた。

遺存状態 天井は残存していない。東側も73号住に切られており良好な状態とは言えないが、焚き口部分から燃烧部にかけては良く焼けていた。燃烧部両側と左奥壁には礫が立てられており、その間を粘土で埋めて全体が形作られていた。かなり手前まで焼土と粘土が広がっていた。掘り方は使用面より約15~20cm程下がる。その間は焼土を含む黄褐色粘性土であった。

遺物出土状態 カマド内からは小破片のみであるが、掘り方から碗の破片(74住1)や甕の破片(74住4)が出土していた。構築材にはほとんど土器は使用されていないものと思われる。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

75号住居跡 (第242・243図、P L157)

位置 F区a-37

主軸方位 N69°E

重複 23号住→85号住→24号住→75号住

規模 不明。

形状 不明。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 不明。

柱穴 不明。

カマド 位置 東壁南寄りと考えられる。

規模 全長(45)cm 最大幅(79)cm 焚き口幅 不明
袖 不明。

煙道 手前が試掘トレンチで切られているため、どの程度住居外に延びるか不明である。

遺存状態 上部は削平されており、深さ約5cm程残っていただけである。掘り方は使用面より約10cm程下がる。

遺物出土状態 遺物はほとんど出土しなかった。

備考 時期判定できるような遺物は出土しなかったが、24号住を切り込んでいるため11世紀代と考えられる。

76号住居跡 (第295図、P L157)

位置 E区o-37

主軸方位 N61°E

重複 無し。

規模 縦(1.80)m×横(1.70)m×深さ0.32m

形状 不明。西側と南側を攪乱に壊されていた。

埋没土 As-Cを多く含む黒褐色～茶褐色土である。下部の方がしまりは強く、ロームブロックも含まれる。

掘り方 白色小粒子を含むしまりの良い暗褐色土により埋められていた。ロームブロックを斑状に含む部分もみられた。平面的には床面の状況とあまり変わらず、約10cm下がるだけで床下土坑等は検出されなかった。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、西側は若干緩やかに窪む。硬く良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 床面はもちろん、埋没土中からもほとんど出土しなかった。

カマド 位置 不明。70号住とは住居埋没土の違いや住居プランなどから別のものと判断した。

備考 時期不明。

77号住居跡 (第296・331・356図、P L157・178・189)

位置 E区q-34

主軸方位 N105°E

重複 77号住→45号住→46号住

規模 縦2.80m×横(4.00)m×深さ0.22m

形状 隅丸長方形

埋没土 As-Cを少量含む褐色～暗褐色土である。下部の方が暗い。

掘り方 暗黄褐色土ブロック溶混を少量、As-Cをわずかに含む暗褐色土により埋められていた。しまりは良い。掘り方は床面より約6cm前後下がる。南側の攪乱に近い部分等に多少凹凸はあるものの目立った床下土坑やピットは検出されなかった。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。床面で土坑、ピット等に検出されなかった。

貯蔵穴 位置 不明。遺物の出土状況等を考慮すると南東隅の可能性がある。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 ほぼ全体から出土しているが、やや東半部にまとまる傾向がある。特にカマド及びその周辺に集中がみられる。カマド右脇は比較的大きな土器片がまとまって出土した。貯蔵穴と言えるような明確な穴は検出されなかった。レベル的には上部が削平されているためか床面に近いものが多かった。

カマド 位置 東壁ほぼ中央。壁に直角というよりもやや北向きである。

II 検出された遺構と遺物

規模 全長90cm 最大幅70cm 焚き口幅38cm

袖 先端部には角礫及び亜角礫が使用されていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約55cm外へ延びる。

遺存状態 上部のほとんどが削平されており、良好とは言えない。左右の袖先端には角礫や亜角礫が使用されていたが、それ以外の礫は天井等の構築材が崩れたもので原位置を動いているものと思われる。燃焼部壁等は主に粘土により形作られていた。掘り方は使用面より約10cm程下がるが、良く焼けた焼土や灰層は検出されなかった。

遺物出土状態 右袖～燃焼部右壁側にかけての出土が多かった。77住3の杯のように壁近くから伏せられたように出土したものもあるし、右袖部から右脇にかけて出土したものが接合した77住7・8のような羽釜もある。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

78号住居跡 (第297・332図、P L157・178)

位置 E区g・h-30

主軸方位 N100°E

重複 78号住→62・63号住

規模 縦(2.00)m×横(2.50)m×深さ0.10m

形状 隅丸長方形か?

埋没土 As-Cを多く含む黒褐色～暗褐色土である。南東部ではロームブロックや焼土粒子が少量含まれる。

掘り方 As-Cをごく少量、ロームブロック粒子を少量含む暗褐色土により埋められていた。床面より、約10cm程下がるが平面と比べさほど大きな変化はない。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、南東部はやや窪む。硬くしまっていた。

貯蔵穴 **位置** 南東隅。掘り方調査時の検出であったが、位置的にはこれが貯蔵穴と考えられる。

規模 長径約75cm 深さ約26cm

形状 楕円形か?

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 カマド及び貯蔵穴内を除くとほとんど遺物は出土しなかった。

カマド **位置** 東壁やや南寄り

規模 全長105cm 最大幅120cm 焚き口幅30cm

袖 粘土部分が相当するものと思われる。

煙道 住居壁を切り込んで、約60cm外へ延びる。

遺存状態 燃焼部から煙道部にかけては62号住で壊されておりほとんど残っていなかった。カマドの範囲は焼土粒子や炭化物の散布範囲から確定した。両袖部には粘土が用いられ、他よりも若干高く残っていた。焚き口から左袖前にかけては焼土ブロック、粒子が散っており、天井の崩落の一部の可能性がある。掘り方は使用面より約10～15cm程下がる。

遺物出土状態 破片の状態で燃焼部掘り方と右袖部分から出土した。貯蔵穴内からも土器片が出土した。羽釜(78住3)については使用されていたものと言うよりも構築材の一部の可能性が高い。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

79号住居跡 (第298・332図、P L157・178)

位置 E区t-37・38

主軸方位 N117°E

重複 不明。

規模 不明。

形状 不明。カマドのみ残存。

埋没土 不明。

掘り方 不明。

床面 不明。

貯蔵穴 **位置** 不明。

周溝 不明。

柱穴 不明。

カマド **位置** 東壁

規模 全長115cm 最大幅74cm 焚き口幅26cm

袖 不明。

煙道 住居壁を切り込んで、約110cm外へ延びる。

遺存状態 あまり良好な状態とは言えない。奥の部分と手前には良く焼けて赤変した粘土がみられた。手前の攪乱の中からは大形の円礫や角礫も発見され

4. 平安時代

たので、もともとは粘土だけでなく礫も構築材として使用されていた可能性がある。掘り方では燃焼部に浅い窪みが検出された。これは支脚を固定した掘り方の可能性もある。

遺物出土状態 焚き口～煙道部にかけて破片の状態です。若干出土した。使用面で検出されたものもあるが、掘り方で検出されたものもある。

備考 時期不明。

80号住居跡 (第299・332・339・357・358図、P L157・158・178・179・181・189・190)

位置 E区 t・F区 a-36・37

主軸方位 N131°E

重複 80号住→29号住

規模 縦(3.40)m×横(2.60)m×深さ0.05m

形状 隅丸方形か? 上部はほとんど削平されていた。

埋没土 As-Cをわずかに含む茶褐色～暗褐色土である。

掘り方 ロームを多く含む暗褐色土より埋められていた。中央部分を除きかなりの凹凸を持ち、多くの床下土坑、ピットを有する。掘り方は床面より約3～5cm程下がる。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 **位置** 不明。掘り方調査時に検出された南東部の直径約100cm、深さ約25cmの土坑がその可能性もあるがあまり判然とはしない。

周溝 無し。

柱穴 不明。掘り方で調査された土坑、ピット類がその可能性がある。

遺物出土状態 カマド周辺を除くと住居中央部分から円礫や角礫とともに小破片の状態です。まとまって80住4の羽釜が出土した。調査時には当初カマドになることを想定して調査を進めたが、住居プランもつかめずカマドという確証も把握できず80号住に伴うものと判断した。特に西側は削平が顕著であり、重複でもう1軒あった可能性も完全には否定できな

い。試掘トレンチにかかる東側の床下土坑からは鉄鍬(鉄26)が出土した。

カマド **位置** 東壁南寄り

規模 全長106cm 最大幅54cm 焚き口幅30cm

袖 袖先には円礫が立てられていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約70cm外へ延びる。

遺存状態 上部がかなり削平されており、良好な状態ではなかった。両袖及び必要所には礫が用いられていたが、右袖側から出土した瓦も構築材として使用されていたものと思われる。甕破片についても奥と手前に分かれて2つのまとまりが見られることから、カマドにかかっていたものと言うよりも構築材の一部と考えた方が良さそうである。掘り方では北側よりも南側が広がりを持ち、配置された礫もやや不自然なところがあるので南側から北側に作り変えている可能性もある。

遺物出土状態 左袖先部分と煙道の一番奥からは甕(80住5)破片が、右袖内側～煙道先端手前部分からは瓦(瓦7)が出土した。

備考 11世紀後半頃の住居と考えられる。

81号住居跡 (第300図、P L158)

位置 E区 j・k-31

主軸方位 N94°E

重複 86号住→84号住→56号住→54号住→82号住→81号住→55号住

規模 縦2.50m×横3.20m×深さ0.01m

形状 隅丸横長方形

埋没土 床面より上は削平されており、残っていなかった。

掘り方 As-Cを多く、ロームブロック粒子をやや多く含む暗褐色～黒褐色土により埋められていた。床面より約5～10cm程下がる。南西部に長径約73cm、短径約60cm、深さ約40cmの楕円形の床下土坑1が、西部に長径約110cm、短径約100cm、深さ約25cmの楕円形の床下土坑2がある。前者からは中に詰めたように3点の角礫が出土した。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっ

II 検出された遺構と遺物

いた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。カマドの手前に長径約25cm、短径約22cm、深さ約8cmのほぼ円形のピット1がある。

遺物出土状態 掘り方から若干の礫は出土したが、土器片は出土しなかった。

カマド 位置 東壁やや北寄り。使用面は残っていなかったが、掘り方で確認した。

規模 全長44cm 最大幅40cm 焚き口幅32cm

袖 不明。

煙道 住居壁を切り込んで、約35cm外へ延びる。

遺存状態 55号住に壊されており、使用面はまったく残っていなかった。手前に炭化物を含む灰の散布する範囲があっただけであり、掘り方もわずかに残っていたのみであった。掘り方は使用面より約8cm程下がる。掘り方の土にもわずかに焼土粒子や炭化物粒子が含まれていた。重複している他の住居と同様、カマドにはほとんど礫を使用しないタイプと推定される。

備考 住居の切り合いから、10世紀後半～11世紀前半頃の住居と推定される。

82号住居跡 (第301・302・333図、P L158・179)

位置 E区 j-31、k-31・32

主軸方位 N112°E 重複 86号住→84号住→56号住→54号住→82号住→81号住→55号住

規模 縦(1.90)m×横2.60m×深さ0.04m

形状 隅丸縦長方形か？

埋没土 As-Cを多量に、焼土粒子少量含む暗褐色土である。54号住の埋没土よりもやや明るい。上部はかなり削平されており、わずかに床上約4～5cm程が残っていただけである。

掘り方 明確な掘り方は持たない。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 位置 南東コーナー。焼土ブロックや炭化物を多く含む暗褐色土により埋められていた。下部

はロームブロックや小礫を含む。

規模 長径約60cm 短径約50cm 深さ約22cm

形状 楕円形

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 54号住や55号住と重複する部分も多く、カマドを除くと本住居に伴うものと考えられる遺物はほとんど出土しなかった。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長81cm 最大幅94cm 焚き口幅47cm

袖 左袖前にも粘土があり、そこまで袖が延びていた可能性がある。

煙道 住居壁を切り込んで、約55cm外へ延びる。

遺存状態 使用面より上はほとんどが削平されており、良好な状態ではなかった。地山の陣場泥流の岩塊をえぐり、その内側に粘土を貼り形作られていた。奥の角礫手前と左袖前部分にも粘土があった。焚き口手前部分には焼土の上に粘土が載っており、天井の構築材の崩落の可能性がある。掘り方は奥の部分で使用面より約25cm程下がる。

遺物出土状態 左袖や煙道奥壁部分からは小破片が出土した。須恵器の杯小破片もあり、構築材に使用されているのは本遺跡内では珍しい。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

83号住居跡 (第303図、P L158)

位置 E区 s-38・39

主軸方位 N18°W

重複 北側の張り出し部分は別遺構の可能性が高い。

規模 不明。

形状 不明。隅丸長方形か？

埋没土 As-Cを多く、ローム漸移層ブロックを含む暗褐色土である。下部の方がローム漸移層ブロックの量が多い。

掘り方 床下土坑、ピット等の明確な掘り方は持たない。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、比較的良くし

4. 平安時代

まっていた。床面には約1～3cm程のローム漸移層ブロックを多く含む暗褐色土が堆積していた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 ほとんど出土しなかった。

カマド 位置 不明。

備考 時期不明。

84号住居跡 (第304・333図、P L159・179)

位置 E区 j・k-31・32

主軸方位 N128°E

重複 86号住→84号住→56号住→54号住→82号住→81号住→55号住

規模 縦3.60m×横(3.50)m×深さ0.14m

形状 隅丸横長方形か？

埋没土 As-Cを多量、ロームブロックを含む暗褐色土である。周辺部の方がロームを多く含む。

掘り方 床下土坑、ピット等の特別な遺構は持たない。

床面 貼り床無し。床面はほぼ平坦であるが、56号住の床面より高い。

貯蔵穴 位置 北東コーナー。南東コーナーの可能性も完全には否定しきれないが、これが一番可能性が高い。

規模 長径約65cm 短径約55cm 深さ約17cm

形状 楕円形

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 西部から内黒の椀(84住1)が伏せられたような状態で検出された。その他に角礫が貯蔵穴内他から出土した。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長58cm 最大幅34cm 焚き口幅22cm

袖 粘土等で成形されてはいない。

煙道 住居壁を切り込んで、約50cm外へ延びる。

遺存状態 上部は削平されており、あまり良好な状態ではなかった。陣場泥流層の地山を切り込んで、

全体が形作られていた。天井や壁等に粘土が使用されていた可能性は否定できないが、調査では確認されなかった。掘り方では焚き口中央と右前に小ピットが検出された。掘り方は焚き口部分で約10cm下がる。

遺物出土状態 角礫は何点か出土したが、土器等はほとんど出土しなかった。

備考 10世紀後半頃の住居と考えられる。

85号住居跡 (第242・243・333図、P L159・179)

位置 E区 t・F区 a-37・38

主軸方位 N84°E

重複 23号住→85号住→24号住→75号住

規模 縦(1.60)m×横3.60m×深さ0.18m

形状 隅丸長方形か？

埋没土 As-Cをやや多く含む茶褐色～暗褐色土である。

掘り方 As-Cを少量含む黒褐色土により埋められていた。全体に約3～4cm程床面より下がり大小の凹凸はあるもののカマド部分を除き、床下土坑、ピット等は検出されなかった。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であるが、若干北西側へ傾斜していた。床面は硬くしまっていた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 東壁及び南壁から若干出土したが、東壁のものは縄文の遺物が多かった。カマド手前からは多くの円礫や角礫が出土した。住居そのもののがかなり削平されていたためか床面近くから出土したものが多かった。

カマド 位置 東壁やや南寄り

規模 全長75cm 最大幅70cm 焚き口幅36cm

袖 左袖部分には亜角礫が使用されていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約60cm外へ延びる。

遺存状態 上部はかなり削平されており、あまり良好な状態ではなかった。カマド手前の多くの礫は天井等の構築材として使用されていたものと考えられ

II 検出された遺構と遺物

る。燃焼部奥から煙道部分の底面には黄褐色の粘土層が検出された。掘り方は焚き口部分で約10cm程窪む。

遺物出土状態 左袖から燃焼部左壁側にかけて甕の破片(85住1)が出土したが、壁に喰い込んでいると言うよりも上に載る感じであったのでカマドで使用されていたものと考えられる。

備考 11世紀代と考えられる。

86号住居跡(第305図、P L159)

位置 E区 j・k-31・32

主軸方位 N133°E

重複 86号住→84号住→56号住→54号住→82号住→81号住→55号住

規模 縦2.70m×横3.40m×深さ0.06m

形状 長方形

埋没土 ほとんど他の住居により削平されており、床面より上は残っていなかった。

掘り方 ロームブロックを多量、炭化物を少量含む暗褐色土により埋められていた。かなり凹凸を持ち、鋤状農具で突いたような三日月形の穴が無数にみられた。カマド手前に長径約90cm、短径約75cm、深さ約7cmの浅い凹みがあり、中には炭化物粒子や焼土粒子を含む黒褐色土が詰まっていた。北壁中央には灰白紫色粘土を床面に貼付した長径約55cm、短径約45cm、深さ約10cmの楕円形ピットがあった。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、硬くしまっていた。

貯蔵穴 北壁手前に長径約65cm、短径約50cm、深さ約28cmの楕円形と、南壁手前に長径約75cm、短径約60cm、深さ約15cmの楕円形を呈するものがある。

周溝 幅約10cm、深さ約2cmで東壁のみで確認された。

柱穴 不明。住居のほぼ中央と南西部で径約18cm、深さ約10~20cmでAs-C少量、小礫をわずかに含む暗褐色砂質で埋まった小ピットが検出された。

遺物出土状態 掘り方で土器小破片が、2号貯蔵穴内で黒曜石の小剥片が出土した。

カマド 位置 東壁中央

規模 全長27cm 最大幅40cm 焚き口幅23cm

袖 不明。ほとんど確認できなかった。

煙道 住居壁を切り込んで、約10cm外へ延びる。本来はもっと長かったものと思われる。

遺存状態 使用面より上はすべて削平されており、残っていなかった。掘り方も深いところで約4cm程下がる程度であった。カマド手前には長さ約40~50cm、幅約17~20cm、深さ約5cm前後の細長い穴があり、カマドの下部構造の可能性があり本来はその辺まであった可能性がある。

遺物出土状態 遺物はまったく出土しなかった。

備考 重複関係から10世紀後半以前の可能性がある。

87号住居跡(第306・333・358・359図、P L159・179・190)

位置 E区 i・j-31

主軸方位 N101°E

重複 87号住→43号土坑

規模 縦(2.10)m×横2.50m×深さ0.01m

形状 隅丸長方形

埋没土 床面より上は削平されており、残っていなかった。

掘り方 As-Cを多量、ロームブロック粒子少量、焼土粒子、炭化物片をわずかに含む暗褐色土により埋められていた。カマド左脇から北側は緩やかに窪む。

床面 貼り床無し。ほぼ平坦であり、特別に硬くしまっていないかった。

貯蔵穴 位置 不明。南東コーナーで確認された長径約25cm、短径約18cm、深さ約17cmの楕円形小ピットが位置的には可能性が高い。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 ごくわずかに小破片が出土した。西壁側からは縄文土器片や石器が出土した。

カマド 位置 東壁南寄り。

規模 全長(80)cm 最大幅130cm 焚き口幅110cm

袖 不明。

煙道 現状で住居壁を切り込んで、約30cm外へ延びる。東側は43号土坑に壊されている。

遺存状態 ほとんど削平されており、残っていない。焚き口から手前部分が掘り方で確認されただけであった。袖等に礫が使用されていたことを示す小ピット等は確認できなかった。本来は粘土等が使用されていた可能性もあるが判然とはしない。

遺物出土状態 焚き口部分の掘り方から土器小破片が2点出土した。

備考 10世紀後半～11世紀前半頃と推定される。

88号住居跡 (第307・333図、P L159・179)

位置 E区 n-34・35、o-34

主軸方位 N104°E

重複 無し。

規模 縦 (3.70) m×横 (1.60) m×深さ0.28m

形状 隅丸長方形か？西側は攪乱で壊されている。

埋没土 As-Cを少量、炭化物と橙色のブロックをごくわずかに含む暗褐色土である。下部はAs-Cをほとんど含まない。上部の方がしまりは良い。

掘り方 しまりの良い茶褐色～黄褐色土により埋められていた。床面より場所により約2～3cm程下がる程度であり、特別な床下土坑、ピット等はなかった。

床面 貼り床有り。多少の凹凸があり、全体的には東から西側にやや傾斜する。硬くしまっていた。北東コーナーで焼土が認められた。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 北東コーナーから焼土とともに碗破片 (88住1) が出土した。掘り方からは縄文土器等が検出された。

カマド 位置 不明。南壁の可能性有り、北東コーナーの焼土部分は壁外に延びないのでカマドの可能性は低い。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

89号住居跡 (第308・333図、P L159・179)

位置 E区 s-36

主軸方位 N89°E

重複 無し。

規模 縦 (1.20) m×横2.80m×深さ0.31m

形状 隅丸方形か？西側は攪乱で壊されている。

埋没土 As-Cを多量に含む暗褐色土である。カマド前では灰が若干混じる。

掘り方 As-Cを少量含む黒褐色～暗褐色土により埋められていた。場所によって小礫やAs-Cを多く含む部分もある。床面より約10cm弱下がるが、床下土坑、ピットは持たない。

床面 貼り床有り。ほぼ平坦であり、あまり硬くしまつてはいなかった。

貯蔵穴 位置 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 カマド手前と東壁から土器小破片が出土した。

カマド 位置 東壁やや南

規模 全長110cm 最大幅132cm 焚き口幅38cm

袖 主に粘土で一部角礫が使用されていた。

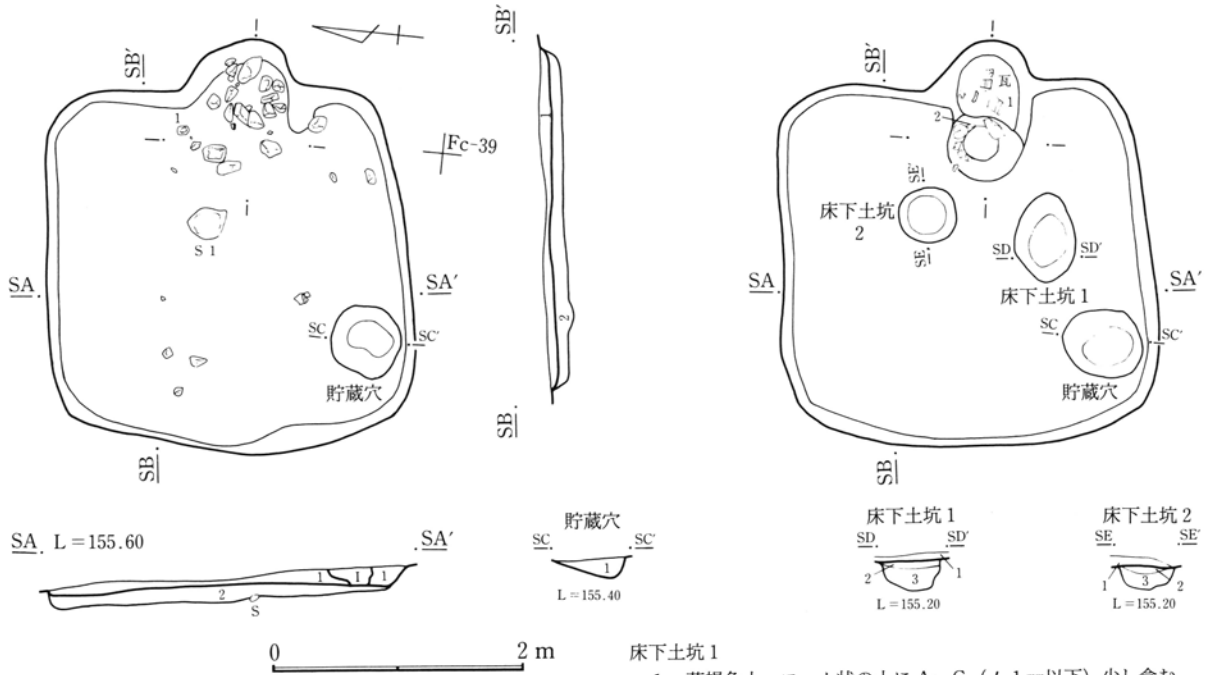
煙道 住居壁を切り込んで、約50cm外へ延びる。

遺存状態 上部は削平されていたものの、比較的良く残っていた。構築材に角礫を用いそのまわりに粘土を貼って固定し全体を形作っていた。燃烧部底面には厚さ約7cm程の焼けた粘土があった。カマド奥壁と左袖内側壁と右袖脇に焼けた粘土が残っていた。掘り方は使用面より約15cm程下がる。燃烧部から右袖側にかけて小ピットが3基確認された。

遺物出土状態 左袖から燃烧部部分から杯 (89住3) や須恵器甕破片 (89住4) が出土した。

備考 11世紀前半頃の住居と考えられる。

II 検出された遺構と遺物



22号住居跡

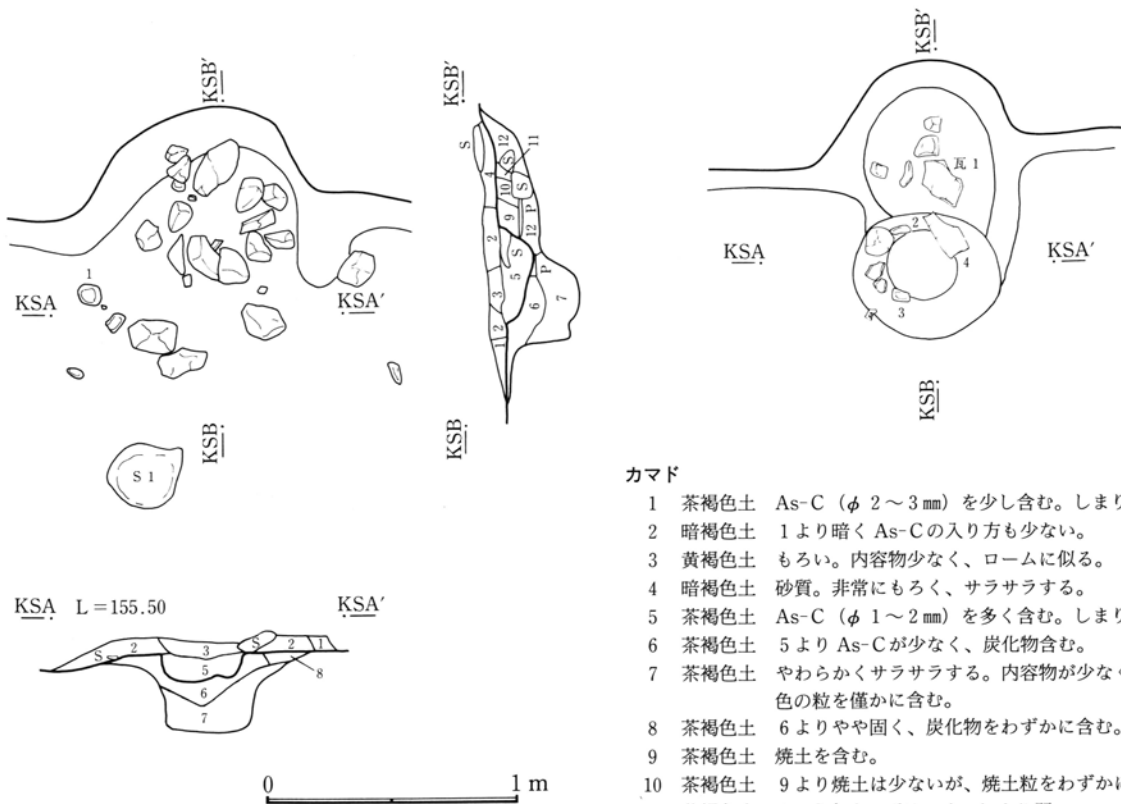
- 1 暗褐色土 As-Cを多く含む。
 - 1 茶褐色土 As-C・ローム漸移層ブロックを多く含む。
 - 2 茶褐色土 ローム状の土に白い鉱物粒を含む。
- 貯蔵穴
- 1 茶褐色土 As-C・ローム漸移層ブロックを多く含む。

床下土坑1

- 1 茶褐色土 ローム状の土に As-C (ϕ 1mm以下) 少し含む。
- 2 茶褐色土 1より暗く As-C少ない。
- 3 茶褐色土 非常にもろくサラサラしている。単一的。

床下土坑2

- 1 茶褐色土 ローム状の土に As-C (ϕ 1mm以下) 少し含む。
- 2 茶褐色土 1層より暗く軽石少ない。
- 3 茶褐色土 非常にもろくサラサラしている。単一的。

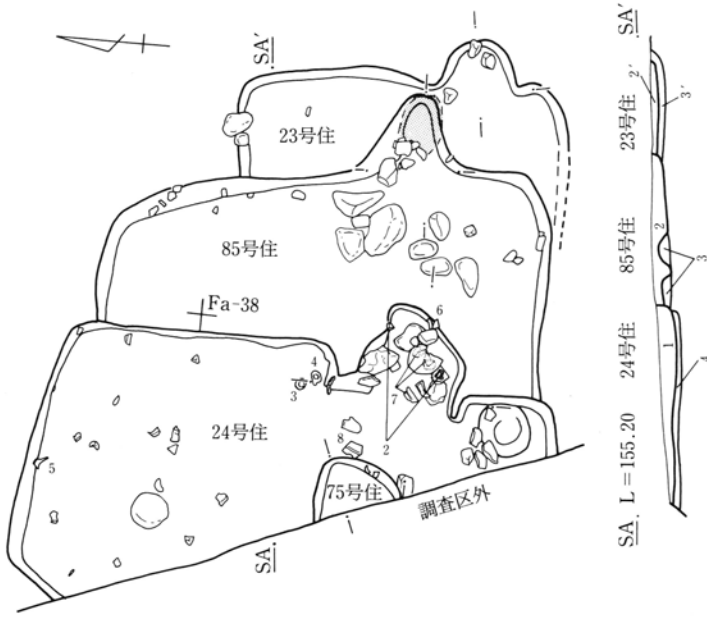


カマド

- 1 茶褐色土 As-C (ϕ 2~3mm) を少し含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 1より暗く As-Cの入り方も少ない。
- 3 黄褐色土 もろい。内容物少なく、ロームに似る。
- 4 暗褐色土 砂質。非常にもろく、サラサラする。
- 5 茶褐色土 As-C (ϕ 1~2mm) を多く含む。しまり弱い。
- 6 茶褐色土 5より As-Cが少なく、炭化物含む。
- 7 茶褐色土 やわらかくサラサラする。内容物が少なく、赤褐色の粒を僅かに含む。
- 8 茶褐色土 6よりやや固く、炭化物をわずかに含む。
- 9 茶褐色土 焼土を含む。
- 10 茶褐色土 9より焼土は少ないが、焼土粒をわずかに含む。
- 11 茶褐色土 As-C多く、ザラつく。しまり弱い。
- 12 茶褐色土 内容物少ない。細かく、やわらかい。

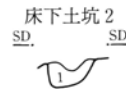
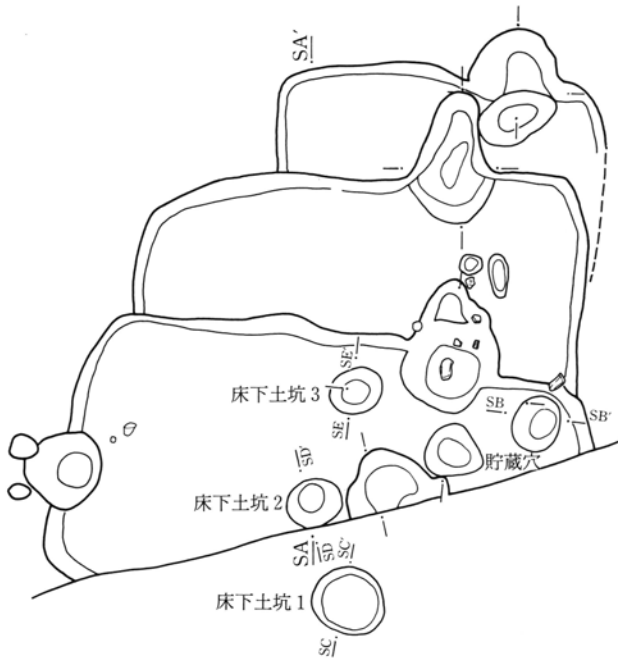
第241図 22号住居跡・カマド

4. 平安時代



23・24・75・85号住居跡

- 1 黒褐色土 As-C (φ 1~2mm) を10%含む。固くしまっている。貼床の土。
- 2 暗褐色土 As-C を多く含む、中に硬化した土を含む。
- 2' 暗褐色土 4よりやや明るい。
- 3 茶褐色土 ロームを多く含む。しまりは弱い。
- 3' 暗褐色土 3よりやや明るい。
- 4 茶褐色土 ロームを多く含む。しまりは弱い。3よりやや暗い。



24号住居跡

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 しまりはない。As-C (φ 1mm) を5%以下含む。
- 2 黒褐色土 ほぼ均一的。As-C は含まない。

床下土坑1

- 1 にぶい褐色土 黄褐色土に暗褐色土が斑状に混じる。

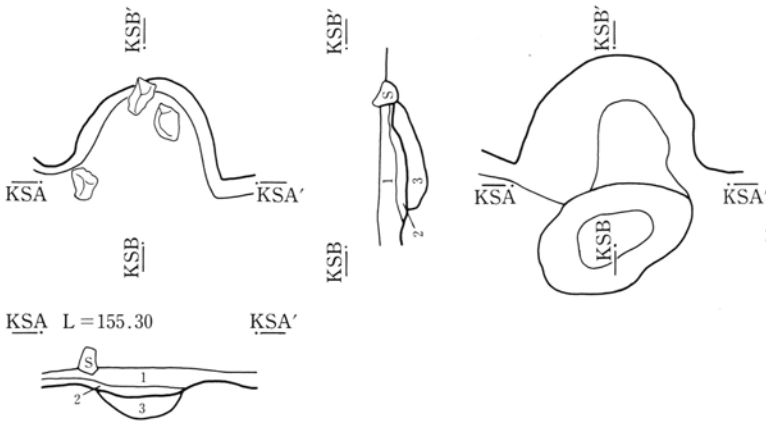
床下土坑2

- 1 暗褐色土 均一な砂質土。ローム漸移層が斑状に混じる。

床下土坑3

- 1 暗褐色土 均一な砂質土。ローム漸移層が斑状に混じる。

0 2 m



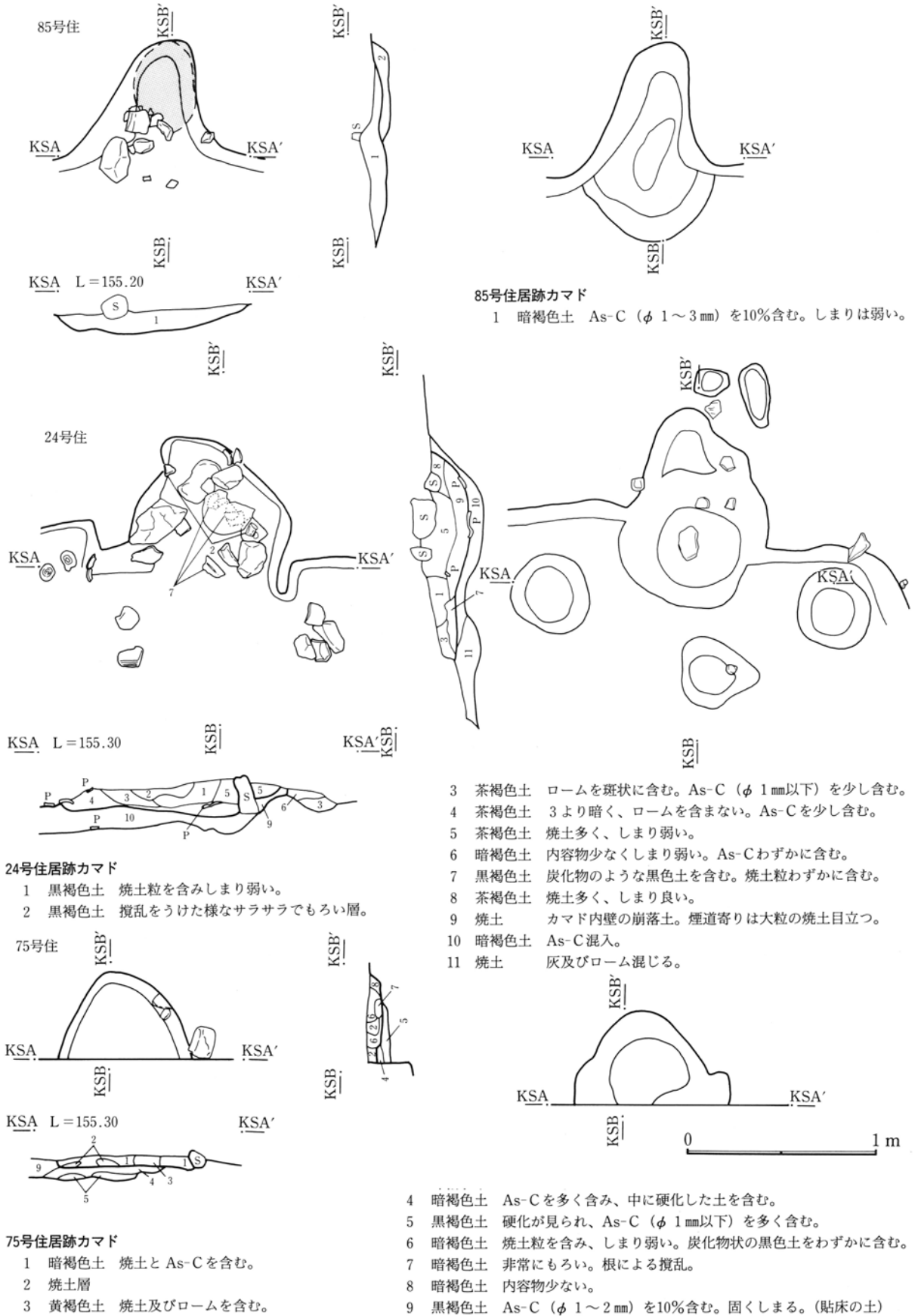
23号住居跡カマド

- 1 黒褐色土 As-C (φ 1~2mm) を20%、焼土粒を5%含む。しまりない。
- 2 にぶい黄褐色土 砂質。
- 3 暗褐色土 焼土粒を20%含む。

0 1 m

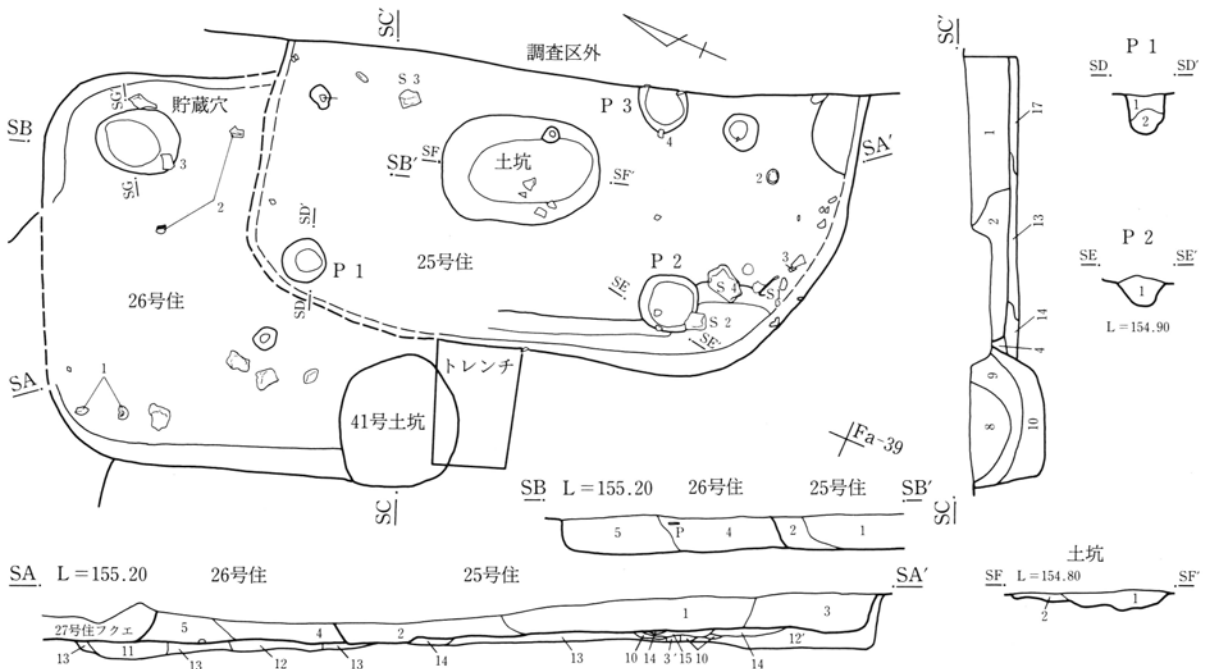
第242図 23・24・75・85号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



第243図 24・75・85号住居跡カマド

4. 平安時代



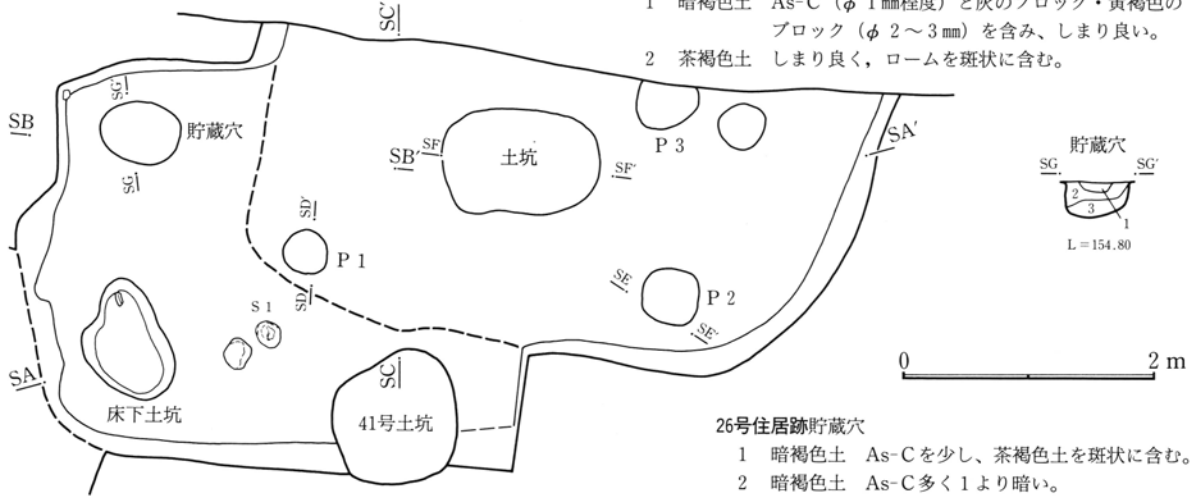
25・26号住居跡

- 1 暗褐色土 As-C多くしまり良い。茶褐色土が斑状に混入。
- 2 暗褐色土 1よりAs-C少なく、茶褐色土の割合が高い。
- 3 暗褐色土 As-C少なく、サラサラする。
- 4 暗褐色土 1・2より暗い。As-Cは1と同程度含む。
- 5 黒褐色土 As-Cが1より多く、4より細かい。
- 6 黒褐色土 As-Cがやや少ない。
- 7 黒褐色土 5に似る。しまり良い。
- 8 黒褐色土 As-C多く、茶褐色土が斑状に混入。1よりしまり弱い。
- 9 黒褐色土 8よりAs-C少なく、茶褐色土多い。
- 10 黒褐色土 8に似るが、As-Cが8より多い。
- 11 黒褐色土 As-C・ロームブロックを少量含む。しまり良い。
- 12 暗褐色土 As-C (φ 1mm大) を均等に、焼土粒子 (φ 1~2mm大) を少し含む。しまり良い。
- 12' 暗褐色土 12に近いが、As-Cを極少量含む。

- 13 暗褐色土 12に似る。12よりしまり悪い。黒褐色土ブロックを少量含む。
- 13' 暗褐色土 13の黒褐色土ブロックのみ。
- 14 黒褐色土 As-C (φ 1~2mm大) を少量、焼土粒子 (φ 1~3mm大) を含む。しまり良い。
- 15 暗褐色土 焼土粒子・ブロックを多く、As-C (φ 1mm以下) を少量含む。しまり良い。
- 16 黒褐色土 As-C少量、焼土粒子 (φ 1mm大)・ローム粒子 (φ 3mm) を極少量含む。しまりやや良い。
- 17 暗褐色土 13に似る。13よりロームブロックの混入が多い。しまり良い。

25号住居跡

- ピット1
 - 1 暗褐色土 As-C多く、しまり弱い。
 - 2 黒褐色土 As-C多い。
- ピット2
 - 1 黒褐色土 As-C多く、しまり弱い。
- 土坑1
 - 1 暗褐色土 As-C (φ 1mm程度) と灰のブロック・黄褐色のブロック (φ 2~3mm) を含み、しまり良い。
 - 2 茶褐色土 しまり良く、ロームを斑状に含む。

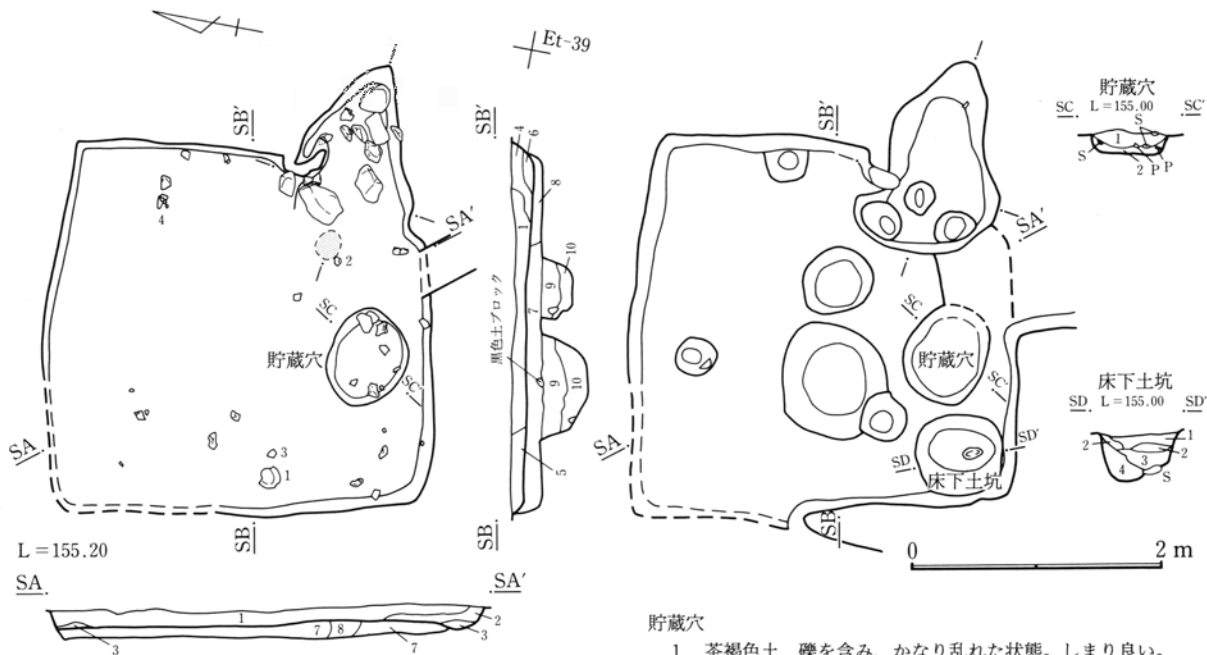


26号住居跡貯蔵穴

- 1 暗褐色土 As-Cを少し、茶褐色土を斑状に含む。
- 2 暗褐色土 As-C多く1より暗い。
- 3 暗褐色土 茶褐色土多く、As-C少し含む。

第244図 25・26号住居跡

II 検出された遺構と遺物



27号住居跡

- 1 暗褐色土 As-C (φ 2~5mm) を多く含み、やや弱い。
- 2 暗褐色土 1に似るが、多くの茶褐色土を斑状に含む。
- 3 暗褐色土 1・2より暗く、細粒のAs-Cを多く含む。
- 4 暗褐色土 ローム状の茶褐色土を混入。
- 5 暗褐色土 1に似るが、茶褐色土を斑状に含む。
- 6 茶褐色土 ローム状でしまりはあまり強くない。
- 7 黒褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子多く含む。しまり良い。
- 8 暗褐色土 ローム漸移層ブロックを多量。7よりしまり弱い。
- 9 暗褐色土 細粒緻密粘性あり。焼土粒少混。やや固くしまる。
- 10 暗褐色土 9に斑状のローム混入。やや固くしまる。

貯蔵穴

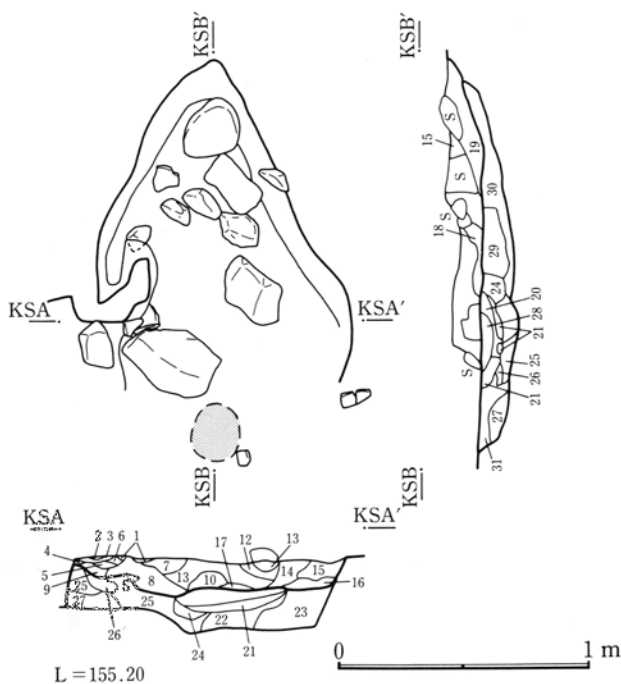
- 1 茶褐色土 礫を含み、かなり乱れた状態。しまり良い。
- 2 暗褐色土 礫を含み、しまり良い。

床下土坑

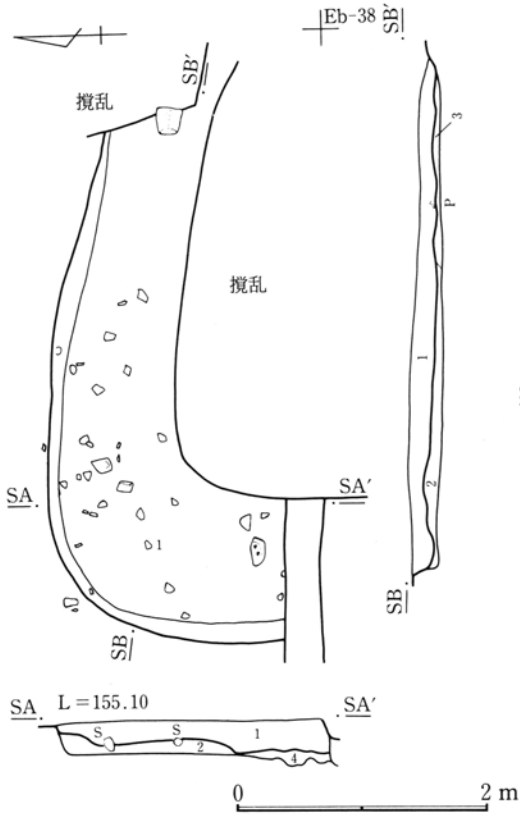
- 1 暗褐色土 As-C少し混じる。
- 2 ロームブロック
- 3 黒褐色土 焼土。ローム微粒混入。粘性あり。やや固い。
- 4 黒褐色土 3と近似。焼土等なし。粘性あり。やや固い。

カマド

- 1 黒褐色土 灰白色の粒を少し含む。炭化物により黒い。
- 2 赤味をおびた灰白色土 灰層。しまり強い。
- 3 暗褐色土 As-C (φ 1mm以下) を含む。
- 4 灰白色土 ややザラついた灰。
- 5 茶褐色土 灰を多く含む。
- 6 赤褐色土 焼土。
- 7 黄灰色土 As-C (φ 1~2mm) をわずかに含む。(灰層)
- 8 暗褐色土 7の土が少し混入する。しまり弱い。
- 9 暗褐色土 焼土粒をわずかに含む。8より暗い。
- 10 暗褐色土 As-C (φ 2~3mm) を少し含む。しまり良い。
- 11 暗褐色土 全面にやや黄色味を帯びた灰を含む。
- 12 暗褐色土 11に似るが、灰を含まず暗い。
- 13 赤灰色土 焼土。ポロポロと崩れる。
- 14 暗褐色土 12に似る。灰が斑状に少し混入する。
- 15 茶褐色土 灰を全面に混入し、一部ブロックを含む。
- 16 黒褐色土 茶褐色土を斑状に含む。
- 17 黒褐色土 16に似るが、やや明るい。内容物が少ない。
- 18 茶褐色土 焼土のブロックと黒褐色土のブロックを含む。
- 19 茶褐色土 As-C (φ 2~3mm) 少し含み、一部焼土混入。
- 20 暗灰褐色土 As-C (φ 1mm未満) を含む。しまり良い。
- 21 黄灰色土 灰層。固く、しまりが良い。
- 22 暗褐色土 茶褐色の土を斑状に含む。
- 23 暗褐色土 22より茶褐色の土が多くAs-Cを含む。
- 24 茶褐色土 サラサラしたしまりの弱い土。内容物は少ない。
- 25 茶褐色土 ローム粒子をわずかに含み、しまりが良い。
- 26 茶褐色土 灰(黄灰色の硬質土)と焼土ブロックを含む。
- 27 茶褐色土 内容物ほとんどなく、やわらかい。
- 28 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり良い。
- 29 赤褐色土 焼土多い。
- 30 暗褐色土 焼土・As-Cを少し含む。ローム土混入。
- 31 暗褐色土 灰及びローム粒を含む。

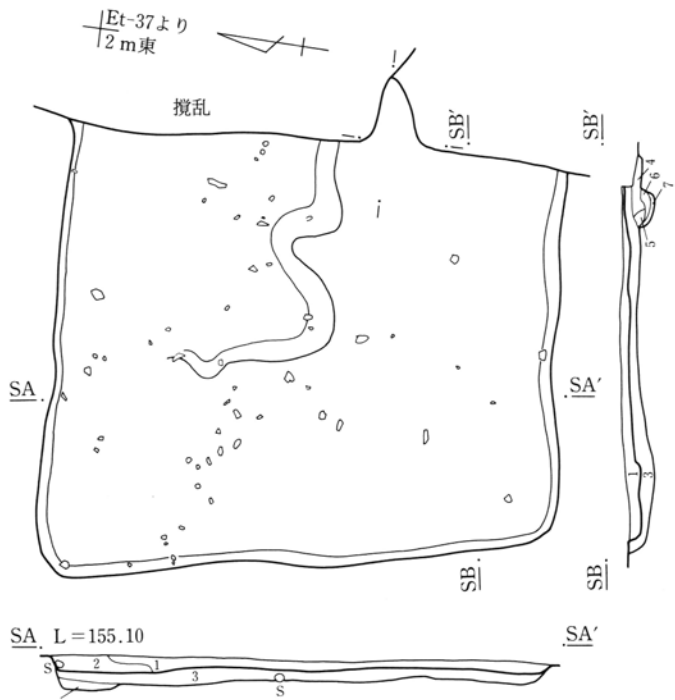


第245図 27号住居跡・カマド



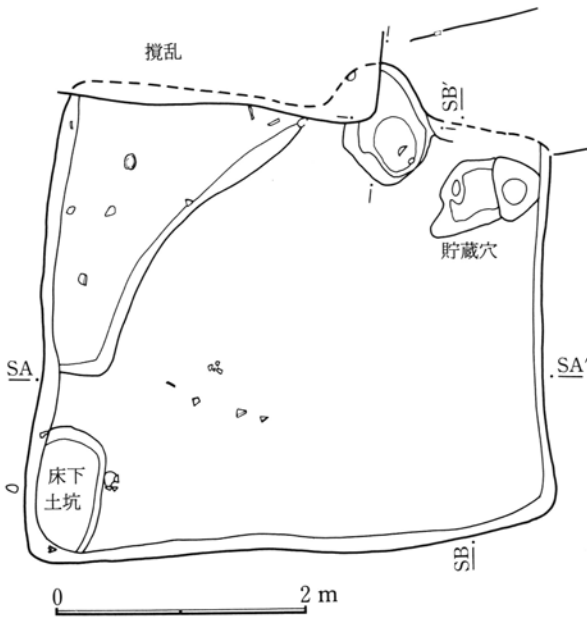
28号住居跡

- 1 黒褐色土 As-Cを多く含む。
- 2 黒褐色土 1に似るがやや柔らかく、As-Cも少ない。
- 3 黒褐色土 As-Cをほとんど含まず。しまり弱い。
- 4 黒褐色土 非常にしまり良く固い。As-Cを多く含む。
(28号住の床)



29号住居跡

- 1 茶褐色土 As-C (φ 3~5mm)を含む。しまりは弱く、崩れやすい。
- 2 茶褐色土 1よりしまりやや強く、含まれるAs-Cが少なく大きい。
- 3 茶褐色土 白い鉱物粒を含み、しまり良い。
- 4 茶褐色土 ロームを少し含む。
- 5 暗褐色土 固くしまり、As-C及び炭化物を含む。
- 6 灰褐色土 固くしまる。灰を多く含む。
- 7 茶褐色土 白い粒子を含み、しまり良い。
- 8 暗褐色土 茶褐色土を斑状に含む。しまり弱い。

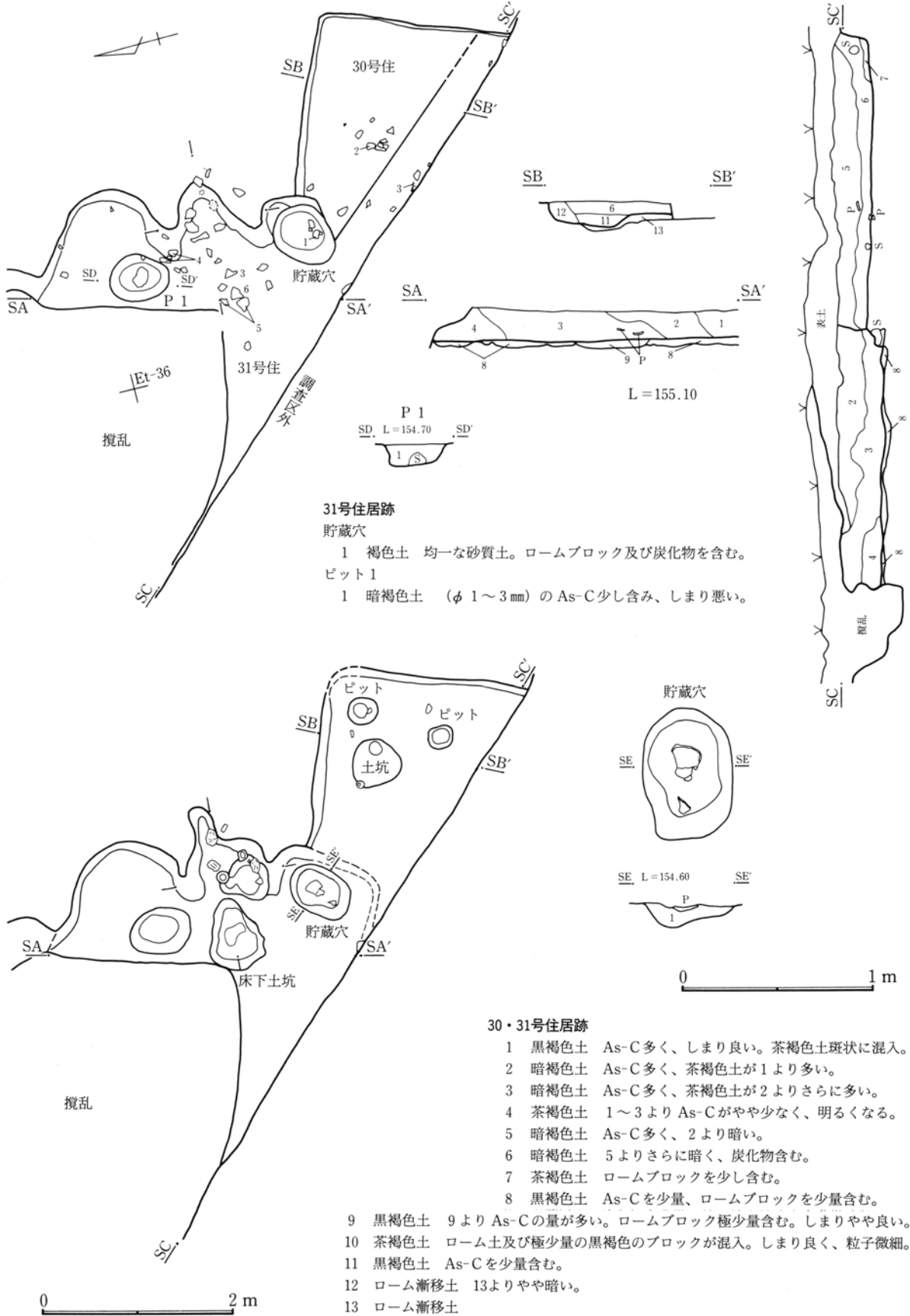


カマド

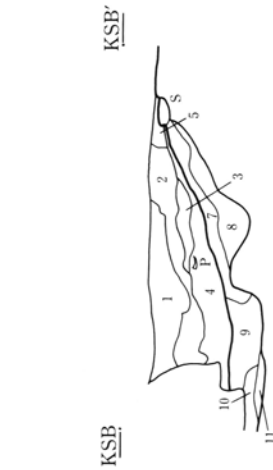
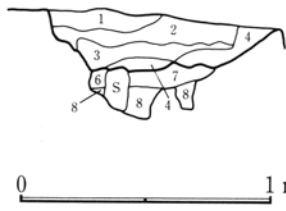
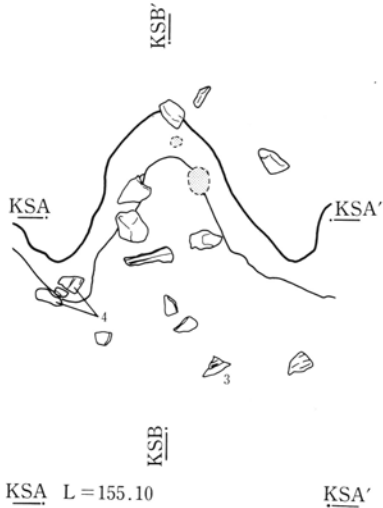
- 1 黒褐色土 しまり弱く、白い鉱物粒を少し含む。
- 2 暗茶褐色土 しまり弱く、黄色鉱物粒を少し含む。
- 3 灰褐色土 しまり良く、灰状の土を多く含む。
- 4 灰褐色土 3より灰が少なく、焼土粒を含む。

第246図 28・29号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



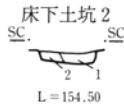
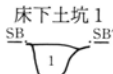
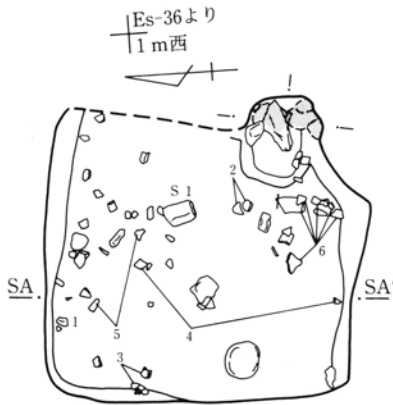
第247図 30・31号住居跡



31号住居跡カマド

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1 茶褐色土 As-C多く含み、ロームブロックを少し含む。 | 6 暗褐色土 内容物少なく、しまり弱い。 |
| 2 茶褐色土 1より暗く、ローム混入。 | 7 暗褐色土 被熱したAs-C混入。 |
| 3 茶褐色土 ローム多く、しまり弱い。 | 8 暗褐色土 粘性有り。焼土粒、ローム少量混入。 |
| 4 茶褐色土 焼土を含み、ローム土混入。 | 9 灰 |
| 5 茶褐色土 ロームブロックを含み、しまり良い。 | 10 黒褐色土 As-C少量、焼土混入。 |
| | 11 焼土と灰・ローム土の混土 |

第248図 31号住居跡カマド



32号住居跡

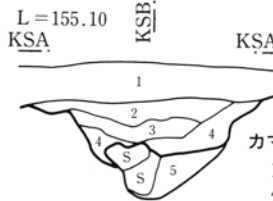
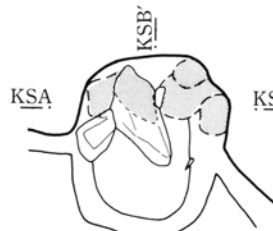
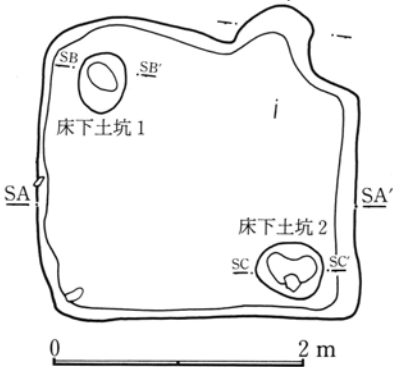
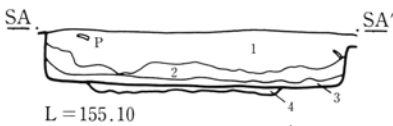
- | |
|--------------------------------------|
| 1 茶褐色土 32住埋没土。As-C (φ 1~3mm) を10%含む。 |
| 2 暗褐色土 As-Cが少なく、茶褐色土を斑状に含む。 |
| 3 暗褐色土 茶褐色土が多い。 |
| 4 暗褐色土 As-Cを5%含む。焼土粒を含む。 |

床下土坑1

- | |
|-------------------------------|
| 1 暗褐色土 しまり弱く、崩れやすい。As-C10%含む。 |
|-------------------------------|

床下土坑2

- | |
|------------------------|
| 1 暗褐色土 As-C少量含む。しまり弱い。 |
| 2 茶褐色土 As-C極わずか含む。 |

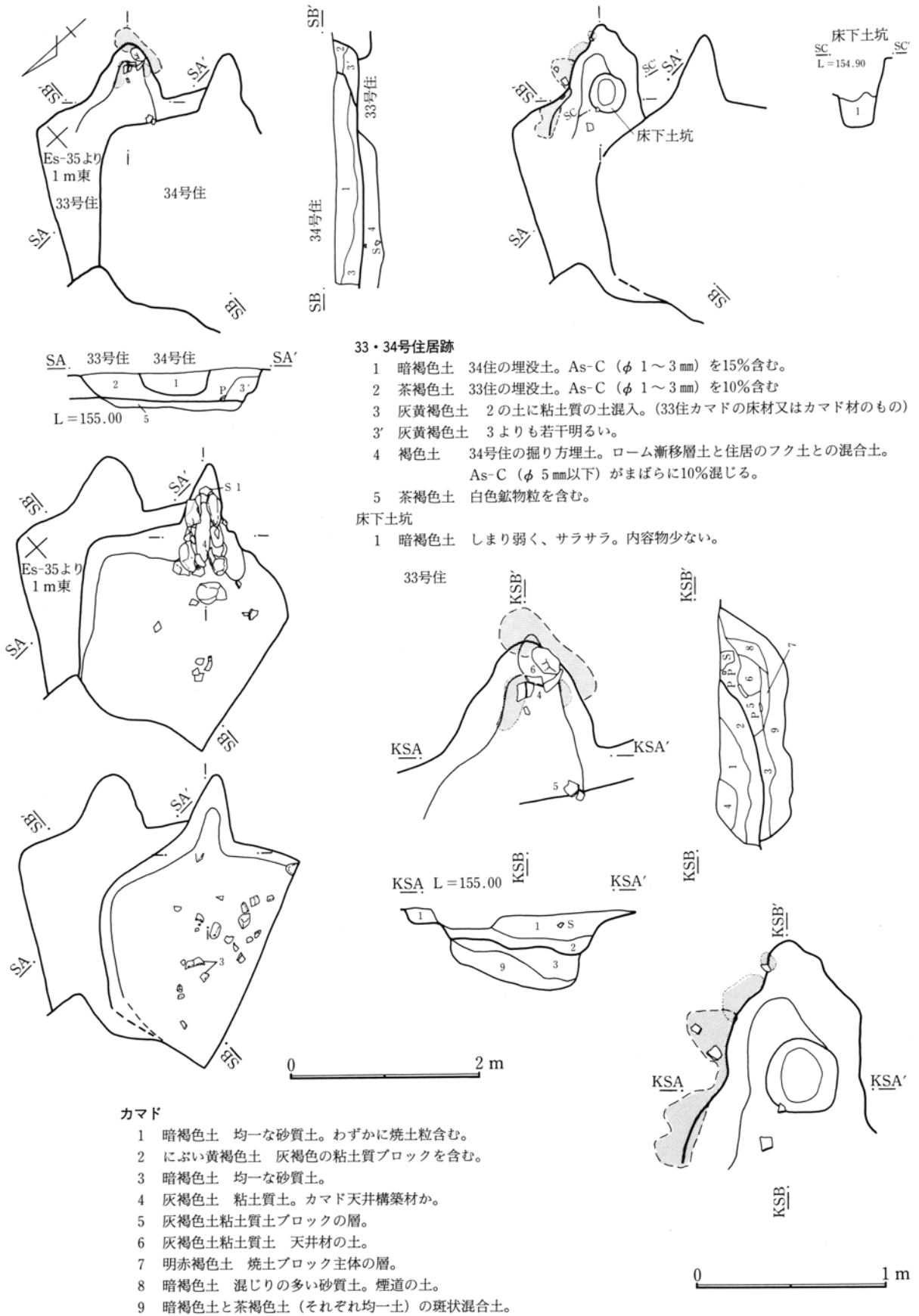


カマド

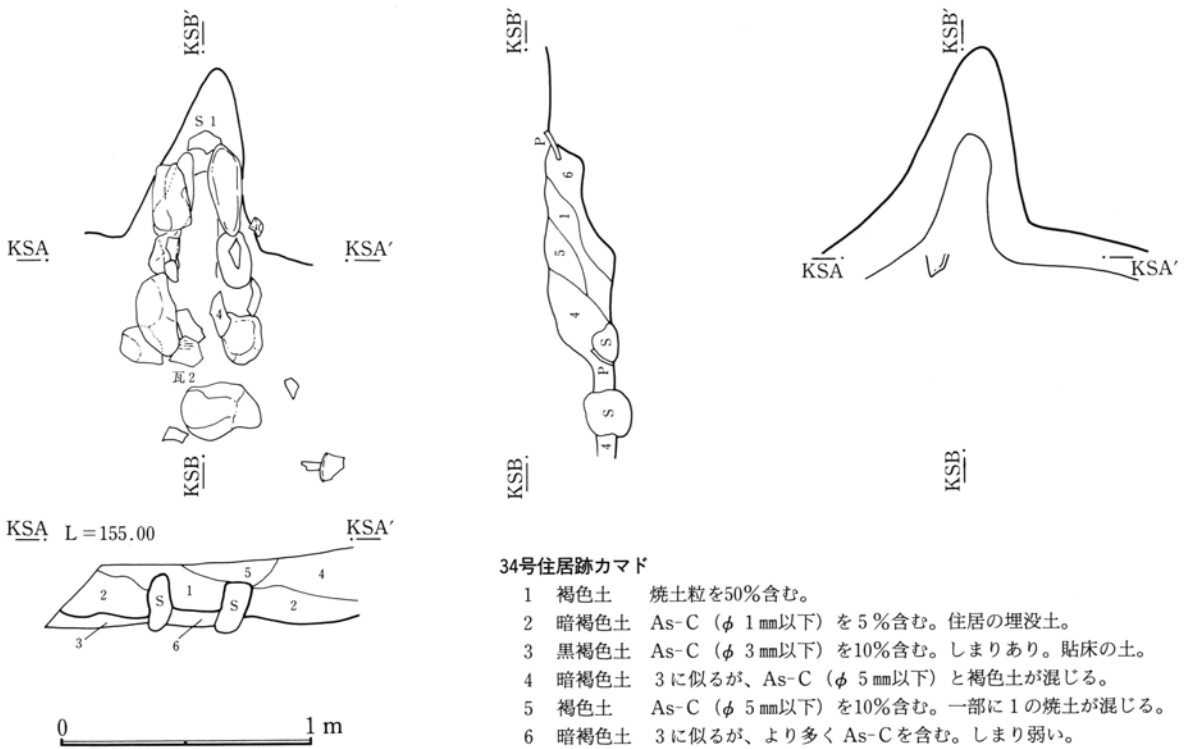
- | |
|---------------------------------|
| 1 暗褐色土 As-C極少量。Hr-FPわずか含む。 |
| 2 暗褐色土 ローム小ブロック (φ 1cm粒) を少量含む。 |
| 3 黄褐色土 焼土を少量含む。(カマド崩落土) |
| 4 赤褐色土 焼けたローム層。 |
| 5 暗褐色土 焼土粒子少量、ロームブロック溶混多く含む。 |

第249図 32号住居跡・カマド

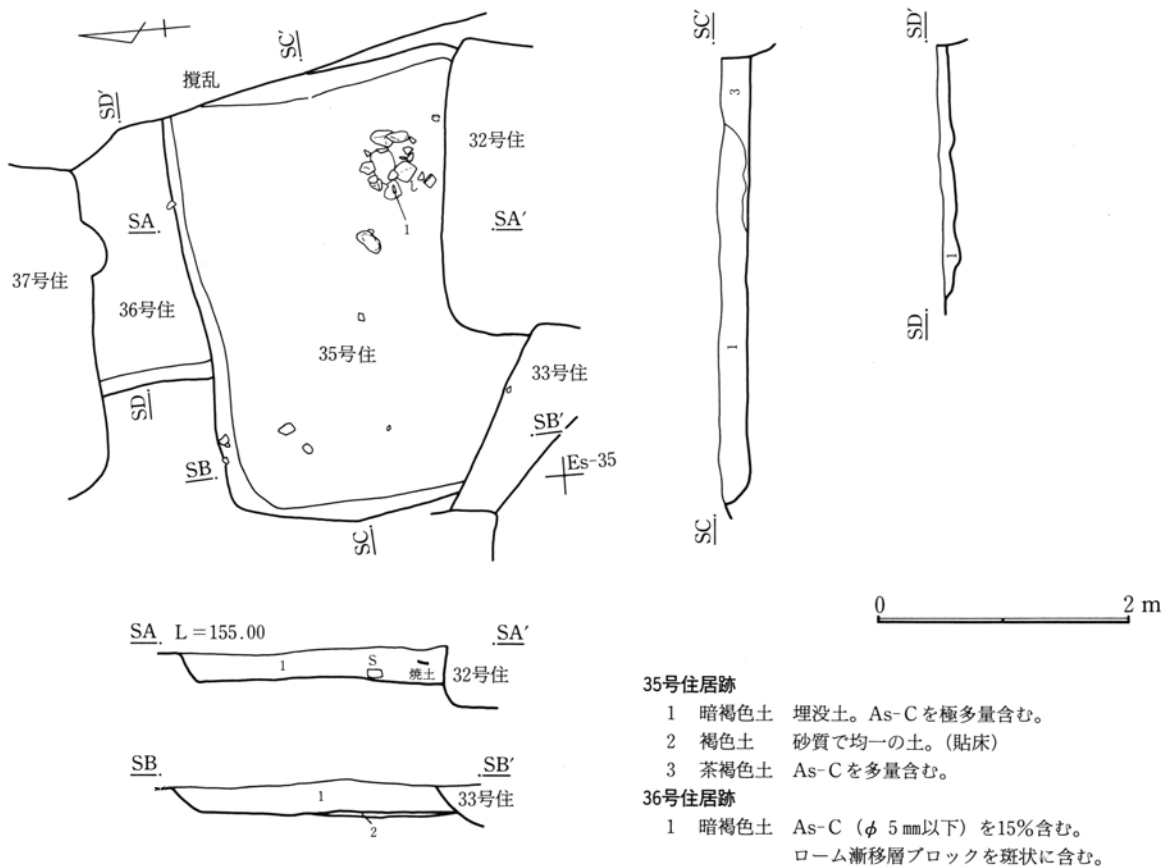
II 検出された遺構と遺物



第250図 33・34号住居跡・カマド

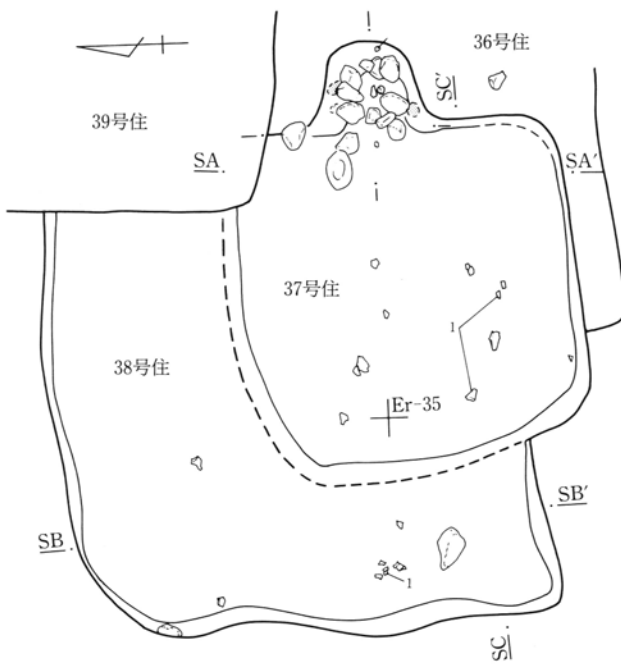


第251図 34号住居跡カマド



第252図 35・36号住居跡

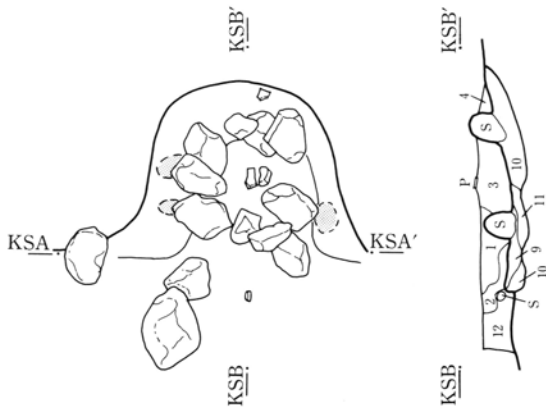
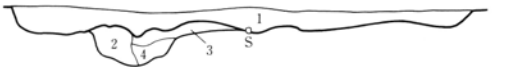
II 検出された遺構と遺物



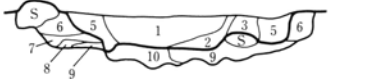
SA, L=155.10



SB, SB'



KSA, L=155.00

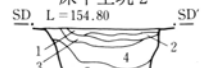
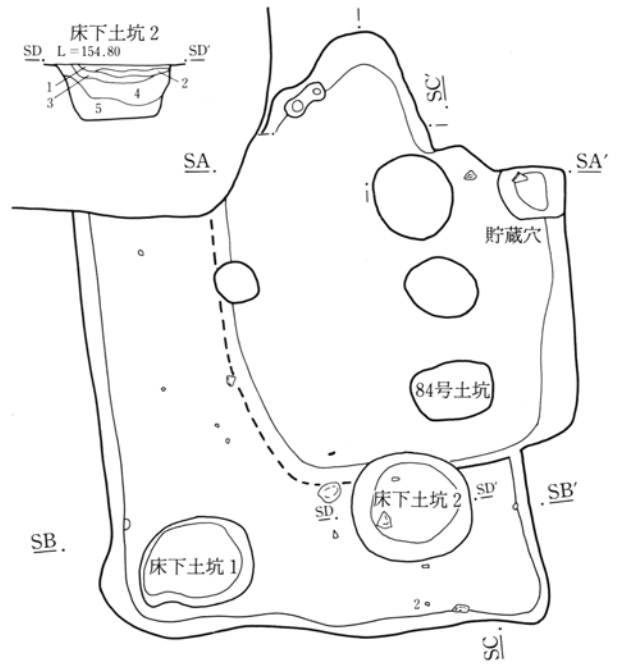


37・38号住居跡

- 1 暗褐色土 As-C (φ 3mm以下) を15%含む。
- 2 暗灰黄褐色土 As-C (φ 1mm位) を含む。
- 3 黄褐色土に暗褐色土の斑状混合土
- 4 黄褐色土 砂質。
- 5 黒褐色土 しまりなく混じりも少ない。
- 6 茶褐色土 As-C (φ 1~3mm) を15%含む。暗褐色土ブロックを斑状に含む。
- 7 茶褐色土 As-Cをほとんど含まない。
- 8 褐色土 As-C (φ 1~3mm) を5%、焼土粒を含む貼り床の土。
- 9 暗褐色土にローム漸移層褐色土の斑状混合土
- 10 9に灰白色の粘質土が混入。

38号住居跡床下土坑2

- 1 暗褐色土 As-C (φ 3mm以下) を10%含む。
- 2 黄褐色土 砂質土。ローム層土の再堆積土。
- 3 灰黄褐色土 粘土質土が混じる。
- 4 褐色土 ローム層ブロック。ローム粒を含む。
- 5 にぶい黄褐色土 4より一段明るく、より多くのローム層ブロック含む。



SD, L=154.80

0 2 m

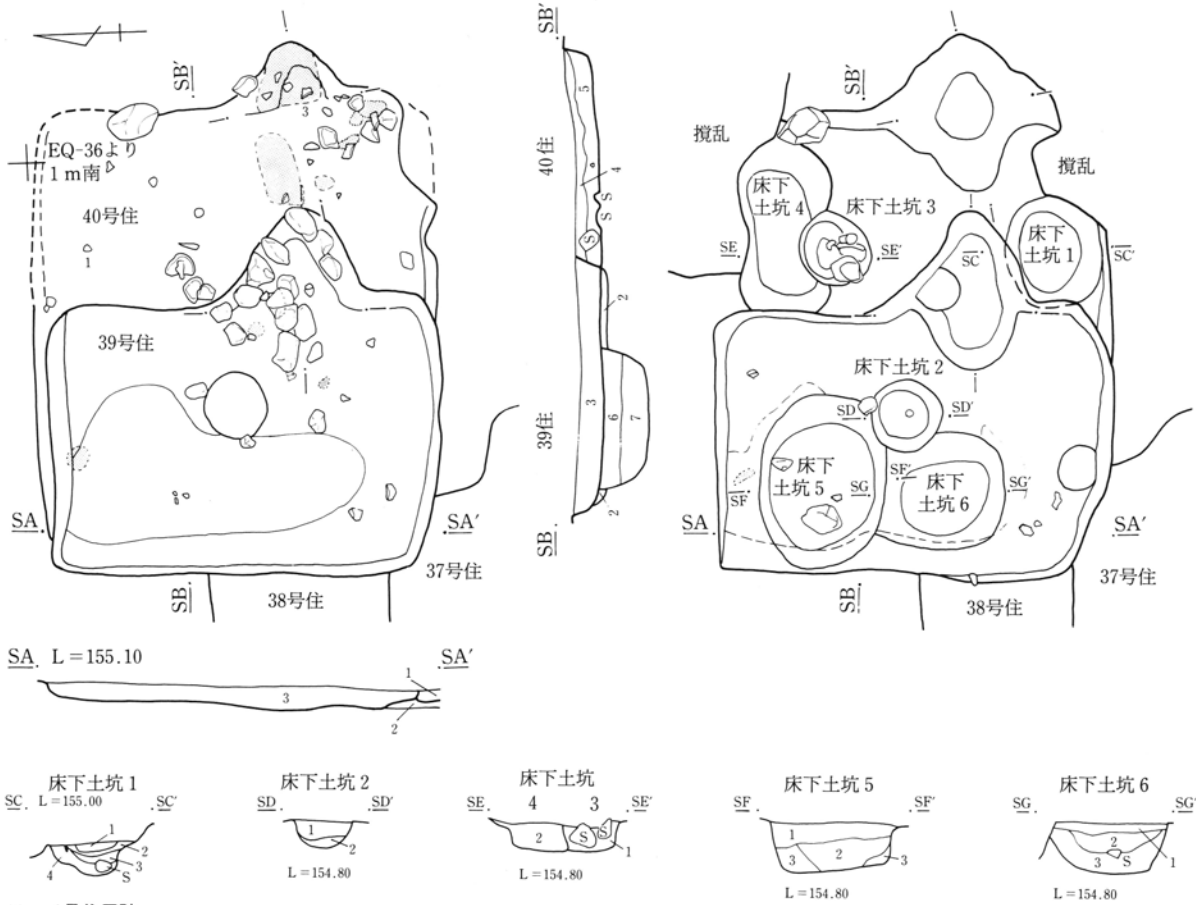
37号住居跡カマド

- 1 茶褐色土 炭化物をわずかに含む。しまり良い。
- 2 茶褐色土 焼土と灰を含む。
- 3 茶褐色土 内容物が少ない。しまり弱い。
- 4 茶褐色土 ロームブロックを少し含む。しまり弱い。
- 5 茶褐色土 As-Cを多く含む。しまり弱い。
- 6 茶褐色土 5に似るが、As-C少ない。
- 7 灰黄褐色土 粘土質。カマド構築材。

- 8 褐色土 茶褐色土に7の土が混じる。
- 9 黒褐色土 粘りある土。上面が使用面。
- 10 茶褐色土 焼土粒を含む。
- 11 暗褐色土 焼土粒を含む。
- 12 茶褐色土 As-C (φ 1~3mm) を少量含む。

0 1 m

第253図 37・38号住居跡・カマド



39・40号住居跡

- 1 茶褐色土 As-C (ϕ 1~3 mm) を5%含む。
- 2 暗褐色土 やや粘りのある土。(貼床)
- 3 暗褐色土 As-C (ϕ 1~5 mm) を5%含む。暗褐色土に茶褐色土の斑状混合土。
- 4 灰褐色土 As-C (ϕ 5mm以下) を10%含む。
- 5 灰褐色土 As-C (ϕ 5mm以下) を10%含む。灰褐色の粘質土をブロック状に含む。
- 6 床下土坑5の1層
- 7 床下土坑5の2層

40号住居跡

床下土坑1

- 1 暗褐色土と黒色のブロック状混合土 As-C (ϕ 5mm以下) を15%含む。一部に焼土粒が混じる。
- 2 1に黄褐色の粘土を含む。
- 3 1に同じ。
- 4 1に含まれる暗褐色土のみの層。一部に粘土粒が入る。

床下土坑2

- 1 灰白色粘土層 層全体がひとつの固まりになっている。
- 2 灰褐色砂層

床下土坑3・4

- 1 黒褐色土 As-C (ϕ 2mm以下) を5%含む。炭化物を含む。しまりなし。土坑全体に石 (ϕ 20cm程) が埋められている。
- 2 茶褐色土とローム漸移層土の斑状混合土 As-Cを含まない。均一的な砂質層。

床下土坑5

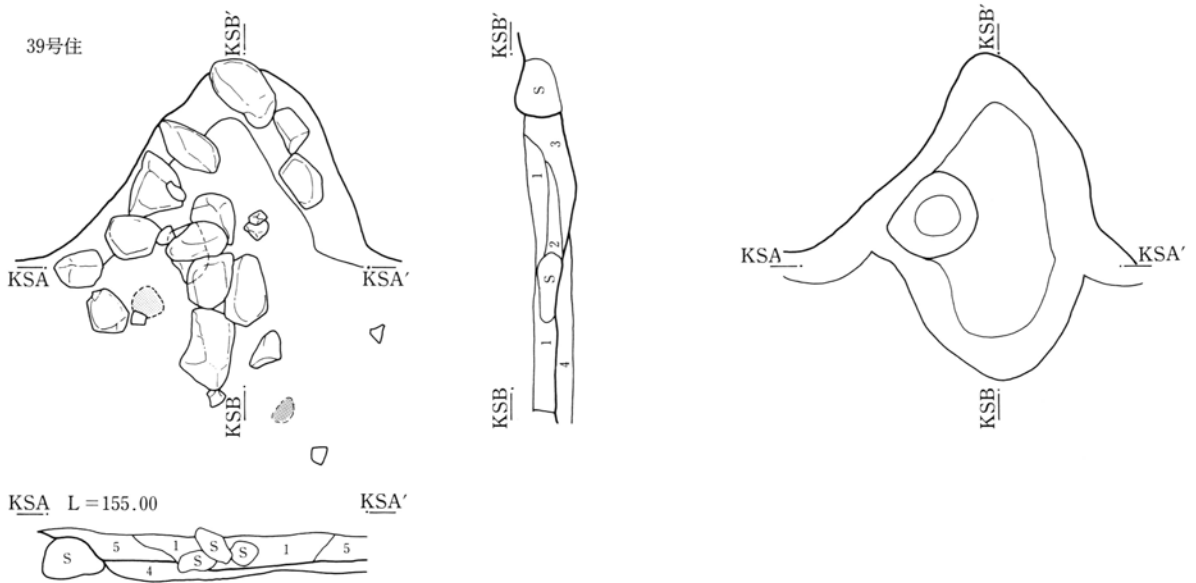
- 1 暗褐色土 ブロック状の堆積土。
- 2 黒褐色土 ほぼ均一的な土。しまり弱い。
- 3 2に暗褐色土がブロック状に混じった土。

床下土坑6

- 1 にぶい黄褐色土 均一の堆積土。
- 2 暗褐色土 As-Cを5%含む。ややしまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 ブロック状の堆積土。

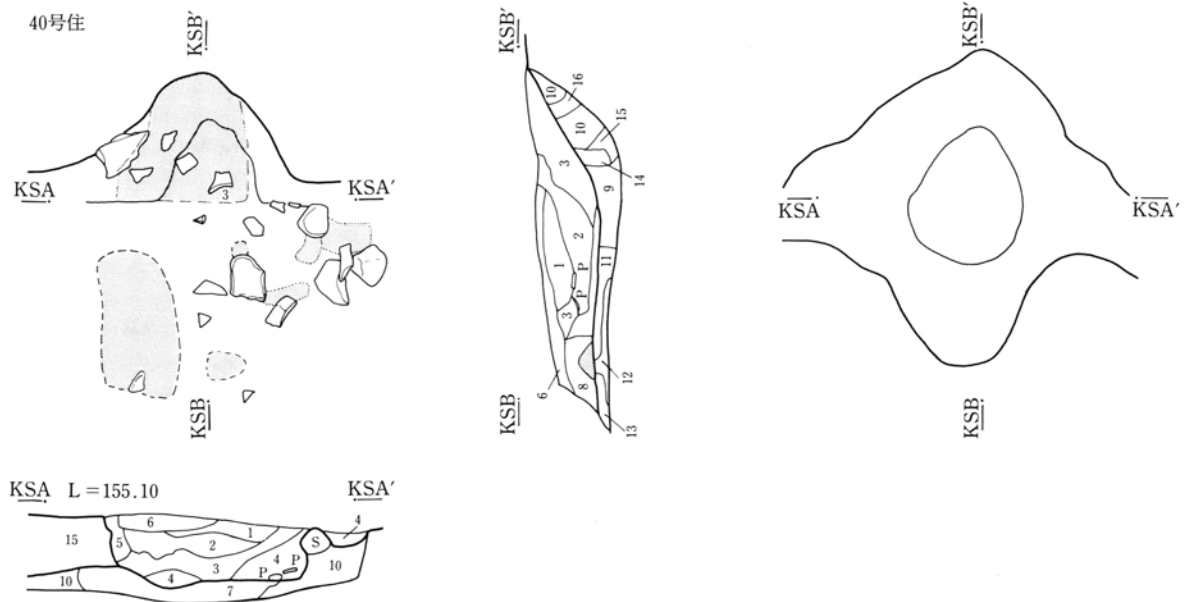
第254図 39・40号住居跡

II 検出された遺構と遺物



39号住居跡カマド

- 1 茶褐色土 As-C (ϕ 1mm前後) を5%、一部に焼土粒を含む。黒褐色土と住居埋没土が均一に混じった土。
- 2 茶褐色土 1より黒褐色土の混じりがやや多い。大きめの焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土 一部に炭化物を含む。焼土粒は1・2より少ない。
- 4 暗褐色土 As-C を5%含む。(住居埋没土)
- 5 暗褐色土 As-C (ϕ 1~5mm) を5%含む。暗褐色土に茶褐色土の斑状混合土。(39住埋没土 Sec の3)

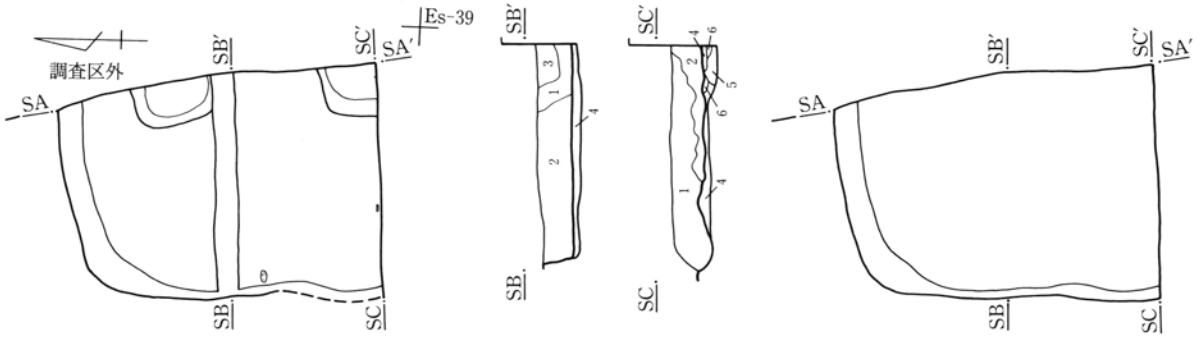


40号住居跡カマド

- 1 灰褐色土 As-C (ϕ 5mm以下) を含む。しまりのある土。
- 2 黒褐色土 As-C (ϕ 3mm以下) を含む。
- 3 暗褐色土 粘土粒が斑状に混じる。
- 4 暗褐色土 As-C を含まない均一な土。
- 5 暗褐色土 粘土ブロックが混じる。
- 6 暗褐色土 As-C を含む。しまりある土。
- 7 暗褐色土 粘土粒をわずかに含む。
- 8 暗褐色土 均一に As-C (2mm以下) を含む。住居埋没土。
- 9 黄褐色土 白い鉱物粒を含む。ローム層。
- 10 茶褐色土 ローム質で As-C (ϕ 1mm程) をわずかに含む。
- 11 暗褐色土 灰を含む。橙色の As-C を極わずかに含む。
- 12 黄褐色土 ローム質でしまり良い。
- 13 暗褐色土 灰を多く含む。しまり良い。
- 14 暗褐色土 灰を多く含む。カリカリする。
- 15 茶褐色土 10に似る。ややしまり良い。
- 16 黄褐色土 ローム層で橙色の As-C をわずかに含む。

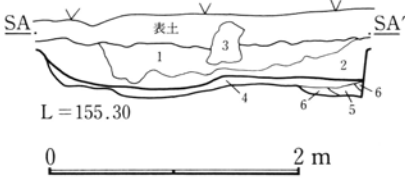
0 1 m

第255図 39・40号住居跡カマド

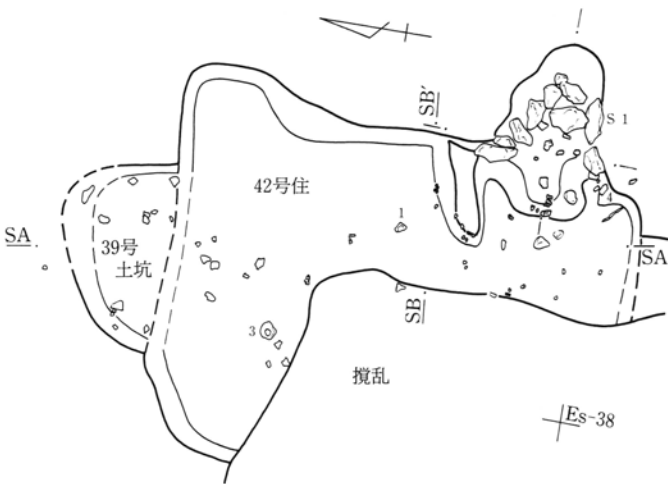


41号住居跡

- 1 暗褐色土 茶褐色土を斑状に含む。As-C少し含む。
- 2 暗褐色土 As-Cが1より多い。
- 3 暗褐色砂質土 砂質土。しまり弱い。攪乱と思われる。(As-C多混)
- 4 暗褐色土 As-C少し混じる。
- 5 暗褐色粘質土 強粘。焼土粒多混。カマド手前にある土坑埋没土。
- 6 黄褐色粘質土 掘り方土坑の内側に粘付。カマド手前にある土坑埋没土。

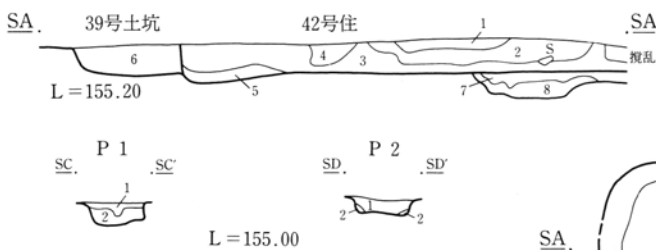


第256図 41号住居跡



42号住居跡

- 1 灰褐色土 砂質で粗く、崩れやすい。
- 2 暗褐色土 As-C多く、茶褐色土を斑状に含む。炭化材多い。
- 3 暗褐色土 2よりわずかに暗い。炭化物多い。
- 4 攪乱
- 5 暗褐色土 3よりAs-C少なく茶褐色土多い。
- 6 茶褐色土 As-C多く、しまり良い。
- 7 暗褐色土 炭化物を少し含む。As-C (φ 1mm以下)をわずかに含む。
- 8 茶褐色土 φ 1~2mmの礫や灰、ロームブロックを含み、乱れた層。しまりは無い。

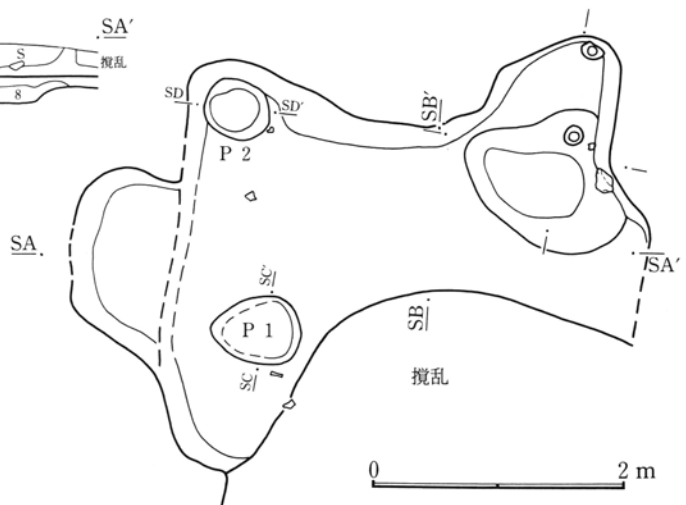


ピット1

- 1 黒褐色土 As-Cわずかに含む。しまり強い。
- 2 茶褐色土 白い鉱物粒 (φ 1mm以下) をわずかに含む。地山?

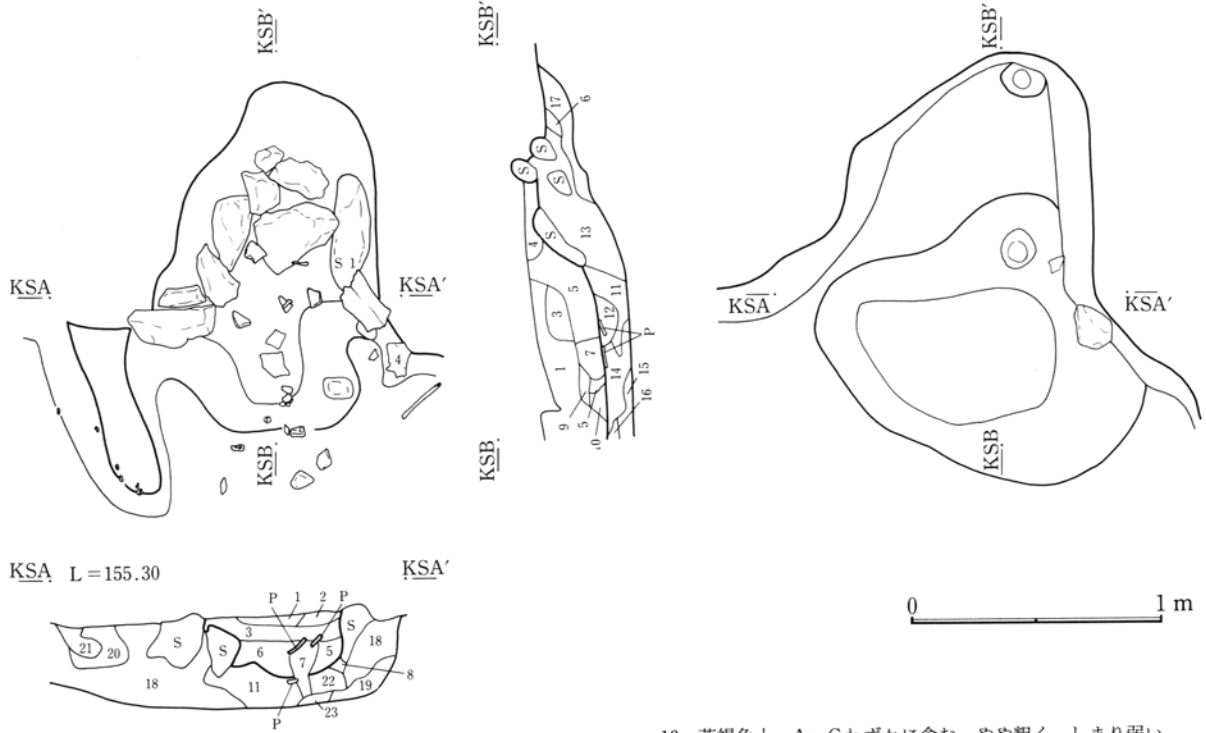
ピット2

- 1 茶褐色土 As-Cを少し含み、暗褐色の土を斑状に含む。
- 2 黄褐色土 内容物少なく、しまり良い。



第257図 42号住居跡

II 検出された遺構と遺物

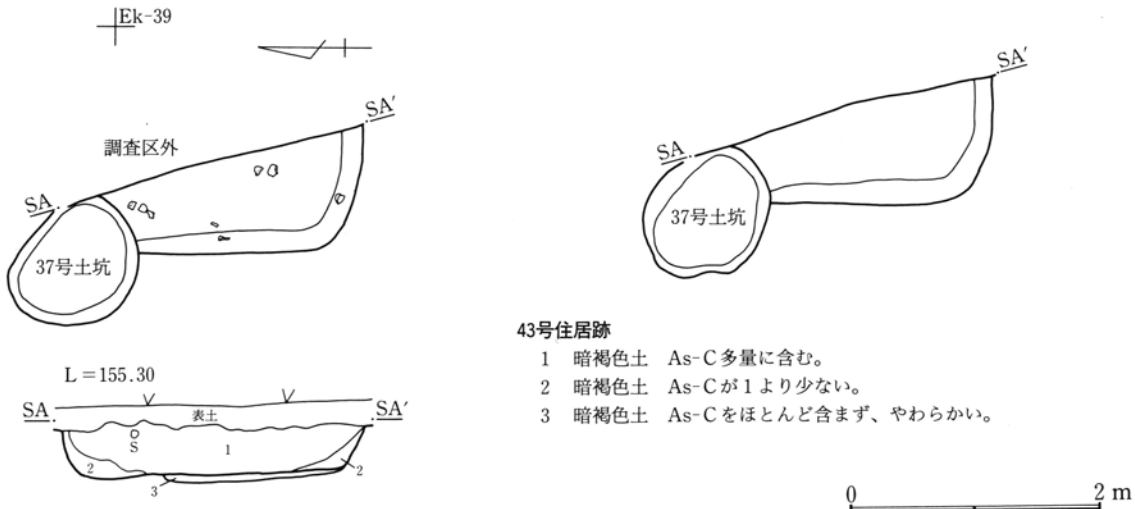


42号住居跡カマド

- 1 暗褐色土 炭化物多く、As-Cわずかに含む。
- 2 茶褐色土 しまり弱く、内容物少ない。
- 3 茶褐色土 As-C (φ 1~2mm) をわずかに含む。
- 4 灰褐色土 灰を含み、しまり弱い。焼土少し含む。
- 5 灰褐色土 4より暗い。炭化物少し含む。
- 6 暗褐色土 As-Cわずかに含む。しまり弱い。
- 7 灰白色土 灰が多く、しまり弱い。
- 8 茶褐色土 しまり弱い、崩れやすい。
- 9 暗褐色土 灰を少し含む。しまり弱い。
- 10 暗褐色土 9より明るく、粗い。ローム土をわずかに含む。
- 11 茶褐色土 焼土粒とローム粒を含む。
- 12 茶褐色土 ローム粒と炭化物を含む。

- 13 茶褐色土 As-Cわずかに含む。やや粗く、しまり弱い。
- 14 茶褐色土 炭化物をわずかに含む。しまり良い。
- 15 茶褐色土 ローム土を多く含む。As-C (φ 1mm程度) をわずかに含む。
- 16 茶褐色土 15より明るく、灰を含む。しまり弱い。
- 17 黒褐色土 As-Cわずかに含む。しまり弱い。
- 18 暗褐色土 As-C少し含む。茶褐色土を斑状に含む。
- 19 暗褐色土 18に似るが、As-Cほとんど含まない。
- 20 茶褐色土 As-C少し含む。ローム土多い。
- 21 黄褐色土 粗いローム土のブロック。
- 22 茶褐色土 灰状の土を少し含む、粗い。
- 23 茶褐色土 22に似るが、灰が少ない。白い鉱物粒子わずかに含む。

第258図 42号住居跡カマド

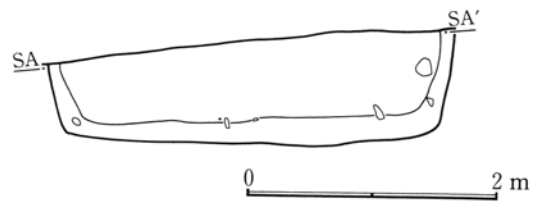
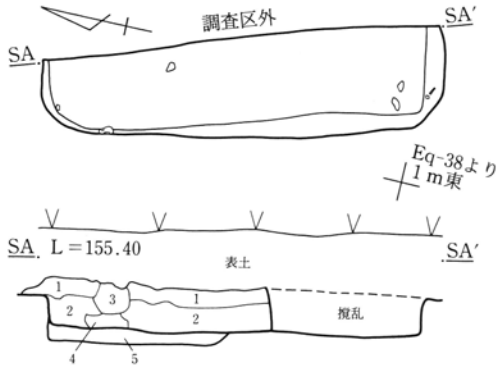


43号住居跡

- 1 暗褐色土 As-C多量に含む。
- 2 暗褐色土 As-Cが1より少ない。
- 3 暗褐色土 As-Cをほとんど含まず、やわらかい。

第259図 43号住居跡

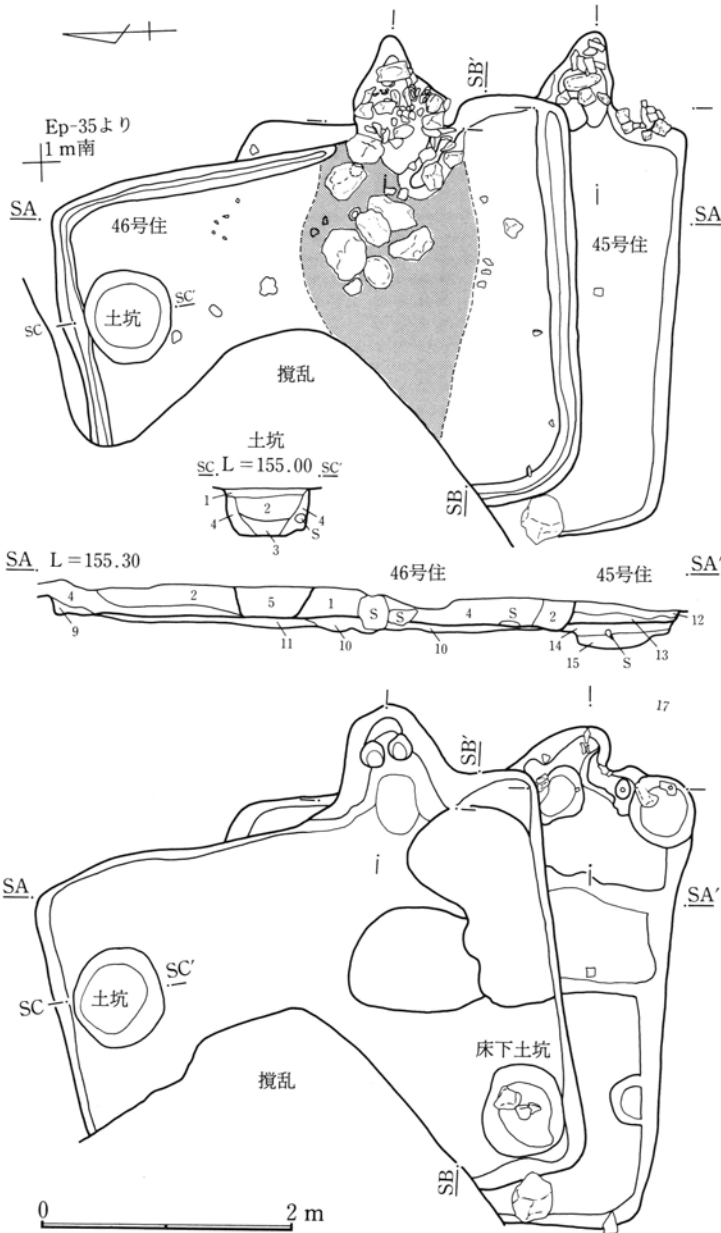
4. 平安時代



44号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを少し含む。
- 2 暗褐色土 茶褐色土のブロックを斑状に含む。As-Cを多く含む。
- 3 暗褐色土 1に似るが、やや柔らかくAs-Cの量も少ない。
- 4 茶褐色土 As-Cをわずかに含み、しまり強い。
- 5 暗褐色土 2より粒が細かく、As-Cを少し含む。掘り方。

第260図 44号住居跡



46号住居跡土坑

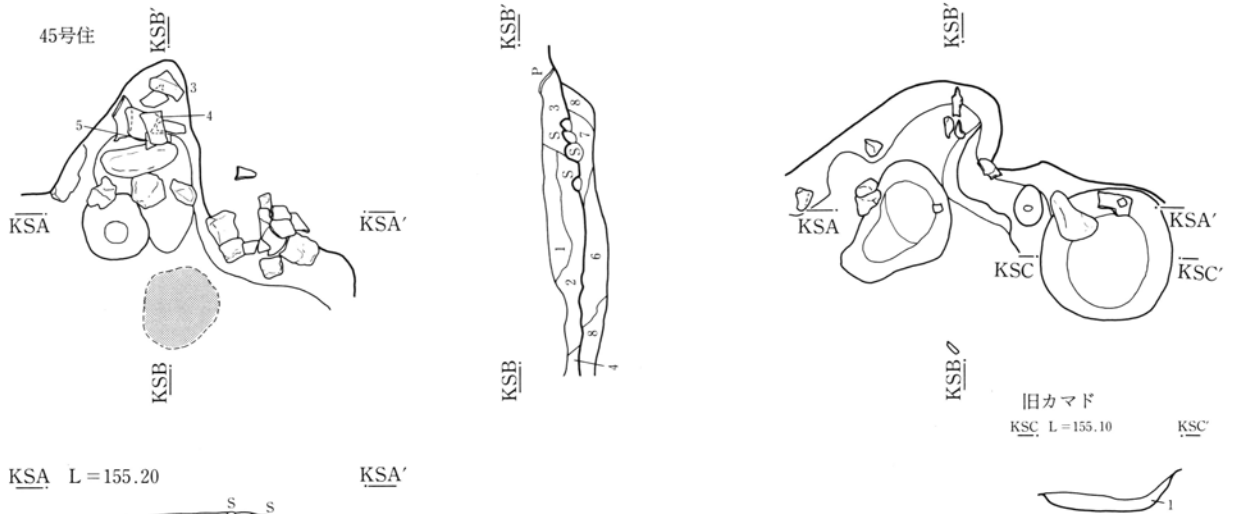
- 1 暗褐色土 As-C少量、茶褐色土を斑状に含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 As-C多量。茶褐色土は1より少ない。しまり弱い。
- 3 暗褐色土 As-C少量。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 As-C殆ど含まない。細かくしまり良い。

45・46号住居跡

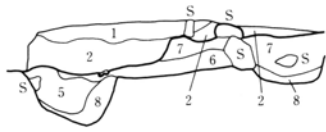
- 1 暗褐色土 As-C多く含む。礫(φ 1~3mm)を含む。茶褐色土を斑状に含む。
- 2 暗褐色土 1に比べ、しまり良い。茶褐色土少ない。As-Cは多く含む。
- 3 黒褐色土 As-C多く含むが、やや暗く非常にしまり良い。
- 4 暗褐色土 2より、ややAs-C少なく、ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 1・2に比べ、明るい。茶褐色土を多く含む。
- 6 暗褐色土 もろく、崩れやすい。根などによる攪乱。
- 7 暗褐色土 1に似る。
- 8 暗褐色土 内容物少なく柔らかい。
- 9 暗褐色土 4よりさらにAs-C少なく、ロームブロックを含む。
- 10 暗褐色土 黒褐色土を含み、しまり良い。
- 11 におい黄褐色土 漸移層土に10が混じる。
- 12 暗褐色土 As-C (φ 3mm以下)を15%含む。固くしまる。
- 13 褐色土 12と同様しまり良い。As-C (φ 3mm以下)を10%含む。
- 14 褐色土 As-C (φ 3mm以下)を10%含む。
- 15 暗褐色土 As-C (φ 3mm以下)を10%含む。暗褐色土と褐色土が斑状に混じる。

第261図 45・46号住居跡

II 検出された遺構と遺物



KSA L=155.20 KSA'

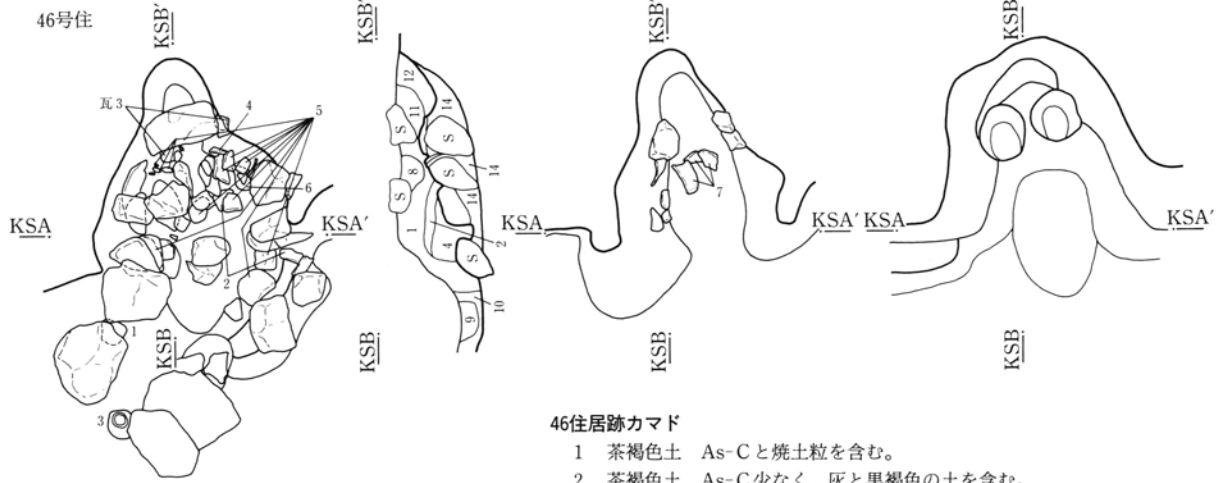


45号住居跡カマド

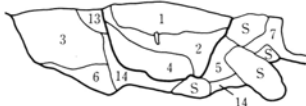
- 1 暗褐色土 As-C多く、茶褐色土が少し斑状に入る。
- 2 暗褐色土 1より明るく茶褐色土が多い。
- 3 茶褐色土 As-C多く、ローム土を含む。
- 4 暗褐色土 As-C多く、1に似る。
- 5 黒褐色土と暗褐色土が斑に混じった土。
- 6 黒褐色土 As-C (φ 1~2mm) を5%含む。
- 7 暗褐色土 As-C (φ 1~3mm) を10%含む。
- 8 茶褐色土 均一の砂質土。

45号住居跡旧カマド手前の窪み

- 1 にぶい赤褐色土 焼土粒、炭化物粒を多く含む。やや粘りのある砂質土。



KSA L=155.30 KSA'



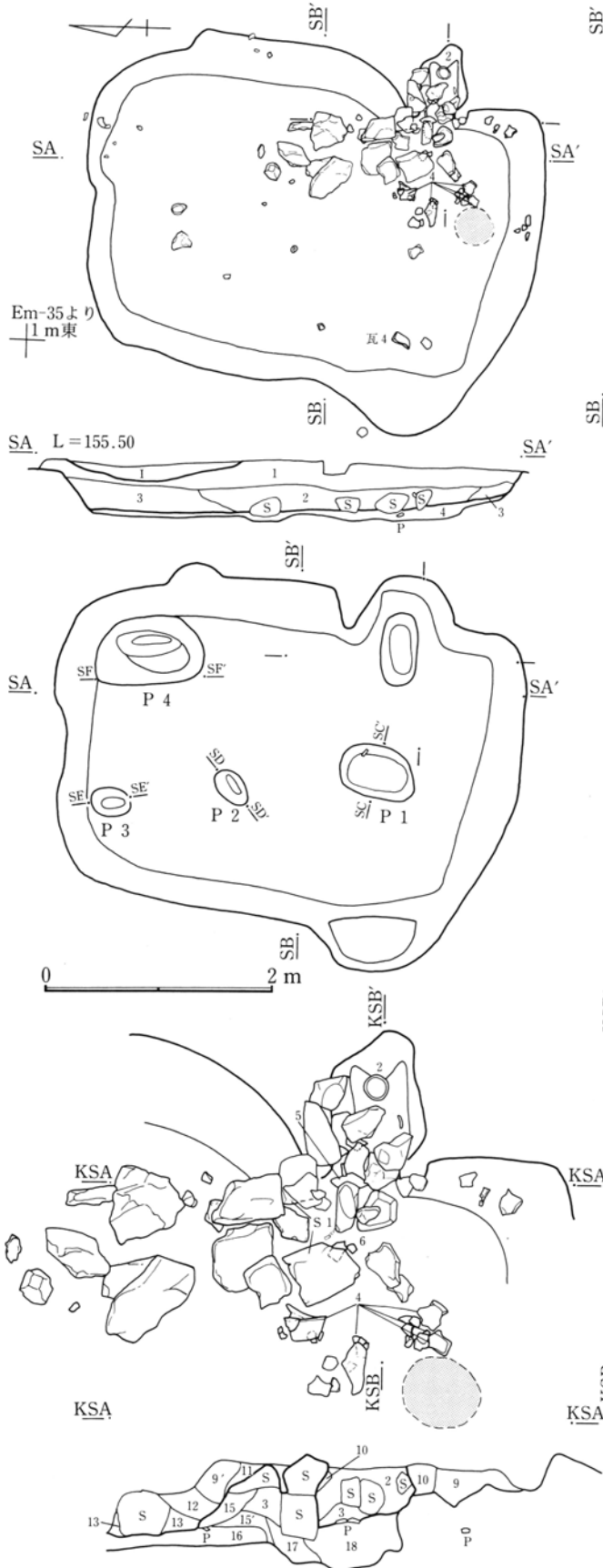
46住居跡カマド

- 1 茶褐色土 As-Cと焼土粒を含む。
- 2 茶褐色土 As-C少なく、灰と黒褐色の土を含む。
- 3 茶褐色土 As-C多く、ザラつく。
- 4 茶褐色土 焼土と灰を多く含む。
- 5 茶褐色土 内容物少ないが、As-C少し含む。
- 6 にぶい褐色土 漸移層と黒褐色土の斑状混合土。
- 7 茶褐色土 しまり弱く、灰と炭化物少し含む。
- 8 茶褐色土 灰を少し含む。しまり弱い。
- 9 茶褐色土 5に似る。
- 10 黒褐色土 炭化物の影響か黒味が強い。
- 11 赤褐色土 焼土多い。しまり強い。
- 12 茶褐色土 5・9に似る。
- 13 明黄褐色土 粘土質。
- 14 褐色土 砂質。わずかに焼土化。カマド埋没土。

0 1 m

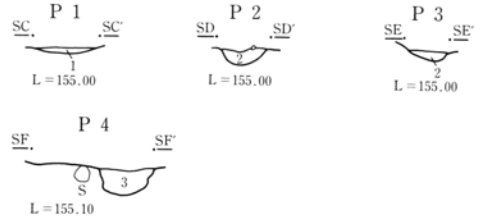
第262図 45・46号住居跡カマド

4. 平安時代



47号住居跡

- I 明褐色砂質土 粒子を多量含む。(土坑埋没土)
- II 黒褐色土 粒子が多く、砂質。(ピット埋没土)
- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。やや砂質。
- 2 暗褐色土 1よりやや暗く、As-Cやや少ない。ローム漸移層ブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 2よりローム漸移層ブロックを少量含む、暗い。
- 4 黒褐色土 As-Cを少量、焼土粒子微量含む。しまりは極めて良い。



ピット1・2・3・4

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く、As-Cを少量含む。
- 2 黒色土 きめ細かく単一的で他のものは混じらない。
- 3 黒褐色土 As-Cを多く含む。しまり弱い。

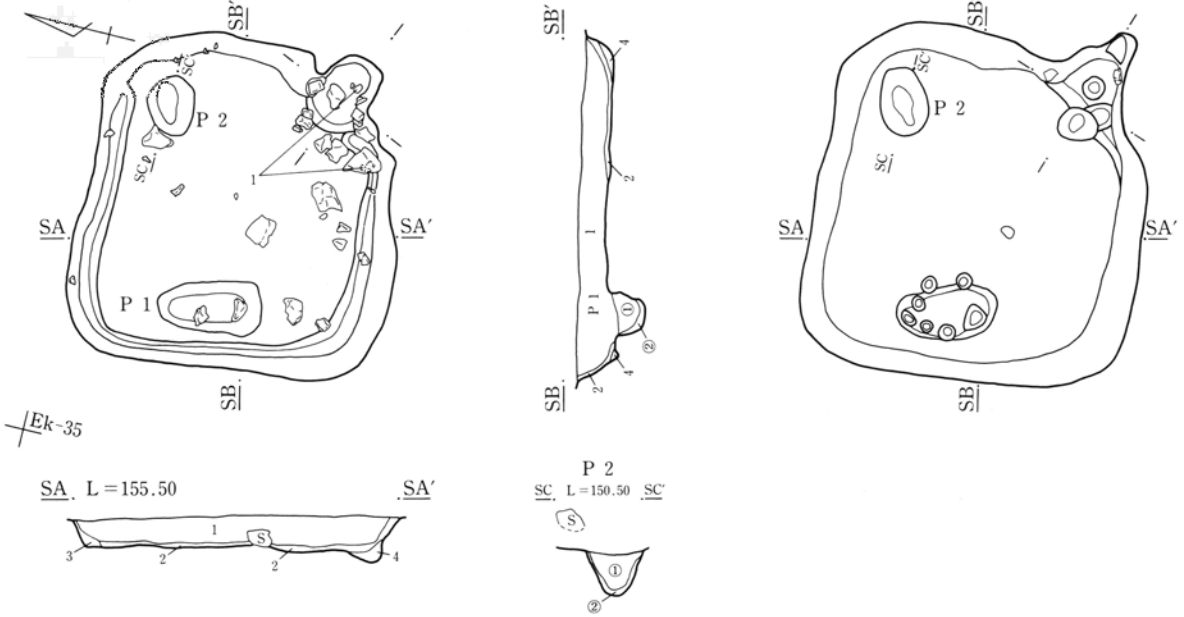
47号住居跡カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。しまり悪い。
- 1' 暗褐色土 1より若干黄色味帯びる。1よりしまり良い。
- 2 暗褐色土 1より暗い。焼土粒子・As-Cを少量含む。しまり良い。
- 2' 暗褐色土 2より若干焼土が多い。
- 3 黄褐色粘性土 若干焼けている。焼土粒子を少量含む。
- 4 赤褐色粘性土 焼土粒子を少量含む。
- 5 黄褐色粘性土 焼土粒子を少量含む。しまり良い。
- 6 赤黄褐色粘性土 2'より赤味・黄色味が強い。焼土粒子は2'よりやや多い。
- 7 暗褐色土 焼土ブロックを含む。(As-Cを含まない。)
- 8 赤褐色土 焼土ブロック。
- 9 黒褐色土 As-Cを多量に含む。しまり弱い。
- 9' 暗褐色土 9よりAs-Cは少ない。
- 10 暗褐色土 焼土粒子わずかに含む。2より明るい。
- 11 暗褐色土 焼土粒子わずかに含む。しまり悪い。
- 12 暗褐色土 焼土少量含む。As-Cほとんど含まない。しまり強い。
- 13 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。As-Cわずかに含む。
- 14 暗褐色土 As-C少量含む。ローム漸移層を含む。しまり弱い。
- 15 暗褐色土 全体にやや赤味帯びる。As-C・焼土粒子少量含む。
- 15' 暗褐色土 15よりやや暗い。
- 16 黒褐色土 As-Cをやや多く含む。しまりは極めて良い。
- 17 暗茶褐色土 焼土粒子を微量に含む。地山より若干暗く、しまり弱い。
- 18 暗茶褐色土 焼土粒子多く、炭化物少量含む。炭混じる。



第263図 47号住居跡・カマド

4. 平安時代

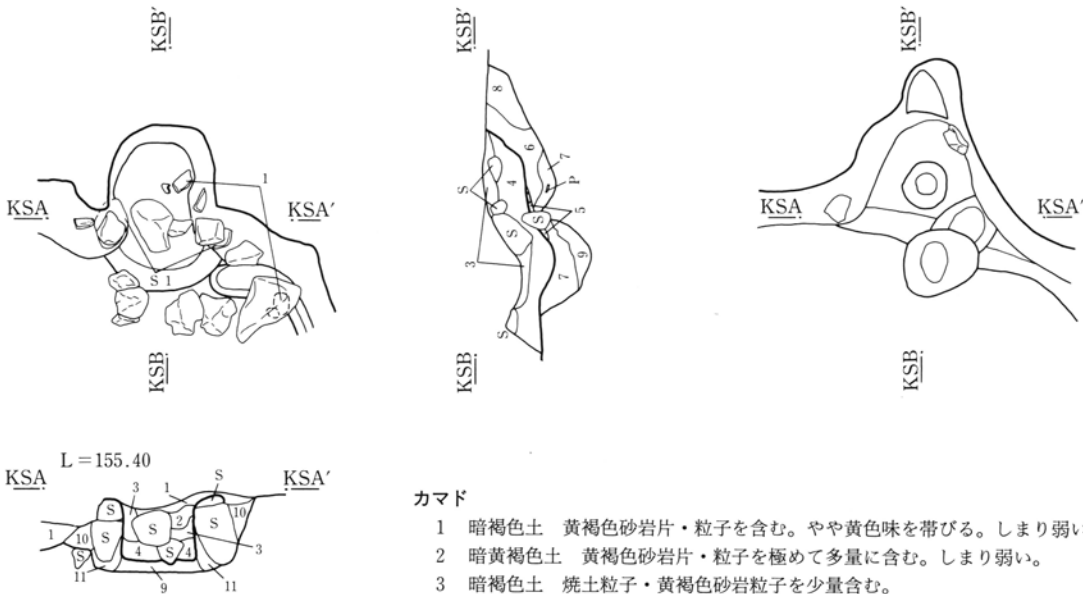


49号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。
- 2 暗褐色土 やや黄色味帯びる。しまり良く、粘性有り。
1より暗い。
- 3 黒褐色土 As-C多く(1より少ない)含む。1より暗い。
- 4 暗褐色土 地山よりわずか暗い。As-Cを極わずか含む。

ピット2

- ① 黒色土 As-Cほとんど含まず、しまり悪い。
- ② 暗褐色土 やや黄色味帯びる。As-C含まず、しまり弱い。



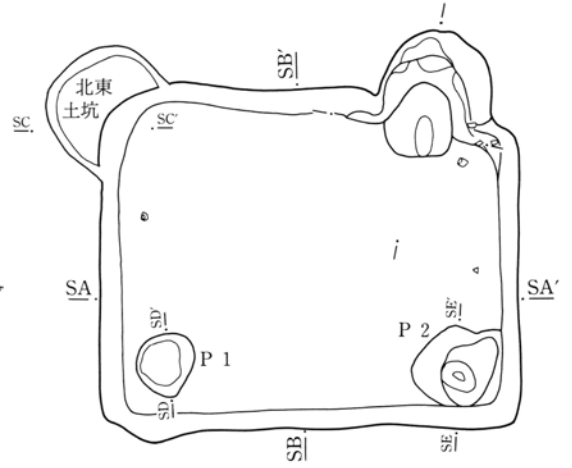
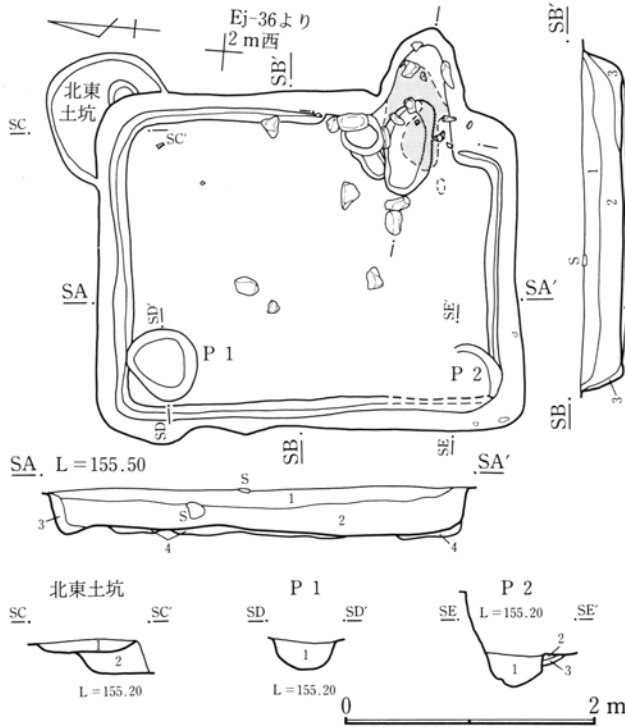
カマド

- 1 暗褐色土 黄褐色砂岩片・粒子を含む。やや黄色味を帯びる。しまり弱い。
- 2 暗黄褐色土 黄褐色砂岩片・粒子を極めて多量に含む。しまり弱い。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・黄褐色砂岩粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 焼土粒子をわずかに含む。3よりしまり良い。
- 5 黒灰色土 灰を多く含む。7より黒味が強い。
- 6 黒褐色土 As-C・焼土粒子・炭化物を少量含む。
- 7 暗灰褐色土 灰を多量に含む。As-C・焼土粒子を少量含む。
- 8 暗褐色土 全体に焼けており、やや赤味帯びる。As-Cを多量、焼土粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 7よりやや明るい。As-Cを極わずかに含む。地山よりややしまりが悪い。
- 10 黒褐色土 As-Cは、ほとんど含まない。若干の焼土粒子を含む。
- 11 黒褐色土 As-Cを少量、焼土粒子を微量含む。地山より黒く、しまりも弱い。



第265図 49号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



50号住居跡

- 1 黒褐色土 As-C (φ 2~5mm) を全面に含む。しまりはあまり良くない。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るく、含まれるAs-Cは1よりやや少ない。
- 3 暗褐色土 2よりAs-C少なく、しまり弱い。
- 4 黒褐色土 As-Cをやや多く含む。しまりは良い。

住居北東土坑

- 1 As-Cを多量、しまりは悪い。
- 2 住居2と同じ。

住居内北西ピット (P 1)

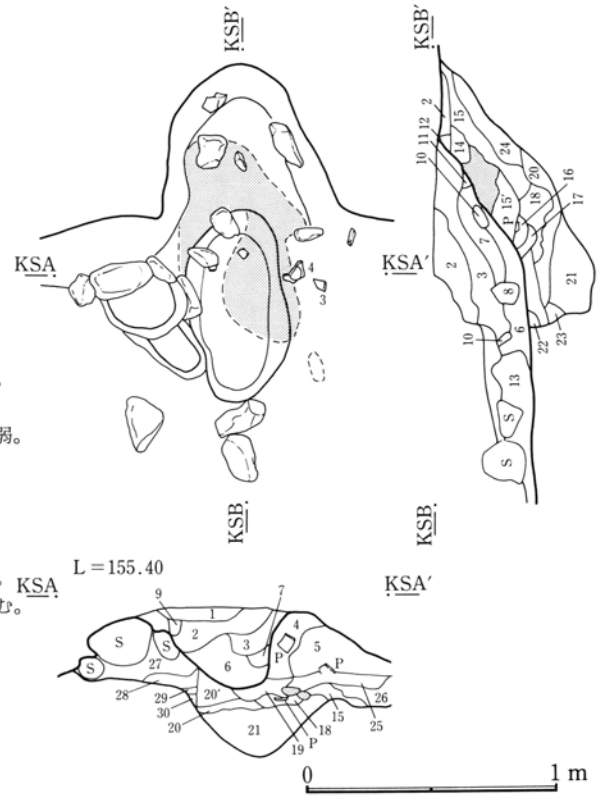
- 1 黒褐色土 As-Cを多く含む。しまりはあまり強くない。

南西コーナー床下土坑 (P 2)

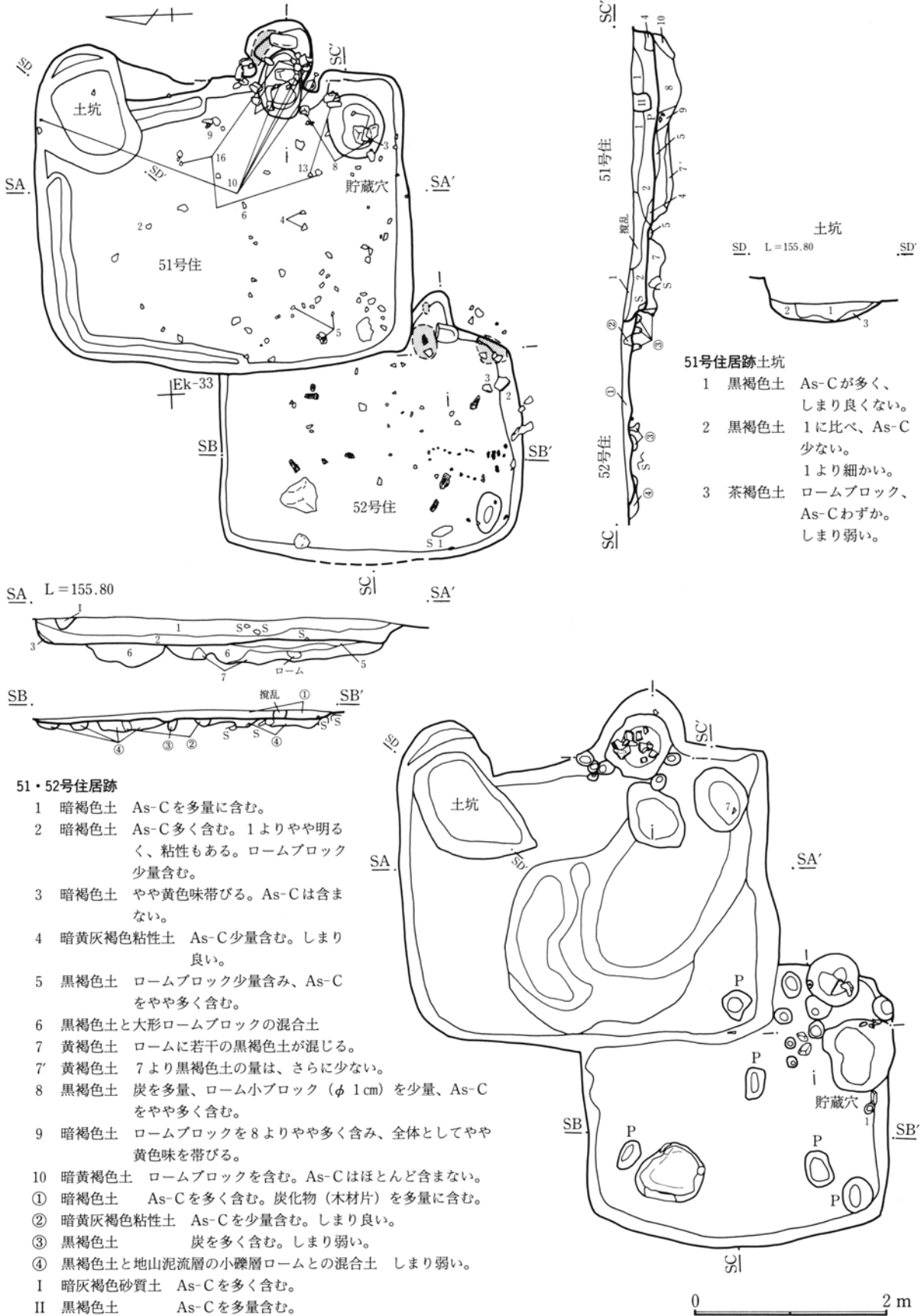
- 1 黒褐色土 As-Cを多く含む。
- 2 黒褐色土 As-Cを多く含む。1よりしまり良い。
- 3 灰白褐色粘性土 しまりは極めて良い。

カマド

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 As-Cを多く、焼土粒子微量含む。やや粘性有り。
- 3 暗赤褐色土 焼土を薄く含み、やや赤味を帯びる。
- 4 黒褐色土 焼土粒子を少量、As-Cを多く含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒子を少量、炭化物粒子をわずかに含む。
- 6 暗黄赤褐色粘性土 焼土粒子多く、灰少量含む。しまり良い。
- 7 暗赤褐色粘性土 やや黄色味帯びる。6よりしまり・粘性弱い。
- 8 黒褐色土 焼土粒子微量含む。しまり弱い。
- 9 黄灰褐色粘性土 しまりは非常に良い。
- 10 黄灰褐色粘性土 9よりやや暗く、暗褐色土の量が多い。
- 11 黄褐色粘性土 焼けている。
- 12 赤褐色土 (焼土) しまり弱い。
- 13 暗褐色土 As-Cを少量含む。しまり弱い。
- 14 暗灰褐色粘性土 As-Cを少量含む。やや赤味を帯びる。
- 15 暗褐色土 やや赤味を帯びる。As-C・焼土粒子・ブロックを少量含む。
- 15' 暗褐色土 やや赤味を帯びる。As-C・焼土粒子・ブロックを15よりやや多く含む。
- 16 赤黄灰褐色粘性土 黄褐色粘性土の焼けたもの。黄色味が強い。しまり良く、ガリガリしている。
- 17 暗灰褐色土 やや赤味帯び、焼土粒子・ブロック含み、しまり弱。
- 18 暗黄灰褐色粘性土 焼土ブロックを多く、As-Cを少量含む。
- 19 暗灰褐色土 やや赤味帯び、(17より赤味強い) 灰を少量含む。
- 20 黒灰褐色土 灰を多量、焼土粒子わずかに含む。しまり弱い。
- 21 黒灰色土 灰・As-Cを多く、焼土粒子は極微量含む。
- 22 暗褐色土 焼土ブロック・粒子少量含み、やや黄色味帯びる。
- 23 暗褐色土 22より黄色味弱い。黄灰色粘性土ブロック少量含む。
- 24 暗褐色土 As-C・焼土粒子極わずかに含み、黄色味帯びる。
- 25 黒色土 炭化物を多く、焼土粒子及び灰を少量含む。
- 26 黒灰褐色土 灰を多く、焼土粒子・ブロックをやや多く含む。
- 27 暗灰褐色土 黄褐色粘性土粒子・As-C少量、灰やや多く含む。
- 28 暗褐色土 黄色味帯び、黄褐色粘性土・焼土粒子少量含む。
- 29 暗灰色粘性土 しまり良い。As-C・焼土粒子わずかに含む。
- 30 暗褐色土 As-Cわずかに含む。しまりは21より良い。

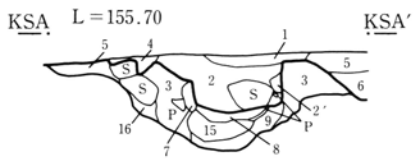
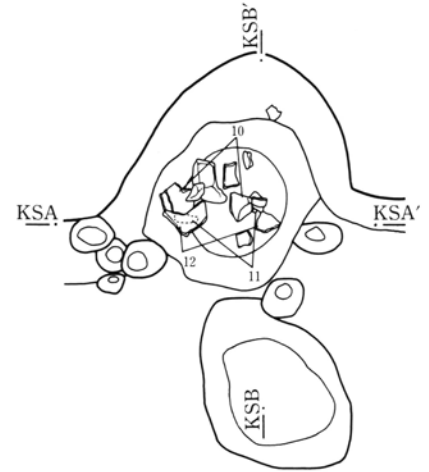
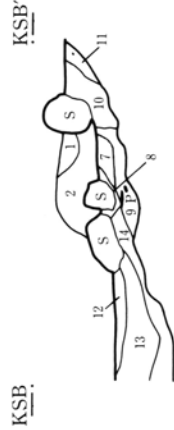
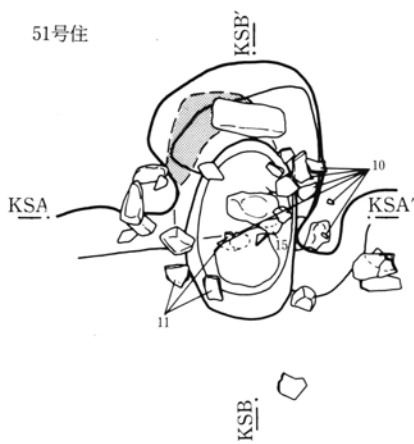


第266図 50号住居跡・カマド



第267図 51・52号住居跡

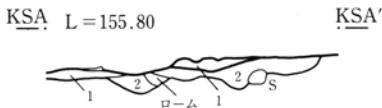
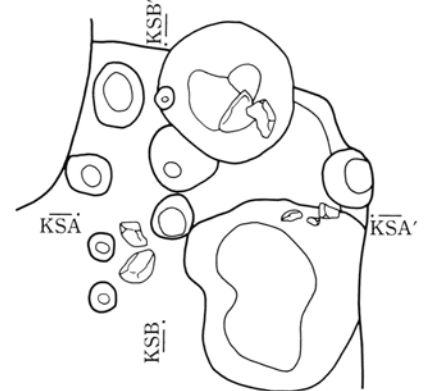
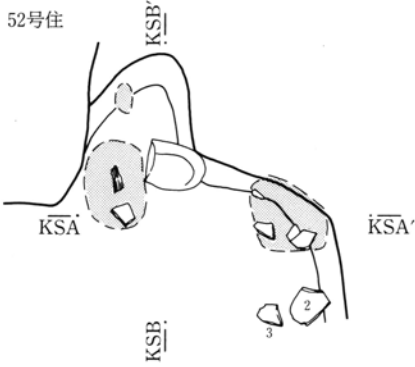
II 検出された遺構と遺物



51号住居跡カマド

- 1 暗褐色土 As-Cを多く含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・ブロックを多く含む。As-Cを多く含む。若干灰を含む。1より明るい。
(南半部の方が焼土粒子・ブロックは多い)
- 2' 暗赤褐色土 焼土粒子・ブロックを多く含む。
- 3 黄褐色土 焼土粒子・ブロックを含む。(カマドの袖) しまり良い。下半部の方がやや暗い。
- 4 暗褐色土 1より明るい。
- 5 暗褐色土 黄褐色粘性土粒子を少量、As-Cを多く含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロック、焼土粒子を少量含む。やや黄色味を帯びている。
- 7 赤褐色土 ガリガリに焼けた焼土。

- 8 暗黄赤褐色土 やや黄色味を帯びる。焼土ブロック・焼土粒子を多量に含む。しまり強い。
- 9 暗黄褐色粘性土 焼土粒子を少量、灰を多く含む。しまり悪い。
- 10 暗褐色土 全体に焼土粒子を均一に少量、As-Cをわずかに含む。
- 11 暗褐色土 焼土粒子は、ほとんど含まない。黄褐色粘性土ブロックをわずかに含む。
- 12 黒褐色土 As-C・ロームブロックを少量含む。しまりは極めて良し。(住居の床)
- 13 暗灰褐色土 ローム粒子・ブロックを少量、灰をやや多く、焼土粒子をわずかに含む。
- 14 黒褐色土とロームの混合土 ほぼ同量。
- 15 暗灰白褐色土 黄褐色粘性土粒子・ブロックを多く、焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。
- 16 暗灰黄褐色土 焼土粒子・As-Cはほとんど含まれない。地山よりやや暗い。

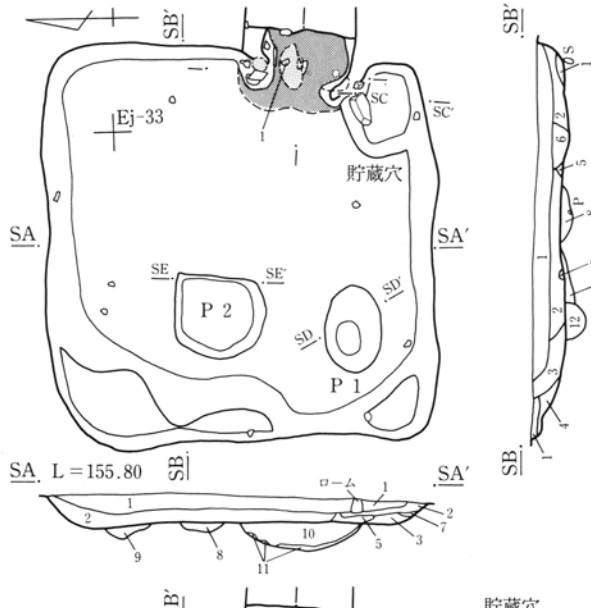


52号住居跡カマド

- 1 暗灰褐色土 炭化物を多量、焼土粒子・ブロックを含む。灰が多く混じる。しまり弱い。
- 2 暗黄褐色土 暗灰褐色土を少量含む。焼土粒子微量含む。
- 3 黒褐色土 1よりも黒い。他はほぼ1と同じ。

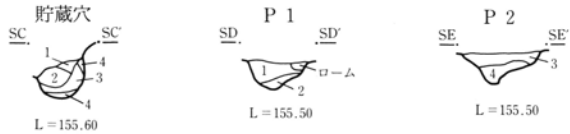


第268図 51・52号住居跡カマド



53号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。
- 2 暗褐色土 As-C多く、暗黄褐色土ブロック少量含む。
1よりやや明るい。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック（ローム漸移層ブロック）多く、
全体に黄色味を帯びる。As-Cを少量含む。
- 4 暗黄褐色土 As-Cは、ほとんど含まれない。しまり良い。
- 5 ロームブロック
- 6 暗褐色土 As-Cを多く含む。2より若干黒味が強い。
- 7 暗褐色土 全体に黄色味帯び、2より明るく、3より暗い。
As-Cを少量含む。
- 8 黒褐色土 As-Cを多量、炭化物片を少量含む。
- 9 暗褐色土 As-Cを少量含む。
- 10 暗褐色土とロームの混合土 As-Cをわずかに含む。
- 11 暗灰褐色粘性土 焼土粒子をわずかに含む。
- 12 暗褐色土 As-Cを少量、ロームブロックを多く含む。

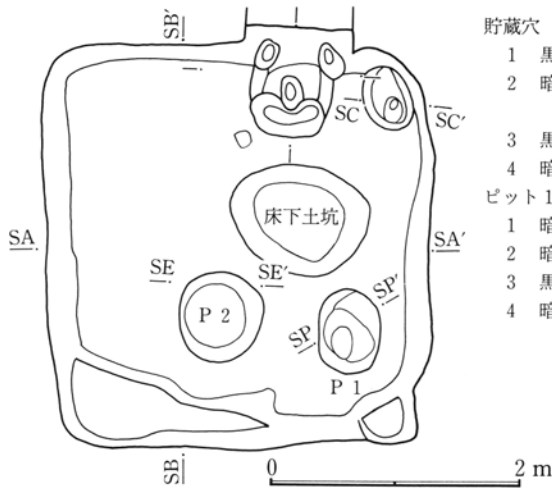


貯蔵穴

- 1 黒灰褐色土 炭化物多量、As-C少量、灰を多く含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 炭化物片を1より少なく、As-C少量含む。しまり弱い。
全体にやや黄色味を帯びる。
- 3 黒灰褐色土 1よりやや明るい。炭化物を少量含む。
- 4 暗黄褐色土 ロームに暗褐色土が混じったもの。

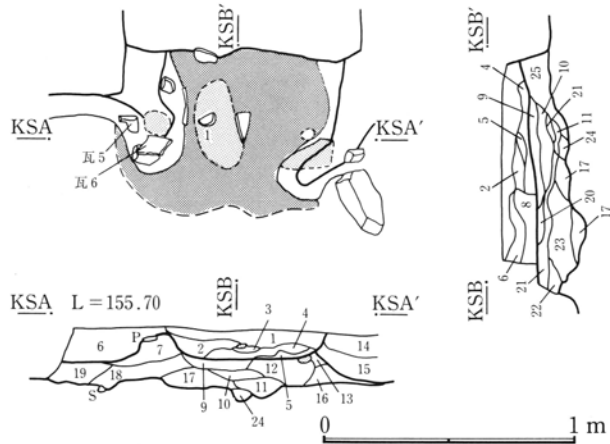
ピット1・2

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック（φ 1～2 cm）と黒色土小ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック（φ 2～3 cm）を含む。しまり弱い。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多く、As-Cを少量含む。
- 4 暗黄褐色土 暗褐色土を少量含む。



カマド

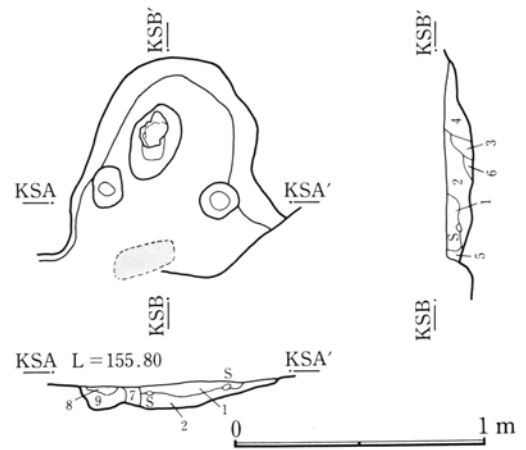
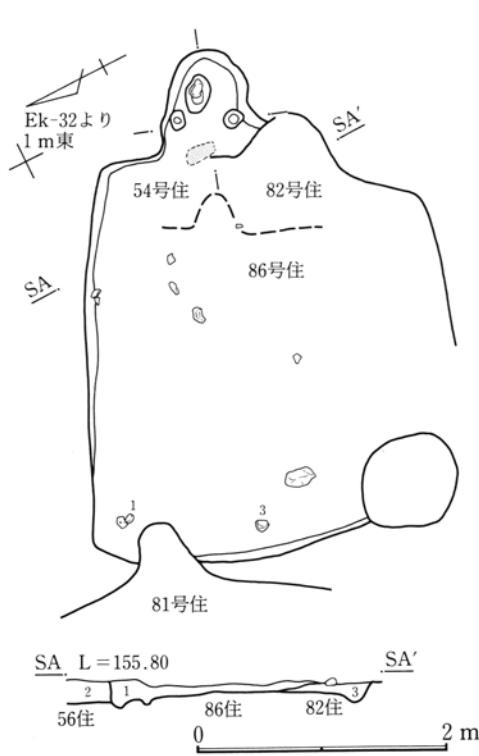
- 1 暗褐色土 As-C少量、焼土粒子・炭化物粒子わずかに含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、灰褐色粘土ブロック少量含む。
- 3 暗灰褐色土 灰褐色粘性土を多く含む。
- 4 灰褐色粘土 暗褐色土・灰を少量含み、焼けている。
- 5 黒色粘性土 灰を多く含む。しまり良い。
- 6 暗褐色土 As-Cを多く含む。（住居埋没土）
- 6' 暗褐色土 6とほぼ同じであるが、若干暗い。
- 7 灰褐色粘土 焼土粒子・炭化物少量、灰を多く含む。
- 8 暗褐色土 焼土粒子・ブロック・炭化物粒子を少量含む。
やや粘性有り。
- 9 黒灰色粘性土 焼土粒子・ブロックを多く含む。灰を含む。
炭化物粒子少量含む。しまり良い。
- 10 黒灰褐色土 灰を多く、ロームブロック・As-C・炭化物
粒子少量含む。しまり弱い。
- 11 暗褐色土 As-Cをわずかに含む。24よりやや暗い。
- 12 暗褐色土 全体にロームが混じり、やや黄色味を帯びる。
As-Cを10よりやや多く含む。
- 13 黄褐色粘性土ブロック
- 14 暗褐色土 As-Cを多量、焼土粒子を少量含む。
- 15 暗灰褐色土 灰・炭化物を多く、焼土粒子を少量含む。
- 16 暗褐色土 全体にやや黄色味を帯びる。焼土粒子極わずかに含む。
地山よりやや暗く、しまり弱い。



- 17 暗褐色土 ロームブロック（φ 1～2 cm）を多く、As-C
をわずかに含む。やや黄色味を帯びる。
- 18 暗褐色土 As-Cを少量含む。17よりやや暗い。
- 19 暗褐色土 As-Cを少量含む。18よりやや暗い。
- 20 ロームと暗褐色土の混合土 ローム量の方が多い。
- 21 暗黄褐色土 暗褐色土を、As-Cをわずかに含む。20より
しまり良い。
- 22 暗褐色土 As-Cを多く、ロームブロックを含み、23より
やや明るい。
- 23 暗褐色土 As-Cを多量に含む。
- 24 暗褐色土 As-C含む。11より明るく、地山よりやや暗い。
- 25 黒灰褐色土 焼土粒子やや多く、As-C少量、灰多く含む。

第269図 53号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



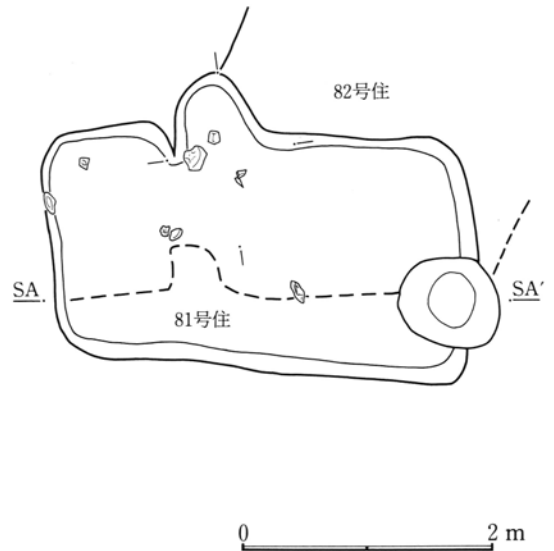
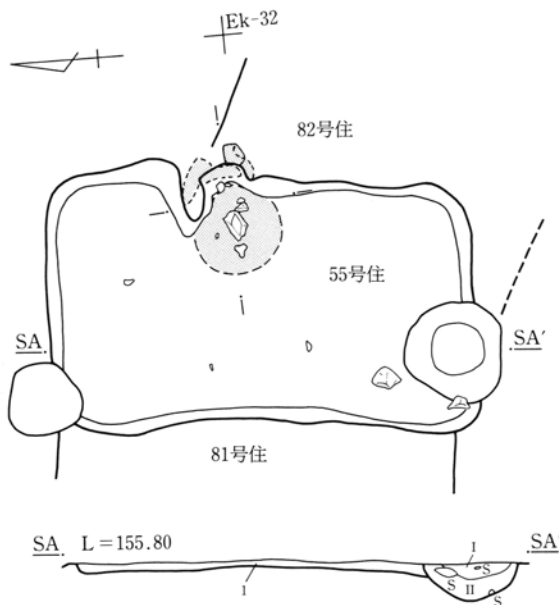
カマド

- 1 暗黄灰褐色粘性土 As-Cやや多く、焼土粒子・炭化物粒子わずか含む。
- 2 暗褐色土 1よりやや明るい。ローム粒子やや多く、焼土粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 全体にやや黄色味を帯びる。ローム粒子をやや多く含む。
6より赤味は弱い。
- 4 暗褐色土 焼土粒子・As-Cを少量含む。
- 5 暗黄褐色粘性土 小礫を含む。焼土粒子をわずかに含む。
- 6 暗黄褐色土 焼土粒子・ブロックを含み、やや赤味を帯びる。
- 7 黄白色粘性土 小礫を含む。
- 8 黒褐色土 焼土粒子を多く含む。やや粘性有り。
- 9 暗灰褐色粘性土 焼土粒子を多く含む。礫(φ 2cm程度)を含む。

54号住居跡

- 1 暗褐色土 82号住1よりやや暗く、焼土粒子をやや多く含む。As-Cを多量に含む。
- 2 暗褐色土 礫を含み、As-Cを多量、焼土小ブロックを少量含む。
- 3 82住カマド埋没土

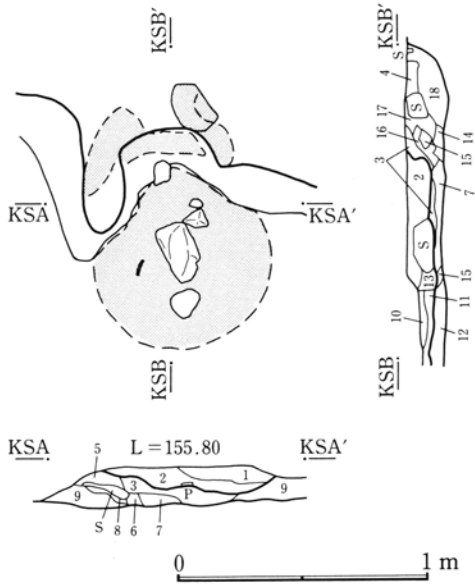
第270図 54号住居跡・カマド



55号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。2より暗い。しまり良い。
- I 暗褐色土 As-Cを多く含む。炭化物を少量含む。
- II 暗褐色土 全体にやや黄色味を帯びる。ロームブロック・小礫を多く含む、しまり弱い。

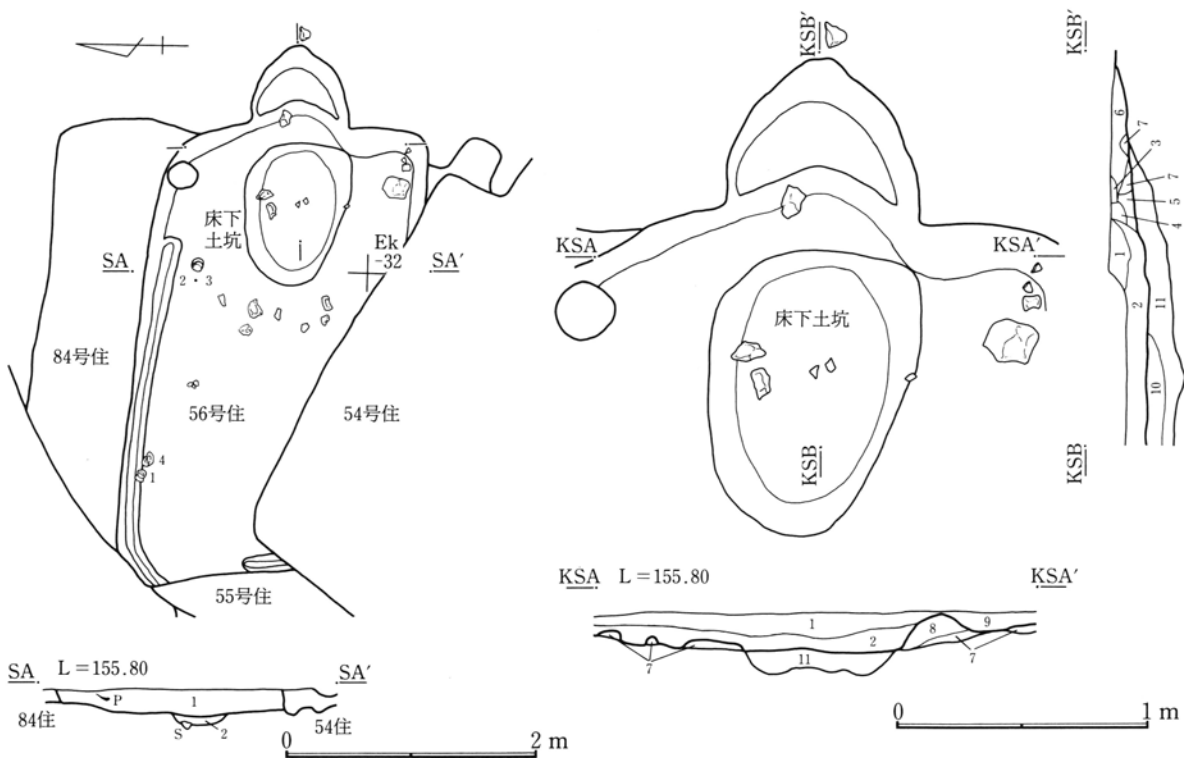
第271図 55号住居跡



55号住居跡カマド

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。焼土ほとんど含まず、しまり良い。
- 2 暗褐色土 As-Cを多く、焼土ブロック粒子を含む。
- 3 暗赤灰褐色粘性土 焼土粒子を含む。
- 4 暗灰褐色土 As-Cを多く含む。極わずかに赤味を帯びる。(若干被熱)
- 5 暗灰褐色土 As-Cを多く、焼土粒子を極わずかに含む。
- 6 赤灰褐色粘性土 焼けている。黄褐色ロームブロックを含む。
- 7 赤灰褐色粘性土 ロームブロック含まず、焼け方も6より弱い。As-Cを少量含む。
- 8 暗灰褐色粘性土 ロームブロックを含む。
- 9 黒褐色土 As-Cを多量に含む。(下の住居埋没土)
- 10 黒色粘性土 As-Cをやや多く、焼土粒子・ブロックを少量含む。
- 11 黒色粘性土 As-C多く、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり良い。
- 12 暗褐色土 9よりやや明るい。ロームブロック・焼土粒子をわずかに含む。
- 13 黒褐色粘性土 As-Cを多く含む。焼けて若干赤味を帯びる。
- 14 黒褐色粘性土 11に近いが、11よりやや赤味を帯びる。
- 15 焼土 ガリガリに焼けている。
- 16 焼土 赤紫色に焼けている。
- 17 焼土 暗赤褐色に焼けている。
- 18 暗褐色土 As-Cを多量に含む。焼土粒子は殆ど含まない。

第272図 55号住居跡カマド



56号住居跡

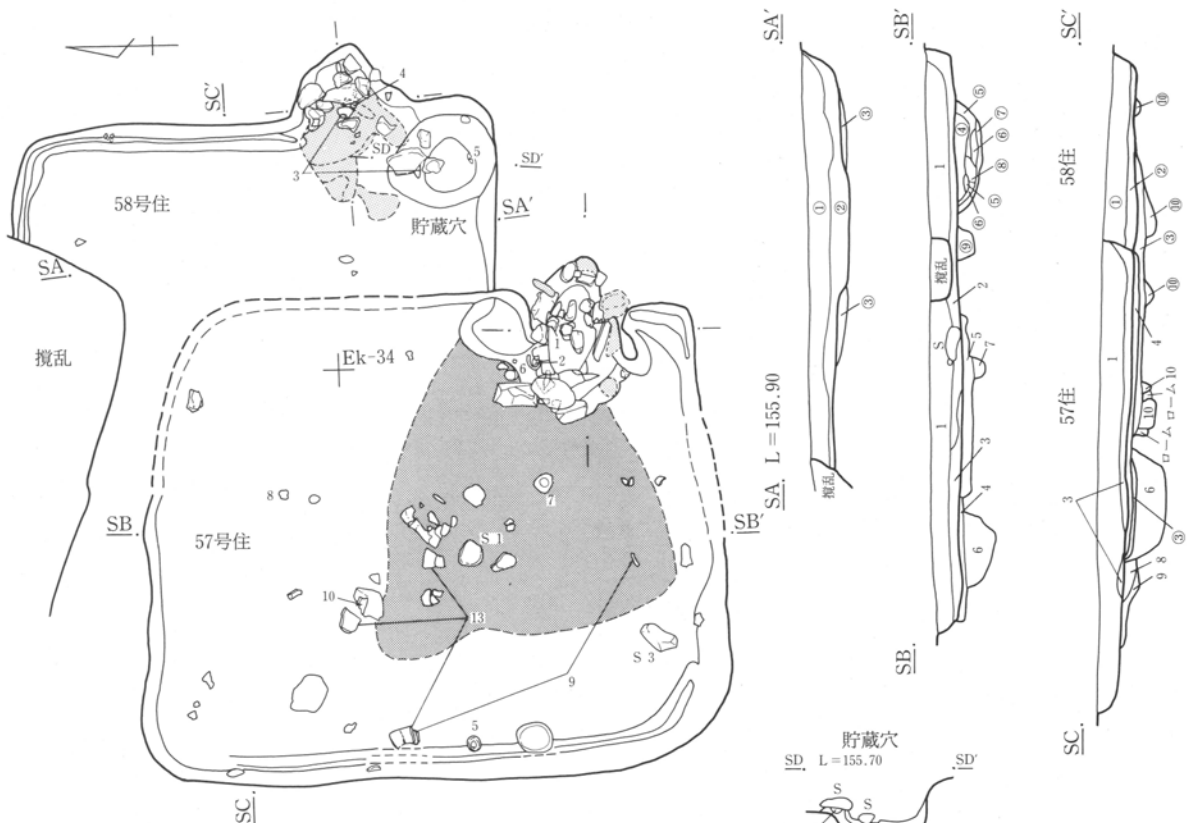
- 1 暗褐色土 礫含み、As-C多量、焼土小ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームを多量に含み、全体に黄色味を帯びる。

カマド

- 1 暗褐色土 2より暗い。As-C多く、小礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 1より明るく、As-Cやや少ない。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック・焼土粒子多く含む。粘性有り。
- 4 暗灰褐色土 焼土粒子わずかに含む。やや粘性有り。1よりやや明るい。
- 5 暗灰褐色土 4とほぼ同じ、ローム粒子・ブロックを含み、黄色味を帯びる。
- 6 暗褐色土 As-Cをわずかに、ローム粒子を少量含む。しまり弱い。
- 7 ロームブロック
- 8 暗黄灰褐色粘性土 ロームブロック・粒子を多く、焼土粒子をわずかに含む。
- 9 暗褐色土 As-Cを少量、ローム粒子をやや多く含む。1より粘性が強い。
- 10 暗灰褐色土 ロームブロックやや多く、炭化物粒子多く、焼土粒子・礫を少量含む。
- 11 暗灰褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を10より少なく含む。

第273図 56号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



57・58号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。
- 2 暗褐色土 As-C多く含む。(1より少ない) 1よりしまり良く、粘性有り。
- 3 暗灰褐色土 2よりAs-C少ない。ロームブロック・炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり良い。(貼床)
- 5 黒褐色土 ロームブロック多く、As-Cやや多く含む。
- 6 暗黄褐色土 黒褐色土ブロック少量、ロームブロック多く含む。しまり悪い。
- 7 暗褐色土 ロームを極めて多量に含む。
- 8 黄褐色土 ほぼローム。しまり弱い。
- 9 暗黄褐色土 若干の炭化物片を含む。しまり弱い。
- 10 暗褐色土 As-C・総社砂層小ブロックを少量含む。しまり悪い。
- ① 暗褐色土 1より若干明るい。As-C多量、ロームブロック極わずかに含む。

- ② 暗褐色土 ①よりやや暗く、3よりやや明るい。As-C多く(①より少ない)、ロームブロック少量含む。
- ③ 暗黄褐色土 ロームと黒褐色土との混合土。しまり極めて良い。(貼床)
- ④ 暗褐色土 黄白色粘性土小ブロック多量、As-C少量含む。
- ⑤ 暗灰紫色粘性土 As-C・焼土粒子・小ブロック少量含む。
- ⑥ 暗褐色土 暗灰紫色粘性土ブロック・焼土粒子少量含む。
- ⑦ 暗灰紫色粘性土 白色粘性土小ブロック少量含む。単一的。
- ⑧ 暗灰紫色粘性土 白色粘性土小ブロックを少量、焼土粒子をわずかに含む。
- ⑨ 暗褐色土 焼土粒子をわずかに含む。しまり良い。
- ⑩ 黒褐色土 総社砂層ブロック多く、As-Cやや多く含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 As-Cを少量含む。炭化物を多く含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。全体に黄色味帯びる。
- 3 暗灰黄褐色土 焼土ブロック・焼土粒子を含む。

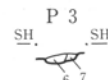
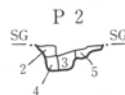


58号住居跡床下土坑 1

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 黒褐色土・ロームブロック含む。しまり良い。

ピット 1・2・3

- 1 暗褐色土 地山の砂質ロームを含む。しまり良い。
- 2 黒褐色土 As-Cを少量含む。



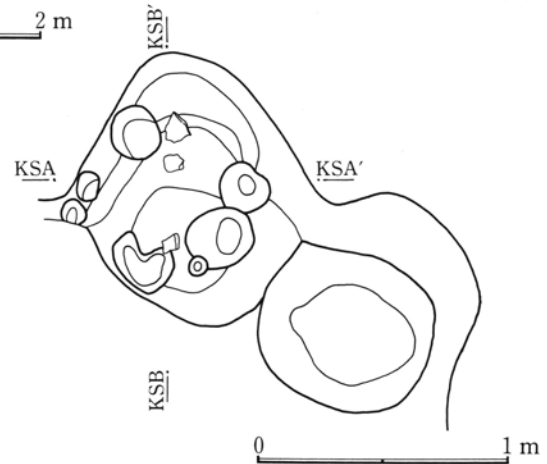
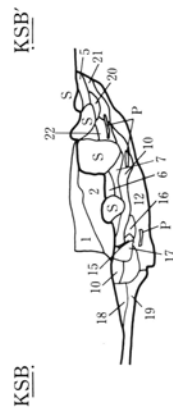
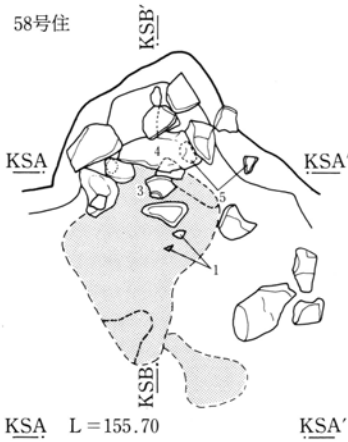
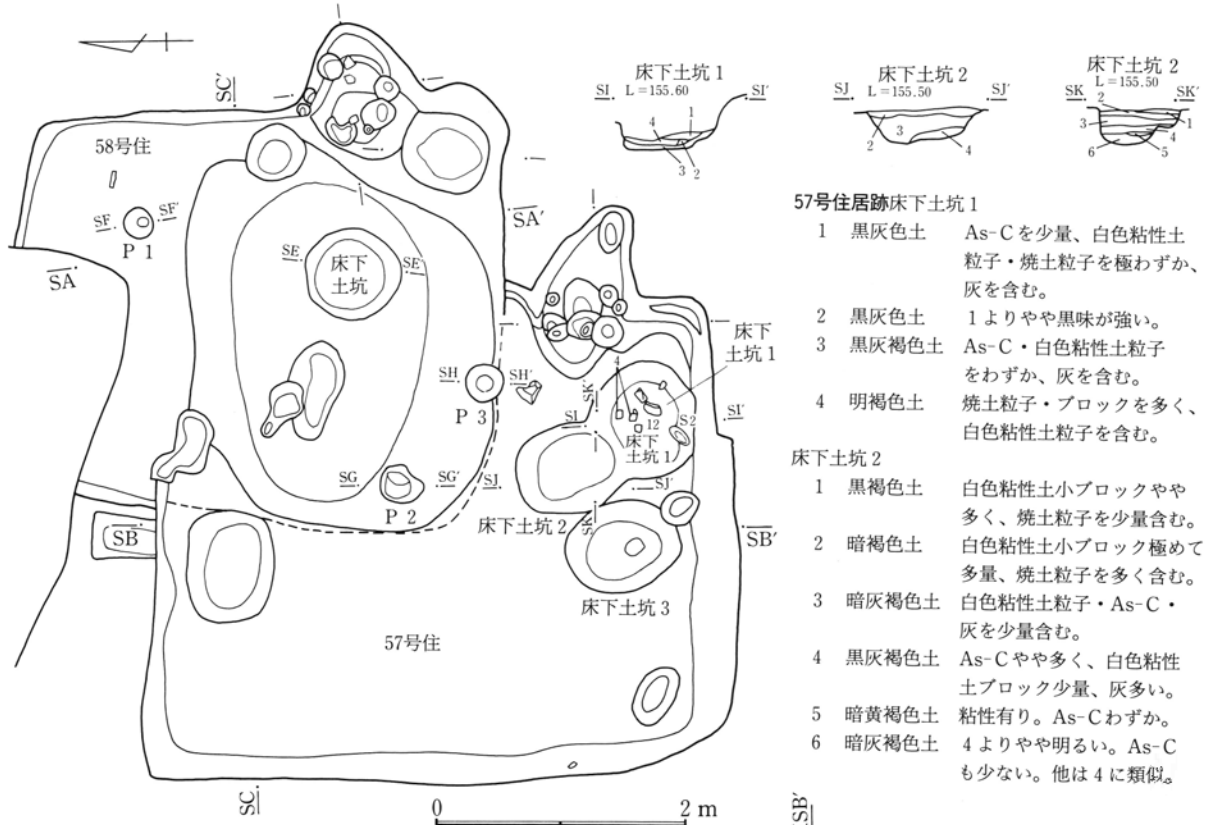
L=155.40

- 3 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり弱い。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土 As-Cをわずかに含む。
- 6 黒褐色土 As-Cを少量含む。炭化物をわずかに含む。
- 7 暗褐色土 炭化物片を多量に含む。

0 2 m

第274図 57・58号住居跡

4. 平安時代



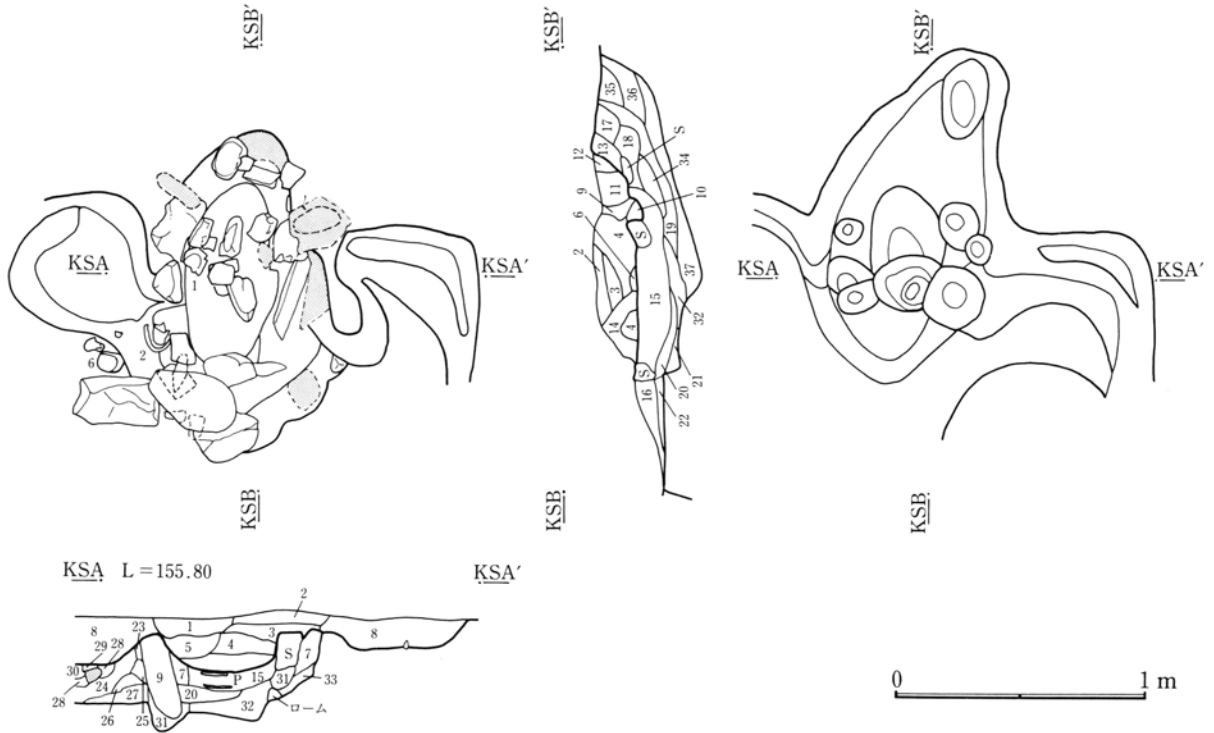
58号住居跡カマド

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。やや砂質。
- 2 暗褐色土 As-C・焼土粒子少量、黄褐色粘性土含む。
- 3 暗褐色土 As-Cを多量に含む。
- 4 暗灰褐色土 焼土粒子・ブロックを多く、灰を含む。
- 5 暗黄褐色土 焼土粒子を少量含む。
- 6 黄褐色粘性土 若干焼けて赤味を帯びる。
- 7 黄褐色粘性土 6より赤味が薄い。
- 8 暗褐色土 As-Cを多く含む。
- 9 暗褐色土 As-C・焼土粒子を多く含む。

- 10 赤褐色土 焼土ブロック多量、炭化物粒子少量含む。
- 11 暗黄褐色土 As-Cやや多く、焼土粒子・ブロック少量含む。
- 12 暗灰褐色土 As-C少量、灰多く、焼土粒子やや多く含む。
- 13 明褐色土 灰を多量、焼土粒子を少量含む。
- 14 明褐色土 暗褐色土を含む。As-Cを極わずかに含む。
- 15 黒褐色土 焼土粒子・As-C少量、明褐色土ブロック含む。
- 16 明褐色土 焼土粒子をやや多く含む。
- 17 明褐色土 焼土粒子・ブロックを含む。やや粘性有り。
- 18 暗褐色土 As-C・焼土粒子少量含む。しまり極めて良い。(床)
- 19 暗褐色土 全体にやや黄色味帯び、As-Cやや多く、焼土粒子わずか含む。18同様しまり良く、ガチガチに固める。
- 20 赤褐色土 粘性土全体に焼けている。
- 21 黒灰色土 As-C・焼土粒子をわずかに含む。
- 22 明褐色土 As-Cを極わずかに含む。焼土粒子は21よりさらに少なく含む。

第275図 57・58号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物

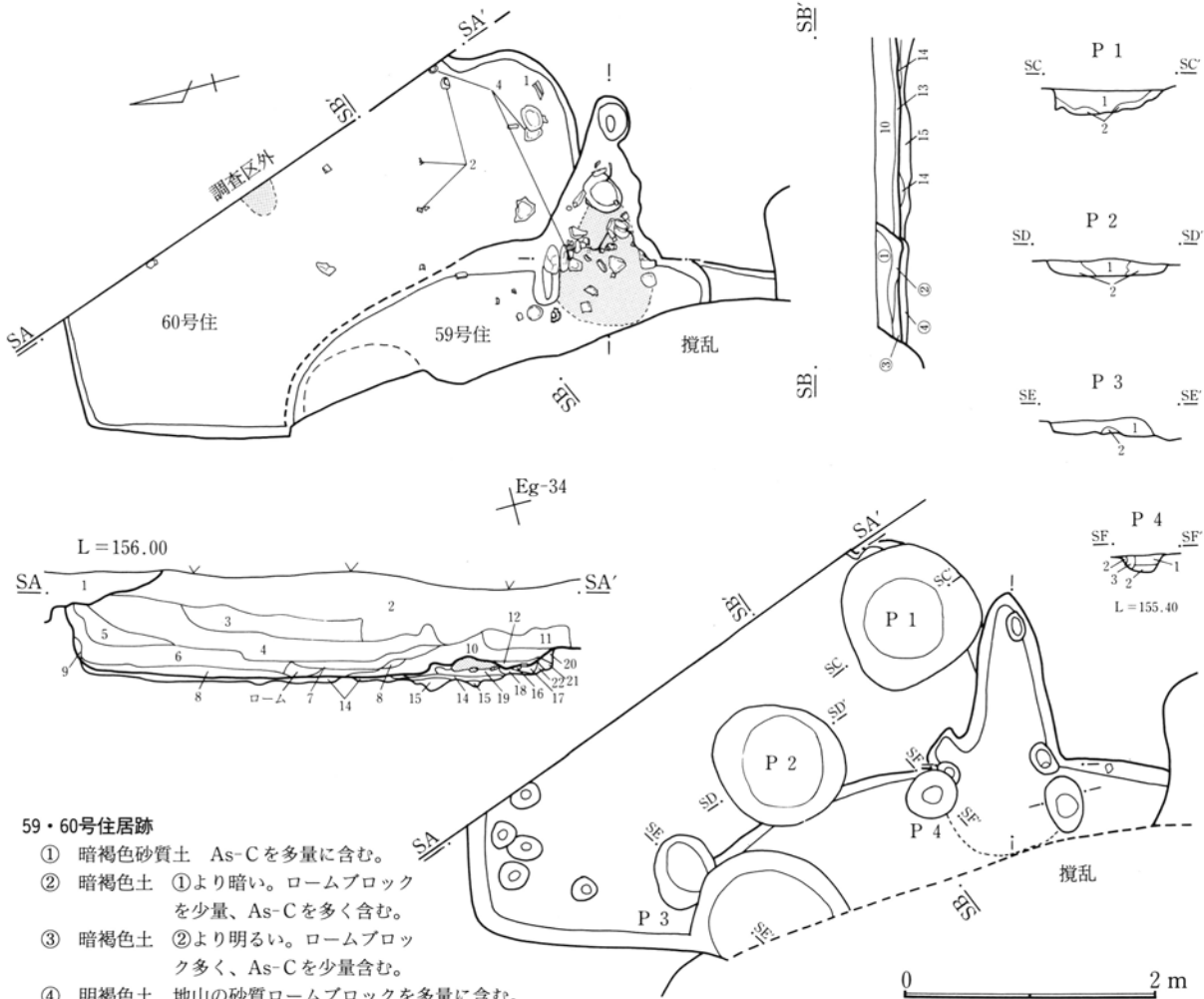


57号住居跡カマド

- | | | | |
|------------|----------------------------------|------------|-------------------------------------|
| 1 明褐色土 | As-Cを多量に含む。砂質でしまり弱い。 | 22 黒褐色土 | 白色粘性土ブロック含む。しまり極めて良い。(住居の床) |
| 2 暗褐色土 | As-Cを多量、焼土粒子少量含む。 | 23 暗褐色土 | 24より暗い。As-Cを少量、焼土粒子をわずかに含む。 |
| 3 黒褐色土 | As-Cを多く、焼土粒子少量含む。 | 24 暗褐色土 | 白色粘性小粒子・As-Cを少量、焼土粒子を極わずかに含む。 |
| 4 黒褐色土 | As-Cを少量含む。やや粘性有り。 | 25 暗赤褐色粘性土 | 焼土粒子を多量、As-Cを少量含む。 |
| 5 暗褐色土 | As-Cを多く、焼土粒子少量含む。やや砂質。 | 26 茶褐色土 | やや粘性有り。As-C・焼土粒子を少量含む。 |
| 6 暗黄灰褐色粘性土 | ルームブロック少量、若干の灰を含む。 | 27 茶褐色土 | やや粘性有り。As-C・焼土粒子を少量含む。全体にやや黄色味を帯びる。 |
| 7 灰褐色粘性土 | ルームブロックを少量含む。 | 28 暗灰紫色土 | 焼土粒子を微量含む。粘性有り。 |
| 8 暗褐色土 | As-Cを多量に含む。(住居埋没土) | 29 暗灰紫色土 | 黄褐色粘性土粒子を少量含む。粘性有り。 |
| 9 灰褐色土 | 焼土ブロックを含む。しまり悪い。 | 30 暗褐色土 | As-C・焼土粒子を少量含む。 |
| 10 灰褐色土 | 焼土ブロックを多量に含む。しまり悪い。 | 31 暗褐色土 | 27よりやや暗い。As-C・焼土粒子少量含む。 |
| 11 暗褐色土 | 焼土粒子を少量含む。4よりしまり弱い。 | 32 暗褐色土 | 全体にやや黄色味帯びる。焼土粒子を極わずかに含む。 |
| 12 暗褐色土 | 11より暗い。焼土粒子・ブロックを含む。しまり悪い。 | 33 暗褐色土 | 全体にやや黄色味帯びる。地山よりやや暗い。As-Cを極わずかに含む。 |
| 13 暗赤褐色粘性土 | 全体に焼けている。 | 34 暗灰褐色土 | 灰を多く、焼土粒子を少量、As-Cをわずかに含む。 |
| 14 黒褐色土 | しまり悪い。(攪乱) | 35 暗茶褐色土 | 焼土粒子を少量、As-Cをやや多く含む。 |
| 15 暗赤灰褐色土 | しまり弱い。焼土粒子・ブロック・炭化物を含む。(灰層) | 36 暗褐色土 | As-Cを少量、焼土粒子を極わずかに含む。 |
| 16 暗灰褐色粘性土 | 焼土粒子を含む。As-C少量含む。 | 37 暗褐色土 | やや黄色味を帯びる。ルーム漸移層ブロックを多く、焼土粒子を極微量含む。 |
| 17 茶褐色土 | 全体に赤味帯びる。焼土粒子をやや多く含む。 | | |
| 18 茶褐色土 | 全体に赤味帯びる。焼土粒子・ブロック・白色粘性土ブロックを含む。 | | |
| 19 暗褐色土 | やや赤味帯び、As-C・焼土粒子を少量含む。 | | |
| 20 茶褐色土 | As-C・焼土粒子をわずかに含む。 | | |
| 21 茶褐色土 | 20に近いが20よりやや明るく、地山より暗い。 | | |

第276図 57号住居跡カマド

4. 平安時代



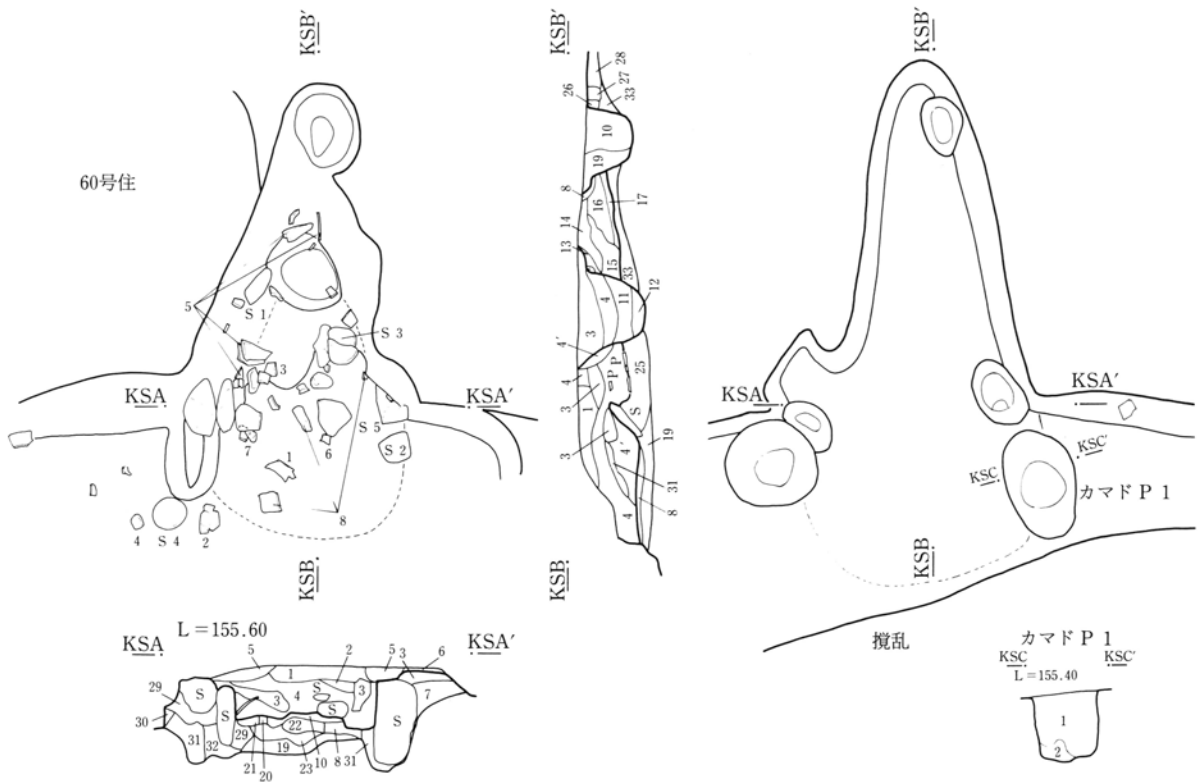
59・60号住居跡

- ① 暗褐色砂質土 As-Cを多量に含む。
- ② 暗褐色土 ①より暗い。ロームブロックを少量、As-Cを多く含む。
- ③ 暗褐色土 ②より明るい。ロームブロック多く、As-Cを少量含む。
- ④ 明褐色土 地山の砂質ロームブロックを多量に含む。
- 1 ロームブロックの盛土
- 2 明褐色砂質土(耕作土) As-Cを多量に含む。
- 3 暗褐色土 As-Cを多量に含む。
- 4 暗褐色土 As-C多量、ロームブロックを少量含む。3よりやや明るい。
- 5 暗褐色土 As-Cを多く含む。(4より少ない) 焼土粒子をわずかに含む。
- 6 黒褐色土 As-C多く、ロームブロックを少量含む。5より暗い。
- 7 暗灰褐色土 ロームブロックを極多量、焼土粒子・灰を少量含む。
- 8 灰褐色土 白色ローム・灰・焼土粒子少量を含む。しまりは悪い。
- 9 灰褐色土 ロームブロックをわずかに含む。8より、しまり良い。
- 10 暗褐色土 ロームブロック・As-Cを多量に含む。
- 11 暗褐色土 ロームブロック・As-Cを多量、焼土ブロックを含む。
- 12 赤黄褐色土 焼土粒子を多く、灰を含む。(カマド埋没土)
- 13 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 14 黒褐色土 総社砂層ブロック・As-Cを多く含む。しまりは非常に良い。(床)
- 15 明褐色土 総社砂層ブロックを多量に含む。しまり良い。
- 16 黄褐色粘性土 焼土粒子を少量含む。
- 17 暗灰褐色土 焼土粒子をやや多く、As-C・炭化物粒子を少量含む。灰を含む。

- 18 黒灰色土 焼土粒子を多量、黄褐色粘性土ブロックを多く、As-Cをやや多く含む。
- 19 暗黄褐色土 焼土粒子・暗褐色土を少量、As-Cをわずかに含む。
- 20 黒褐色土 10よりも暗い。As-Cを多く含む。しまり弱い。
- 21 黒褐色土 20より明るく、しまりは悪い。ロームブロックを含む。
- 22 暗褐色土 焼土粒子を18よりやや少なく、As-C・ローム粒子を少量含む。
- ピット 1
 - 1 黒褐色土 黄褐色土ロームブロック(φ 2~7cm大)多く、As-Cを少量含む。
 - 2 暗褐色土 全体に1より小さいロームブロックを含む。
- ピット 2
 - 1 黒褐色土 黄褐色ロームブロック・粒子を多く含む。
 - 2 明褐色土 黄褐色ロームブロック・粒子を多く含む。1よりしまり良い。
- ピット 3
 - 1 黒褐色土 全体に黄褐色土ロームブロック(φ 1~5cm大)を含む。
 - 2 明褐色土 固い微粒子含む。(地山)
- ピット 4
 - 1 暗褐色土 黄白色粘性土を多量、焼土ブロックを少量含む。
 - 2 黒褐色土 炭化物、黄白色粘性土粒子・As-Cを少量含む。
 - 3 黄白色粘性土 しまり弱い。

第277図 59・60号住居跡

II 検出された遺構と遺物



59号住居跡カマド

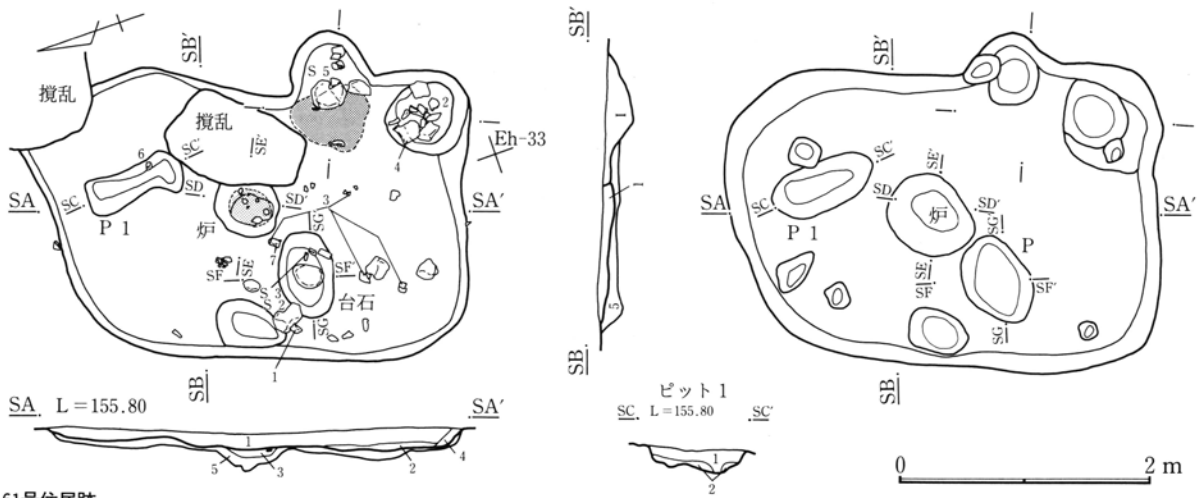
- | | |
|--|--|
| <p>1 暗褐色土 軽石を多く含む。やや砂質。しまり良い。</p> <p>2 暗黄褐色土 暗褐色土とロームの混合土。As-C少量含む。しまり良い。</p> <p>3 黄褐色粘性土ブロック しまり良い。</p> <p>3' 黄褐色粘性土ブロックを固めたもの。しまり良い。</p> <p>4 暗褐色土 As-C・ロームブロックを多く、焼土粒子含む。しまり良い。</p> <p>4' 暗褐色土 4よりやや暗く、しまり悪い。</p> <p>5 暗褐色土 As-Cを多く、焼土粒子を少量含む。</p> <p>6 暗褐色土 As-Cを多く、焼土粒子を含まない。</p> <p>7 暗褐色土 As-Cを少量含む。しまり良い。</p> <p>8 暗褐色土 ロームブロック含む。しまりは極めて良い。</p> <p>9 暗黄褐色粘性土 焼土ブロックを含む。</p> <p>10 暗褐色土 As-Cを多く、焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。</p> <p>11 黄褐色粘性土 As-C少量、黄褐色の焼土ブロックを含む。(3'に対応する)しまり良い。</p> <p>12 暗褐色土 11のブロックを上面に少量含み、赤褐色の焼土ブロックを少量含む。しまり良い。</p> <p>13 暗褐色土 As-C・赤褐色の焼土ブロックを少量含む。しまり良い。</p> <p>14 暗褐色土 13より若干明るい。全体的に赤褐色の焼土粒子・ブロック、若干As-Cを含む。しまりは良い。</p> <p>15 黒褐色土 As-Cを少量、赤褐色の焼土ブロックを含む。しまり良い。</p> <p>16 明褐色土 As-Cを若干、15より焼土ブロックを多く含む。しまり良い。</p> <p>17 黒褐色土 As-C (φ 1~7mm大)を少量、赤褐色焼土粒子を若干含む。しまり良い。</p> | <p>18 黒褐色土 As-C (φ 1~2mm大)少量含む。しまり良い。</p> <p>19 灰褐色土 黄白色の微粒子のブロックを所々含む。しまり良い。</p> <p>20 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック・焼土ブロック含む。しまり良い。</p> <p>21 赤褐色土 焼土ブロックを全体的に含む。</p> <p>22 暗褐色土 黄褐色粘土ブロックを多く含む。</p> <p>23 黄褐色土 微粒子で固い。焼土粒子を若干含む。</p> <p>24 明褐色土 23とほぼ同じだが、As-Cを少量含む。</p> <p>25 暗褐色土 12とほぼ同じ。</p> <p>26 暗褐色土 As-Cを少量含む。しまり悪い。細粒子。</p> <p>27 黄褐色粘性土 As-Cを少量、焼土粒子を極少量含む。3'と似ている。</p> <p>28 黒褐色土 As-Cを若干含み、焼土粒子を極少量含む。しまり良い。</p> <p>29 黄褐色土 粘性ブロックを含み、焼土を少量含む。粒子細かく、しまり良い。</p> <p>30 暗褐色土 焼土粒子・As-Cを少量含む。しまり良い。</p> <p>31 明褐色土 砂質ロームブロックを少量、As-Cをわずかに含む。</p> <p>32 暗褐色土 砂質ロームブロック多量、焼土粒子少量含む。しまり良い。</p> <p>33 明褐色土 やや黄色味帯びる。As-Cを極わずか、焼土粒子をわずかに含む。</p> |
|--|--|

59号住居跡カマドピット 1

- | |
|--|
| <p>1 明褐色土 総社砂層ブロックを多く、As-Cを極わずかに含む。</p> <p>2 明褐色土 1より明るい。総社砂層ブロックを多量に含む。</p> |
|--|

0 1 m

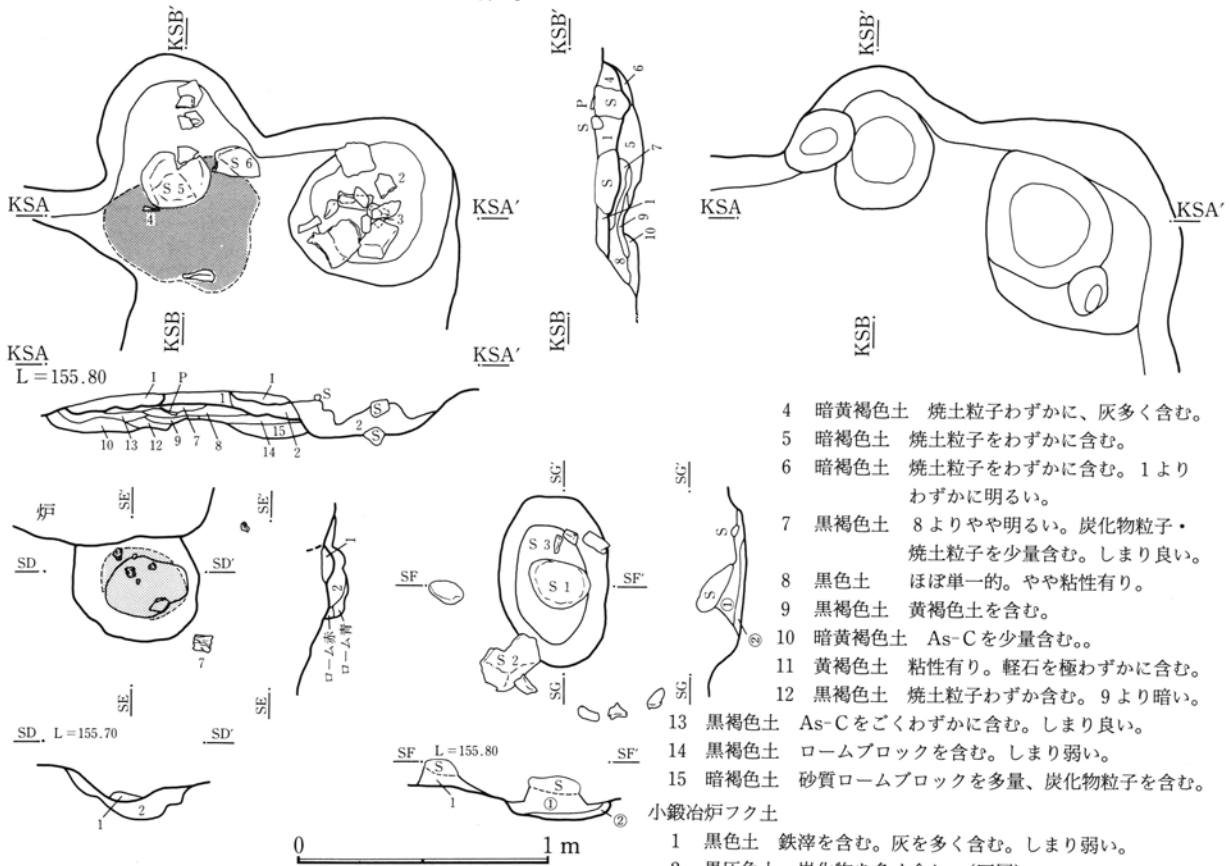
第278図 59号住居跡カマド



61号住居跡

- I 暗褐色土砂質土 しまり悪い。As-C多量に含む。(攪乱)
- 1 暗褐色土 As-Cを多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム漸移層ブロックを多く、As-Cを少量含む。全体に黄色味を帯びる。
- 3 暗褐色土 炭化物粒子を含み、しまり弱い。
- 4 暗黄褐色土 暗褐色土を少量、As-Cをわずかに含む。

- 5 暗褐色土 焼土粒子を少量、ロームブロックを均等に多く含む。しまり悪く、粒子細かい。
- ピット1
- 1 黒褐色土 As-Cを多く、総社砂層小ブロックを多く含む。しまり悪い。
 - 2 暗黄褐色土 ほぼローム。若干の暗褐色土が混じる。



- 4 暗黄褐色土 焼土粒子わずかに、灰多く含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒子をわずかに含む。
- 6 暗褐色土 焼土粒子をわずかに含む。1よりわずかに明るい。
- 7 黒褐色土 8よりやや明るい。炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。しまり良い。
- 8 黒色土 ほぼ単一的。やや粘性有り。
- 9 黒褐色土 黄褐色土を含む。
- 10 暗黄褐色土 As-Cを少量含む。
- 11 黄褐色土 粘性有り。軽石を極わずかに含む。
- 12 黒褐色土 焼土粒子わずかに含む。9より暗い。
- 13 黒褐色土 As-Cをごくわずかに含む。しまり良い。
- 14 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり弱い。
- 15 暗褐色土 砂質ロームブロックを多量、炭化物粒子を含む。

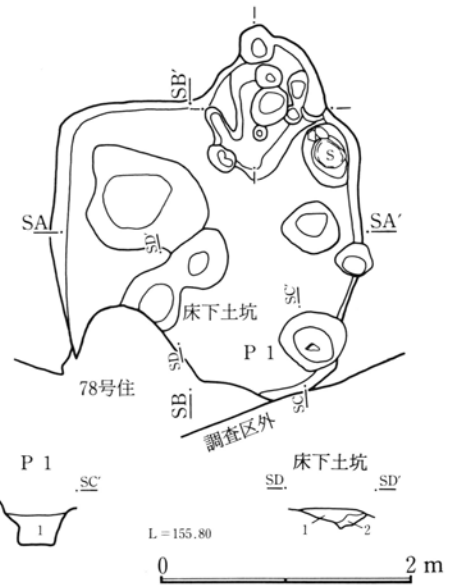
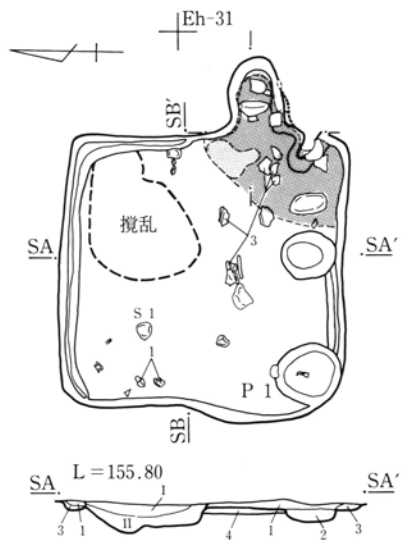
- 小鍛冶炉フク土
- 1 黒色土 鉄滓を含む。灰を多く含む。しまり弱い。
 - 2 黒灰色土 炭化物を多く含む。(灰層)
- 台石周辺
- 1 暗褐色土 As-Cを多く含む。しまり弱い。
 - ① 黒褐色土 As-Cをわずかに含む。焼土粒子を少量含む。ややしまり良い。
 - ② 暗黄褐色土 総社砂層を多量に含む。しまり弱い。

カマド

- I 明褐色砂質土 (耕作土)
- 1 暗灰褐色土 As-Cを少量、焼土粒子をわずかに含む。
- 2 黒褐色土 灰・炭化物多く、焼土粒子を1より多く含む。
- 3 黒灰褐色土 炭化物・灰を多く、焼土粒子をわずかに含む。粘性有り。

第279図 61号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



62号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを多く、しまり良くない。
- 2 黒褐色土 As-Cを少量、小黄褐色砂質ロームブロックを多く、しまり弱い。
- 3 暗褐色土 As-Cをわずかに含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを多く、As-Cを少量含む。しまりは非常に良い。
- 5 暗褐色土 やや黄色味帯びる。ロームブロックを少量含む。As-Cは、ほとんど含まない。
- I 暗褐色土 小ロームブロックを多量、As-Cやや多く含む。しまり悪い。

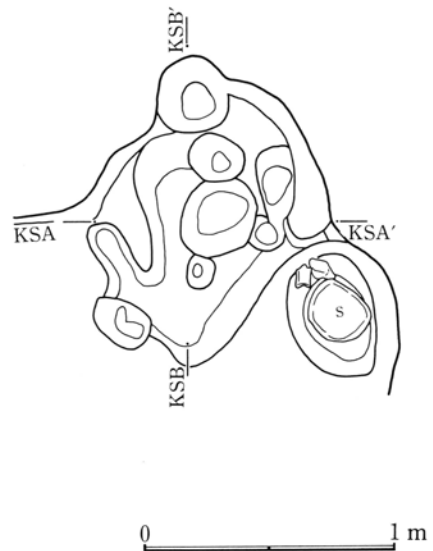
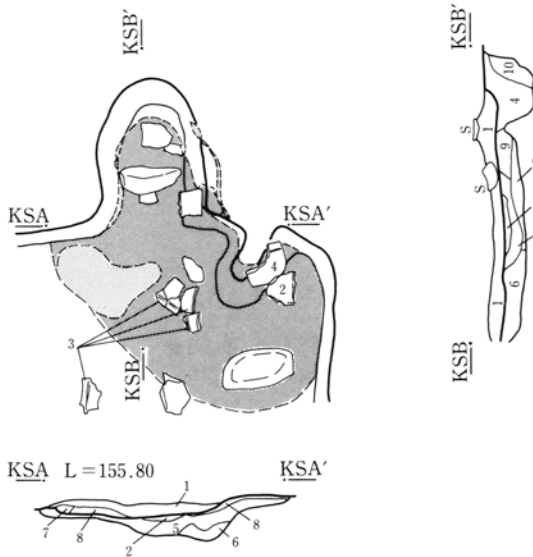
- II 明褐色土 小ロームブロックを多量、As-Cを少量含む。しまり悪い。

床下土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。As-Cを少量含む。しまりは非常に良い。
- 2 暗褐色土 やや黄色味帯びる。ロームブロックを少量含む。As-Cは、ほとんど含まない。

ピット 1

- 1 暗褐色土 As-Cを多く、総社砂層ブロックを少量含む。しまり悪い。



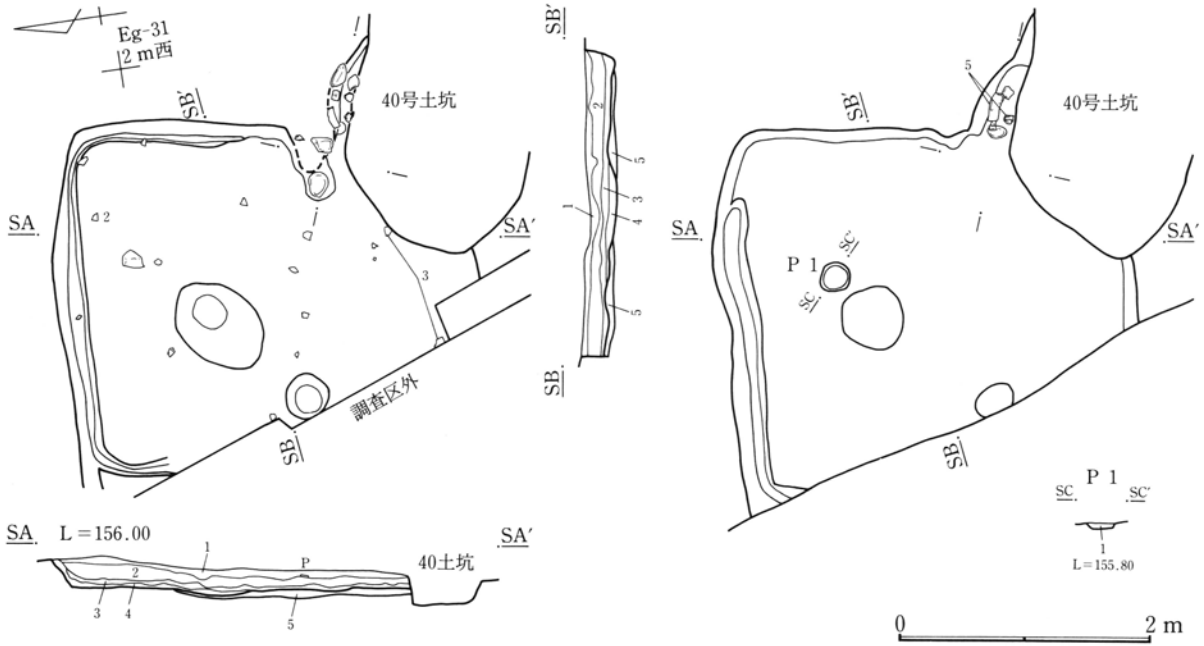
カマド

- 1 暗灰褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を少量、灰を含む。しまり悪い。
- 2 暗黄褐色土 灰を含み、炭化物粒子・焼土粒子を微量含む。
- 3 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を微量含む。しまり悪い。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。粒子は細かい。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。粒子細かく、しまり悪い。

- 6 暗褐色土 5よりロームブロックの量が多い。
- 7 黄褐色ロームブロック
- 8 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粒子細かく、しまり悪い。
- 9 黒褐色土 3に似る。炭化物粒子と焼土をほとんど含まず、粒子細かく、しまり悪い。
- 10 暗褐色土 4に似る。4よりロームブロックが多い。しまり良い。

第280図 62号住居跡・カマド

4. 平安時代



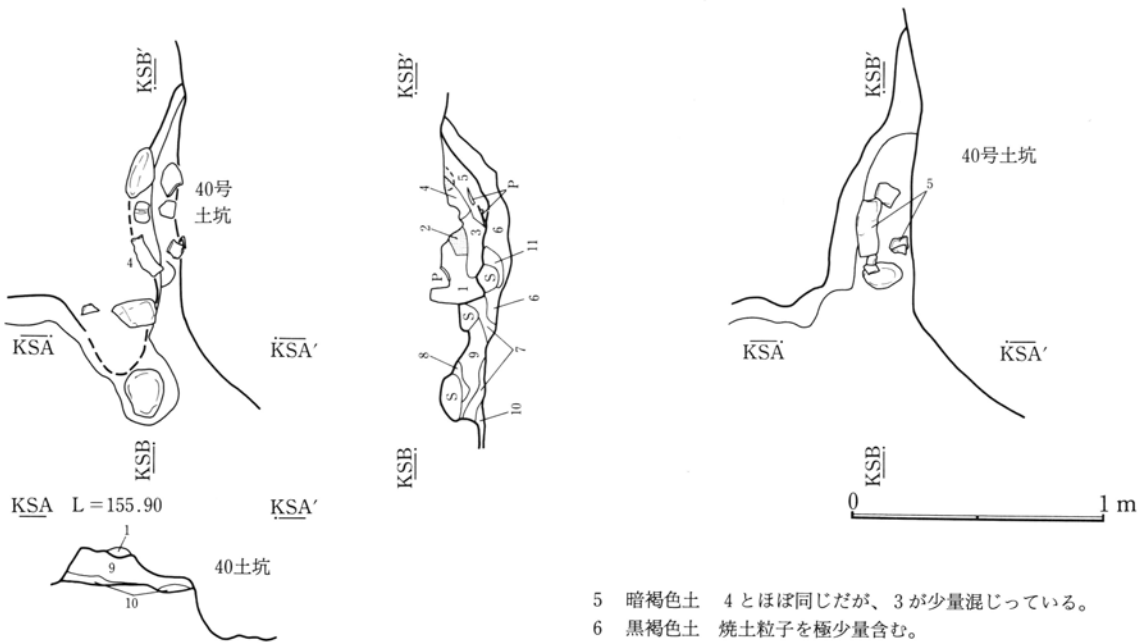
63号住居跡

- 1 暗褐色土 耕作土の土層に近い。As-Cを少量含む。
- 2 黒褐色土 As-C (φ 1~3mm大) 多く含む。しまり良い。
- 3 黒褐色土 2とほぼ同じだが、As-Cの粒子が小さく、量も少ない。

- 4 明褐色土 粒子が細かい。As-Cを少し含む。しまり良い。
- 5 黒褐色土 As-Cを多く、ロームブロックを少量含む。しまりは非常に良い。(床)

ピット 1

- 1 黒褐色土 As-Cを多く含む。



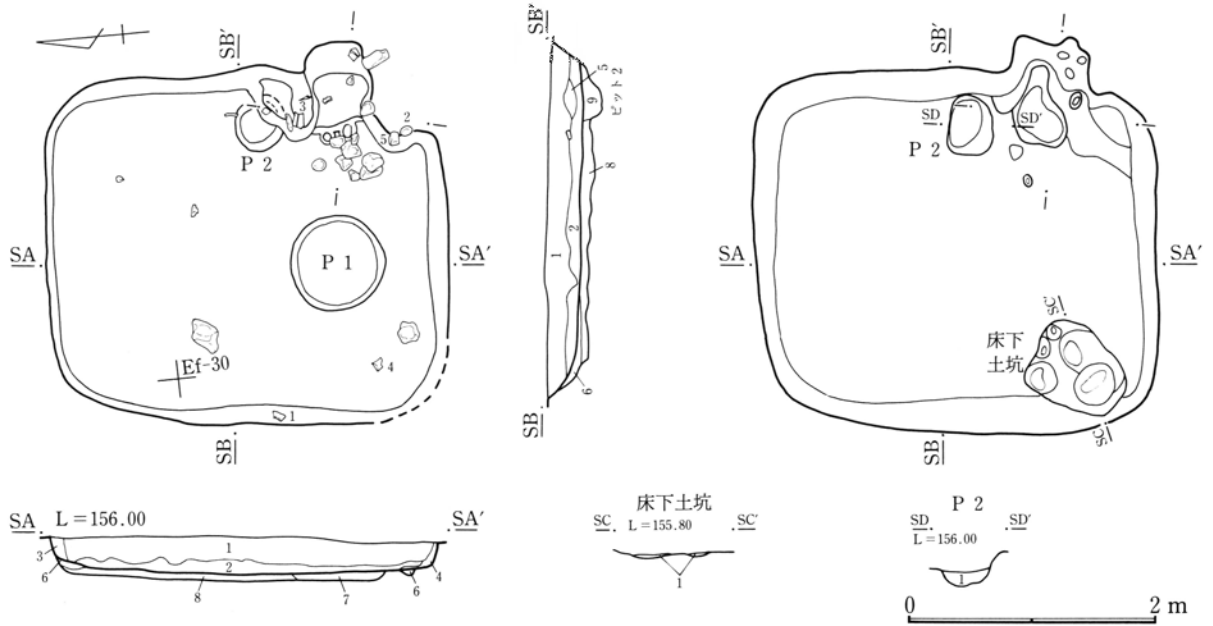
カマド

- 1 黄褐色土 焼土粒子を少量含む。しまり良く、粘土質。
- 2 赤褐色土 1とほぼ同じ。焼土ブロック。
- 3 暗褐色土 焼土ブロックと焼土粒子の混土。しまり少し良い。
- 4 暗褐色土 焼土ブロックを多く、As-Cを極少量含む。しまり良く、粘土質。

- 5 暗褐色土 4とほぼ同じだが、3が少量混じっている。
- 6 黒褐色土 焼土粒子を極少量含む。
- 7 黒褐色土 焼土粒子を極少量、ロームブロック・As-Cを含む。
- 8 黒褐色土 焼土粒子を極少量含む。しまり良く、粒子細かい。(粘土質)
- 9 暗褐色土 焼土粒子を極少量、As-Cを少量含む。しまりやや良い。
- 10 暗褐色土 9に似る。9よりAs-Cが少なく、しまり良い。
- 11 黒褐色土 焼土粒子を極少量含む。しまり良く、粒子細かい。

第281図 63号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



64号住居跡

- 1 黒褐色土 As-C多く、しまり良い。
- 2 黒褐色土 1に似るが、茶褐色土が混入する。
- 3 黒褐色土 As-C少なく、しまり弱い。
- 4 茶褐色土 As-Cをほとんど含まない。地山か？
- 5 黒褐色土 1に似るが、やや明るく茶褐色土が混じる。
- 6 暗茶褐色土 As-Cを極わずかに含む。しまり弱い。
- 7 暗褐色土 As-Cを多く、炭化物を少量含む。しまり悪い。

8 明褐色土 若干のAs-C、ロームブロック(茶褐色土)を含む。しまり悪い。

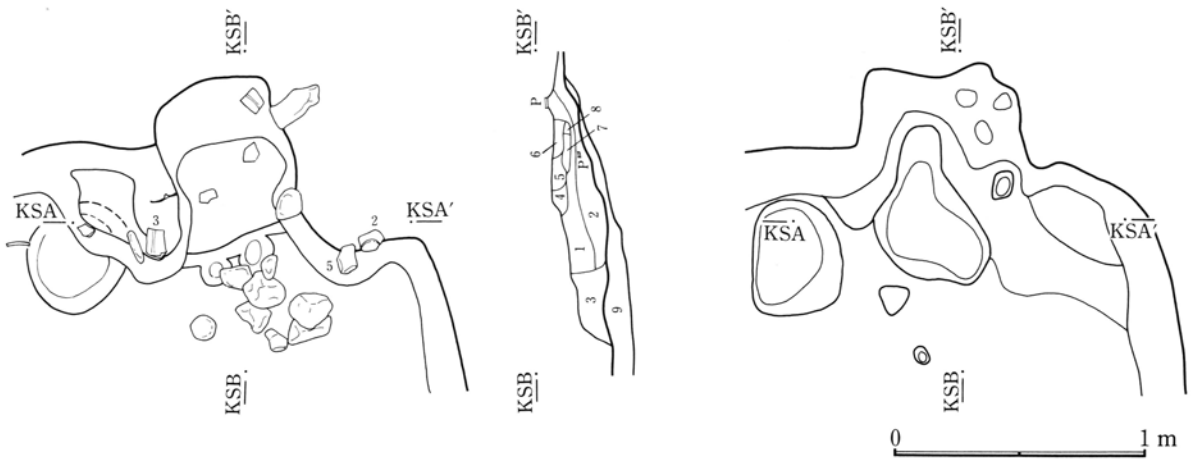
9 ピット2の1

床下土坑

1 灰紫色粘性土と黄白粘性土の混合土 As-Cを少量含む。しまり良い。

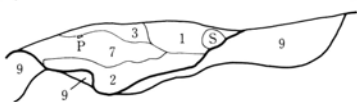
ピット2

1 暗褐色土 As-Cを多量、地山(砂質ロームブロック)を少量、焼土ブロック・粒子をわずかに含む。



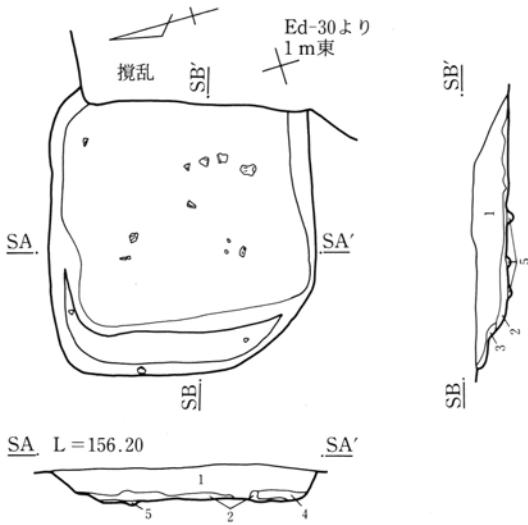
KSA L=156.00

KSA' カマド



- 1 茶褐色土 ローム粒とAs-Cを含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少し含む。
- 3 茶褐色土 1より明るく、ローム土を少し混入。
- 4 黒褐色土 As-C(φ1mm以下)を含む。しまり良い。
- 5 黒褐色土 ローム状の土を混入。しまり良い。
- 6 黒褐色土 非常にもろく、崩れやすい。
- 7 茶褐色土 粘土状で、焼土を含む。
- 8 茶褐色土 7より暗く、焼土を含まない。
- 9 黒褐色土 As-C、ローム粒を少量含む。

第282図 64号住居跡・カマド

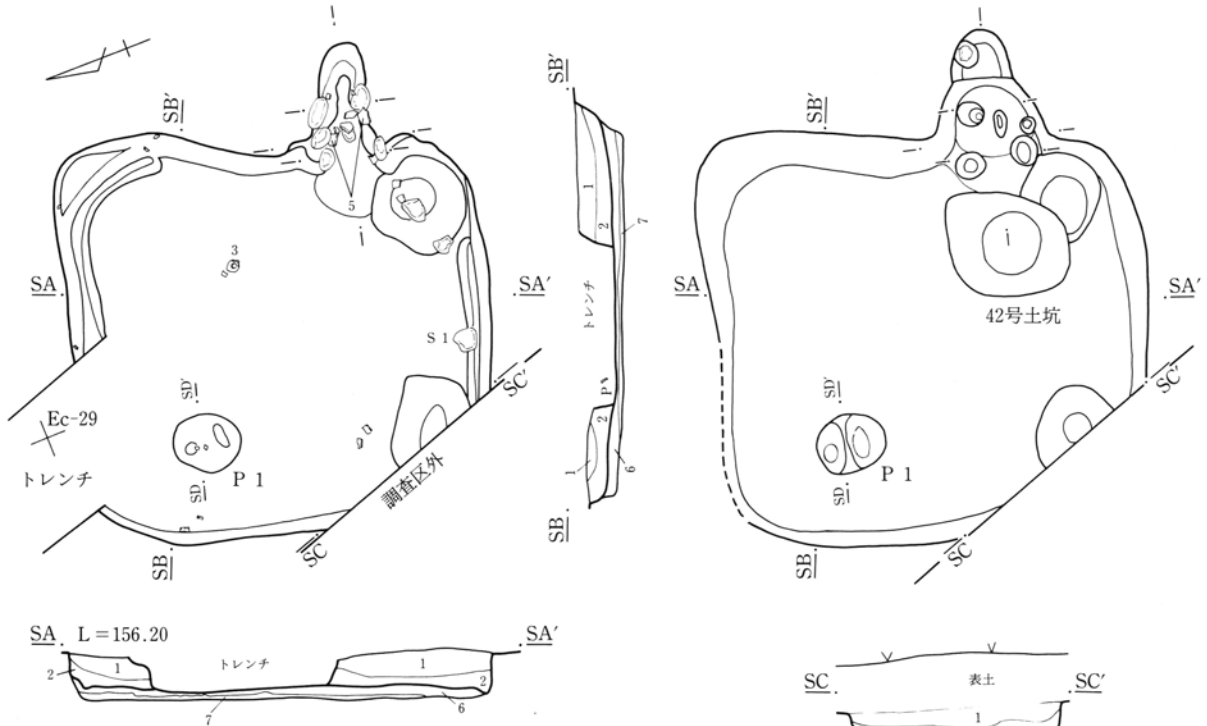


65号住居跡

- 1 黒褐色土 As-C多く含む。しまり弱い。
- 2 茶褐色土 As-Cを含まず、サラサラする。
- 3 黒褐色土 2より暗いが、As-C含まず、やわらかい。
- 4 黒褐色土 1に似るが、As-C少ない。
- 5 暗褐色土 粒子細かく、As-Cを少し含む。サラサラする。

0 2 m

第283図 65号住居跡

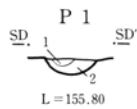


66号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。2よりやや暗い。
- 2 暗褐色土 As-Cを多く含む。ロームブロックを含む。1よりやや粘性有り。
- 3 暗褐色土 2よりやや暗い。As-Cは2より多く含む。しまり弱い。
- 4 黒褐色土 As-Cと炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを含み、As-Cを少量含む。
- 6 黒褐色土 As-Cを少量含む。しまり良い。粘性少し有り。
- 7 暗褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。しまり弱い。粘性少し有り。

ピット1

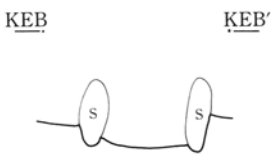
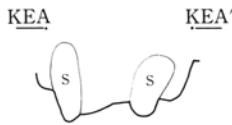
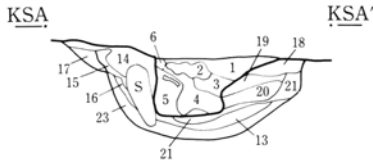
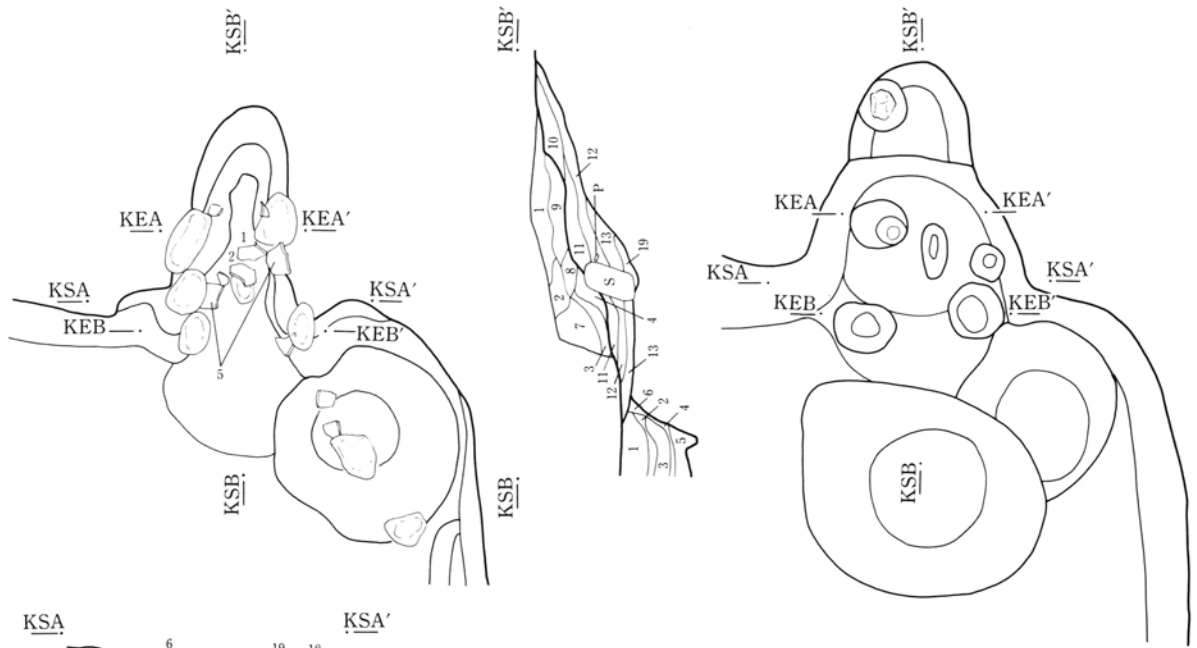
- 1 暗褐色土 粒子細かい。As-Cを少量含む。粘性あまりない。
- 2 黒褐色土 粒子細かい。1よりAs-Cを少し多く含む。粘性あまりない。



0 2 m

第284図 66号住居跡

II 検出された遺構と遺物



L = 156.20

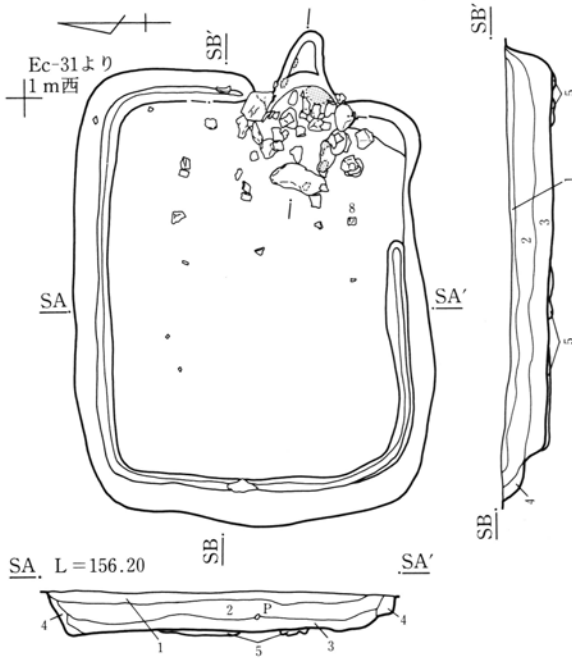
0 1 m

66号住跡カマド

- 1 暗褐色土 As-Cを多く含み、黄褐色粘性土ブロックを含む。
- 2 黄褐色粘性土
- 3 暗褐色土 焼けた黄褐色粘性土ブロックを多く含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 灰を含む。As-Cをわずかに含む。しまり弱い。
- 5 暗褐色土 灰を含む。焼土粒子・ブロックを含む。しまり弱い。
- 6 暗褐色土 焼土を多く含み、やや赤味を帯びる。
- 7 暗褐色土 As-Cを多く含み、黄褐色粘性土ブロックをわずかに含む。
- 8 暗褐色土 1・7より暗い。As-C・黄褐色粘性土粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 1よりやや黄色味帯びる。黄褐色粘性土粒子を多く、焼土粒子を少量含む。
- 10 暗褐色土 As-Cを少量含む。焼土粒子を極わずかに含む。
- 11 黒褐色土 赤褐色粘性土の焼土ブロックをやや多く含む。しまり弱い。
- 12 明褐色土 若干焼土粒子を含む。しまり良く、粒子細かい。
- 13 明褐色土 12よりやや暗い。12よりしまり良い。粒子細かい。
- 14 黄褐色粘性土 黄褐色の焼土粒子・ブロックを全面に含む。As-C (φ 1~3mm大)を多く含む。しまり良い。
- 15 明褐色土 黄褐色の焼土粒子・ブロックを少量含む。As-C (φ 1mm大)を多く含む。しまりやや良い。
- 16 黄褐色土 15とほぼ同じだが、やや黄色味を帯びる。
- 17 黒褐色土 As-Cを含む。しまり悪い。
- 18 暗褐色土 As-C多く含む。上面に焼土粒子を若干含む。しまり悪い。1とほぼ同じ。
- 19 暗褐色土 黄褐色粘土ブロックを多く含む。しまり良い。焼土ブロックを少量含む。3と対応。
- 20 赤褐色粘性土 赤褐色の焼土粒子・ブロックを全面に含む。As-Cを少量含む。しまり良い。4と対応。
- 21 暗褐色土 赤褐色の焼土ブロックを少量含む。As-C (φ 1~2mm大)を少量含む。しまりやや悪い。
- 22 茶褐色土 焼土粒子・ブロックを少量含む。粒子細かく、しまり良い。
- 23 茶褐色土 22より焼土が少ない。ほぼ似ている。

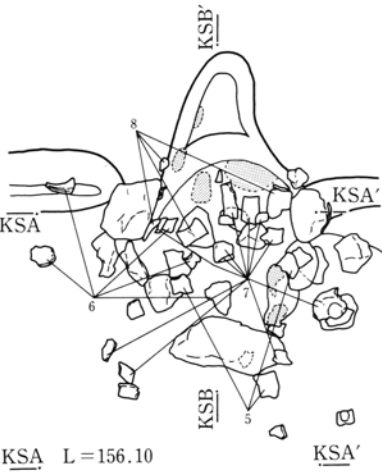
第285図 66号住居跡カマド

4. 平安時代



67号住居跡

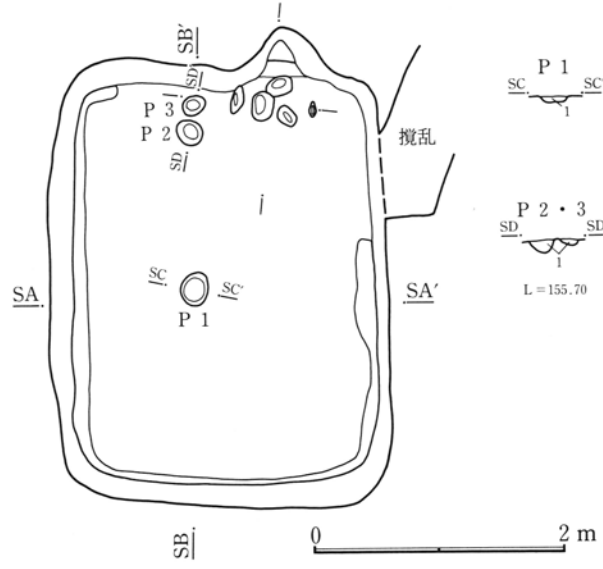
- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。
- 2 暗褐色土 As-Cを多量に含む。焼土ブロックをわずかに含む部分がある。1よりやや暗い。
- 3 暗褐色土 As-Cを多く含む(2より少ない)。2よりやや明るく、粘性有り。



KSA L=156.10

カマド

- 1 黒褐色土 As-Cを多量、黄褐色粘性土小ブロック・焼土粒子を少量含む。
- 2 暗赤黄褐色粘性土 焼土粒子・ブロックを多く含む。
- 2' 暗赤黄褐色粘性土 2より粘性弱く、しまり悪い。
- 3 黒褐色土 焼土粒子・ブロック多く、As-Cを少量含む。全体に赤味を帯びる。
- 4 黒褐色土 焼土粒子・As-Cを極わずかに含む。
- 5 黄褐色粘性土 焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土 As-Cを多量に含む。焼土粒子少量含む。



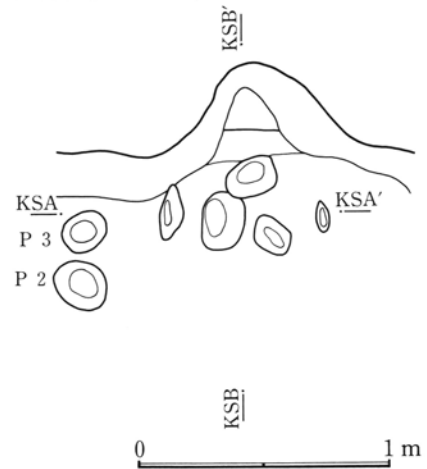
- 4 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。軽石を少量含む。
- 5 暗褐色土 As-C少量含む。粒子細かい。しまり良く、粘性少ない。

ピット1

- 1 黒褐色土 As-Cを多く含む。黄褐色土のブロック(φ 2~4mm大)を含む。しまり良い。

ピット2・3

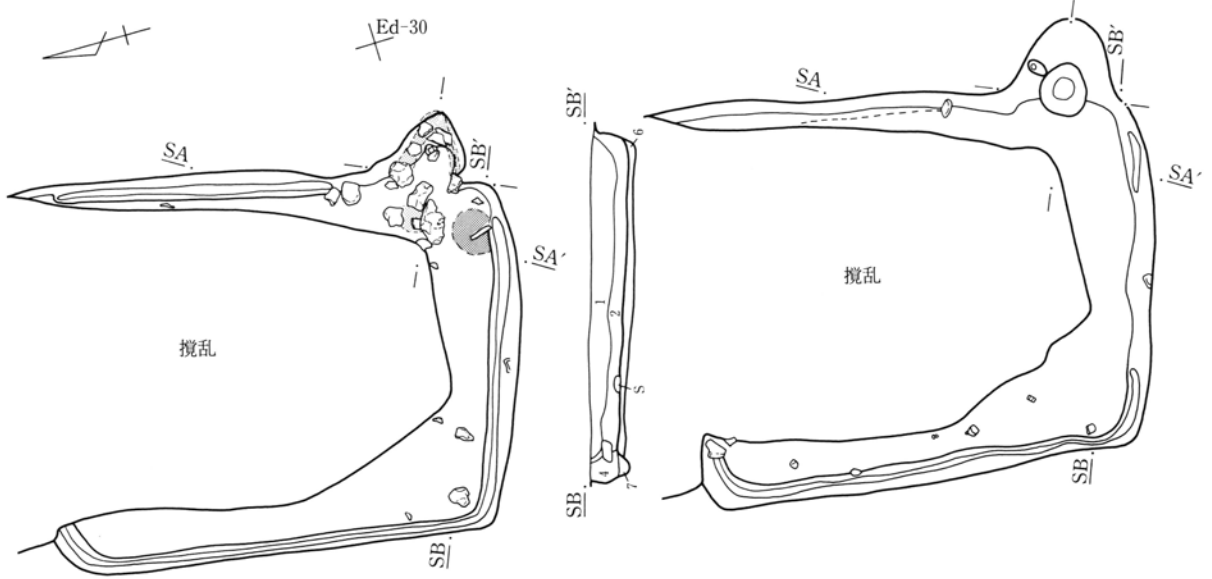
- 2 暗褐色土 As-C(φ 1mm大)を少量含む。しまり良い。微細質土。



- 7 暗黄褐色土 焼土ブロック・As-Cを少量含む。粘性有り。
- 8 黒褐色土 焼土粒子・ブロックを含み、As-C少量含む。
- 9 暗褐色土 焼土粒子やや多く、8よりAs-C多く含む。
- 10 赤褐色粘性土(暗灰褐色粘性土の焼けたもの)
- 11 暗赤黄褐色粘性土 2とほぼ同じ。10に焼土粒子・ブロックを多く含む。
- 12 黒褐色土 焼土粒子・ブロック・As-Cを少量含む。しまりやや悪い。
- 13 黒褐色土 As-C(φ 2mm大)極少量含む。粒子細かく、しまりやや悪い。
- 14 暗灰褐色土 焼土粒子を少量含む。15より暗い。
- 15 暗灰褐色土 灰・焼土粒子を多く含む。
- 16 黒灰褐色土 灰多く、焼土粒子を少なく含む。しまり弱い。
- 17 黒褐色土 As-Cを多く含む。

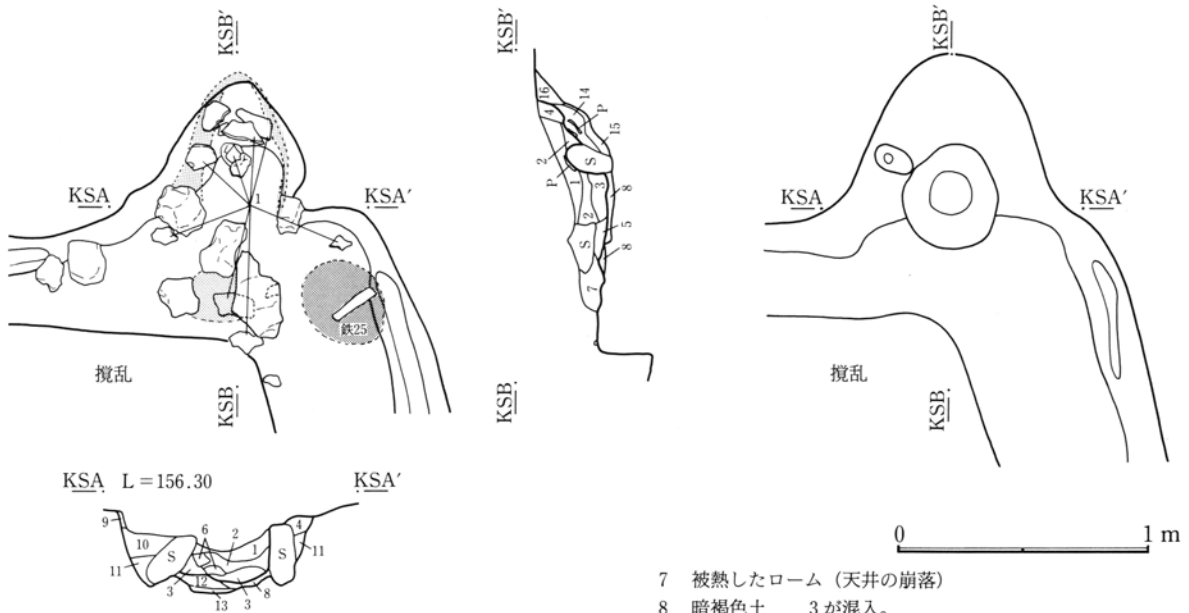
第286図 67号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



68号住居跡

- 1 黒褐色土 As-Cが非常に多く、礫(φ 1~2cm)を含む。しまり良い。
- 2 黒褐色土 1に似るが、As-C少ない。
- 3 暗褐色土 黄褐色のブロックを含み、As-C少ない。
- 4 黒褐色土 2よりさらにAs-C少ない。しまり弱い。
- 5 暗褐色土 内容物少なく、細かい。地山か？
- 6 暗褐色土 As-C(φ 1mm大)を含む。As-YP(φ 3mm大)を少量含む。しまり良く粒子細かい。
- 7 暗褐色土 As-Cをわずかに含む。地山よりもやや暗い。

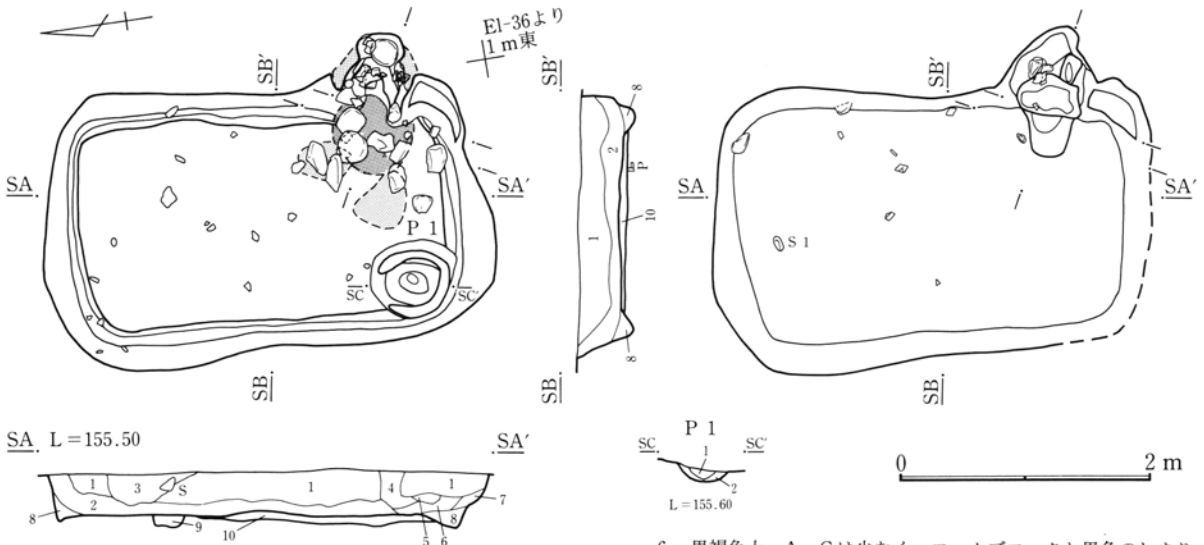


カマド

- 1 暗褐色土 焼土粒子・ブロック・As-Cを多く含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・ブロックを多量に含み、黄灰白色粘性土を多く含む。
- 3 黄灰白色粘性土 焼土粒子を少量含む。
- 4 暗灰褐色粘性土 焼土粒子・ブロックを多量に含む。
- 5 暗黄灰褐色土 焼土粒子少量含む。粘性有り。
- 6 焼土ブロック (天井の崩落か)
- 7 被熱したローム (天井の崩落)
- 8 暗褐色土 3が混入。
- 9 黒色土 As-Cを多く、焼土粒子をわずかに含む。
- 10 黒褐色土 焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。
- 11 暗褐色土 焼土ブロックを多く、As-Cをわずかに含む。
- 12 黄褐色粘性土 若干の焼土粒子を含む。
- 13 黒灰褐色土 焼土粒子少量含む。しまり弱い。
- 14 暗赤褐色土 焼土粒子・ブロックを多量に含む。
- 15 暗灰褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を多く含む。
- 16 暗褐色土 As-Cを多く含む。焼土粒子を少量含む。

第287図 68号住居跡・カマド

4. 平安時代



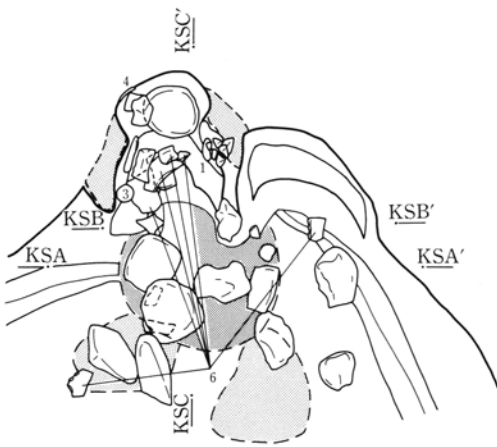
69号住居跡

- 1 黒褐色土 As-C (φ 1~3mm) を多く含む。しまり強くない。
- 2 黒褐色土 1 に似るが、As-C の混入がやや少ない。
- 3 黒褐色土 As-C を含むが、やや砂質土を含む。
- 4 黒褐色土 As-C の混入がやや少なく、しまりが弱い。根などが入ったと考えられる。
- 5 黒褐色土 1 に似る。As-C 少量。4 よりしまり強い。

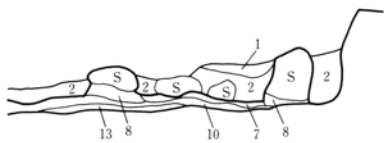
- 6 黒褐色土 As-C は少なく、ロームブロックと黒色のしまりの強い土のブロックを含む。
- 7 黒褐色土 As-C をほとんど含まない。1 より粒が細かい。
- 8 暗褐色土 As-C を極わずかに含む。地山より若干暗い。
- 9 黒褐色土 As-C を多く含む。焼土粒子を極わずかに含む。
- 10 黒褐色土 As-C を少量含む。極めてしまり良く、硬質。焼土粒子をわずかに含む。

ピット 1

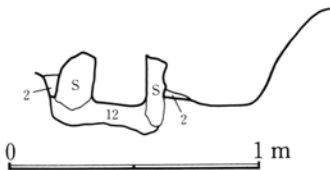
- 1 黒褐色土 As-C を少量含む。2 より黒味が強い。
- 2 暗褐色土 As-C を少量含む。



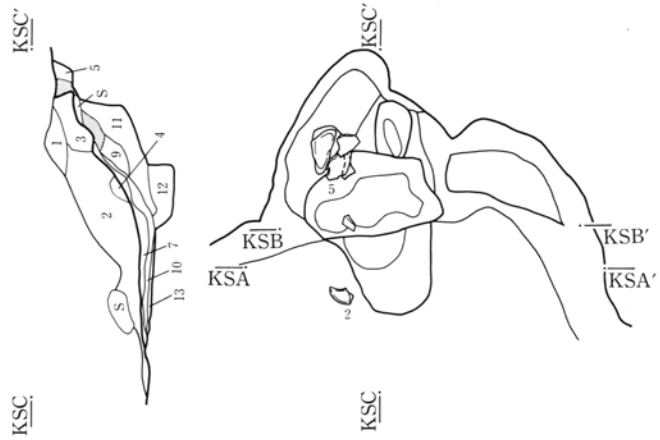
KSA L=155.40



KSB KSB'



0 1 m

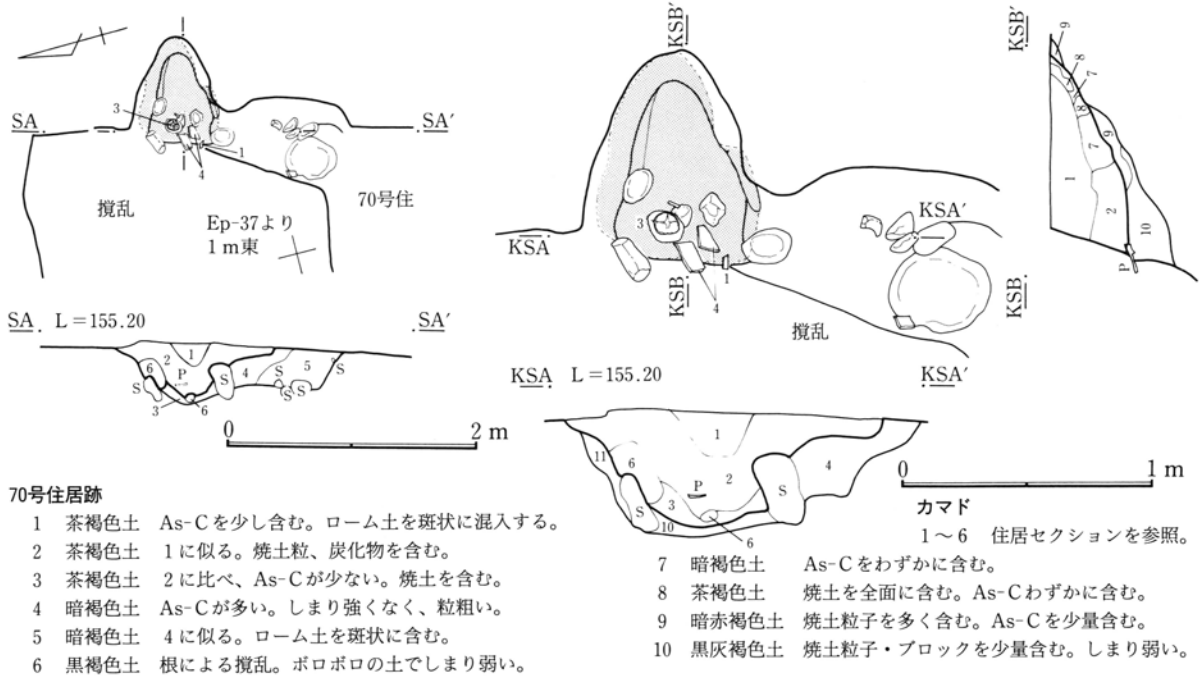


カマド

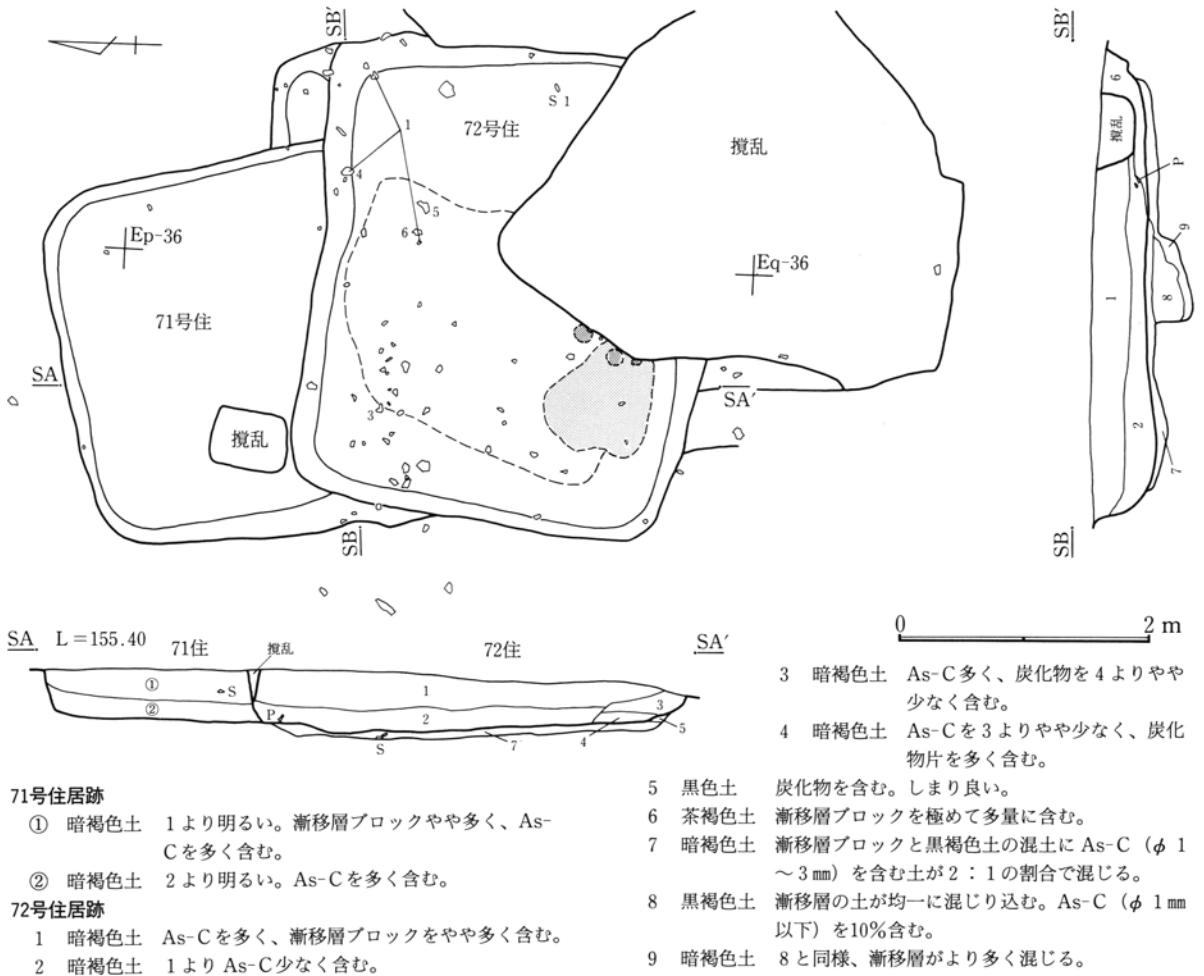
- 1 暗褐色土 As-C を少量含む。焼土粒子をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子をわずかに含む。1 よりやや明るい。しまり悪い。
- 3 暗黄灰色粘性土 焼土粒子をわずかに含む。
- 4 黄褐色土粘性土 焼けている。やや赤味を帯びる。
- 5 暗褐色土 焼土粒子をわずかに含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロック多量、焼土粒子・ブロック少量含む。
- 7 暗灰褐色土 灰を多く含む。焼土粒子・炭化物粒子を多く含む。
- 8 暗黄灰褐色粘性土 しまり良い。
- 9 暗褐色土 黄褐色粘性土を多く含む。焼土粒子を少量含む。しまり弱い。
- 10 暗灰褐色土 灰を多く含む。焼土ブロック・焼土粒子少量含む。
- 11 黒灰褐色土 黄褐色粘性土粒子・焼土粒子を少量含む。
- 12 暗褐色土 As-C をわずかに含み、若干の灰と焼土粒子を少量含む。
- 13 暗褐色土 焼土粒子・ブロックを少量含む。しまりは極めて良い。

第288図 69号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物

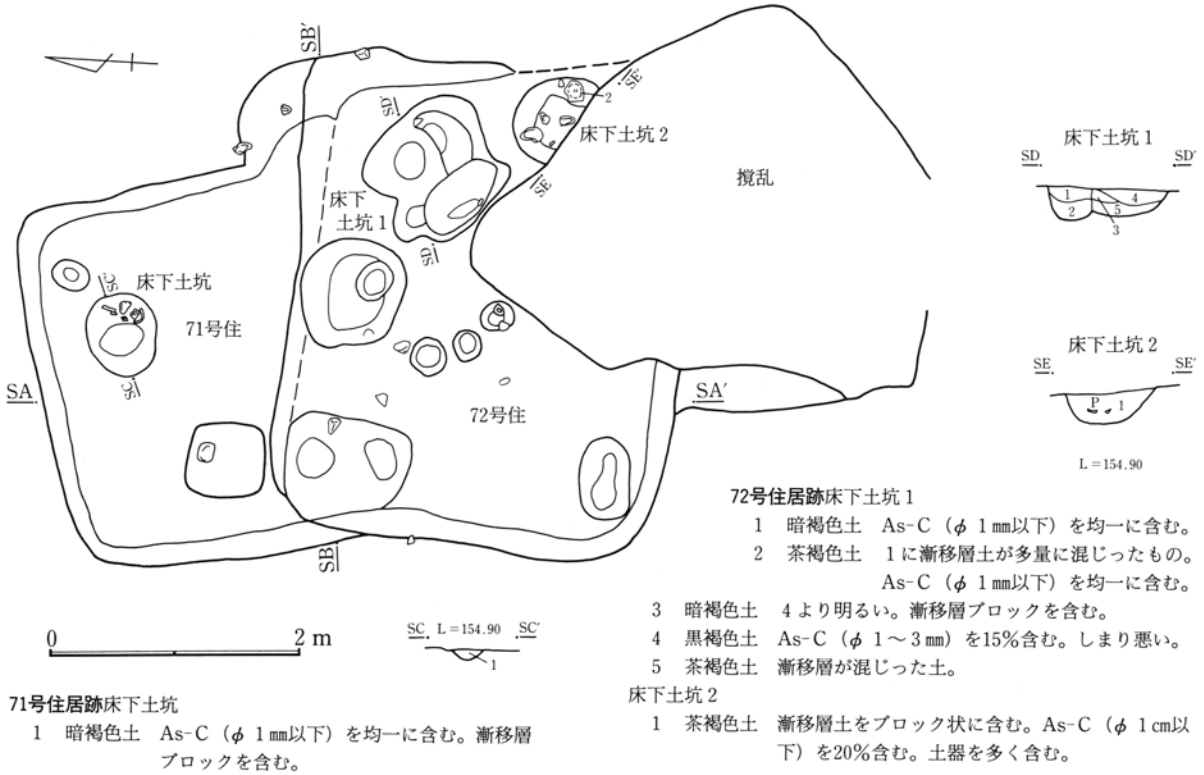


第289図 70号住居跡・カマド

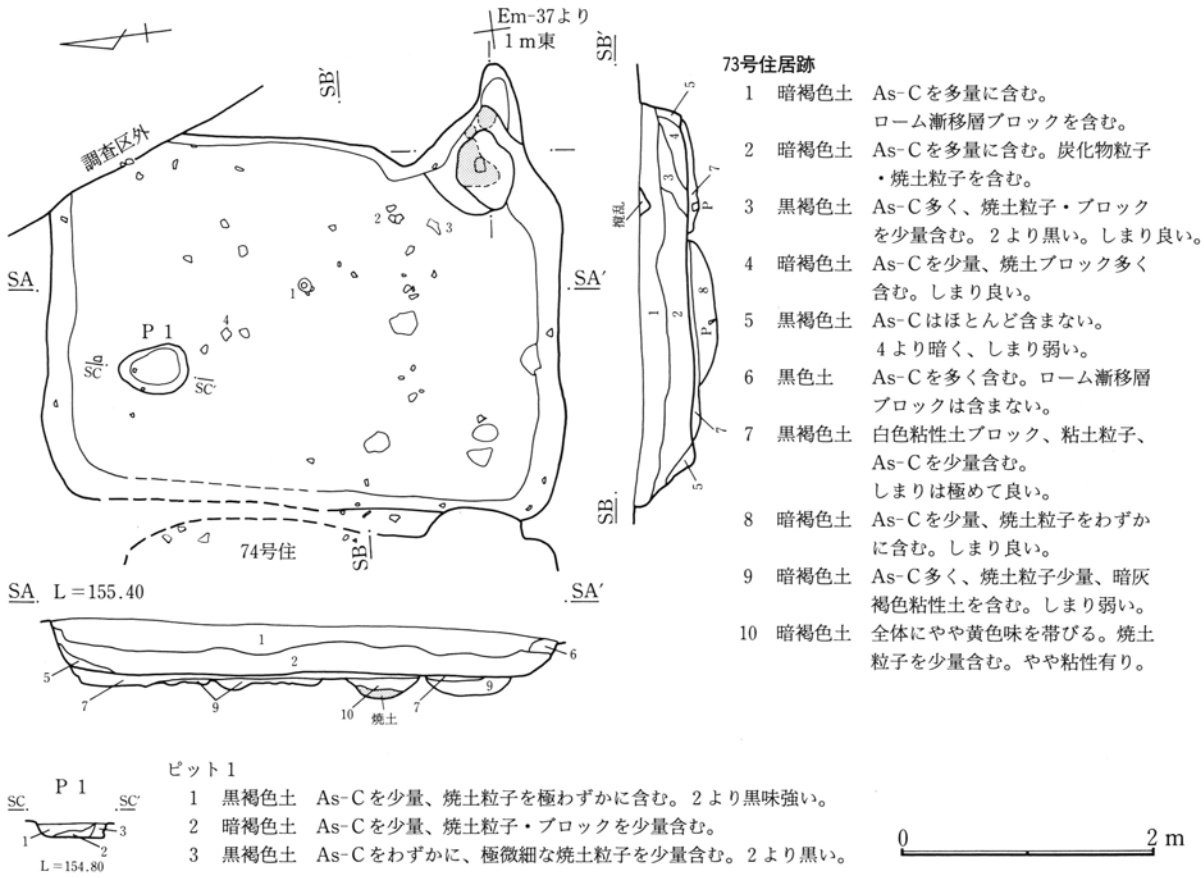


第290図 71・72号住居跡

4. 平安時代

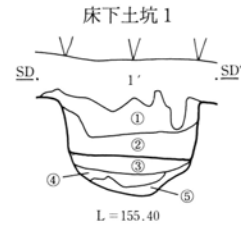
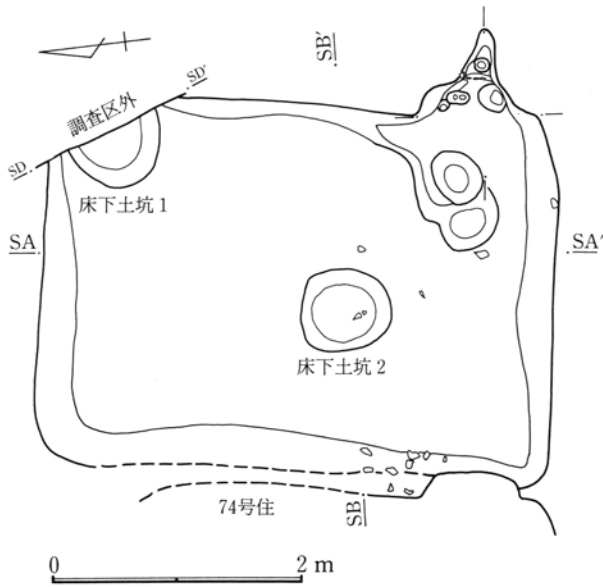


第291図 71・72号住居跡掘り方



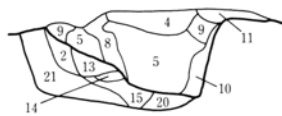
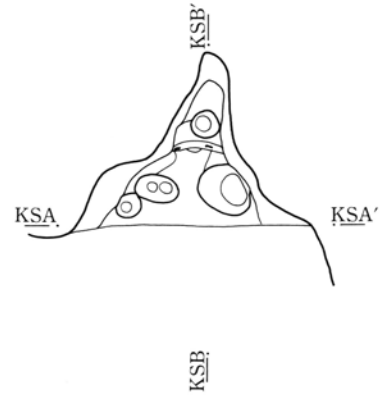
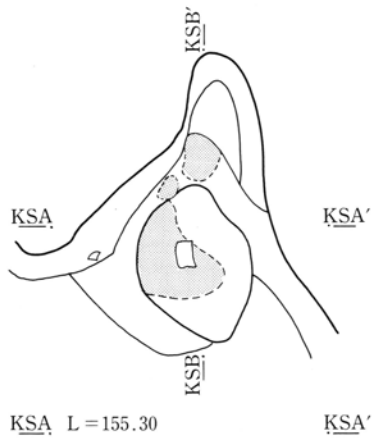
第292図 73号住居跡

II 検出された遺構と遺物



73号住居跡床下土坑

- 1' 明褐色砂質土 (耕作土) しまり悪く、サラサラする。
- ① 暗褐色土 73号住埋没土の1と同じ。
- ② 暗褐色土 73号住埋没土の2と同じ。
- ③ 黒褐色土 ②よりAs-Cやや少なく、炭化物少量、灰を含む。
- ④ 黒色土 ③よりAs-C少なく、炭化物・灰を多量に含む。③より黒い。
- ⑤ 暗褐色土 As-Cを少量含む。全体にやや黄色味を帯びる。しまり良い。

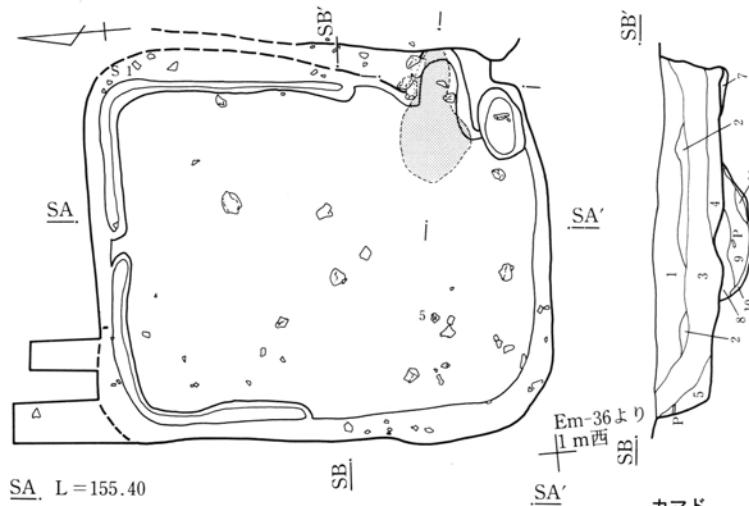


カマド

- 1 暗褐色土 しまり悪い。焼土を少量含む。
- 2 焼土ブロック しまり良い。ガリガリに焼けている。
- 3 暗赤褐色土 As-C少量、焼土ブロック・粒子を多く含む。しまり良い。
- 4 暗褐色土 焼土粒子・As-Cを少量含む。
- 5 暗褐色土 4とほぼ同じ。焼土粒子・ブロック少量含む、灰を含む。しまり良い。
- 6 黒褐色土 5より暗く、しまり弱い。焼土粒子ほとんど含まない。
- 7 暗赤褐色土 焼土粒子・ブロックを多く含む、灰を含む。しまり良い。
- 8 黒褐色土 焼土粒子をほとんど含まない。
- 9 黒褐色土 As-Cを少量含む。しまり良い。
- 10 黒色土 As-Cを含まない。焼土粒子を微量に含む。しまり良い。
- 11 暗黄褐色粘性土 As-Cを少量含む。
- 12 暗褐色土 As-Cを多く含む。地山よりやや明るい。
- 13 赤褐色土 (焼土) As-Cを少量含む。
- 14 赤褐色土 (焼土) 13よりやや焼け方が弱く、黄色味帯びる。
- 15 暗褐色土 焼土粒子・ブロック・灰を多く含む。As-Cをわずかに含む。しまりは弱い。
- 16 黒褐色土 焼土ブロックを多く、As-Cを少量含む。しまり良い。
- 17 暗褐色土 As-Cをやや多く、焼土粒子をわずかに含む。
- 18 黄褐色粘性土 やや焼けている。
- 19 黒褐色土 As-Cを多く含む。
- 20 暗褐色土 19より明るい。As-Cを少量含む。焼土粒子を極わずかに含む。

第293図 73号住居跡・カマド

4. 平安時代

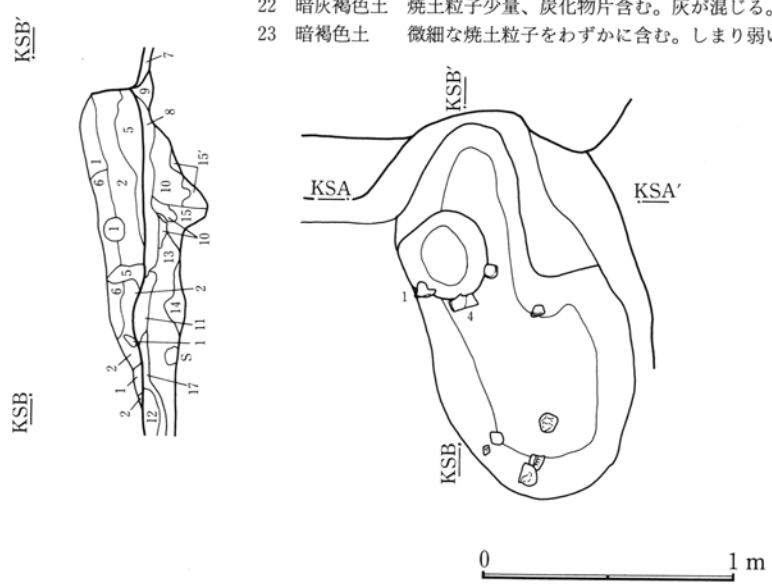
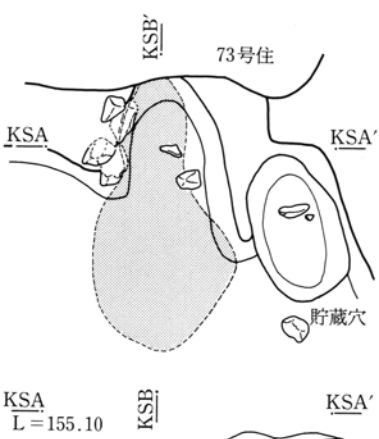
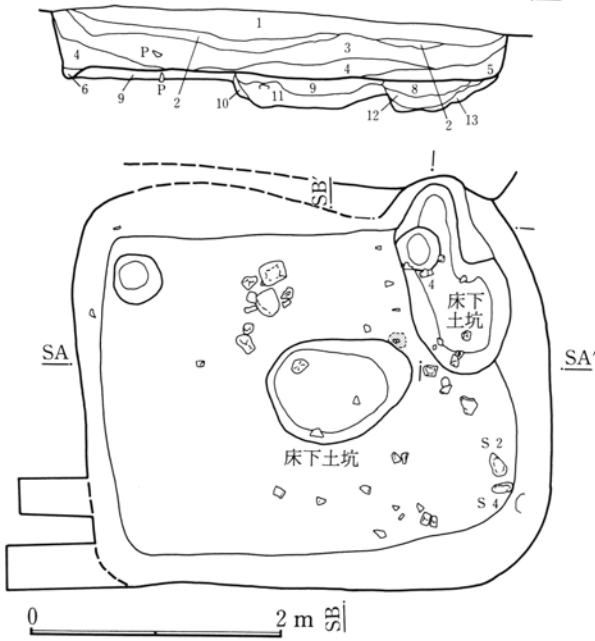


74号住居跡

- 1 暗褐色土 As-C・漸移層溶混多量含む。
- 2 黒褐色土 As-Cを多量に含む。
- 3 暗褐色土 As-C多量、漸移層溶混含む。
- 4 黒褐色土 As-C・焼土粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒子は含まない。
- 6 黒色土 As-C微量。しまり弱い。
- 7 暗褐色土 As-C少量含む。しまり良い。
- 8 黒褐色土 As-C極わずか。しまり良い。
- 9 暗褐色土 白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化物少量含む。しまり良い。
- 10 灰白色粘土 しまりは極めて良い。
- 11 暗褐色土 焼けた白色粘性粒子・ブロック多く含む。しまり極めて良い。
- 12 暗褐色土 As-C少量含む。しまり良い。
- 13 暗茶褐色土 As-C・焼土粒子を極わずかに含む。しまり良い。

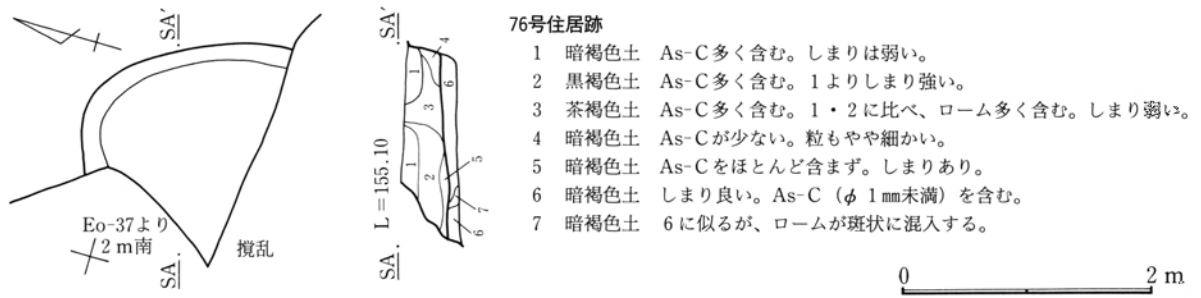
カマド

- 1 暗褐色土 As-Cを多く含む。
- 2 黄褐色粘土 焼土粒少量、黄白色粘土ブロック・粒子多量。
- 3 黄褐色粘土 ブロック。
- 4 暗灰褐色土 灰を含む。しまり弱い。
- 5 赤黄褐色粘土 焼土粒子・ブロックを多く含む。
- 6 暗褐色土 As-C・黄白色粘性土ブロック及び粒子少量、焼土粒子をわずかに含む。
- 7 暗灰褐色土 As-Cを多く含む。
- 8 赤褐色土(焼土) 黄褐色粘土の焼けたもの。
- 9 黒褐色土 焼土粒子・ブロックをやや多く含む。
- 10 赤黄褐色土 焼土粒子・ブロックを多く含む。粘性有り。
- 11 黄褐色粘土 焼土を少量含む。しまり良い。
- 12 黒褐色土 As-Cを少量含む。しまり良い。
- 13 黒色土 As-Cを多量に含む。しまりは比較的良い。
- 14 暗褐色土 As-C・焼土粒子を微量に含む。
- 15 黒灰色土 灰を多量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 16 茶褐色土 極めてしまり良い。
- 17 白色粘土 焼土粒子・ブロックを含む。
- 18 黒色土 As-C多量に含む。13よりしまり弱い。
- 19 黄灰褐色土 黄白色粘性土多く、焼土粒子をやや多く含む。
- 20 黒褐色土 As-C微量、黄白色粘土を極わずか含む。
- 21 黄白色粘土 若干の暗褐色土を含む。
- 22 暗灰褐色土 焼土粒子少量、炭化物片含む。灰が混じる。
- 23 暗褐色土 微細な焼土粒子をわずかに含む。しまり弱い。



第294図 74号住居跡・カマド

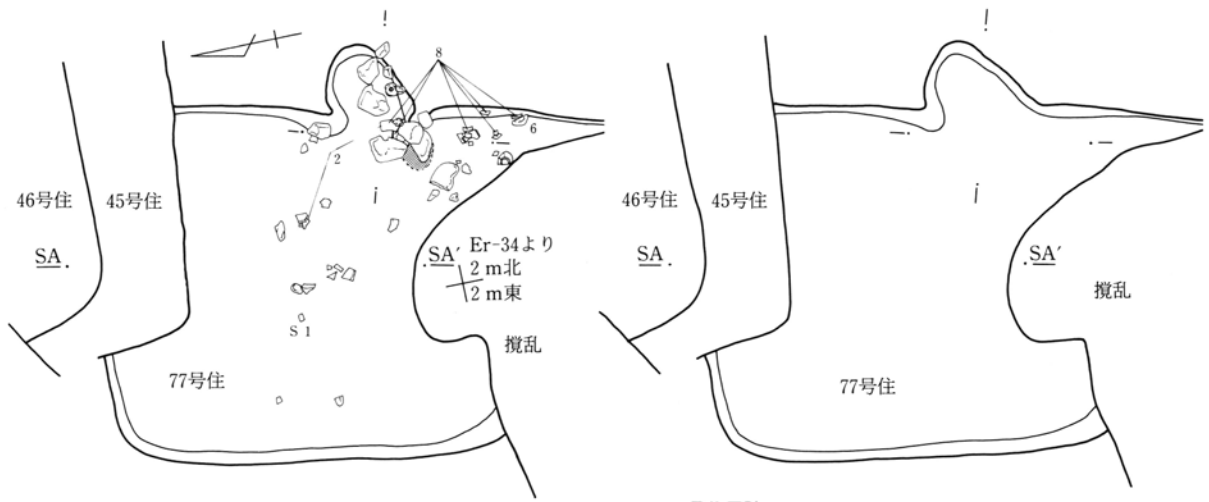
II 検出された遺構と遺物



76号住居跡

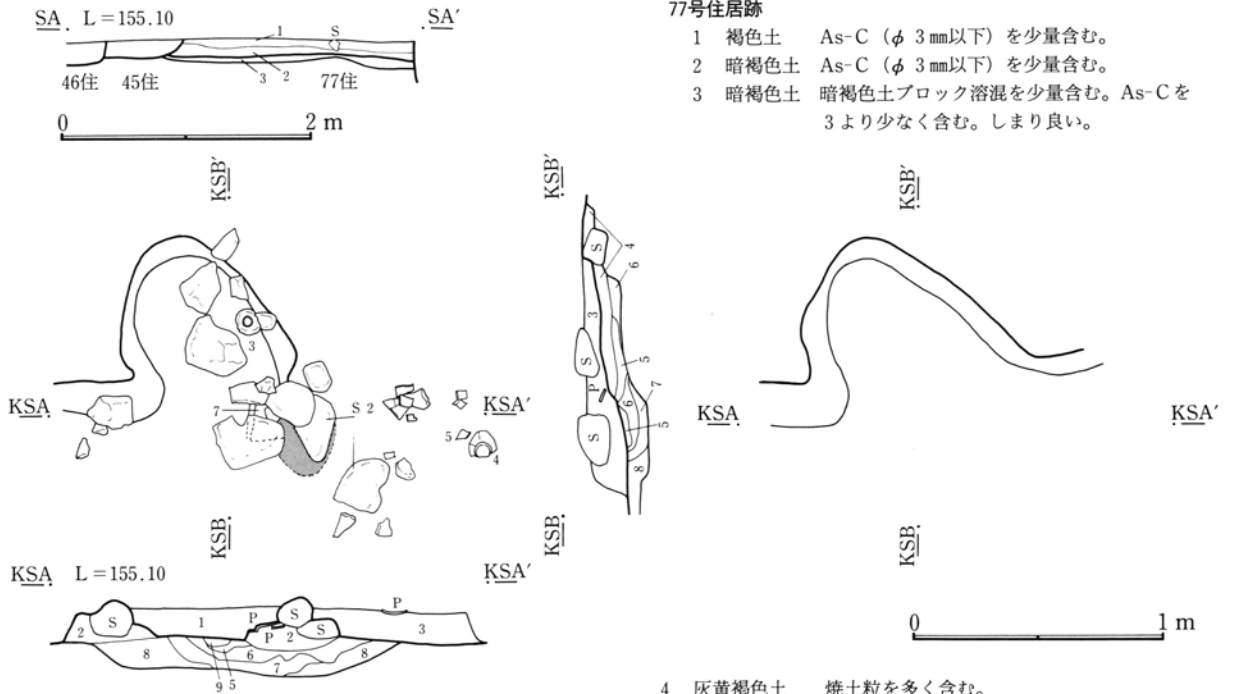
- 1 暗褐色土 As-C多く含む。しまりは弱い。
- 2 黒褐色土 As-C多く含む。1よりしまり強い。
- 3 茶褐色土 As-C多く含む。1・2に比べ、ローム多く含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 As-Cが少ない。粒もやや細かい。
- 5 暗褐色土 As-Cをほとんど含まず。しまりあり。
- 6 暗褐色土 しまり良い。As-C (φ 1mm未満) を含む。
- 7 暗褐色土 6に似るが、ロームが斑状に混入する。

第295図 76号住居跡



77号住居跡

- 1 褐色土 As-C (φ 3mm以下) を少量含む。
- 2 暗褐色土 As-C (φ 3mm以下) を少量含む。
- 3 暗褐色土 暗褐色土ブロック溶混を少量含む。As-Cを3より少なく含む。しまり良い。

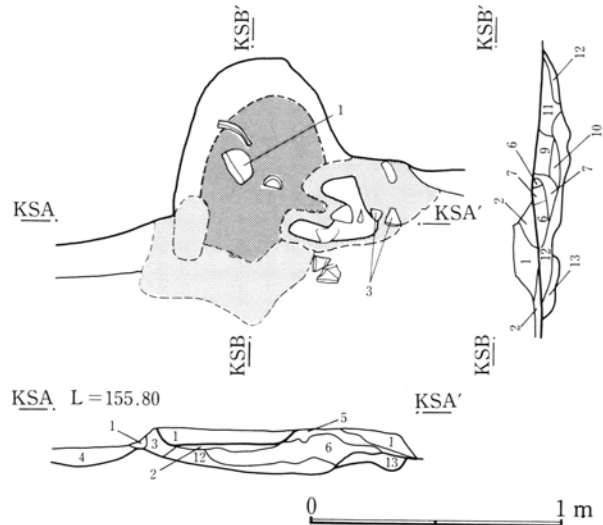
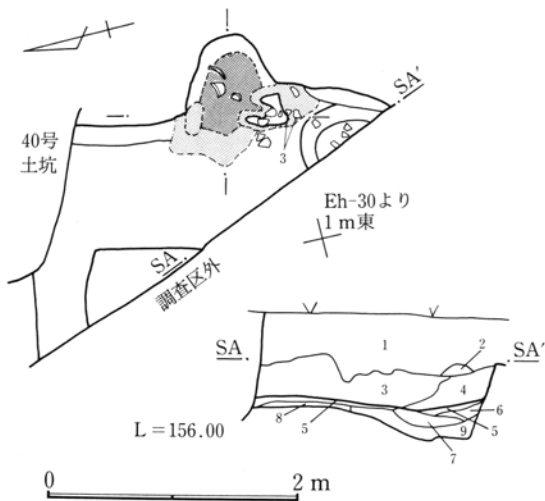


カマド

- 1 暗褐色土 As-C (φ 3mm~1mm) を20%含む。
- 2 褐色土 漸移層ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 As-C (φ 3mm~1mm) を25%含む。固くしまる。(住居埋没土)
- 4 灰黄褐色土 焼土粒を多く含む。
- 5 暗褐色土 均一なやや粘りのある土。
- 6 にぶい黄褐色土 しまりない。As-Cを含まない均一な土。
- 7 暗褐色土 As-Cを含まない均一な土。
- 8 鈍い黄褐色土 ローム粒・7などが混じる。
- 9 暗褐色土 As-C・ローム粒を斑に含む土。

第296図 77号住居跡・カマド

4. 平安時代



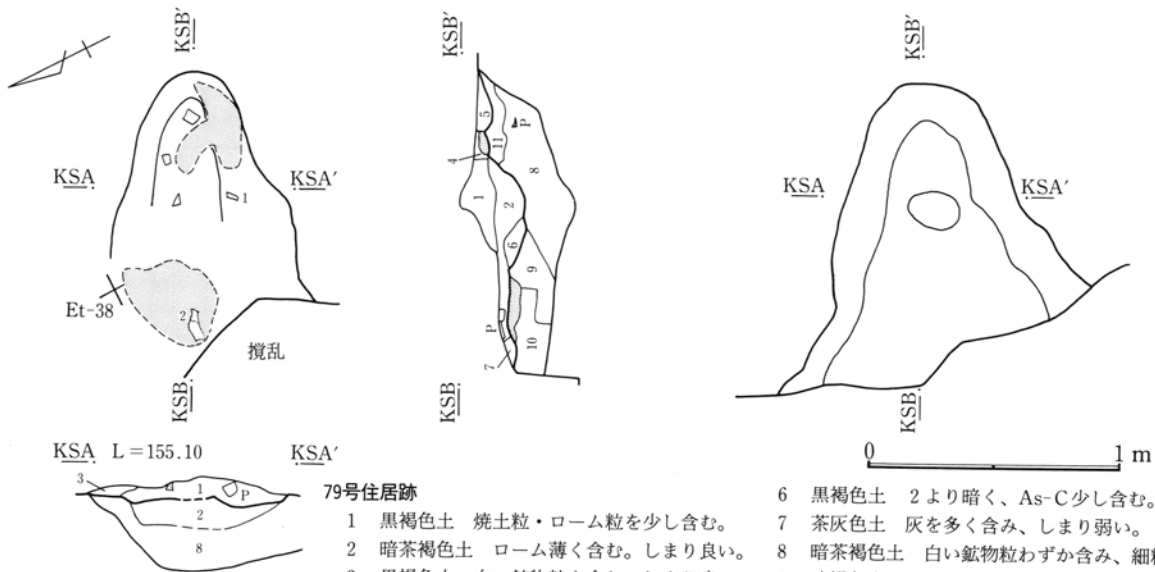
78号住居跡

- 1 黒褐色土 表土。
- 2 黒褐色土 As-Cを多く含む。しまりやや良く、粒子は少し粗い。3に類似。
- 3 黒褐色土 As-Cを全体的に多く含む。(78号住埋没土)
- 4 暗褐色土 As-C多く、焼土粒子とロームブロック(φ 2 cm大)を少し含む。しまり良く、粒子少し粗い。
- 5 暗褐色土 As-Cを極少量、ローム粒子を少量含む。しまり良く、粒子細かい。(78号住床)
- 6 暗褐色土 5に似るが、ロームブロック(φ 5~10mm大)を少量含む。
- 7 明褐色土 ロームブロック(φ 5~10mm大)を多く、焼土粒子を少量含む。
- 8 明褐色土 ローム粒子少量含む。しまり良く、粒子細かい。(78号住掘り方)
- 9 暗褐色土 ロームブロック(φ 2~7cm大)を少量含む。しまり良く、粒子細かい。

カマド

- 1 暗褐色土 As-C・焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 1より焼土粒子・ブロックを多く、しまり良い。
- 3 茶褐色土 ロームブロック・焼土粒子・ブロック少量含む。しまり良く、粒子細かい。
- 4 暗褐色土 1よりAs-Cを少なく含み、やや明るい。
- 5 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックを含む。
- 6 黄褐色粘性土 やや焼けており、若干赤味を帯びる。
- 7 暗褐色土 As-Cを少量含む。
- 8 明褐色土 やや黄色味を帯びる。焼土ブロックを少量含む。
- 9 暗褐色土 黒色土・焼土ブロックを多量に含む。粘性有り。
- 10 明褐色土 焼土粒子を多く含む。
- 11 暗褐色土 焼土ブロック・ロームブロックを多く含む。
- 12 黒褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子を微量含む。
- 13 明褐色土 ロームブロック・黒褐色土ブロックを含む。しまりは極めて良い。(住居の床)

第297図 78号住居跡・カマド



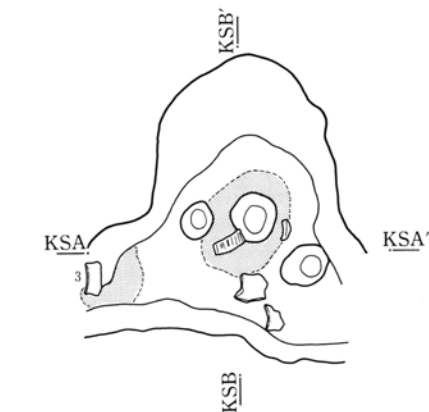
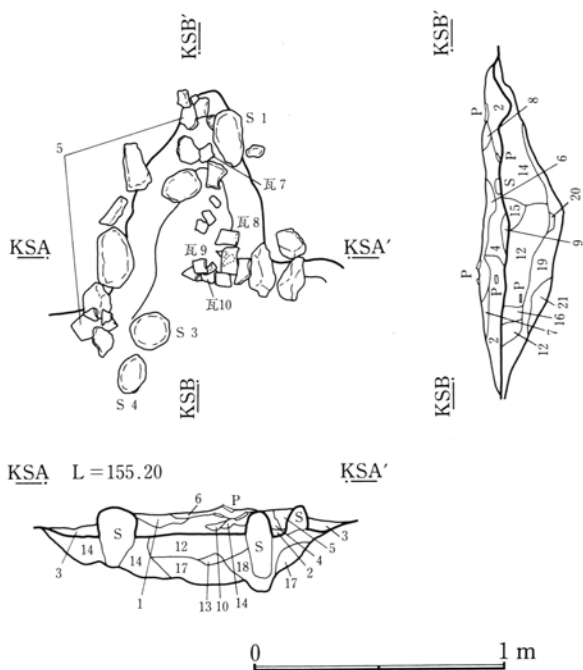
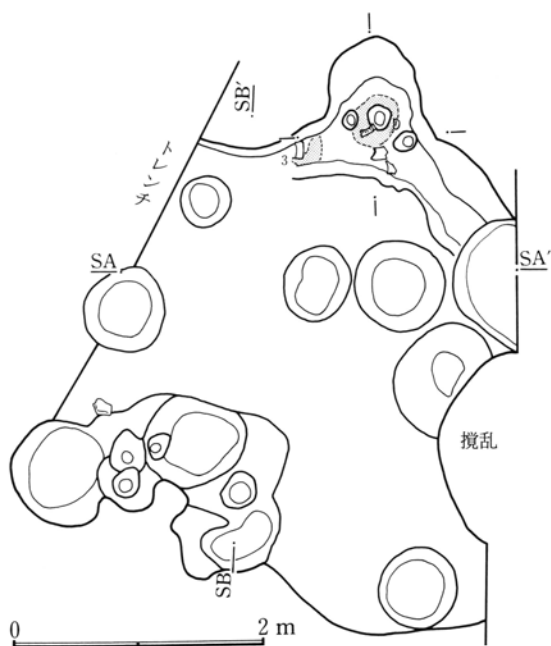
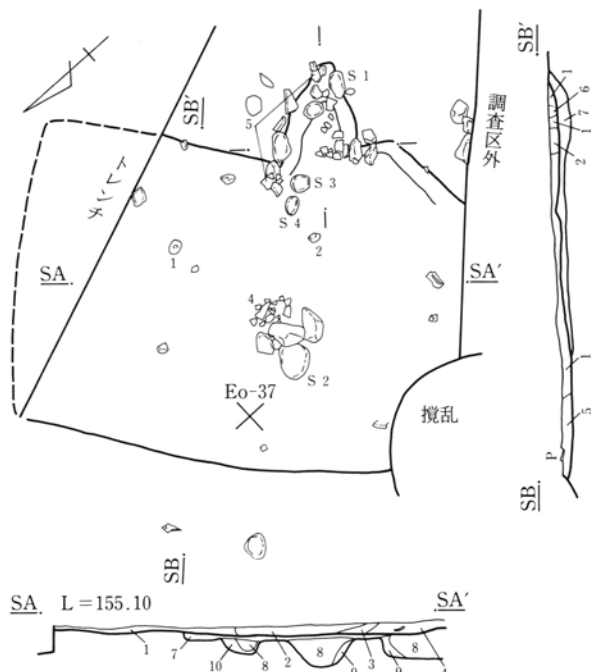
79号住居跡

- 1 黒褐色土 焼土粒・ローム粒を少し含む。
- 2 暗茶褐色土 ローム薄く含む。しまり良い。
- 3 黒褐色土 白い鉱物粒を含む。しまり良い。
- 4 赤褐色土 焼土を非常に多く含む。
- 5 暗褐色土 しまり弱く、ぼろぼろしている。

- 6 黒褐色土 2より暗く、As-C少し含む。
- 7 茶灰色土 灰を多く含み、しまり弱い。
- 8 暗茶褐色土 白い鉱物粒わずか含み、細粒。
- 9 暗褐色土 As-Cを少し含む。
- 10 黒褐色土 As-Cを少し含み、9より粗い。
- 11 茶褐色土 2に似る。ロームやや多く含む。

第298図 79号住居跡・カマド

II 検出された遺構と遺物



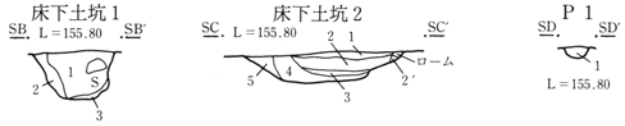
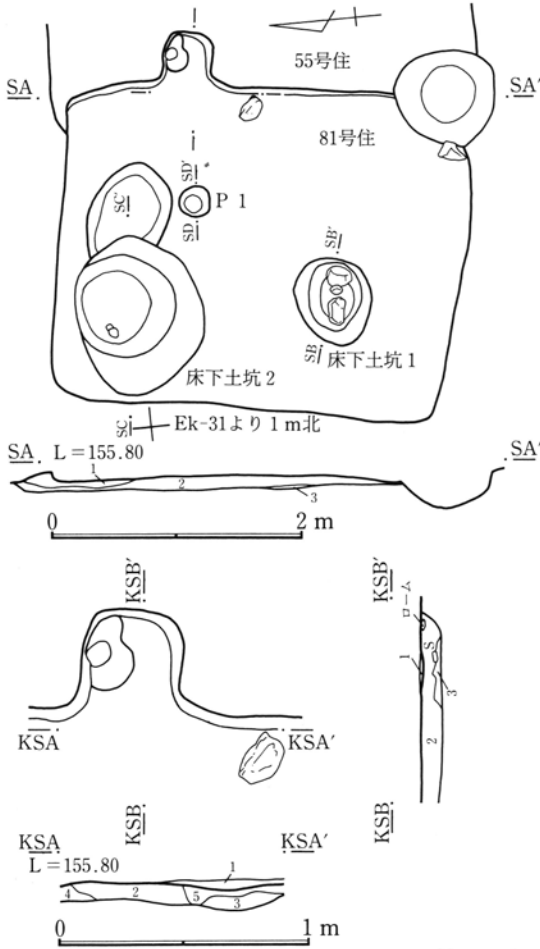
カマド

- 1 黒褐色土 ロームをわずかに含み、しまり弱い。
- 2 茶褐色土 焼土粒を少し含み、しまり弱い。
- 3 暗褐色土 内容物が少なく、細かい。
- 4 暗褐色土 焼土が多く、しまり弱い。
- 5 黄褐色土 ロームブロックを混入し、しまり良い。
- 6 赤褐色土 焼土が多い。
- 7 暗褐色土 焼土をわずかに含み、しまり弱い。
- 8 暗褐色土 焼土を薄く含み、しまり弱い。
- 9 茶褐色土 ロームを多く、焼土粒を少し含む。
- 10 茶褐色土 ローム・焼土を多く含む。
- 11 茶褐色土 10よりロームを多く、焼土を少し含む。
- 12 暗褐色土 焼土を少し含み、しまり弱い。
- 13 茶褐色土 12より明るく、焼土をわずかに含む。
- 14 暗褐色土 焼土殆ど含まず、As-Cわずかに含む。
- 15 茶褐色土 ローム土少し含み、焼土わずかに含む。
- 16 黒褐色土 内容物が少なく、しまり弱い。
- 17 茶褐色土 白い鉱物粒をわずかに含む。
- 18 黒褐色土 茶褐色土を斑状に含む。
- 19 茶褐色土 しまり良く、粒が細かい。
- 20 茶褐色土 19より淡く、灰状の土を含む。
- 21 暗褐色土 焼土を部分的に含み、As-C (φ 1mm以下) わずかに含む。

80号住居跡

- 1 茶褐色土 しまり良く、As-Cをわずかに含む。
- 2 暗褐色土 1より暗く、As-C (φ 5mm程度)をわずかに含む。しまりは1より弱い。
- 3 暗褐色土 2より暗い。白と黄灰色の鉱物粒 (φ 1mm以下) 少量。
- 4 暗褐色土 ロームブロック・白と橙色の鉱物粒をわずかに含む。
- 5 暗褐色土 しまりは良く、As-Cをわずかに含む。
- 6 暗褐色土 2に似る。As-Cほとんど含まず、しまり若干弱い。
- 7 暗褐色土とロームの混土 (貼床)
- 8 暗褐色土 As-Cを多量に含む。ローム混入。焼土・炭粒あり。
- 9 暗褐色土 8とほぼ同じ。やや黒い。
- 10 暗褐色土とロームの斑状混土。

第299図 80号住居跡・カマド



81号住居跡

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ブロック多く、焼土粒子・炭化物粒子をわずかに含む。全体に黄色味を帯びる。
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ブロックを含む。しまり非常に良い。
- 3 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子をやや多く含む。

床下土坑 1

- 1 暗褐色土 As-C 多く含む。ローム粒子・小ブロックを少量含む。焼土小ブロックをわずかに含む。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含む。ローム粒子を多量に含む。
- 3 暗黄褐色土 As-YP 粒子を多く含む。

床下土坑 2

- 1 黒褐色土 As-C を多量、ローム小ブロックをわずかに含む。
- 2 暗黄褐色土 炭化物粒子をわずかに、ローム小ブロックを多量に含む。
- 2' 暗黄褐色土 2 に近いが、2 よりやや明るい。
- 3 黒灰褐色土 ローム小ブロックを少量含む。粘性有り。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子・ブロックをやや多く含む。
- 5 暗黄褐色土 4 に類似。黒褐色土ブロック (φ 2~4cm大) を含む。

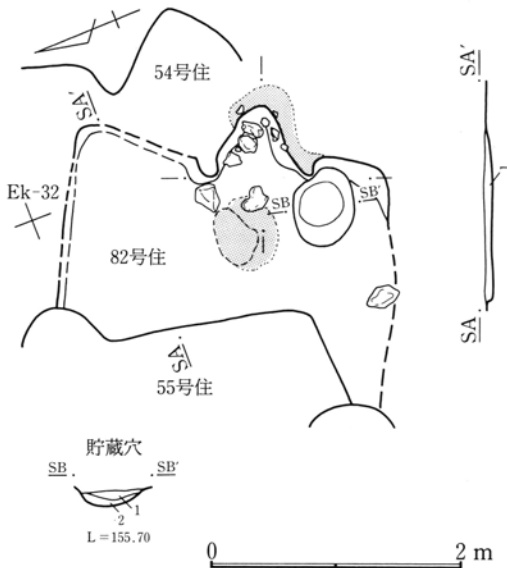
ピット 1

- 1 暗黄褐色土 黒褐色土ブロック含み、ロームブロックを多量に含む。

カマド

- 1 暗黄褐色土 焼土粒子・炭化物粒子を少量、ローム粒子・小ブロックを多く含む。しまり良い。(55住床)
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ブロックを多く、焼土粒子・炭化物粒子をわずかに含む。全体に黄色味を帯びる。
- 3 暗褐色土 ローム粒子・ブロックを含む。しまりは非常に良い。
- 4 暗褐色土 As-C を多く、ローム粒子をやや多く含む。
- 5 黒褐色土 As-C 多く、炭化物粒子を少量含む。6 よりやや暗い。

第300図 81号住居跡・カマド



貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土ブロックを多く含む。炭化物をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 1 よりやや明るい。ロームブロック含み、小礫少量。

カマド

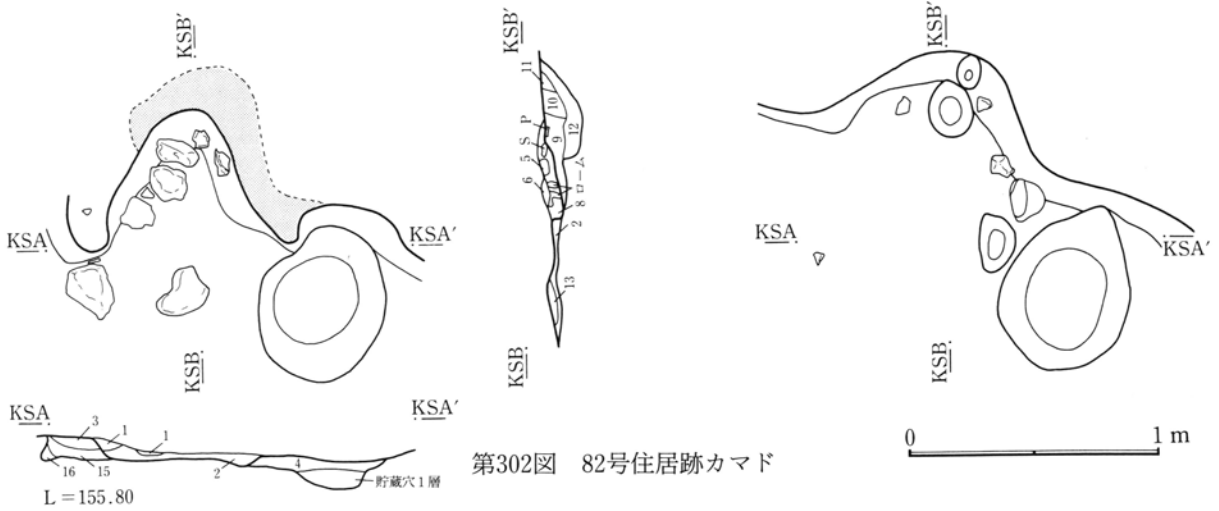
- 1 暗褐色土 やや黄色味を帯びる。ローム粒子を含み、焼土粒子を極わずかに含む。粘性有り。
- 2 黒色粘性土 焼土粒子を少量、炭化物粒子を多く含む。しまり良い。
- 3 暗灰褐色粘性土 焼土粒子をやや多く、ローム粒子を多く含む。
- 4 暗褐色土 全体にやや黄色味帯びる。炭化物粒子をやや多く、黄褐色粘性土粒子・ブロックと焼土粒子・ブロック多く含む。
- 5 暗灰褐色粘性土 ロームブロック、焼土ブロック・粒子を含む。
- 6 暗灰褐色粘性土 焼土粒子を少量含む。
- 7 黒灰褐色土 ローム小ブロック・焼土粒子微量含む。やや粘性有り。
- 8 暗褐色土 ローム粒子をやや多く含む。
- 9 黒褐色土 灰を多く含む。焼土粒子・ブロックをやや多く含む。
- 10 暗灰褐色土 ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性有り。
- 11 赤褐色土 黄白色粘性土の焼けたもの。
- 12 茶褐色土 全体に黄色味を帯びる。ローム粒子を多く含む。
- 13 黄褐色粘性土
- 14 暗褐色土 黄褐色ロームブロック・白色粘性土ブロックを多量に含む。炭化物片・焼土粒子をやや多く含む。
- 15 暗褐色土 16 よりやや明るい。黄褐色粘性土ブロックがやや多い。
- 16 暗褐色土 15 よりやや暗い。黄褐色粘性土ブロックを含まない。As-C をやや多く含む。

82号住居跡

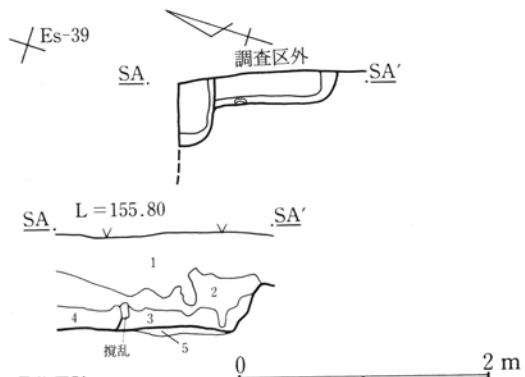
- 1 暗褐色土 54号住 1 よりやや明るい。As-C を多量、焼土粒子を少量含む。

第301図 82号住居跡

II 検出された遺構と遺物



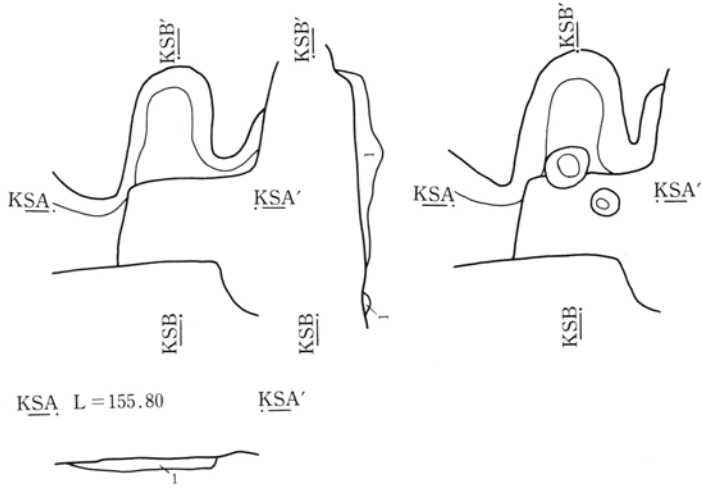
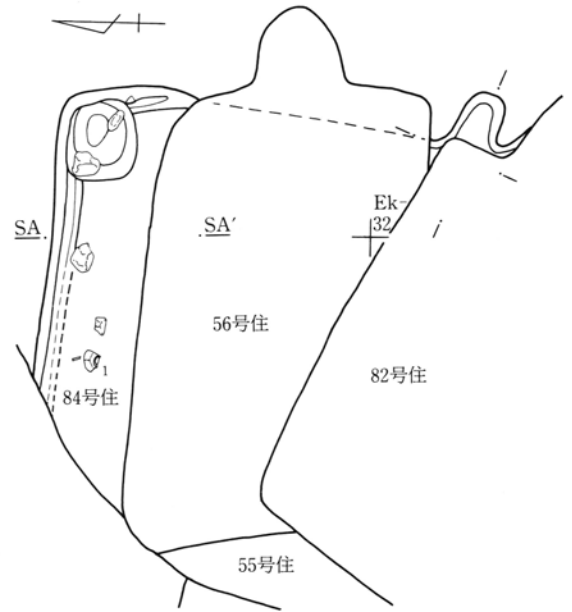
第302図 82号住居跡カマド



83号住居跡

- 1 耕作土 As-C・As-Bを多く含む。しまりは弱い。
- 2 暗褐色土 As-Cを多量、漸移層ブロック溶混を少量含む。
- 3 暗褐色土 As-Cを多く、漸移層ブロック溶混を多量含む。
- 4 暗褐色土 3とほぼ同じだが、やや暗い。
- 5 暗褐色土 3よりやや明るい。漸移層ブロック溶混を多く含む。しまりは良い。

第303図 83号住居跡



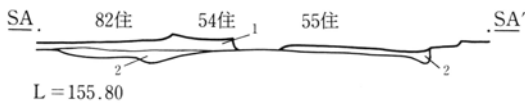
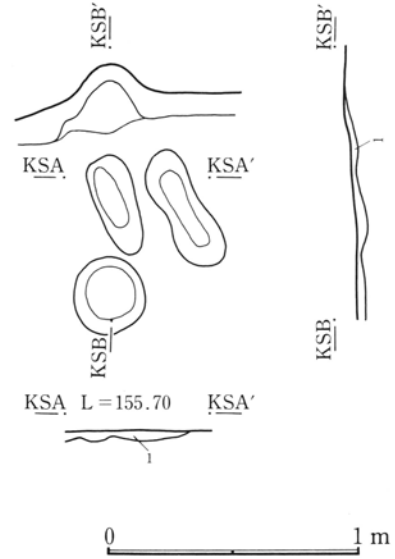
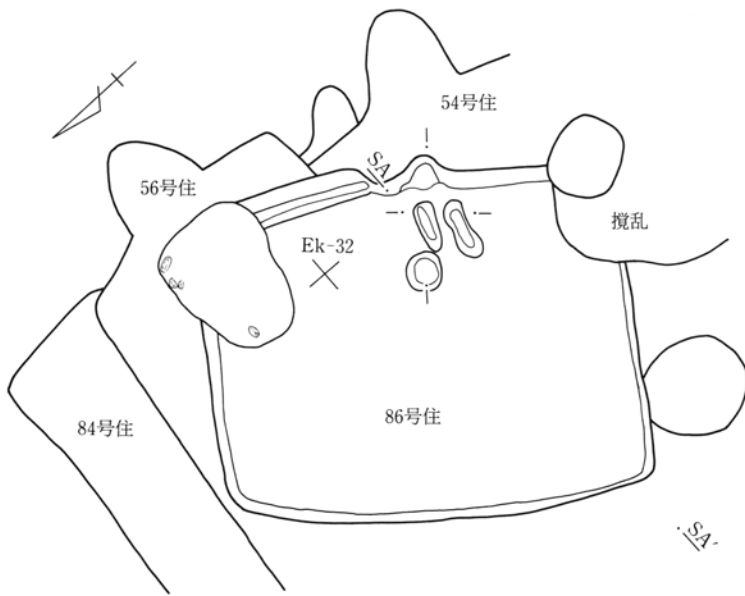
84号住居跡

- 1 暗褐色土 ロームブロックを少量、As-Cを多量に含む。礫を含む。
- 2 暗褐色土 ロームを多く含む、全体にやや黄色味を帯びる。

カマド

- 1 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を極微量含む。黄白色砂岩（地山の岩の崩れたもの）を少量含む。

第304図 84号住居跡・カマド

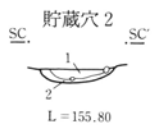
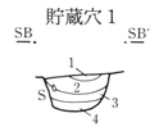
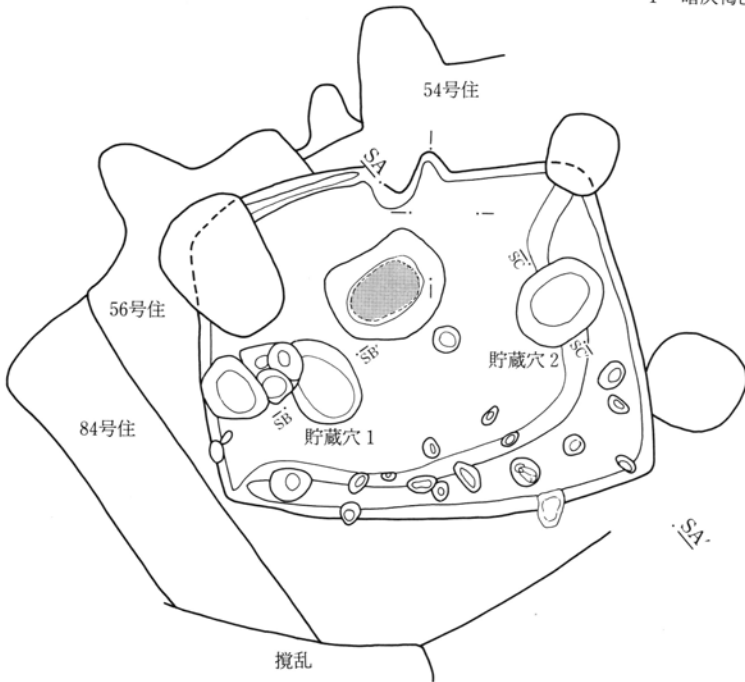


86号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。焼土粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量、炭化物を少量含む。

カマド

- 1 暗灰褐色土 焼土ブロック・黄褐色粘性土粒子及びブロックを少量含む。焼土粒子・地山岩片を多く含む。灰をやや多く含む。



貯蔵穴 1

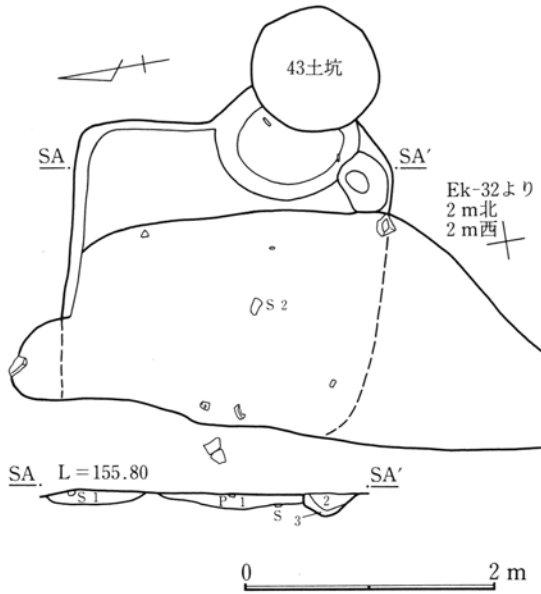
- 1 黒褐色土 地山 (砂質ロームブロック)・小礫を多く、As-Cをやや多く含む。しまり良い。(貼床)
- 2 暗褐色土 全体にロームを多く含み、黄色味を帯びている。As-Cを少量含む。しまり弱い。
- 3 黒褐色土 ローム粒子・小ブロックを少量、炭化物粒子をわずかに含む。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 2よりやや暗い。小礫やや多く含む。ローム粒子・ブロックを3より少なく含む。3よりしまりやや良い。

貯蔵穴 2

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。小礫を少量含む。
- 2 灰白紫色粘性土 床面の粘土を貼り付けている。

第305図 86号住居跡・カマド

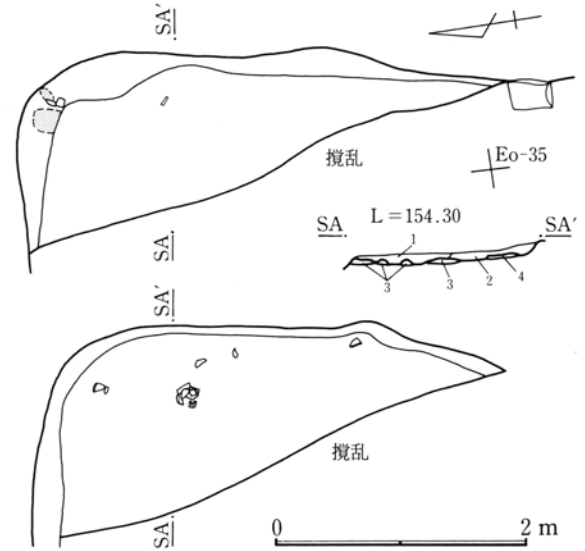
II 検出された遺構と遺物



87号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを多く、黄褐色ローム粒子・小ブロックを少量、焼土粒子・炭化物片をわずかに含む。
- 2 黒褐色土 As-C極めて多量に含む。しまり非常に良い。
- 3 暗褐色土 As-Cをやや多めに含む。(しまり少ない。)

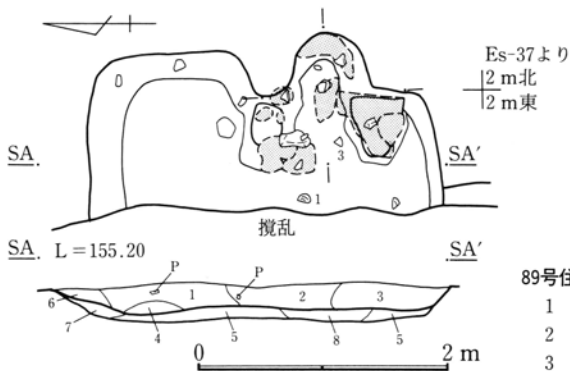
第306図 87号住居跡



88号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを10%、炭化物と橙色のブロックを極わずかに含む。非常にしまり良く固い。
- 2 暗褐色土 As-Cをほとんど含まず。1ほど固くない。白い鉱物粒(φ 1mm以下)を少量含む。
- 3 黄褐色土 ローム質でしまり良い。
- 4 茶褐色土 ローム質でしまり良い。2が少し混入する。

第307図 88号住居跡



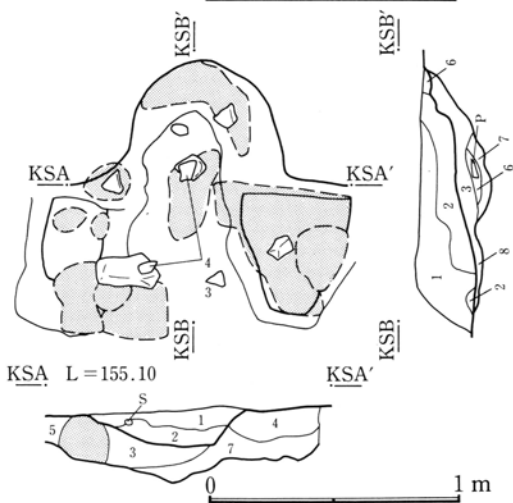
89号住居跡

- 1 暗褐色土 As-Cを20%含む。しまり良い。
- 2 暗褐色土 1より明るい。灰と思われる黄褐色土をうっすらと混入する。
- 3 暗褐色土 1に似るが、含まれるAs-Cの粒径がやや大きい。炭化物を極わずかに含む。
- 4 暗褐色土 As-Cは少なく、しまり良い。
- 5 黒褐色土 As-Cを含まない。やや柔らかい。(地山?)
- 6 暗褐色土 As-Cを少量含む。
- 7 暗褐色土 As-Cほとんど含まず、黒い礫(φ 2~3mm)極わずかに含む。
- 8 暗褐色土 As-Cを20%含む。ローム土をブロック状に含む。

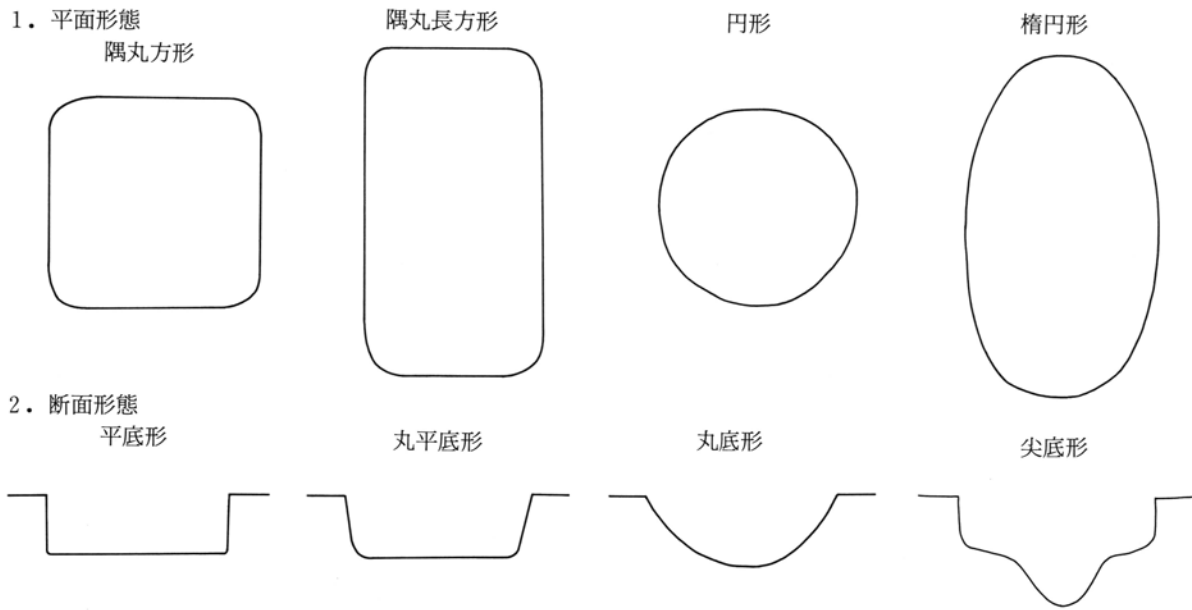
カマド

- 1 暗褐色土 As-C(φ 3mm以下)を10%含む。
- 2 暗褐色土 におい黄褐色土・砂質土が混じる。におい黄褐色土は、カマド構築材か。
- 3 黒褐色土 やや粘りのある土。
- 4 暗褐色土 1に似る。におい黄褐色土粒が混じる。
- 5 暗褐色土 砂質土。As-C(φ 2mm以下)を5%以下含む。
- 6 におい赤褐色土 焼土層。
- 7 におい黄褐色土 砂質土。焼土粒混じる。
- 8 黒褐色土 砂質土。

② 1 両袖粘土塊は、40号住居跡床下土坑2に埋まった灰白色粘土に似る。ここではカマド構築材として利用したものか。



第308図 89号住居跡・カマド



第309図 平安時代の土坑分類模式図

b 土坑・ピット

本遺跡では100基以上の土坑及び200基を超えるピットを検出した。その中で、木の根や自然の窪みと考えられるものを極力除き、番号を付し、取り上げたものは土坑51基、ピット36基である。多くの土坑やピット内からはほとんど遺物は出土せず、仮に出土したとしてもその多くは縄文時代の土器・石器であった。また、その分布は一部住居跡と重複するものの、住居跡があまりない場所を選んでそれを避けるように比較的まとまって検出された。調査区全体の中で見ると南半よりも北半の方により多くが存在していることがわかる。北半のピット群は柱穴のように整然と並ぶものはほとんど確認できなかった。しかし、その分布状況からすると検出された住居跡とは別の建物があった可能性は否定できない。ここでは、土坑群についてその平面形態と断面形態の組み合わせにより大まかに分類し、その上で遺物の出土状態などについても見ていきたいと思う。

土坑分類基準

1 平面形態

方形 隅丸方形を呈するもの

長方形 隅丸長方形を呈するもの

円形 ほぼ円形を呈するもの

楕円形 やや細長く楕円形を呈するもの

2 断面形態

平底形 底が平坦で両壁がほぼ直立するもの

丸平底 底は平坦であるが、両壁の立ち上がりはやや丸みをもつもの

丸底形 掘り方は浅く、底から滑らかに壁に立ち上がってしまうもの（いわゆる鍋底状を呈するもの）

尖底形 掘り方は浅く、底はやや不定形で、中央部が深く下がるもの

例えば、平面形態が円形で断面形態が丸底形の場合は土坑観察表の備考欄に「円形、丸底」という具合に記載した。土坑に関しては精選したものを1/40図で掲載し、それ以外は全体図にのみ載せた。ピットに関しては無遺物もしくはほとんど出土していないものが多く、本文中では1基1基あえて取り上げず、全体図にのみの掲載とした。

II 検出された遺構と遺物

35号土坑 (第310図、P L160)

平面形は長方形を呈し、底面は比較的平坦である。壁はほぼ直線的に開き立ち上がる。平安時代よりも新しい可能性もある。

36号土坑 (第310図、P L160)

平面形はほぼ隅丸長方形を呈し、底面はやや丸みを持つが比較的平坦であり、壁も僅かに開いて直線的に立ち上がる。角礫や縄文土器片等が出土した。

37号土坑 (第310図)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は平坦であり、壁は直立気味に立ち上がる。角礫や縄文時代の石器等が出土した。

38号土坑 (第310図、P L160)

平面形はほぼ隅丸方形を呈し、底面は平坦であり、立ち上がりはやや丸みを持ち壁はほぼ直立する。羽釜の口縁部破片と縄文土器片が出土した。

40号土坑 (第310図、P L160)

平面形はほぼ隅丸長方形を呈し、底面は平坦であり、壁はほぼ直立する。

41号土坑 (第310・334図、P L179)

26号住居跡を切り込む。平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦である。壁はやや開き直線的に立ち上がる。墨書のある須恵器の杯と羽釜の破片が出土した。

42号土坑 (第310図)

66号住居跡を切り込む。平面形はほぼ円形を呈し、底面は丸底である。墨書のある須恵器の杯と羽釜の破片が出土した。

43号土坑 (第310図、P L160)

87号住居跡を切り込む。平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦である。壁はやや丸みを持ち直立気味に立ち上がる。

44・45号土坑 (第310図、P L160)

45号土坑を44号土坑が切り込む。

44号土坑は平面形は不整形な円形を呈し、底面はやや丸みを持つ。壁は僅かに開き立ち上がる。

45号土坑は底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。掘り方は非常にしっかりしている。

46号土坑 (第310図、P L160)

平面形は北東側が段をなす楕円形である。南西側はほぼ円形を呈する。底面は全体として平坦である。壁は開き立ち上がる。椀の破片や縄文土器片が出土した。

47号土坑 (第310図、P L160)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦で、壁はやや開き直線的に立ち上がる。

48号土坑 (第311図、P L160)

平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや丸みを持ち、壁はやや開き立ち上がる。須恵器の小破片が出土した。

49号土坑 (第311図、P L161)

平面形は楕円形を呈し、底面は比較的平坦であるが、最深部は北寄りに位置する。壁はやや開き立ち上がる。須恵器の小破片等が出土した。

51号土坑 (第311図、P L161)

平面形は楕円形を呈し、底面は比較的平坦であるが、やや丸みを持つ。壁はやや開き立ち上がる。縄文の石器の小剥片が出土した。

52号土坑 (第311図、P L161)

平面形は楕円形を呈し、底面は凹凸を持ち、南部に最深部が位置する。南壁はやや直線的に開く。北壁は直線的に立ち上がり、段状になる。

53号土坑 (第311図、P L161)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、壁はやや直立気味に立ち上がる。

54号土坑 (第311図、P L161)

西半が調査できなかったので全体形は不明であるが平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。底面はやや丸みを持つ。壁はやや丸みを持ち立ち上がる。

55号土坑 (第311図、P L161)

平面形はほぼ円形を呈し、底部中心に最深部が位置する。断面形は尖底となる。

56号土坑 (第311図、P L161)

平面形は隅丸方形に近いほぼ円形を呈し、底面は、南東部に最深部が位置する。須恵器の小破片が出土した。

4. 平安時代

57号土坑 (第311図、P L162)

平面形は隅丸方形に近いほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦であるがやや凹凸を持つ。壁は緩やかに開き立ち上がる。

58号土坑 (第311図、P L162)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦でありほとんど凹凸はない。壁は開いて立ち上がる。

59号土坑 (第311図、P L162)

平面形は隅丸方形を呈し、底面は平坦である。東壁はほぼ直立するが、西壁は緩やかに開き立ち上がる。

60号土坑 (第311図、P L162)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、壁もやや開いて立ち上がる。

61号土坑 (第311図、P L162)

平面形はほぼ不整形な円形を呈し、底面はやや丸みを持つ。壁も丸みを持ち開いて立ち上がる。

63号土坑 (第311図、P L162)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦であるが、南東部に小ピットを持つ。

64号土坑 (第311図、P L162)

平面形は円形を呈し、底面は平坦であり、掘り方も浅く皿状となる。

62号土坑 (第312図、P L162)

平面形は二子状となり、2基の土坑の重複と考えられる。北側の方が南側を切り込む。2基とも平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、壁も緩やかに立ち上がる。掘り方は浅い。

65号土坑 (第312・334図、P L162・179)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面はほぼ平坦で、壁はやや丸みを持ちながら直立気味に立ち上がる。須恵器の椀の破片が出土した。

66号土坑 (第312図、P L162)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は比較的平坦である。壁は開き立ち上がる。掘り方は浅い皿状となる。

67号土坑 (第312図、P L163)

2基の土坑の重複であり、北側(A)が南側(B)に切り込まれる。

A・B土坑とも西側は調査できなかったため全体の平面形は不明である。

A土坑はほぼ円形を呈するものと思われる。底面はやや丸みを持ち、掘り方は浅く皿状となる。

B土坑もほぼ円形を呈するものと思われる。底面は平坦であり、壁は直立気味に立ち上がる。

68号土坑 (第312図、P L163)

平面形はやや不整形な円形を呈し、底面は平坦で、壁はやや開いて直線気味に立ち上がる。

69号土坑 (第312図、P L163)

平面形は円形を呈し、底面はやや凹凸を持つ丸底であり、西壁はやや開き直線的に、東壁は緩やかに立ち上がる。

70号土坑 (第312・334図、P L163・179)

平面形はほぼ隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、壁はやや開き気味に立ち上がる。遺物は灰釉陶器の椀と歪んだ羽釜の口縁部破片等が出土した。

71号土坑 (第312図、P L163)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、壁はやや丸みを持つものの、直立気味に立ち上がる。縄文中期土器片等が出土した。

72号土坑 (第312図、P L163)

平面形はほぼ隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、壁はあまり開かず、直立気味に立ち上がる。縄文中期土器片、南壁から垂角礫が出土した。

73号土坑 (第312図、P L163)

平面形はほぼ隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。南東隅付近の底部と上場から垂角礫が出土した。

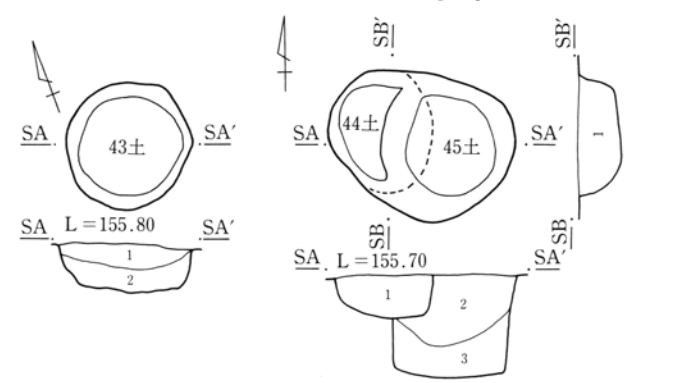
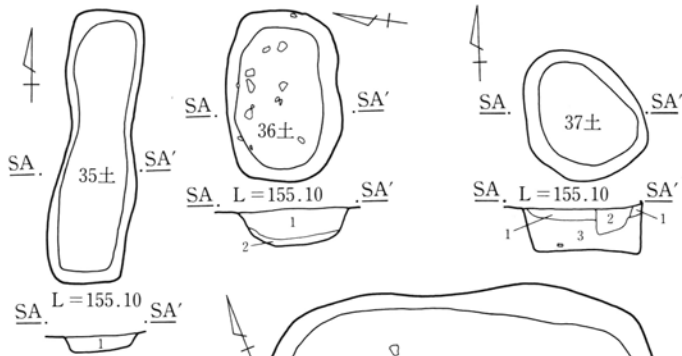
74～77号土坑 (第312図、P L163・164)

断面の観察により古い方から並べると77号土坑→76号土坑→74号土坑→75号土坑の順になる。これら4基の土坑からは、ほとんど縄文時代の土器や石器であった。

74号土坑は平面形はほぼ楕円形を呈し、底面は比較的平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。中央部よりやや西寄りに小ピットを持つ。

75号土坑は平面形はほぼ円形を呈し、底面はやや

II 検出された遺構と遺物



- 43号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒子及びロームブロック、As-C多く含む。
 - 2 暗茶褐色土 ローム粒子少量含む。1よりしまり悪い。ロームブロック含まない。

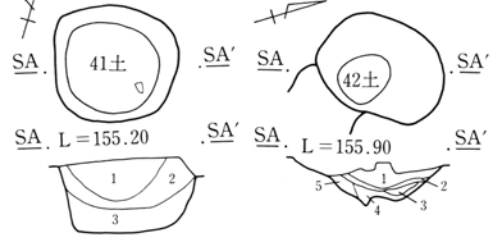
- 44・45号土坑
- 1 黒褐色土 As-C少量、ロームブロック(φ 1cm以下)わずか含む。
 - 2 黒褐色土 1よりAs-C少なく、ロームブロック多い。
 - 3 黒褐色土 2よりさらにロームブロック多く、黄色As-Cわずか含む。

- 46号土坑
- 1 黒褐色土 As-C多く、ロームブロック(φ 5mm~1cm)わずか含む。
 - 2 暗褐色土 As-Cわずか含む。
 - 3 暗褐色土 ローム土少し混入し、ハードロームブロックとAs-Cわずか含む。

- 35号土坑
- 1 茶褐色土 As-C(φ 2~5mm)全面に含み、しまり弱い。

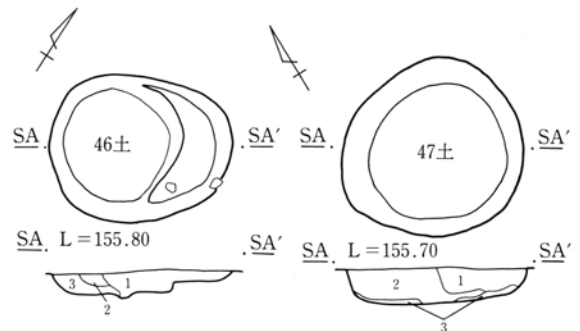
- 36号土坑
- 1 暗褐色土 As-C(φ 2~5mm)多く含む。茶褐色土が斑状混入する。
 - 2 暗褐色土 As-Cが1よりも少ない。茶褐色土混入量が1よりも多い。

- 37号土坑
- 1 暗褐色土 しまり弱く、As-C多く含む。
 - 2 暗褐色土 1より細かく、さらにしまり弱い。
 - 3 暗褐色土 細かく内容物少ない。



- 41号土坑
- 1 黒褐色土 As-C多く、茶褐色土が斑状混入。しまり弱い。
 - 2 黒褐色土 1よりAs-C少なく、茶褐色土多い。
 - 3 黒褐色土 1似るが、As-Cが1よりも多い。

- 42号土坑
- 1 黒褐色土 しまり良くない。As-C(φ 2~5mm大)含む。
 - 2 暗褐色土 しまり良くない。As-C(φ 1~3mm大)、ロームブロック(φ 2mm大)少量含む。
 - 3 黒褐色土 しまり良い。粒子細かい。
 - 4 明褐色土 全体的にロームブロック含む。しまり良い。粒子細かい。
 - 5 明褐色土 6とほぼ同じだが、ややロームブロック多い。

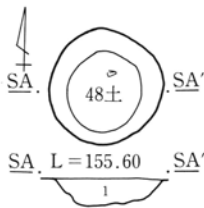


- 47号土坑
- 1 暗褐色土 As-C少量含む。
 - 2 暗褐色土 1よりやや明るく、As-Cが1よりも少ない。
 - 3 茶褐色土 As-Cほとんど含まず、ローム土混入する。ローム漸移層似る。

0 2 m

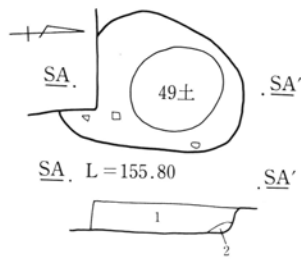
第310図 35~38・40~47号土坑

4. 平安時代



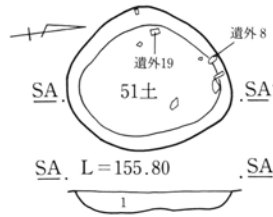
48号土坑

- 1 暗褐色土 As-C (ϕ 3~5mm) 多く含み、しまり弱い。



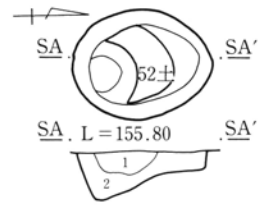
49号土坑

- 1 暗褐色土 As-C少し、白磁物粒をAs-Cより多く含む。
2 茶褐色土 橙色磁物粒わずか含む。しまり良い。



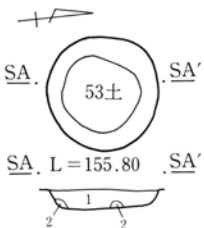
51号土坑

- 1 黒褐色土 As-C (ϕ 3~5mm) 多く含み、しまり弱い。



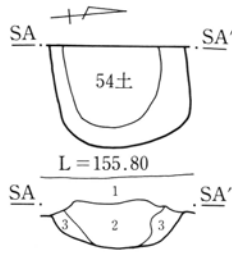
52号土坑

- 1 暗褐色土 As-C (ϕ 3~5mm) 多く含み、しまり弱い。
2 暗褐色土 白磁物粒わずか含む。



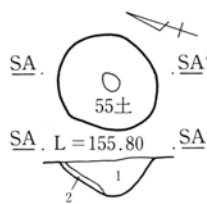
53号土坑

- 1 暗茶褐色土 しまり弱く、ザラつく。ロームブロックわずか含む。
2 黄褐色土 ローム土多く、茶褐色土混入する。



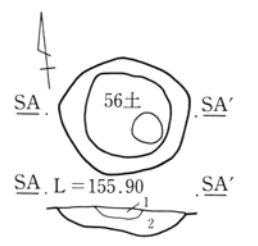
54号土坑

- 1 表土層
2 暗褐色土 As-C (ϕ 1~3mm) 多く含み、しまりやや良い。
3 茶褐色土 ローム土多く混入。



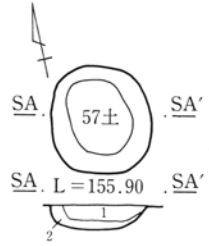
55号土坑

- 1 黒褐色土 As-C (ϕ 5mm前後) 多く含む。ポロポロする。
2 茶褐色土 白磁物粒と橙色磁物粒少し含む、しまり良い。



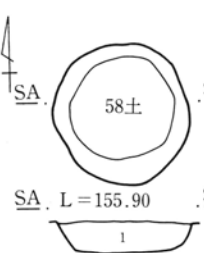
56号土坑

- 1 暗褐色土 As-C少量含む。しまり良くない。
2 暗褐色土 1よりも明るく、As-C少ない。橙色磁物粒わずか含む。



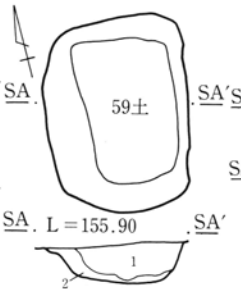
57号土坑

- 1 暗褐色土 As-C少し含む。しまり良い。
2 暗褐色土 1よりAs-C少ない。ローム土わずか混入する。



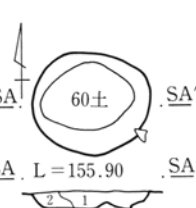
58号土坑

- 1 暗褐色土 As-C少し、橙色磁物粒わずか含む。



59号土坑

- 1 暗褐色土 As-C少し、橙色磁物粒わずか含む。
2 暗褐色土 1よりやや明るく、As-C少ない。ロームブロックわずか含む。



60号土坑

- 1 暗褐色土 As-C少し、橙色磁物粒わずか含む。
2 暗褐色土 1に比べ、As-C少ない。

61号土坑

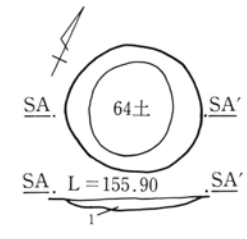
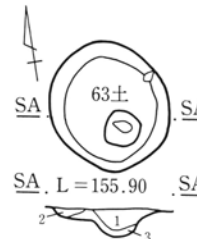
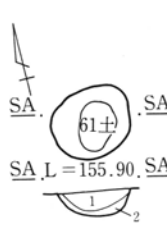
- 1 暗褐色土 As-C少し、橙色磁物粒わずか含む。
2 暗褐色土 しまり良く、As-C含まない。

63号土坑

- 1 暗褐色土 As-Cわずか含む。
2 暗褐色土 1似るがAs-C少ない。
3 茶褐色土 白と橙色磁物粒わずか含む。しまり良い。

64号土坑

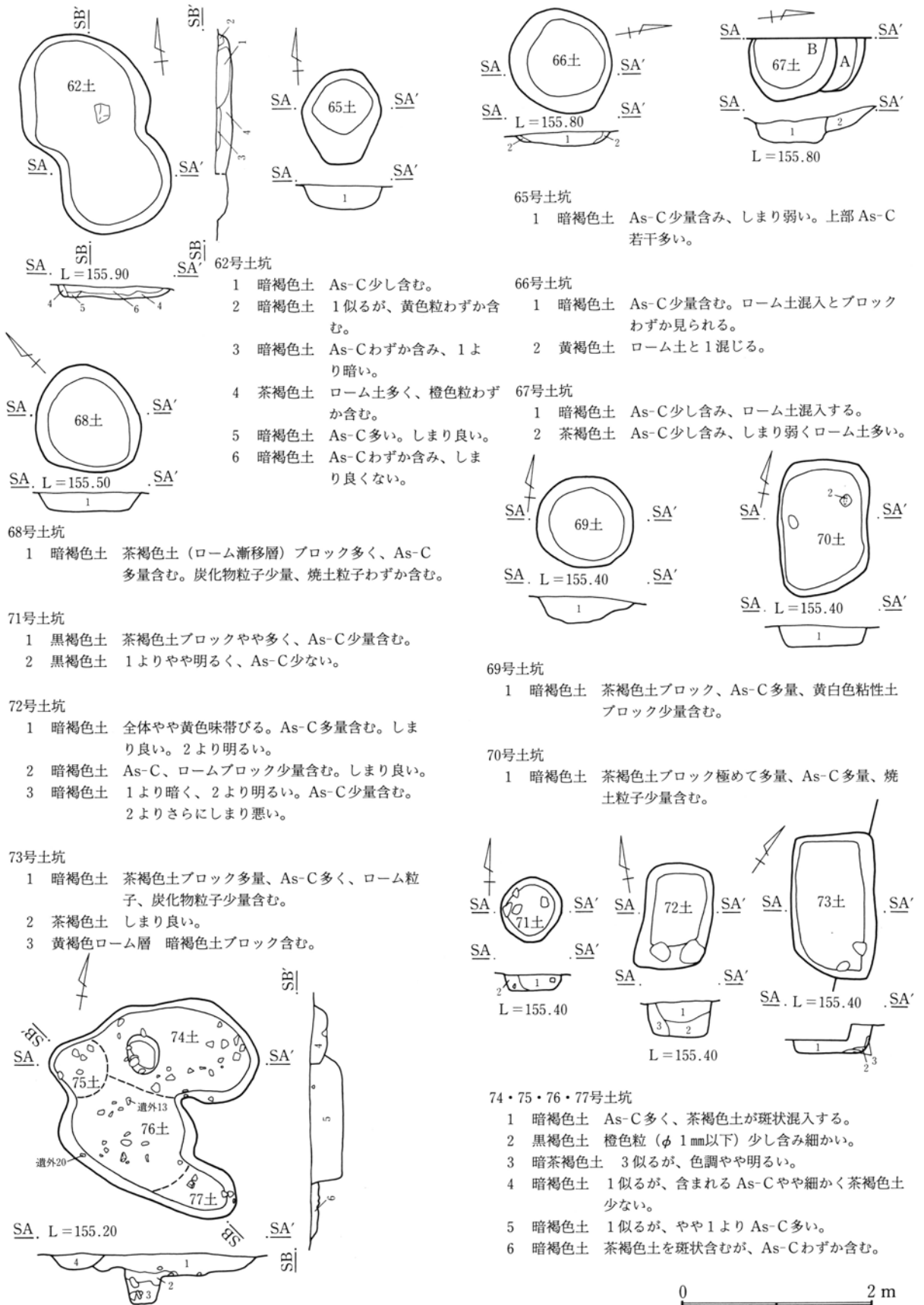
- 1 暗褐色土 白と橙色磁物粒少し、As-Cごくわずか含む。



0 2 m

第311図 48・49・51~61・63・64号土坑

II 検出された遺構と遺物



第312図 62・65～77号土坑

丸みを持ち、壁は開き立ち上がる。

76号土坑は平面形は楕円形を呈し、底面は比較的平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

77号土坑はほぼ楕円形を呈し、底面はやや凹凸を持つ。掘り方は浅い皿状となる。

78号土坑 (第313図、P L164)

平面形はほぼ隅丸方形を呈し、底面は平坦で壁は丸みを持ちやや開き気味に立ち上がる。

79号土坑 (第313図、P L164)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は丸みを持ち、壁は緩やかに立ち上がる。

80号土坑 (第313図、P L164)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は丸みを持つ。掘り方は浅い皿状となる。

81号土坑 (第313図、P L164)

平面形は不整形な楕円形を呈し、底面は比較的平坦である。壁はやや開き立ち上がる。垂角礫が出土した。

82号土坑 (第313図、P L164)

平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦で、壁はほぼ直立して立ち上がる。

83号土坑 (第313図、P L164)

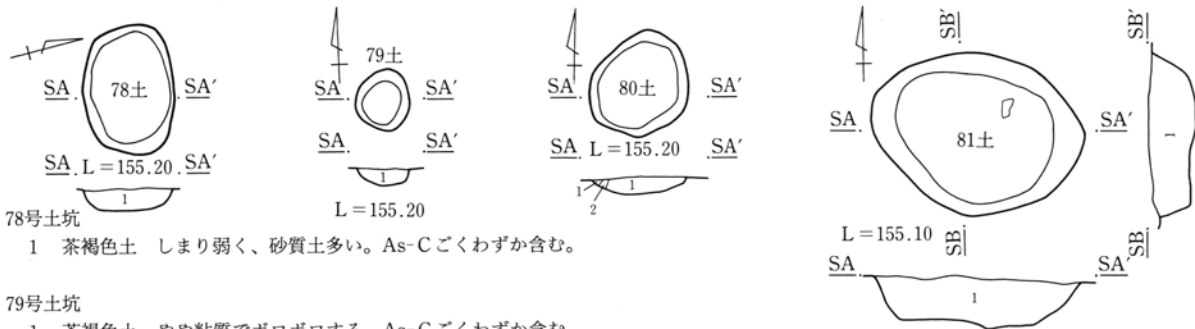
平面形は不整形な円形を呈し、底面は平坦であり、壁はやや開き気味に立ち上がる。

85号土坑 (第313図、P L164)

平面形は不整形な楕円形を呈し、底面は平坦である。壁は一端直立気味に立ち上り段をなす。

86号土坑 (第313図)

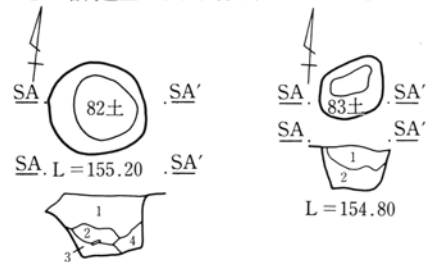
平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦であり、壁は緩やかに開き立ち上がる。



78号土坑
1 茶褐色土 しまり弱く、砂質土多い。As-Cごくわずか含む。

79号土坑
1 茶褐色土 やや粘質でボロボロする。As-Cごくわずか含む。

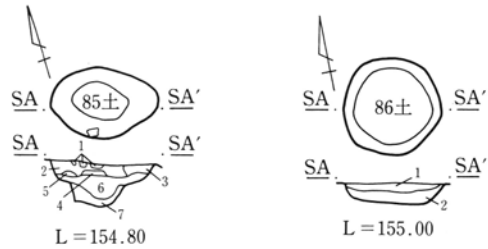
80号土坑
1 茶褐色土 As-C15%程含み、しまり良い。
2 暗褐色土 しまり弱く、やわらかい。内容物少ない。



82号土坑
1 茶褐色土 しまり弱い。As-C (φ 2mm以下) 5%以下含む。
2 黒褐色土 しまり弱い。土器片有り。
3 茶褐色土 ローム漸移層土がブロック状混じる。
4 暗褐色土 ローム粒、黒色土粒わずか混じる。

83号土坑
1 暗褐色土 As-C (φ 2mm以下) 10%含む。暗褐色土と2がブロック状混じる。
2 茶褐色土 軽石含まない均質砂質土。

81号土坑
1 褐色土 As-C (φ 5mm以下) 20%含む。しまり有り。



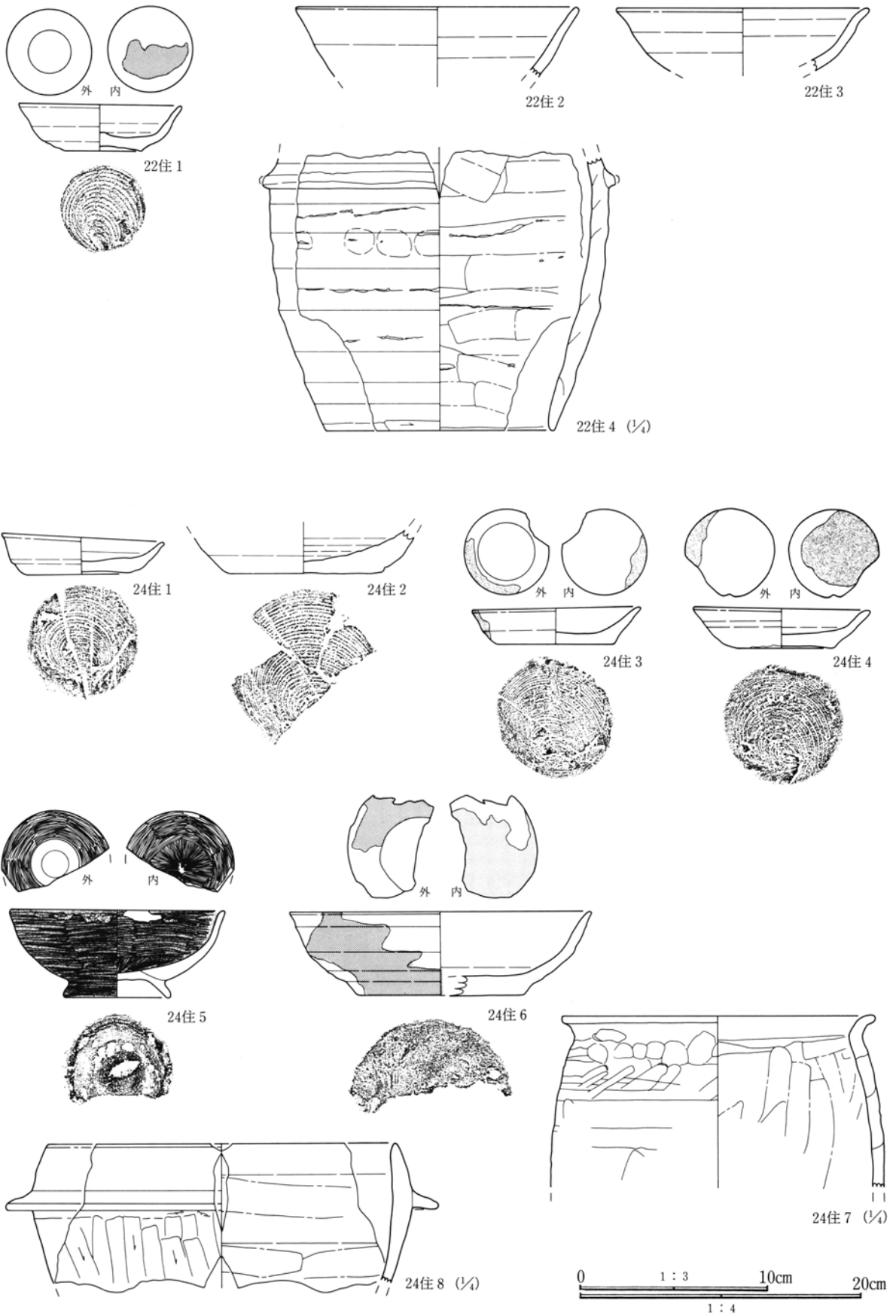
85号土坑
1 赤褐色土 焼土。しまり良い。
2 茶褐色土 As-C少量含む。ローム状の土混入。しまり良い。
3 暗褐色土 As-Cわずか含む。
4 暗褐色土 固く。As-C多い。
5 茶褐色土 灰多く含む。
6 暗褐色土 しまり良く、白鉱物粒少量含む。
7 黄褐色土 ローム状で白鉱物粒わずか含む。

86号土坑
1 暗褐色土 As-C (φ 5mm以下) 20%含む。
2 黒褐色土 均一砂質土。一部ローム粒含む。

第313図 78~83・85・86号土坑

0 2 m

II 検出された遺構と遺物



第314図 22・24号住居跡出土土器